

「人間たれ」	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	岩崎恭典 GEF1001	前学期	必修
授業のねらい 本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。			
到達目標 1. 本学の建学の精神を理解する。 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 3. 地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 出席することを基本として、時折実施する小テスト (50%)、定期試験 (50%) の成績により評価する。 なお、講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。			
事前・事後学習 大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください (1 日 30 分以上)。			
入門演習 I	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	三田・岩崎祐・小林慶・杉谷・鶴田・富田・永井・本部・松井・李 GEF1002	前学期	必修
授業のねらい 学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル (四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など) を学びます。 1. 授業を受ける上で必要なスキル 2. 人間関係の基礎を作るスキル 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知ること 4. 自分が所属する学部のことを知ること			
到達目標 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 定期試験は行ないません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。 課題は必ず個別指導します。			
事前・事後学習 新聞の第一面を読む (1日20分) 授業内容の資料を事前に読んでくる (10分) ノートと使用したプリントなどを読む (30分)			
授業の位置づけ 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。			
授業計画 第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第1講 ガイダンス 成長スケールの記入 第2講 大学生活を充実させるボランティア活動 第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること 第4講 本学の建学の精神について 第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園 第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代の四日市大学 第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会 第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シングularity、Society5.0 第9講 日本の財政状況と税金、家計、金融知識 (財務省津財務事務所) 第10講 人口減少社会を生きる力 第11講 SDGsとGAFA 第12講 目指すべき職業人とは ジョブキャラバン 大学1年生で何をなすべきか 第13講 人生の先輩に聴く① 社会人学生OBが語る 第14講 人生の先輩に聴く② 就職活動を終えて 第15講 夏休みを前に 産婦人科医は語る 定期試験			
テキスト・教材 (参考文献含む) できるだけレジメと資料を配布する。			
担当者から一言 私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作っていきましょう。			
入門演習 I	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	三田・岩崎祐・小林慶・杉谷・鶴田・富田・永井・本部・松井・李 GEF1002	前学期	必修
授業の位置づけ 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。			
授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 授業の受け方、ノートの取り方 第3講 授業を受ける、ノートを取る 第4講 シラバスを読み、自分の履修登録を点検する 第5講 4年間の学修計画を考えてみる 第6講 自分を知るためのプレゼンテーションの準備 第7講 自分と他者を知るためのプレゼンテーションの実践 第8講 学修を助けてくれる施設を知る 第9講 学修を助けてくれる資料を知る 第10講 皆さんに期待するマナーとルール 第11講 学部企画① 第12講 学部企画② 第13講 学部企画③ 第14講 学部企画④ 第15講 学部企画⑤ ※講義の順番については、入れ替わる場合があります。			
テキスト・教材 (参考文献含む) 担当者が適宜指示する。ノートは必ず用意してください。			
担当者から一言 大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないます。毎回必ず出席してください。			

入門演習Ⅱ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
三田・岩崎祐・小林慶・杉谷・鶴田・富田・永井・本部・松井・李	GEF1003	後学期	必修

授業のねらい
大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。 1. 目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル 2. 情報を整理し、資料を読みこなすスキル 3. 資料を発表し、議論するスキル

到達目標
大学生としての学修・研究活動へと進むために必要なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験は行いません。 授業・課題への取り組みなどを100％で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。 課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習
新聞の第一面を読む(20分)授業内容の資料を事前に読んでくる(10分) ノートと使用したプリントなどを読む(30分)

基礎英語Ⅰ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
リース・フェーリ・スコット・柴田・ダイクス	GEL1001	前学期	選択必修

授業のねらい
この授業は皆さんが英語への関心を高め、それぞれの英語力に応じて「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能をスキルアップすることを目的としています。複数のクラスがありますが、クラスは指定されています。それぞれのクラスの授業内容は、各担当者から第1回ガイダンスで説明されます。

到達目標
英語への関心とモチベーションを高めながら、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能の基本的スキルを養成します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、小テスト等）50％、期末試験50％で総合的に判断します。なお、小テストを実施した場合は添削して翌週返却します。

事前・事後学習
各授業で取り上げる内容について、わからない単語や文章の意味を事前に調べることに90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい／ノート整理等）に90分を、それぞれかけて準備学習をしてください。

授業の位置づけ
「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

授業計画
第1講 ガイダンス 第2講 テーマを決める 第3講 調べる① 第4講 調べる② 第5講 読む① 第6講 読む② 第7講 まとめる① 第8講 まとめる② 第9講 まとめる③ 第10講 発表する① 第11講 発表する② 第12講 話し合う① 第13講 話し合う② 第14講 話し合う③ 第15講 基礎演習について ※ 講義の順番については、入れ替わる場合があります。 第12・13・14講でディスカッションを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）
担当者から適宜指示します。ノートは必ず用意してください。

担当者から一言
「入門演習Ⅰ」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1回 ガイダンス:授業の進め方、評価方法などの説明。 第2回 クラスごとの内容 第3回 クラスごとの内容 第4回 クラスごとの内容 第5回 クラスごとの内容 第6回 クラスごとの内容 第7回 クラスごとの内容 第8回 クラスごとの内容 第9回 クラスごとの内容 第10回 クラスごとの内容 第11回 クラスごとの内容 第12回 クラスごとの内容 第13回 クラスごとの内容 第14回 クラスごとの内容 第15回 まとめ 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
クラスによって異なります。第1回ガイダンスで指示されたテキストを必ず購入してください。なお、テキストを一定期間内に購入していない場合は、授業に参加しても欠席扱いになる場合があります。

担当者から一言
英語学習そのものを通してより広い視野から現代社会を見る力を身に着けられるように、また英語を習得することで専攻する領域における幅や深みが増すように、積極的な授業参加を期待します。

基礎英語Ⅱ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
リース・フェーリ・スコット・柴田・ダイクス	GEL1002	後学期	選択必修

授業のねらい

この授業は「基礎英語Ⅰ」に続き、皆さんが英語への関心を高め、それぞれの英語力に応じて、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能をさらにスキルアップすることを目的としています。クラスは基本的に前期のクラスが踏襲され、それぞれのクラスの授業内容は各担当者から第1回ガイダンスで説明されます。

到達目標

英語への関心とモチベーションをさらに高めながら、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能の基本～応用的スキルを養成します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、小テスト等）50%、期末試験50%で総合的に判断します。なお、小テストを実施した場合は添削して翌週返却します。

事前・事後学習

各授業で取り上げる内容について、わからない単語や文章の意味を事前に調べることに90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい／ノート整理等）に90分を、それぞれかけて準備学習をしてください。

基礎日本語Ⅰ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
加納・伊藤晴・角田・安田	GEL9001	前学期	選択必修

授業のねらい

言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。

到達目標

この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。（※日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。

事前・事後学習

N1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分）
毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分）
事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分）
授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1回	ガイダンス:授業の進め方、評価方法などの説明。
第2回	クラスごとの内容
第3回	クラスごとの内容
第4回	クラスごとの内容
第5回	クラスごとの内容
第6回	クラスごとの内容
第7回	クラスごとの内容
第8回	クラスごとの内容
第9回	クラスごとの内容
第10回	クラスごとの内容
第11回	クラスごとの内容
第12回	クラスごとの内容
第13回	クラスごとの内容
第14回	クラスごとの内容
第15回	まとめ 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

クラスによって異なります。第1回ガイダンスで指示されたテキストを必ず購入してください。なお、テキストを一定期間内に購入していない場合は、授業に参加しても欠席扱いになる場合があります。

担当者から一言

前期の基礎英語Ⅰを通して身に着けた広い視野から現代社会を見る力をさらに高められるように、また英語習得による専攻領域における幅や深みをさらに促進することができるよう、積極的な授業参加を期待します。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講	ガイダンス
第2講	レポート作成の基礎① 読解① 語彙①
第3講	レポート作成の基礎② 読解② 語彙②
第4講	レポート作成の基礎③ 読解③ 語彙③
第5講	レポート作成の基礎④ 読解④ 語彙④
第6講	レポート作成の基礎⑤ 読解⑤ 語彙⑤
第7講	レポート作成の応用① 読解⑥ 語彙⑥
第8講	レポート作成の応用② 読解⑦ 語彙⑦
第9講	レポート作成の応用③ 読解⑧ 語彙⑧
第10講	レポート作成の応用④ 読解⑨ 語彙⑨
第11講	レポート作成の応用⑤ 読解⑩ 語彙⑩
第12講	レポート作成の応用⑥ 読解⑪ 語彙⑪
第13講	レポート作成の応用⑦ 読解⑫ 語彙⑫
第14講	レポート作成の応用⑧ 読解⑬ 語彙⑬
第15講	レポート作成の応用⑨ 読解⑭ 語彙⑭
第16講	レポート作成の応用⑩ 読解⑮ 語彙⑮

定期試験
※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。
日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習します。

テキスト・教材（参考文献含む）

『日本語学習者のための読解厳選テーマ10[中上(中)級]』凡人社 清水正幸 ほか著
『日本語能力試験問題集 N1(N2) 語彙 スピードマスター』リサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言

日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本語を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

基礎日本語Ⅱ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
加納・伊藤晴・角田・安田	GEL9002	後学期	選択必修

授業のねらい

言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。

到達目標

この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、積極的に授業に参加するために必要となる日本語力を身につけることを、到達目標とします。
(※日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。

事前・事後学習

N1 向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。(30分)
毎日、継続的に新聞を読むこと。(30分)
事前に授業内容を調べ学習をしておくこと(90分)
授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと(90分)

英語コミュニケーションⅠ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
エリック・ブレイ	GEL1003	前学期	選 択

授業のねらい

このクラスの目標は、英語で日常生活についてコミュニケーションできる基礎能力を得る事にある。授業では主にlisteningとspeaking練習を行う。speaking練習は、1)発音練習と、2)クラスメートとの日常生活についての会話練習から成る。ここで大事なことは、不完全な英語(ブローケンイングリッシュ)で話すことを恥ずかしがらないで、ともかく英語で話そうとする積極的な姿勢である。ほぼ毎回宿題を課す。学期末にはクラスメートに手紙を書いてもらう予定である。

到達目標

このクラスで学んだことは、将来仕事で英語を使う時や、外国の人達と接する時に大いに役立つだろう。日常生活について英語でコミュニケーション出来るようになり、英語圏文化の理解も深まる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (40%) and a Final test (20%). Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習

Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes).

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第1講	ガイダンス		
第2講	レポート作成の応用①	読解①	語彙①
第3講	レポート作成の応用②	読解②	語彙②
第4講	レポート作成の応用③	読解③	語彙③
第5講	レポート作成の応用④	読解④	語彙④
第6講	レポート作成の応用⑤	読解⑤	語彙⑤
第7講	レポート作成の応用⑥	読解⑥	語彙⑥
第8講	レポート作成の応用⑦	読解⑦	語彙⑦
第9講	レポート作成の応用⑧	読解⑧	語彙⑧
第10講	レポート作成の応用⑨	読解⑨	語彙⑨
第11講	レポート作成の応用⑩	読解⑩	語彙⑩
第12講	レポート作成の応用⑪	読解⑪	語彙⑪
第13講	レポート作成の応用⑫	読解⑫	語彙⑫
第14講	レポート作成の応用⑬	読解⑬	語彙⑬
第15講	レポート作成の応用⑭	読解⑭	語彙⑭
第16講	レポート作成の応用⑮	読解⑮	語彙⑮

定期試験

※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。
日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む）

『日本語学習者のための読解厳選テーマ10[中上(中)級]』凡人社 清水正幸(ほか著)
『日本語能力試験問題集 N1(N2) 語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子(ほか著) その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言

日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本語を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

- 1 Class Introduction/Guidance
- 2 Meeting People 1
- 3 Meeting People 2
- 4 Talking about Classes 1
- 5 Talking about Classes 2
- 6 Talking about Daily Life 1
- 7 Talking about Daily Life 2
- 8 Talking about Personality 1
- 9 Talking about Personality 2
- 10 Talking about Appearance 1
- 11 Talking about Appearance 2
- 12 Talking about Last Weekend 1
- 13 Talking about Last Weekend 2
- 14 Talking about Vacation Plans
- 15 Review and Reflection

定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

Textbook: New Time to Communicate
Publisher: Nan'un-do Publishing

担当者から一言

この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

英語コミュニケーションⅠ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
ゴードン・リース	GEL1003	前学期	選 択

授業のねらい The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary. この講座の狙いは学生の英語の基本的な技能であるリスニングとスピーキングを向上させること。コミュニケーションを図るためゲームや、ロールプレー等を中心に使って授業を進める。

到達目標 1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 学習態度 15% 単語ブック・小テスト 20% スピーキングテスト・スキット(4) 40% 定期試験 25%
--

事前・事後学習 1. 講座が始まる前に基礎英語Ⅰ and Ⅱ のテキストを復習する。 2. プリントを配布しますので、ファイル(A4)を用意する。 3. After each class spend 90 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 90 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

英語コミュニケーションⅡ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
エリック・ブレイ	GEL1004	後学期	選 択

授業のねらい このクラスの目標は、英語で日常生活についてコミュニケーションできる基礎能力を得る事にある。授業では主にlisteningとspeaking練習を行う。speaking練習は、1)発音練習と、2)クラスメートとの日常生活についての会話練習から成る。ここで大事なことは、不完全な英語(ブローケンイングリッシュ)で話すことを恥ずかしがらないで、ともかく英語で話そうとする積極的な姿勢である。ほぼ毎回宿題を課す。学期末にはクラスメートに手紙を書いてもらう予定である。
--

到達目標 このクラスで学んだことは、将来仕事で英語を使う時や、外国の人達と接する時に大いに役立つだろう。日常生活について英語でコミュニケーション出来るようになり、英語圏文化の理解も深まる。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (40%) and a final test (20%). Feedback will be given on a regular basis.
--

事前・事後学習 Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes)

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 1. Guidance, Greetings and Introductions 2. Greetings and Introductions 3. Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 1 4. Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 2 5. Good morning World- A New Host 6. Good Morning World- A New Host- スキット 1 7. Self-introduction 8. Self-introduction 9. Self-introduction- Speaking Test 2 10. Countries and Nationalities 11. Countries and Nationalities 12. Countries and Nationalities 13. Activities and Interests- Meet Kim- 14. Activities and Interests- Meet Kim- スキット 2 15. Review and test preparation 16. 定期試験
--

テキスト・教材 (参考文献含む) World Link Combo Split Intro A with Online Workbook- Student Book -Third Edition Susan Stempleski Cengage Learning (2015) 2,650 yen

担当者から一言 皆さんと楽しく授業をしたいです。以下のルールを守って下さい。 1. テキストとプリントを整理するためのファイルを授業に持って来ない学生は欠席扱いになる。 2. 英和辞典は必携。 3. 5 回以上欠席すると単位がもらえない。 履修者が22名を超えた場合は抽選となります。
--

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 1 - Class Introduction/Guidance 2 - Talking about the vacation 1 3 - Talking about the vacation 2 4 - Talking about Weekend plans 1 5 - Talking about Weekend plans 2 6 - Talking about Food and Recipes 1 7 - Talking about Food and Recipes 2 8 - Talking about Travel 1 9 - Talking about Travel 2 10 - Talking about Hometowns 1 11 - Talking about Hometowns 2 12 - Talking about Opinions 1 13 - Talking about Opinions 2 14 - Talking about The Future 15 - Review and Reflection 定期試験
--

テキスト・教材 (参考文献含む) Textbook: New Time to Communicate Publisher: Nan'un-do Publishing

担当者から一言 この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。
--

英語コミュニケーションⅡ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1004	後学期	選 択

授業のねらい This course is a continuation of 英語コミュニケーションⅠ. The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The textbook for this course utilises DVD video. The text follows four young people living in Los Angeles.画面上の人物とのスピーキング練習やスライドショー形式のL.A.案内など、映像教材ならではのアクティビティも充実。メインの会話の他にも、文法、リーディング、ライティングなど、バランスのとれた定評のある構成で英語の基礎を固めます。
--

到達目標 1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法	
学習態度	15%
単語ブック・小テスト	20%
スピーキングテスト・スキット(4)	40%
定期試験	25%

事前・事後学習 1. 講座が始まる前に基礎英語Ⅰ and Ⅱ のテキストを復習する。 2. プリントを配布しますので、ファイル(A4)を用意する。 3. After each class spend 90 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 90 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

中国語Ⅰ／基礎中国語Ⅰ 加納 光	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1005	前学期	選 択

授業のねらい この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通して、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調(高低アクセント)と400余りの音節を正しく発音できようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。
--

到達目標 この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしながら、中国語の基礎をしっかり身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法	
①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題(評価した後返却します)20%により総合的に評価します。	

事前・事後学習 毎回与えられる復習(90分)、予習(90分)のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 1. Guidance/ Talking about the past/ ""How was your vacation?"" 2. ""How was your vacation?""/ Welcome to L.A. be動詞 3. ""How was your vacation?"" - Speaking Test #1/ I Love Fruit! 可算名詞／不可算名詞 4. Campus Life 一般動詞(現在時制) 5. Lunchtime 代名詞 6. First Date 一般動詞(過去時制) 7. Where's Linda? 進行形 8. Andy's News/ will be going to/ スキット 9. Shopping in Santa Monica 助動詞 10. Moving Day 前置詞 11. A Beautiful View 現在完了 12. Sunday Fun 比較/ スキット 13. Seeing Stars WH疑問文 14. Buying Food for a BBQ 動名詞／不定詞 15. Putting on a New Face 接続詞 16. 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む) We Love L.A! L.A.イングリッシュ・ライフ Robert Hickling / 臼倉美里 著 Kinseido 2,700 yen
--

担当者から一言 皆さんと楽しく授業をしたいです。以下のルールを守ってください。 1. テキストとプリントを整理するためのファイルを授業に持って来ない学生は欠席扱いになる。 2. 英和辞典は必携。 3. 5回以上欠席すると単位がもらえない。 履修者が22名を超えた場合は抽選となります。
--

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス、授業の概要、中国語概要1 第2講 中国語概要2、中国概況1 第3講 声調(4)と単母音(7)の発音、概況2 第4講 複合母音(13)の発音、概況3 第5講 鼻母音(16)の発音、概況4 第6講 子音(21)の発音、概況5 第7講 発音、表記上の規則、概況6 第8講 発音のまとめ、小テスト、概況7 第9講 どうぞよろしく(point1～4)、概況8 第10講 お名前は(point1～4)、概況9 第11講 ご出身は(point1～4)、概況10 第12講 飲み物は(point1～4)、概況11 第13講 おいくつ(point1～4)、概況12 第14講 和食はいかが?(point1～4)、概況13 第15講 復習、概況14 定期試験 注 授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。

テキスト・教材(参考文献含む) 1)教材:相原茂他『日中いぶこみ交差点(エッセンシャル版)』(朝日出版社)2,400円+税 2)参考書:『WHY?に答えるはじめての中国語の文法書』(相原茂) 3)辞書:『簡約現代中国語辞典』(光生館)

担当者から一言 初めて学ぶ外国語です。旺盛な知的好奇心を持って授業に臨んでください。予習。復習を欠かさないようにしてください。遅刻、授業中の私語、中座、居眠りなどは、原則禁止します。

中国語Ⅰ／基礎中国語Ⅰ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
吉 山 青 翔	GEL1005	前学期	選 択

授業のねらい

本講義は中国語をゼロから始める中国語初心者に向け、国連など国際会議で公用語と指定されている中国語の標準語（＝普通話）の基本発音・基本文法・基本語彙・基本文型と、中国語日常会話の基本的なスキル、及び中国文化との一体化的な中国語学習を目指します。

到達目標

中国語の門に入り、より中国語を学ぶための基礎を据えることができるでしょうし、そして、国際感覚の養成にも役に立つでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常授業中に行われる書き取りテスト（40点）（採点後返却し、フィードバックします）・会話練習などの出来具合と期末定期試験（60点）の出来具合により総合評価。

事前・事後学習

授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

- 第1講 ガイダンス
第2講 中国語発音1、自己紹介
第3講 中国語発音2、あいさつの表現1
第4講 中国語発音復習、中国語による漢詩鑑賞
第5講 中国語人称代名詞、中国語の語順、会話「私は日本人です」
第6講 中国語「Yes/No式疑問文」、「要」の用法1・2、会話「コーヒーがいかがですか」
第7講 中国語「有」の用法、会話「ウーロン茶がありますか」
第8講 中国語「指示代名詞」用法1、「Wh」式疑問文、「在」用法1、会話「タクシー乗り場はどこですか」
第9講 中国「去」の用法、会話「北京ホテルまでお願い致します」
第10講 中国語動詞過去形、数詞・通貨の表現、会話「いくらですか」
第11講 中国語指示代名詞2、選択式疑問文、会話「千と申します」
第12講 中国語可能表現1「可以」、会話「両替をお願い致します」
第13講 「誰」の敬称表現、「在」の用法2、会話「もしもし、どなたですか」
第14講 中国語指示代名詞3、「的」の用法、会話「こちらは妻です」
第15講 総括

テキスト・教材（参考文献含む）

王青翔（＝吉山青翔）・榮隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』（東洋書店、2013年）
本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。

担当者から一言

本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。

中国語Ⅱ／基礎中国語Ⅱ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
加 納 光	GEL1006	後学期	選 択

授業のねらい

この授業は中国語Ⅰを継続するものです。中国語Ⅰと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。

コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。

到達目標

中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学期末試験60％、小テスト20％、課題、宿題（採点後返却します）20％をもとにして、総合的に評価します。

事前・事後学習

授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分＋復習90分）。
加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

- 「中国語Ⅰ」からの継続
第1講:ガイダンス、授業の概要、家庭訪問(1)
第2講:家庭訪問(2)、買い物(1)
第3講:買い物(2)、道案内(1)
第4講:道案内(2)、中秋節(1)
第5講:中秋節(2)、食事の前は(1)
第6講:食事の前は(2)、第1～5講の復習(1)
第7講:第1～5講の復習(2)
第8講:手作り料理(1)
第9講:手作り料理(2)、カニの季節(1)
第10講:カニの季節(2)、スキー場で(1)
第11講:スキー場で(2)、おみやげ(1)
第12講:おみやげ(2)、空港まで(1)
第13講:空港まで(2)、第6～12講の復習(1)
第14講:第6～12講の復習(2)
第15講:総復習とまとめ
定期試験
注 授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。
毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。

テキスト・教材（参考文献含む）

- 1)教材:『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』（朝日出版社）、相原 茂 他
- 2)副教材:『中国語の文法書』（同学社）
- 3)辞書:『中国語辞典』（光生館）
- 4)参考書:『中国語ははじめの一步』（ちくま新書）

担当者から一言

予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。

中国語Ⅱ／基礎中国語Ⅱ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
吉山 青翔	GEL1006	後学期	選 択

授業のねらい

本講義は中国語の入門編ではなく、すでに中国語の入門程度の知識を修得した学習者に向け、前学期で開講した「中国語Ⅰ」に続き、基礎中国語の学習を展開します。

到達目標

前学期の「中国語Ⅰ」と合わせて履修すれば、中国語をより学ぶための文法的な基礎と中国語会話の基本的なスキルを身につけることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常授業中に行われる書き取りテスト(40)(採点後返却し、フィードバックします。)・会話練習などの出来具合と期末定期試験(60点)の出来具合により総合評価。

事前・事後学習

授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | 中国語のあいさつ表現2、会話「ちょっとお出かけします」 |
| 第3講 | 中国語「在」の用法3、「要」の用法3、会話「タクシーを拾う」 |
| 第4講 | 中国語指示代名詞3、反復疑問文、会話「この近くにトイレがありますか」 |
| 第5講 | 中国語「断る」表現、会話「だめです」 |
| 第6講 | 中国語疑問副詞1、会話「王府井へはどう行けばいいですか」 |
| 第7講 | 中国語数量詞1、疑問詞「幾」の用法、会話「餃子がどのように売っていますか」 |
| 第8講 | 中国語数量詞2、会話「値引きしますか」 |
| 第9講 | 中国語疑問詞3、「太」の用法、会話「もう少し安くしてください」 |
| 第10講 | 中国語数量詞3、会話「何になさいますか」 |
| 第11講 | 中国語の年月日・曜日の表現、会話「私はちょっと用事があります」 |
| 第12講 | 中国語辞書の使い方 |
| 第13講 | 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」1:ユーモア「おばあちゃんの補聴器」 |
| 第14講 | 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」2:漫画「試験」、「外食しましょう」 |
| 第15講 | 総括 |

テキスト・教材（参考文献含む）

王青翔(=吉山青翔)・栄隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』(東洋書店、2013年)

担当者から一言

本講義では平常授業中には毎回書き取りテストを行い、会話など暗記課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。

ポルトガル語Ⅰ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
フェリペ・フェハーリ	GEL1007	前学期	選 択

授業のねらい

日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係(日本-ブラジル間の交流関係)の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地(約150万の日系ブラジル人がいます)です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

到達目標

ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。
ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度や小テスト:50%
定期試験:50%

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う(毎週約60分)。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | アルファベットと発音 |
| 第3講 | 挨拶と自己紹介 |
| 第4講 | 名詞の性と数 |
| 第5講 | 冠詞と数字 |
| 第6講 | ser動詞(1) |
| 第7講 | ser動詞(2) |
| 第8講 | 所有表現(1) |
| 第9講 | 所有表現(2) |
| 第10講 | 所有表現(3) |
| 第11講 | gostar動詞 |
| 第12講 | 規則動詞(1) |
| 第13講 | 規則動詞(2) |
| 第14講 | 規則動詞(3) |
| 第15講 | まとめ |

テキスト・教材（参考文献含む）

Vamos falar português! Edição Revisada『ブラジルポルトガル語を話そう!改訂版』
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari(朝日出版社)
(2,300円+税)ISBN 978-4-255-55505-8

担当者から一言

ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう!

ポルトガル語Ⅱ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
フェリペ・フェハーリ	GEL1008	後学期	選 択

授業のねらい 本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係(日本－ブラジル間の交流関係)の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地(約150万の日経ブラジル人がいます)です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。
--

到達目標 ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 受講態度や小テスト:50% 定期試験:50%
--

事前・事後学習 毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う(毎週約60分)。
--

海外語学研修a(英語)／海外語学研修	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1009	前学期	選 択

授業のねらい 夏期や春期休業を利用してフィリピン・セブ島の、大学や語学学校に短期留学することで英語を学び、ホームステイや寮生活を通して現地の社会や文化に直接触れることを目的としています。なお、参加応募状況や現地の社会情勢等によってはやむを得ず変更や中止になる場合もあります。また1年生も参加可能ですが、単位が認定されるのは2年生以上に限られます。

到達目標 1. 外国語によるコミュニケーション能力を高めます。 2. 外国の文化に直接触れます。 3. 異文化への理解を深めます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 国内での事前研修、現地での語学授業担当者の評価やコメント、引率教員の報告、帰国後のレポート提出等により総合的に評価します。なお、評価は「認定」となります。
--

事前・事後学習 現地に行く前のすべての事前研修に必ず出席し、研修で学んだことの復習を欠かさず、なおかつ渡航先の地理や文化、社会等の全般についての事前学習に十分な時間をかけてください。

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 第1講 前期の総合復習 第2講 前置詞 第3講 不規則動詞:ir 第4講 不規則動詞:terとfazer 第5講 不規則動詞:poder 第6講 不規則動詞:querer 第7講 estar動詞 第8講 ser動詞とestar動詞の違い 第9講 現在分詞と現在進行形 第10講 規則動詞の過去形(1) 第11講 規則動詞の過去形(2) 第12講 規則動詞の過去形(3) 第13講 様々な表現(1) 第14講 様々な表現(2) 第15講 まとめ 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む) Vamos falar português! Edição Revisada『ブラジルポルトガル語を話そう!改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari(朝日出版社) (2,300円+税)ISBN 978-4-255-55505-8
--

担当者から一言 ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう!
--

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 海外語学研修参加の流れ ①説明会の開催(夏期研修は4月、春期研修は9月) ②参加希望者の面接(研修参加の目的などの確認) ③正式申し込み(航空券等の手配) ④渡航前の事前研修(語学、外国でのマナーなどの学習) ⑤現地学校での語学研修(社会見学を含む) ⑥帰国後のレポート提出 ⑦単位認定
--

テキスト・教材(参考文献含む) 渡航先の大学、もしくは語学学校配布のものを使用します。

担当者から一言 長期短期にかかわらず、留学は現地へ渡航する前にすでに始まり、帰国後も終わりません。健康、マナー、危機の大事な「三つの管理」を遵守し、現地で得た知識や経験を帰国後の生活や人生に活かしていくことが大切です。

海外語学研修b（中国語）／海外語学研修	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
加納 光	GEL1010	前学期	選 択

授業のねらい

夏期あるいは春期休業中に、中国語を学ぶこととその地域社会や文化に直接触れることが、研修の目的であり、ねらいでもあります。ホームステイあるいは学生寮に宿泊し、約2～4週間（研修先により異なります）の月～金曜日の半日あるいは1日、語学の授業を受けます。コースによっては、語学研修終了後に、地域を観光する場合があります。中国語研修は、中国です。なお、状況によりプランが変更されたり、中止されることもあります。

到達目標

1. 外国語のコミュニケーション能力を高める。
2. 外国の文化に直接触れる。
3. 異文化への理解を深める。

ことを、到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

国内での事前研修、現地での語学授業担当者の評価やコメント、引率教員の報告、帰国後のレポート提出などにより評価します。なお、認定科目のため評価は「認定」となります。

事前・事後学習

研修先の地理や歴史、文化について、事前によく調べておいて下さい（180分）。

日本語中級 I	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
加納・伊藤晴・角田・安田	GEL9003	前学期	選 択

授業のねらい

言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることのできる日本語能力の養成をそのねらいとします。

到達目標

この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとにして議論をしたり、自分の考えを発表したりする日本語コミュニケーション能力の習得を到達目標とします。
（＊日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50％、期末試験50％。

事前・事後学習

授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと（90分）。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておくこと（90分）。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

- 海外語学研修参加の流れ(開催時期によって異なります)
- ①ガイダンスへの参加(3月下旬以降調査、4月下旬説明会)
 - ②参加の正式申し込み(航空券などの手配)
 - ③面接(研修参加の目的等の確認)
 - ④事前研修(語学、外国でのマナーなどの学習)
 - ⑤現地学校での語学研修(現地での観光を含む場合あり)
 - ⑥帰国後、レポートなどの提出
 - ⑦単位認定

テキスト・教材（参考文献含む）

事前授業およびに研修先でのテキストなどについては別途指示します。

担当者から一言

本学教員が全行程を引率する予定です。英語研修、中国語研修とも、全学部合同で実施します。疑問があれば、教学課あるいは専任語学教員に質問してください。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

- 第1講 合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)
- 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習①
- 第3講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習②
- 第4講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③
- 第5講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④
- 第6講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤
- 第7講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥
- 第8講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦
- 第9講 日本を知る 議論、発表⑧ 語彙学習⑧
- 第10講 日本を知る 議論、発表⑨ 語彙学習⑨
- 第11講 日本を知る 議論、発表⑩ 語彙学習⑩
- 第12講 日本を知る 議論、発表⑪ 語彙学習⑪
- 第13講 日本を知る 議論、発表⑫ 語彙学習⑫
- 第14講 日本を知る 議論、発表⑬ 語彙学習⑬
- 第15講 日本を知る 議論、発表⑭ 語彙学習⑭ まとめ
- 定期試験

＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む）

『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言

コミュニケーション能力の向上を目指して積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞く姿勢も忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語中級Ⅱ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
加納・伊藤晴・角田・安田	GEL9004	後学期	選 択

授業のねらい 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることができる日本語能力の養成が、授業のねらいです。
--

到達目標 この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとに議論をしたり、自分の考えを発表したりすることのできる日本語のコミュニケーション能力の習得が到達目標です。 （＊日本語能力試験N 1 レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50％、期末試験50％。
--

事前・事後学習 授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと（90分）。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとめておくこと（90分）。
--

日本語上級Ⅰ	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
加納・伊藤晴・角田・安田	GEL9005	前学期	選 択

授業のねらい 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。
--

到達目標 この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読み、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。 （＊日本語能力試験N 1 レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50％、期末試験50％。
--

事前・事後学習 授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと（90分）。
--

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 合同ガイダンス（クラス分け日本語テストも含む） 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習① 第3講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習② 第4講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第5講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第6講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第7講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第8講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 第9講 日本を知る 議論、発表⑧ 語彙学習⑧ 第10講 日本を知る 議論、発表⑨ 語彙学習⑨ 第11講 日本を知る 議論、発表⑩ 語彙学習⑩ 第12講 日本を知る 議論、発表⑪ 語彙学習⑪ 第13講 日本を知る 議論、発表⑫ 語彙学習⑫ 第14講 日本を知る 議論、発表⑬ 語彙学習⑬ 第15講 日本を知る 議論、発表⑭ 語彙学習⑭ まとめ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む） 『日本語能力試験問題集 N 1（N 2）読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N 1（N 2）語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。
--

担当者から一言 コミュニケーション能力の向上を目指し、積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞くことも忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。
--

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 合同ガイダンス （クラス分けアンケートも含む） 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 文章読解④ 語彙学習④ 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩ 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪ 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫ 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬ 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む） 『日本語能力試験問題集 N 1（N 2）読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N 1（N 2）読彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。
--

担当者から一言 日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことが心げること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語上級Ⅱ	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
加納・伊藤晴・角田・安田	GEL9006	後学期	選 択

授業のねらい 言語の四技能―読む、書く、聞く、話す―を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

到達目標 この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読んで、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。（＊日本語能力試験 N 1 レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50％、期末試験50％。
--

事前・事後学習 授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと（90分）。
--

コンピュータリテラシー	科目 ナンバリング	1 年次	4 単位
本部・田中伊・石田・楓	GEI1001	前学期	必修

授業のねらい コンピュータの実習を中心とした授業です。コンピュータの「読み書き能力」の習熟に重点を置きます。 具体的には、仕事をする上でよく使われているワープロと表計算ソフトを中心に実習します。授業は、キーボードのタイピング練習から入り、それから実際にデータを入力して加工する実習を主体に行います。教員が質問に答えて個別指導を行う形で実習は進みます。毎回実習の提出物がありますから、それで習熟度がチェックされます。

到達目標 ワープロソフトWord 2016と表計算ソフトExcel 2016の基本的な機能に習熟し、ビジネス文書の作成ができるようになること。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回の演習の提出物 4 点とタイピングテスト（0.1×タイピングテストの点数）とExcelの小テスト（20点）の合計で評価します。適宜、提出物に対してコメントを付けてフィードバックします。
--

事前・事後学習 授業を履修するための予備知識は要求しません。習うより慣れろという内容なので授業に毎回出席して実習に励んでください。また、タイピングの練習方法を指導するので毎日続けて20分間ほど練習してください。さらに授業で行った実習を忘れないように毎日20分ほど復習して下さい。
--

授業の位置づけ 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1 講 合同ガイダンス（クラス分けアンケートも含む） 第2 講 文章読解① 語彙学習① 第3 講 文章読解② 語彙学習② 第4 講 文章読解③ 語彙学習③ 第5 講 文章読解④ 語彙学習④ 第6 講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第7 講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第8 講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第9 講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩ 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪ 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫ 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬ 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材（参考文献含む） 『日本語能力試験問題集 N 1（N 2）読解 スピードマスター』J リサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N 1（N 2）読彙 スピードマスター』J リサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。
--

担当者から一言 日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。
--

授業の位置づけ 「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 第1 講 ガイダンスとタイピングテストによるクラス分け 第2 講 キーボード入力練習(タッチタイピング) 第3 講 Word①:文字の入力 第4 講 Word②:文書の作成 第5 講 Word③:編集・表の作成・画像の挿入 第6 講 Word④:まとめの演習 第7 講 メール:携帯メールとの連携・エチケット 第8 講 PowerPoint:簡単な利用法 第9 講 Excel①:データの入力、タイピングテスト 第10講 Excel②:ワークシートの編集 第11講 Excel③:グラフの作成 第12講 Excel④:グラフの編集と表計算 第13講 Excel⑤:基本的な関数と条件関数 第14講 Excel⑥:データベース機能 第15講 Excelの小テスト 他の授業との連携の都合により内容が前後することがあります。
--

テキスト・教材（参考文献含む） テキスト(必須)「30時間でマスターWord & Exel 2016」実教出版 950円 教科書が無いと実習が出来ません。

担当者から一言 コンピュータ教室での実習を中心とした科目です。毎回の授業は前回までの授業の積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。また、提出物が多いので、時間内に全ては完成しない場合があります。残った課題も必ず完成させて提出してください。

情報倫理	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
片山・池田・田中伊・千葉	GEI1002	後学期	必修

授業のねらい インターネットとネット上の各種サービスの発展により、世界中の人々が直接に繋がる新しい社会が形成されつつある。またデジタル技術の進展により、高品位の著作物を皆で共有し楽しめるようになった。ネット上に出来たこの新しい社会は人間社会を根本から変えようとしているが、人が集まれば多くの問題も生じる。この講義では、コンピュータやインターネットなどの利用に際して、他人の権利を侵害したり自分の権利を侵されたりすることがないように必要な知識を身につけることを目的とする。
--

到達目標 ①情報セキュリティについて説明できる。 ②個人情報について説明できる。 ③著作権について説明できる。 ④暗号技術について説明できる。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ノートやレポート(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%) ノート、レポート、小テストは採点后、以降の講義で返却します。
--

事前・事後学習 講義前には、講義内容をシラバスで確認し、教科書の該当部分を読んで来ること(30分)。 講義後には、講義内容を復習し、問題などをやり直すこと(60分)。
--

情報科学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
千葉 賢	GEI1003	前学期	選択

授業のねらい コンピュータの歴史は浅く、電子計算機が開発されたのは約70年前、最初のパソコンが発売されたのは約45年前である。それ以降の情報技術の発展は驚異的で、現在はパソコンやスマホを通じて自分から世界に情報を発信できる世の中となった。さらに最近では、AI技術の普及も目覚ましく、情報技術が人間社会の在り方や運命を変えようとしている。本講義では、現代社会で必要とされるコンピュータに関する知識を概説する。予備知識は必要ない。本大学で行われる情報系授業の基礎となる内容を教えるので、できるだけ早期に受講することを薦める。

到達目標 ①デジタルの特質を知る、②コンピュータの内部構造の概要を知る、③コンピュータの動作原理の概念を知る、④コンピュータの歴史を知る、⑤情報分野の用語や単位を知る、⑥情報分野の資格取得に備えた知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義毎のレポート(40%)と期末試験(60%)。毎週小レポートを課すので少し大変だが、その積み重ねで知識がつく。期末試験もレポートに出題した内容から出題する。レポートに予習復習で得た知識を書くと良い。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。レポートは採点して返却する。

事前・事後学習 全く新しい話題の準備学習は難しいので、連続する話題(例えば「情報と情報量」)の1回目を聴講したら、それを復習(90分)するとともに、ネット等で関連知識を得る(90分)ようにすると良い。そのような準備学習をすることで、理解度は格段に高まる。
--

授業の位置づけ 「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス、情報倫理とは、最近の話題(掲示板、2ch、ブログ、SNS、ケータイ) 第2講 情報セキュリティ(1) 第3講 情報セキュリティ(2) 第4講 コンピュータウイルス(1) 第5講 小テスト、コンピュータウイルス(2) 第6講 個人情報とプライバシー(1) 第7講 個人情報とプライバシー(2) 第8講 知的財産保護(1) 第9講 知的財産保護(2) 第10講 小テスト、知的財産保護(3) 第11講 知的財産保護(4) 第12講 暗号技術(1) 第13講 暗号技術(2) 第14講 小テスト、暗号技術(3) 第15講 まとめ 定期試験 ※授業全体を通してディスカッションを行います。
--

テキスト・教材(参考文献含む) 「四日市大学生のための情報倫理」四日市大学情報系教員グループ著 400円

担当者から一言 情報倫理は、情報化社会・ネット社会を生きていく上で必須の知識です。やや硬い内容ですが楽しみながら受講できるよう身近な話題を多く扱います。 ノートを定期的に確認し創意工夫と学ぶ姿勢の表れたものに高い点数を与えます。ノートの書き方は指導します。

授業の位置づけ 「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス、情報と情報量 第2講 情報と情報量 第3講 デジタルとアナログ 第4講 デジタルとアナログ 第5講 コンピュータの歴史 第6講 コンピュータの歴史 第7講 コンピュータの内部装置 第8講 コンピュータの内部装置 第9講 コンピュータ内部の数値の表現方法 第10講 コンピュータ内部の数値の表現方法 第11講 コンピュータ内部の文字の表現方法 第12講 コンピュータ内部の文字の表現方法 第13講 コンピュータとCPUの動作原理 第14講 コンピュータとCPUの動作原理 第15講 論理回路

テキスト・教材(参考文献含む) 使用しない。資料を配布する。

担当者から一言 ケータイもスマホもコンピュータです。情報社会の一員として生きてゆく皆さんにとって、コンピュータの使い方を覚えるだけで十分でしょうか。コンピュータという機械に「使われない」ためには、そのしくみを知り、使いこなすことが大切です。

情報と職業 井岡 幹博	科目 ナンバリング GEI1004	1 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい 本講義では、事例を通して情報システムと社会とのかかわり方を学び、情報システム関連の職業に関する職業観を持つことを目的とします。そのために、コンピュータやネットワークが社会インフラやビジネスの場面で、どのように活用されているかを学びます。情報システムの発達により、社会の仕組みや仕事の仕方が変わる中で、人間社会とコンピュータ、ネットワークとの望ましい関係も考えていきたいと思えます。			
到達目標 ITパスポート試験のストラテジ系およびマネジメント系の問題を解けるレベルを目指す。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポート50%、定期試験50% レポート課題に問題があればフィードバックします。			
事前・事後学習 情報技術およびその利用に関する新聞記事の熟読（予習90分）。各回で課されるレポート課題を作成すること（復習90分）。			
アプリケーション演習I/アプリケーション演習b 池田 幹男・本部 賢一		科目 ナンバリング GEI1005	1 年次 後学期 選 択
授業のねらい Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習を行います。			
到達目標 MOS Excel 2016の資格試験の準備が整うようにします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回の課題（40%）、模擬試験演習（60%）で評価します。定期テストは実施しません。適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。			
事前・事後学習 テキストの練習問題と模擬練習問題の予習と復習を繰り返し実施してください。（週180分）可能ならば、個人のPCにテキスト付属の模擬テストプログラムをインストールして模擬テストを実施してください。			
授業の位置づけ 「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。			
授 業 計 画 第1講：ガイダンス、デジタル社会とビジネス 第2講：ネットワークとデジタルシステム 第3講：デジタル社会と製造(1)SCMなど 第4講：デジタル社会と製造(2)EMSなど 第5講：デジタル社会と製造(3)CADとデータベース 第6講：デジタル社会と環境(1)LCA、有害物質規制など 第7講：デジタル社会と環境(2)エネルギー問題 第8講：知的財産権とビジネス(1)産業財産権と著作権 第9講：知的財産権とビジネス(2)ソフトウェア特許 第10講：電子商取引のモデル(1)ブラウザ戦争、アマゾンのビジネスモデル、楽天のビジネスモデル 第11講：電子商取引のモデル(2)アップルのビジネスモデル、グーグルのビジネスモデル 第12講：情報化社会のセキュリティ(1)マルウェアとは、遠隔操作事件 第13講：情報化社会のセキュリティ(2)セキュリティ対策 第14講：POSシステムとICタグ 第15講：省エネと情報 定期試験			
テキスト・教材（参考文献含む） プリント配布			
担当者から一言 急速に進む情報化は、ビジネス環境はもちろん、私たちの生活自体も大きく変え、大きな影響を与えています。ニュース番組などで具体的な例を見ながら、情報システム進化の方向やその影響を一緒に考えましょう。			
授業の位置づけ 「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス、クラス分け 第2講 ワークシートやブックの作成と管理(1) 第3講 ワークシートやブックの作成と管理(2) 第4講 ワークシートやブックの作成と管理(3) 第5講 セルやセル範囲の作成(1) 第6講 セルやセル範囲の作成(2) 第7講 テーブルの作成 第8講 数式や関数の適用(1) 第9講 数式や関数の適用(2) 第10講 グラフやオブジェクトの作成 第11講 模擬試験演習(1) 第12講 模擬試験演習(2) 第13講 模擬試験演習(3) 第14講 模擬試験演習(4) 第15講 模擬試験演習(5)			
テキスト・教材（参考文献含む） 佐藤 薫「MOS攻略問題集Excel 2016」 日経BP社 ￥1,944 テキストは必須です。特に実際にMOSを受験する人は、テキスト付属の模擬テストプログラムが必要になります。			
担当者から一言 積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。			

アプリケーション演習Ⅰ/アプリケーション演習a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
本部 賢一・池田 幹男	GEI1006	前学期	選 択

授業のねらい Wordは、卒業後の実社会（プレゼンや書類などのコミュニケーション中心）では必須の道具です。Wordは2016になり、実社会で必ず使う機能も増え、それらを理解し、使用できるようになることがねらいです。

到達目標 Word 2016の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word 2016の資格取得試験の準備が整うようにします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義は演習形式で行います。授業への参加態度30%、演習の課題の提出30%と模擬試験問題の成績40%で評価します。

事前・事後学習 大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）

四日市学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
鬼頭・岡・永井・李	GEC1001	前学期	選 択

授業のねらい この講義は、四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。四日市を深く知ることを通し、地域社会の抱える課題を見つけ、それを市民・企業・行政などがどのように解決するのか、学んでいきます。また、四日市の伝統・文化・芸術について触れ、多面的に四日市について考える機会とします。
--

到達目標 講義は8回にわたる様々なテーマの座学、2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、この地域の様子や現在の課題を積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになることです。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価は、1～8週目に課す簡単なアクションペーパー各200字程度(40%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(30%)で総合評価します。提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、最終の振り返りでフィードバックします。

事前・事後学習 次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報を見る準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。

授業の位置づけ 「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス・クラス分け 第2講 文書の作成 第3講 文書の管理 第4講 文字・段落の書式設定 第5講 セクションの書式設定 第6講 表やリストの作成と変更 第7講 引用文献 第8講 図表の管理 第9講 文書パーツ 第10講 SmartArt 第11講 画像の挿入 第12講 MOS word 2016模擬試験問題1 第13講 MOS word 2016模擬試験問題2 第14講 MOS word 2016模擬試験問題3 第15講 MOS word 2016模擬試験問題4

テキスト・教材（参考文献含む） MOS攻略問題集 Microsoft Word 2016 佐藤薫（著） 日経BP社1,800円＋税

担当者から一言 人数制限があり、また、初回の授業でクラス分けを行いますので、初回は必ず出席してください。
--

授業の位置づけ 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。
--

授 業 計 画 第1講(4/10) ガイダンス＋フィールドワークの説明(鬼頭) 第2講(4/17) 「地域と宗教的文化・伝統」(李;ゲスト講師 北島義信) 第3講(4/24) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭;ゲスト講師 四日市公害と環境未来館副館長) 第4講(5/1) 「四日市の産業」(岡) 第5講(5/8) 「ふるさと・四日市の文学者たち」(永井) 第6講(5/15) 「四日市の抱える今日の問題～人権問題～」(李) 第7講(5/22) 「四日市の歴史」(永井;ゲスト講師 四日市市博物館学芸員) 第8講(5/29) 「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」(鬼頭;ゲスト講師 四日市市観光・シティプロモーション課職員) ■第9～11講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 * 6/28(日)または7/4(土)に実施する予定。 ■第12～14講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 * 各自でテーマを決めてフィールドワーク調査 15週目(7/17) 振り返りとフィールドワーク課題の提出(鬼頭)
--

テキスト・教材（参考文献含む） とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。

担当者から一言 四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでほしい。
--

地域社会の歴史	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
岡 佑 哉	GEC1002	後学期	選 択
授業のねらい			
本講義は、地域における歴史の展開を知ることで、歴史が政治の中心地のみでは語りきれないものであると理解することを目的とする。歴史は単なる「暗記科目」ではなく、事実に基づき思考する学問である。本講義を通して、地域社会の視点から日本全体の問題を考察するという姿勢を養う。題材として、2016年のサミット開催地三重県の「伊勢神宮」の近現代史をとり上げる。			
到達目標			
①地域社会の歴史に対する知識を身につける。②知識を活用し論理立てて記述をする力を身につける。③地域社会から日本全体の問題を考える姿勢を身につける。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法			
筆記試験を行う。授業への出席が前提であり無断欠席はしないこと。毎回の取り組みで平常点もあり。毎回の取り組みについては講義の終わりに内容についての感想・質問を書いたペーパーを提出。次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。			
事前・事後学習			
本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。大学生として新聞を読むこと。また、伊勢神宮や天皇家に関わる記事がないかも注意するとよい。(90分)			
市民教育	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
松井真理子	GEC1003	前学期	選 択
授業のねらい			
近年、「新しい公共」の理念のもと、市民が果たす役割がかつてなく期待されています。また、18歳選挙権の導入に伴い、選挙をはじめとする主権者としてのあり方について、若い世代が学習することはきわめて意義が大きくなっています。この授業では、主権者としての基礎知識、市民の権利と責任、市民の行動の3つの観点から、入門的な主権者教育を行います。三重県における市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。			
到達目標			
1 政治・行政・司法への市民参加の仕組みを理解する。 2 地域において市民として生活する上での権利と責任を理解し、行動する力を養成する。 3 地域における市民としての活動のあり方について、具体的に理解する。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法			
毎講義時のミニレポート 40% 定期試験 60% 毎講義時のミニレポートの質問については、次回の授業で解説する。			
事前・事後学習			
(授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)			

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。
授 業 計 画
第1回 ガイダンスー地域社会史の意義ー 第2回 前近代の伊勢神宮①ー古代～中世ー 第3回 前近代の伊勢神宮②ー近世ー 第4回 近代の伊勢神宮を知ることの意味 第5回 明治維新と伊勢神宮 第6回 明治期における宇治山田の変容 第7回 明治期における「神都」としての伊勢の形成 第8回 1929年の式年遷宮ー国家儀礼としてー 第9回 戦前のメディア・教育の中の伊勢神宮 第10回 戦前の伊勢神宮参拝の諸相 第11回 終戦の危機と1953年の式年遷宮 第12回 「脱法人化」と1973年の式年遷宮 第13回 1993年の式年遷宮ー聖地と俗地としての伊勢ー 第14回 伊勢神宮の現在 第15回 講義の総括 定期試験
テキスト・教材（参考文献含む）
テキストはなし。毎回プリントを配布する。 参考文献：ジョン・ブリー『神都物語 伊勢神宮の近現代史』（吉川弘文館、2015）
担当者から一言
①遅刻厳禁。入室は認めない。プリントも配布しない。 ②私語厳禁。 ③スマホ・音楽プレーヤー・イヤホンはしなうこと。 ④バイトなどと称した無断早退、トイレなどと称した無断退出厳禁。 ⑤コメントペーパーの代筆厳禁。発見した段階で受講を認めない。不備（プリント・ウィキペディア・友人の丸写し）も平常点なし。
授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。
授 業 計 画
講義の中で、学生同士のグループワークを取り入れます。 第1講 ガイダンス・市民／市民教育とは何か 第2講 市民の基礎知識①(日本国憲法) 第3講 市民の基礎知識②(国・三重県の政治・行政のしくみ) 第4講 市民の基礎知識③(税) 第5講 市民の基礎知識④(社会保障) 第6講 市民の基礎知識⑤(労働) 第7講 市民の基礎知識⑥(SDGs) 第8講 市民の行動①(選挙権の行使) 第9講 市民の行動②(身近な議会への参加) 第10講 市民の行動③(身近な行政への参加) 第11講 市民の行動④(裁判員制度) 第12講 市民の行動⑤(NPO／ボランティア) 第13講 市民の行動⑥(消費者) 第14講 市民の行動⑦(情報社会) 第15講 まとめ
テキスト・教材（参考文献含む）
毎回講義時に資料を配布します。
担当者から一言
社会をよくするのも悪くするのも究極は市民です。社会とつながっている自覚を持ち、行動するようになってもらいたいと思います。

人権論 松井真理子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1004	後学期	選 択
授業のねらい 私たちは生まれながらに、誰にも奪われることのない権利として人権を持っていますが、私たちが住んでいる地域は、人間らしい生活ができているでしょうか。この授業では、人権を差別の問題だけに狭く捉えず、基本からしっかり学びます。また差別を受けやすい立場にいるマイノリティの人たちが抱えている課題についても、地域の当事者を招いて実践的に学びます。社会構造の根底に人権があることを理解し、誰もが安心して自分らしく暮らせる社会づくりの必要性を理解する、人権感覚に敏感な人づくりを目指します。			
到達目標 1 人権の概念を正確に理解する。 2 人権を自分事にとらえ、社会構造と人権の関係に敏感になる。 3 マイノリティの人権について、個別の内容を理解する。 4 多様な人々が共生する地域社会づくりと人権との関係について正しく理解する。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎講義時のミニレポート 40% 定期試験 60% 毎講義時のミニレポートの質問については、次の授業で解説する。			
事前・事後学習 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)			
地域社会と環境 橋本幸彦	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1005	前学期	選 択
授業のねらい 現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、ケーススタディとして「四日市公害」と「獣害」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、将来について、理解することを目標とします。			
到達目標 四日市で起きている環境問題は全国でも起きています。特に獣害は近年になり深刻になっています。身近な問題としてこれらを理解することを目指します。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業に対する積極性(50%)、期末試験(50%)を元に総合的に評価します。毎回、小レポートの提出を課し、授業に対する積極性として評価します。その他、授業中の発言や質問なども評価します。			
事前・事後学習 前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週60分)。また日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで地域社会に関する情報をチェックし、わからない用語を調べ、なぜ関心を持ったか自分の中で整理してください(1日平均20分)。			
授業の位置づけ 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。			
授 業 計 画 講義の中で、学生同士のグループワークを取り入れます。 第1講 ガイダンス・人権とは何か 第2講 人権の歴史 第3講 人権の体系 第4講 表現の自由 第5講 刑事手続と人権 第6講 生存権 第7講 マイノリティの人権(障害がある人①) 第8講 マイノリティの人権(障害がある人②) 第9講 マイノリティの人権(子ども) 第10講 マイノリティの人権(外国人①) 第11講 マイノリティの人権(外国人②) 第12講 マイノリティの人権(被差別部落) 第13講 暮らしの中の人権 第14講 平和と人権 第15講 まとめ			
テキスト・教材(参考文献含む) 毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 (参考文献) 四日市市人権センターの人権教育・啓発推進プログラム各種パンフレット			
担当者から一言 わかりやすい映像教材や地域の当事者の話によって理解を深めます。あらゆる社会システムや学術研究の目的は「人権」だと考えています。ぜひ受講してください。			
地域社会と環境 橋本幸彦	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1005	前学期	選 択
授業の位置づけ 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 地域社会とは 第3講 地域社会が抱える課題 ① 過疎化・少子高齢化 第4講 地域社会が抱える課題 ② 人間関係の希薄化 第5講 地域社会とリスク ① リスクとは 第6講 地域社会とリスク ② リスクへの対応 第7講 地域づくり・地域おこし 第8講 四日市の環境問題 ① 四日市公害 第9講 四日市の環境問題 ② 環境被害地域の再生 第10講 四日市の環境問題 ③ 様々な獣害 第11講 四日市の環境問題 ④ 農作物被害と対策 第12講 人身被害 第13講 獣害の背景 第14講 自然環境を使った地域おこし 第15講 まとめ			
テキスト・教材(参考文献含む) 自作プリント、および関連資料配布。			
担当者から一言 皆さんの地元はどこですか。その地元でどのように生きてきて、生きていきたいですか？考えながら授業に臨んでみてください。発言や質問などいつでも受け付けます。積極的な講義への参加を期待します。			

地域防災／総合政策特講 a (地域防災)	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
鬼頭 浩 文	GEC1006	前学期	選 択

授業のねらい この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。 ＊ 6月の週末3日間（18時間）は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって6週分の講義とする。 ＊ 四日市大学の学生は、テキスト・受験料・登録費などの実費15,000円を負担してもらう。

到達目標 この講義を通して、災害時には復旧活動をリードできる人材になるのが目標である。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義で学んだことをまとめる小レポート5回、期末試験（8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる）の結果から、総合的に成績をつける。提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正して返却をする。

事前・事後学習 事前にテキストの要点を30分ほどかけて予習する。また、講義を録音して公開するので（全部で10時間ほど）、必ず1回は復習として聴き、理解を深める。また、週末の演習で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験の1週間前に必ず復習をする。

地域連携特別講義 a	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
小林 慶 太郎	GEC1007	前学期	選 択

授業のねらい 食と観光に関して、松阪市においてフィールドワークを交えた体験型実習を行なう。観光地としての魅力発信や観光客向けのインフラ整備といった課題を理解するとともに、地域で培われてきた食文化をどのように継承し発展させていくかの考え方を身につける。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、地域住民や観光客などに対してインタビューを行なうといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。

到達目標 地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ・グループワーク等への取組姿勢 60％ ・事後レポート 40％ ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク・フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。
--

事前・事後学習 松阪市の観光業の現状・課題や、松阪市周辺の多様な食文化の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら時間外に準備を行なう（9時間）。

授業の位置づけ 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授 業 計 画 ＊第1～9講は、金曜3時間目 1 4/10:ガイダンス:序論・いのちを自分で守る① 2 4/17:いのちを自分で守る②(小レポート①) 3 4/24:地域で活動する① 4 5/1 :地域で活動する②(小レポート②) (5/8はお休みです) 5 5/15:災害発生のしくみを学ぶ(小レポート③) 6 5/22:災害に関わる情報を知る① 7 5/29:災害に関わる情報を知る②(小レポート④) 8 6/5 :新たな減災や危機管理(小レポート⑤) 9 6/12:講義のまとめ ＊第10～15講は、午前座学、午後アクティブ・ラーニング 10 6/20(土)午前:近年の災害とその仕組み(講師:自衛官ほか) 11 6/20(土)午後:避難所運営訓練(講師:四日市東日本大震災支援の会) 12 6/21(日)午前:地域防災(講師:四日市市危機管理室職員) 13 6/21(日)午後:災害ボラセン運営(講師:四日市市社協職員) 14 6/27(土)午前:自分たちで地域を守る(講師:消防団・自主防災組織など) 15 6/27(土)午後:普通救命講習(講師:四日市市消防本部職員) ★8月22日(土)午後に防災士試験を実施する。

テキスト・教材（参考文献含む） 『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥15,000に含まれる。

担当者から一言 講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。
--

授業の位置づけ 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授 業 計 画 5月中旬 13:00～17:00 @三重大学 4 h 13:00～14:00 ガイダンス・現状把握と課題解決の考え方(担当:皇学館大 池山) 14:10～15:10 ご当地グルメを活用した町おこし(担当:小林) 15:20～17:00 グループワーク 6月中旬 13:00～17:00 @MieMu 4 h 三重県の基礎情報を学ぶ 13:00～15:30 展示見学・講義(担当:MieMu 太田学芸員) 15:40～17:00 グループワーク 7月中旬 10:00～16:10 @松阪農業公園ベルファーム 5.5 h 10:00～12:00 施設見学・体験 12:00～13:00 昼食・移動 13:00～14:00 食を通じた観光開発(担当:鈴鹿大 富本) 14:10～16:10 グループワーク 8月下旬 10:00～16:10 @松阪市内 5.5 h 10:00～12:00 観光地としての松阪 12:00～13:00 昼食 13:00～14:30 松阪市における食と観光の取組み 14:40～16:10 グループワーク 9月上旬 13:00～17:00 @三重大学 4 h 13:00～16:00 成果発表会 16:00～17:00 講評・まとめ ※ 実際の授業実施に際しては受入れ先と調整の上、変更の可能性もある。
--

テキスト・教材（参考文献含む） なし(必要に応じて資料等を配布する場合があります)。

担当者から一言 県内の複数の高等教育機関との合同の授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負荷も掛かりますし、現地学習などで費用も掛かりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。

経営学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位	授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
	吉成 亮	GLAS1001	前学期	
授業のねらい 本講義では、経営学の概要を学ぶために、毎回、時事的なテーマのもとに、われわれが身近に関わっている具体的な企業を取り上げ、「企業はいったい何をしているのか?」ということを学習します。				
到達目標 本講義を終了した後は、受講者は、企業の具体的な活動に、積極的に興味・関心を抱くようになります。さらに、企業をはじめとする組織を経営する専門知識の基礎を備え、自分で起業するプランを考えることが出来るようになれば、本講義の内容を十分把握していると言えるでしょう。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 各授業の小テスト90%、まとめテスト10%。以上の割合を基本にしながら総合的に判断します。小テストは各授業で実施し、小テストの評価は次回の授業でフィードバックします。まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとします。				
事前・事後学習 講義の前後に授業中で指示された配付資料の予習復習（それぞれ1日30分程度）を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。				

経済学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位	授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
	鬼頭 浩文	GLAS1002	後学期	
授業のねらい 企業や消費者の行動は、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングを中心に展開し、直感的・感覚的に経済を学ぶ。				
到達目標 経済学の基本的知識を参加型・双方向型講義を通して直感的に理解することが到達目標である。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 アクティブ・ラーニングにおけるパフォーマンス（20%）、テーマごとに実施する小テスト3回（30%）、学期末試験（50%）により、総合的に評価する。フィードバックは、テストの解説をして自己採点させ、要望のある学生には点数を伝える。				
事前・事後学習 この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。				

授業計画				
第1講	ガイダンス			
第2講	企業と経営			
第3講	経営学の方法			
第4講	企業・会社の概念			
第5講	所有・経営・支配と経営目的			
第6講	会社機能とコーポレートガバナンス			
第7講	日本型企业システム			
第8講	前半のまとめ			
第9講	経営戦略の体系と理論			
第10講	全社戦略			
第11講	事業戦略(1)			
第12講	事業戦略(2)			
第13講	M&Aと買収防衛策			
第14講	経営のグローバリゼーション			
第15講	まとめ			
定期試験				
本授業では、各回の授業においてディスカッション、ディベート、グループワークを行います。				
テキスト・教材（参考文献含む） 教科書は一般社団法人日本経営協会（監修）「経営学の基本1経営学の基本(経営学検定試験公式テキスト)」、中央経済社2,808円(税込)。				
担当者から一言 国内だけでなく、海外に目を向けて幅広い視野でビジネスを考えることができるようになります。				

経営学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位	授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
	鬼頭 浩文	GLAS1002	後学期	
授業のねらい 企業や消費者の行動は、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングを中心に展開し、直感的・感覚的に経済を学ぶ。				
到達目標 経済学の基本的知識を参加型・双方向型講義を通して直感的に理解することが到達目標である。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 アクティブ・ラーニングにおけるパフォーマンス（20%）、テーマごとに実施する小テスト3回（30%）、学期末試験（50%）により、総合的に評価する。フィードバックは、テストの解説をして自己採点させ、要望のある学生には点数を伝える。				
事前・事後学習 この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。				

授業計画				
①9/29	ガイダンス:経済学とは(初回経済常識テスト)			
②10/6	経済の「今」を知る①			
③10/13	経済の「今」を知る②			
④10/20	ゲーム:寡占市場の競争「参入自由」説明+練習			
⑤10/27	ゲーム:寡占市場の競争「参入自由」+「参入規制」説明+練習			
⑥11/10	ゲーム:寡占市場の競争「参入規制」⇒小テスト①			
★④～⑥	は、グループ間で競争をシミュレーションするアクティブ・ラーニングである。			
⑦11/17	「税を知る週間」(外部講師:四日市税務署)			
⑧11/24	消費者の行動①個別需要曲線の理論			
⑨12/1	消費者の行動②復習をして、練習問題を解き、コラムを簡単に説明			
⑩12/8	消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる⇒小テスト②			
⑪12/15	市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給①			
⑫12/22	市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給②			
⑬1/5	市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③⇒小テスト③			
⑭1/12	競争と独占禁止政策(外部講師:公正取引委員会)			
⑮1/19	復習と試験対策			
テキスト・教材（参考文献含む） テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。				
担当者から一言 出席して、参加して、理解すること、これらの全てが重要である。小テストによって参加意欲と理解度を判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。				

政治学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
小林慶太郎	GLAS1003	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では主に、政策の決定や政府の役割など、政治の仕組みについて、扱っていきます。 例えば選挙。いったいどのような仕組みで行われているのでしょうか。そして選挙というものは、本当に民主的な仕組みなのでしょうか。そもそも選挙はなぜ必要なのでしょう。そして政府は、どのような役割を担っているのでしょうか。 できるだけ、その時々の政治ニュースの解説なども行っていくことで、学生諸君に、日本の政治や社会の仕組みに対する関心を高めてもらうことを、この講義のねらいとしています。

到達目標
この授業では、学生諸君が、日本の政治や社会に関する基本的な用語や知識を身につけ、テレビや新聞の政治ニュースをある程度理解できるようになることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30% ・定期試験(自筆ノートのみ持込可) :70% なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習
日頃からテレビや新聞の政治ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

社会学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
三 田 泰 雅	GLAS1004	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たち一人ひとりが集まって社会を作っていますが、その社会は一方で、一人ひとりの考え方や行動を縛ってしまう働きを持っています。私たちはどのように社会を創っているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。

到達目標
社会学的なものの見方や考え方を身につける

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
<評価>小レポート30％，中間試験15％，期末試験55％ <課題>毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。 <フィードバック>小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。

事前・事後学習
新聞やニュースに目を通す(毎日20分)

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス 政治と政治学 第2講 政治と政策 第3講 政策の決定と民主主義(グループワーク) 第4講 選挙とマニフェスト 第5講 压力団体と政治的景気循環 第6講 さまざまな選挙制度① 小選挙区制 第7講 さまざまな選挙制度② 大選挙区制 第8講 さまざまな選挙制度③ 比例代表制 第9講 選挙制度改革の動き 第10講 多数決と話し合い(ディベート) 第11講 もしも政府が無かったら(グループワーク) 第12講 市民革命と夜警国家 第13講 市場の失敗と福祉国家 第14講 政府の失敗と行政改革 第15講 政治的対立を超えて 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります) 【参考文献】 浅羽通明「新書で大学の教養科目をモノにする政治学」光文社新書(2011年) 北山俊哉、久米郁男、真淵勝「はじめて出会う政治学〔第3版〕」有斐閣アルマ(2009年)

担当者から一言
遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自我を考える:私(わたし)とは何か 第4講 近代化とスポーツ 第5講 つながりとしての家族 第6講 ジェンダーから社会をみる 第7講 社会階層と格差 第8講 社会における学校と教育 第9講 まとめ① 第10講 都市の社会生活 第11講 村落の社会構造 第12講 現代社会の課題:少子高齢化 第13講 現代社会の課題:社会的排除 第14講 現代社会の課題:個人化とリスク 第15講 まとめ②

テキスト・教材（参考文献含む）
<参考文献> 倉沢進・秋元律郎・岩永雅也，2001，『新訂 社会学入門』放送大学出版協会。

担当者から一言
学生諸君の積極的な参加を期待します。

ジェンダー論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1005	後学期	選 択

授業のねらい 社会通念や慣習の中のジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていること、ジェンダーが社会構造的な課題であることについて理解を深めるため、ジェンダーの課題はどのように克服されるべきか、その展望についても示していきたいと考えています。授業は2名の教員(高田・松井)で実施します。
--

到達目標 ①ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。 ②社会の中にあるジェンダーに気づき、説明できる。 ③現代社会でなぜ男女共同参画が重要なのか、説明することができる。 ④性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎講義時の小レポート 50% 定期試験 50% 毎講義時の小レポートについては、次回の講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。

事前・事後学習 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

メディアリテラシー	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1006	前学期	選 択

授業のねらい メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力です。この説明だけでは、諸君は理解出来ないかもしれません。何故ならメディアがあまりにも溢れすぎている環境で育ってきたからです。そこで3名の教員(関根、山本、前川)で構成するこの授業では、まずは「メディアの楽しみ方」を伝授したいと思います。メディアに対する接し方をちょっと変えるだけで、新鮮な発見と感動を体験できるようになるでしょう。
--

到達目標 各自のメディア環境下で、無意識に当たり前と思っている事柄に対して、なんらかの観察意識や他のコンテンツやテーマと比較する意識を持てるようになってもらうことです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義時に何回か小レポートなどを教室で書いてもらいます。それらの評価の平均点で総合評価します。
--

事前・事後学習 各自の1日の中で、スマホでネットを見たり新聞やテレビを視聴する時間がどれくらいあるかなど、メディアと接する行動を事前に把握しておいてください(90分)。毎回の講義の後での自分のメディア行動を振り返り、考えを深めてください(90分)。

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス、ネーミング問題(高田) 第2講 〈女らしさ〉のワナ(高田) 第3講 〈男らしさ〉のワナ(高田) 第4講 メディアにおけるジェンダー表現①——アニメ・マンガ編(高田) 第5講 メディアにおけるジェンダー表現②——歌詞編(高田) 第6講 メディアにおけるジェンダー表現③——CM編(高田) 第7講 恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉(高田) 第8講 身体にまつわる男女の非対称(高田) 第9講 アンパイドワーク(不払い労働)と女性の貧困(松井) 第10講 超少子化とジェンダー(松井) 第11講 女性への暴力(松井) 第12講 ワーク・ライフ・バランス(松井) 第13講 経済発展とジェンダー(松井) 第14講 政策・方針決定とジェンダー(松井) 第15講 まとめ(松井)

テキスト・教材(参考文献含む) 毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。
--

担当者から一言 2人の教員がそれぞれの持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。
--

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス／各講義内容の説明 第2講 メディアとは(前川) 第3講 デジタルネイティブ ～幼少時からバーチャル世界に慣れ親しむ世代～(前川) 第4講 日本の音楽業界におけるマスメディアとの関わり(関根) 第5講 K-POPとJ-POPの比較による韓国と日本の文化の考察(関根) 第6講 ラジオスターの悲劇 ～なぜラジオは衰退したのか～(山本) 第7講 ラジオスターの歓び ～ラジオの魅力を考える～(山本) 第8講 特別講義(外部講師等) 第9講 メディアエコロジー ～情報環境が心身に及ぼす良い影響と悪い影響～(前川) 第10講 インターネットとマスメディア ～マスメディアの責務～(前川) 第11講 CDというメディアに潜んでいる常識と真実のギャップ(関根) 第12講 スマートフォンと音楽(関根) 第13講 ラジオスターの憂い ～ラジオの現在～(山本) 第14講 ラジオスターの未来 ～ラジオの未来はどのような?～(山本) 第15講 まとめ (内容・順序を変更することがあります)
--

テキスト・教材(参考文献含む) テキストはありません。 講義中に、適宜、各先生方が資料を配布するかもしれません。
--

担当者から一言 環境情報学部メディア情報分野を専攻する学生は、この科目を受講することが望ましい。

社会福祉概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
李 修二	GLAS1007	前学期	選 択

授業のねらい
社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。

到達目標
社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎授業毎のミニツペーパーで50％評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の筆記試験で50％評価します。（ミニツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明します。）

事前・事後学習
毎回の授業の後、すみやかにミニツペーパー（小レポート）を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず前回の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習・予習、計60分以上）さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（30分以上）

日本国憲法／憲法	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
中西紀夫	GLAS1008	後学期	選 択

授業のねらい
憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っています。

到達目標
大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30％ ： 授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70％ ： 試験は論述形式で、持込可は自筆ノート（コピー不可）です。 なお、授業中に実施した小テストについては、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習
毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画
1. ガイダンス 2. 社会福祉の理念 3. 社会福祉と社会保障 4. 海外の社会福祉の歴史 1 イギリス 1 5. 海外の社会福祉の歴史 2 イギリス 2（＋映画教材前半） 6. 海外の社会福祉の歴史 3 イギリス 3（＋映画教材後半） 7. 海外の社会福祉の歴史 4 イギリス 4 8. 海外の社会福祉の歴史 5 アメリカ他 9. 日本の社会福祉の歴史 10. 社会福祉の法体系と制度 11. 社会福祉の行財政 12. 高齢化社会の到来 13. 子育て支援 14. ノーマライゼーション 15. 国際化と多様性支援 16. 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。 参考文献： 広井良典『持続可能な福祉社会』ちくま新書 武川正吾『福祉社会』有斐閣

担当者から一言
社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス 第2講 憲法の機能 第3講 天皇と国民の関係 第4講 国民の三大義務 第5講 基本的人権とその種類 第6講 環境権(判例的考察) 第7講 憲法上の権利と義務 第8講 法の下での平等 第9講 絶対平和主義 第10講 国家機密と国民の知る権利 第11講 平等な投票にするための権利義務 第12講 行政救済 第13講 国際私法 第14講 憲法改正問題 第15講 まとめ 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
本年度は下記の著書を印刷して配布します。なお、修正や補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献 ： 中西紀夫著 『社会環境と法』 嵯峨野書院(2010年11月30日)

担当者から一言
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

法学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
中西紀夫	GLAS1009	前学期	選 択

授業のねらい

法学の発達史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法(憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法)の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。

到達目標

社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思えますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度 30% ： 授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。
定期試験 70% ： 試験は論述形式で、持込可は自筆ノート(コピー不可)です。
なお、授業中に実施した小テストについては、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくともよいでしょう。

民法入門	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
小林聖仁	GLAS1010	前学期	選 択

授業のねらい

法の分類には様々な分類方法があるが、民法とよばれる法分野に属する法は、その分量だけでも非常に多い。しかし、今後において他の法律を学んで行くにあたっては、契約・代理・不法行為・相続などの概念の理解が他の法分野の学習の理解に必須であるといえる。もっとも民法は120年ぶりの大改正を迎えた。そこで、1年次に、民法の基礎をしっかりと学んでいただき、そこから法分野を学ぶ基礎とすることを目指す。

到達目標

民法条文の主要部分につき基本的な定義(用語の意味)を正確に理解するとともに、就職するのであれば上司に、経営を志すのであれば専門職に対して、法的問題点の状況を適切に報告できることを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小テスト65%、定期試験35%
講義の後には随時で小テストを予定している。解答及び解説は次の講義の冒頭にプリントで配布するので、誤答した問題についてはテキストの記述との関連を確認しておくこと。

事前・事後学習

講義を受ける前に予定されているテーマにつき、テキストを読んでおくこと(60分)。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第1講 ガイダンス
第2講 六法の意味、社会規範
第3講 実定法と自然法、法源
第4講 制定法の体系、法の形式による分類
第5講 法の種別(国内法)、国内法と国際法
第6講 公法と私法、裁判による権利の実現
第7講 法の適用、法解釈における問題点
第8講 権利と義務、権利義務の主体と客体
第9講 罪刑法定主義
第10講 法と裁判(裁判の仕組み)
第11講 民事裁判、刑事裁判、行政裁判
第12講 司法権の独立と公開主義
第13講 自由心証主義、今日までの裁判の課題
第14講 裁判員制度とその課題
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

本年度は下記の著書をを印刷して配布します。なお、修正や補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。
参考文献 ： 中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年11月30日)

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第1講 ガイダンス、講義の概要(はじめに)
第2講 権利の主体
第3講 権利の客体
第4講 契約の成立と有効性
第5講 代理
第6講 契約の効力発生時期と時効
第7講 物権
第8講 債権総論
第9講 契約総論
第10講 債権債務の移転と消滅
第11講 契約各論
第12講 契約に基づかない債権
第13講 債権の履行確保
第14講 親族
第15講 相続
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト 尾崎 哲夫「はじめての民法(第4版)」自由国民社(2019年) 定価:1,980円(税込)
教材 条文については鎌田薫 編「デイリー六法2020」(三省堂)を参照する。
そのほか適宜プリントを配布する。

担当者から一言

私語は厳禁。テキスト・教材・筆記具等を持参し、授業を受ける体制で参加すること。テレビ・新聞紙上で紹介される法的問題にも注意し、事前知識を得ておくとなおよい。

倫理学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
フェリペ・フェハーリ	GLAH1001	前学期	選 択

授業のねらい ギリシャ語では、「倫理学」は「エートスに関する諸々の事柄」という意味をもつが、「エートス」とは何であるのか。この語は「いつもの場所」、「慣れた行動の仕方」や「性格」などと様々な異なる意味をもっている。本講義の目的は、「エートス」とは何であるのかを考えながら、この言葉から派生した「倫理学(ethica)」の意味を探すことである。
--

到達目標 倫理学の立場から、現代社会の問題を議論すること。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 受講態度:30％ ミニレポート:20％ 最終レポート:50％
--

事前・事後学習 毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約60分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。
--

哲学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
フェリペ・フェハーリ	GLAH1002	後学期	選 択

授業のねらい 哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学 (philosophia) の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。

到達目標 現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 受講態度:30％ ミニレポート:20％ 最終レポート:50％
--

事前・事後学習 毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約60分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。
--

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス・「倫理」とは何か 第2講 道徳と倫理 第3講 徳倫理と幸福論 第4講 中世における倫理 第5講 近代における倫理 第6講 宗教と自己犠牲 第7講 応用倫理学 第8講 環境倫理 第9講 生命倫理と動物の権利 第10講 人権 第11講 人工知能とロボット工学三原則 第12講 ジェンダー 第13講 マイノリティーの権利 第14講 現代における倫理的行為 第15講 まとめ
--

テキスト・教材（参考文献含む） 毎回、教員が資料を配布する。

担当者から一言 真剣に倫理学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず倫理的に生活していると思いますか？ 善と悪、正と邪などは、時代、地域、宗教や文化などの要因によって変化しますが、「絶対的な倫理」と言うものはありますか？ 上述のような問題を考えながら、一緒に「エートス」の意味、倫理学の意味を探しましょう。
--

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か 第2講 哲学の三つの伝統 第3講 古代ギリシャにおける哲学 第4講 中世哲学（1） 第5講 中世哲学（2） 第6講 近代哲学（1） 第7講 近代哲学（2） 第8講 現代哲学（1） 第9講 現代哲学（2） 第10講 自然哲学 第11講 論理学 第12講 倫理学 第13講 美学 第14講 認識論 第15講 まとめ

テキスト・教材（参考文献含む） 毎回、教員が資料を配布する。

担当者から一言 本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。

文学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1003	前学期	選 択

永井 博

授業のねらい

日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。

到達目標

ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度40%、定期試験40%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習

予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。(90分)
復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所の正しい書き方を自分で振り返っておくこと。(90分)
また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみる。

文章表現論(留学生クラス)	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1004	前学期 後学期	選 択

永井 博

授業のねらい

日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。

到達目標

ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度40%、定期試験40%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習

予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。(90分)
復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所の正しい書き方を自分で振り返っておくこと。(90分)
また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみる。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第1回 ガイダンス
第2回 原稿用紙の使い方①
第3回 原稿用紙の使い方②(実習)
第4回 推敲のしかた①
第5回 推敲のしかた②(実習)
第6回 テーマの決め方
第7回 資料の探し方①
第8回 資料の探し方②(実習)
第9回 論理的文章の書き方①
第10回 論理的文章の書き方②(実習)
第11回 文章作成の実際①(実習)
第12回 文章作成の実際②(実習)
第13回 文章作成の実際③(実習)
第14回 文章作成の実際④(実習)
第15回 文章作成の実際⑤(実習)

テキスト・教材 (参考文献含む)

プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言

ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、何回か提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画

第1回 ガイダンス
第2回 原稿用紙の使い方①
第3回 原稿用紙の使い方②(実習)
第4回 推敲のしかた①
第5回 推敲のしかた②(実習)
第6回 テーマの決め方
第7回 資料の探し方①
第8回 資料の探し方②(実習)
第9回 論理的文章の書き方①
第10回 論理的文章の書き方②(実習)
第11回 文章作成の実際①(実習)
第12回 文章作成の実際②(実習)
第13回 文章作成の実際③(実習)
第14回 文章作成の実際④(実習)
第15回 文章作成の実際⑤(実習)

テキスト・教材 (参考文献含む)

プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言

ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、何回か提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。

文章表現論(留学生以外のクラス) 杉谷克芳	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1004	前学期 後学期	選 択

授業のねらい

日本語の正しい文章表現力を身につけることは、大学生のみならず、社会人にとっても欠かすことのできない必須項目の一つです。そして、それは、自分自身の大きな財産になります。

日本語という言葉の特徴を客観的に捉え直し、日本語の文章表現力に更なる磨きをかけることを、この授業のねらいとします。

なお、この授業は留学生以外の者を対象とし、添削指導の都合上人
数制限をすることがあります。

到達目標

この授業では、大学生に相応しいレベルで自分の考えを論理的に組み立て、それを正しく文章化することができるようになることを、到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度40%、定期試験40%、提出物20%を目安に総合的に判断する。
提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習

予習としてテキスト読み次回の学習内容を理解しておくこと(90分)。
また、授業後には復習として学習した内容をしっかり確認しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第1講: ガイダンス
第2講: 言葉と表現を知ろう、その1 (同音異義語、同訓異義語)
第3講: “ ” その2 (同音異義語、同訓異義語)
第4講: “ ” その3 (四字熟語)
第5講: “ ” その4 (慣用表現、ことわざ、故事成語)
第6講: “ ” その5 (助詞)
第7講: 日本語の作文技術 その1
第8講: “ ” その2
第9講: 敬語・敬意表現を使おう、その1 (敬語の種類、用法1)
第10講: “ ” その2 (敬語の用法2、敬意表現)
第11講: 書いてみよう、その1 (文の要約)
第12講: “ ” その2 (論文文)
第13講: “ ” その3 (手紙文、案内文)
第14講: 分析と考察をしよう、その1 (レポート、論文の書き方)
第15講: まとめ
定期試験
* 授業内容と進度は、場合によって変更することがあります。

テキスト・教材（参考文献含む）

- ①米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート(改訂版)』(風間書房、1,000円+税)
②本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)660円
そのほか適宜プリント教材も配付します。

担当者から一言

日本語の表現能力を向上させるための授業です。日本語の表現力を向上させるためには、普段から日本語文を読むこと、考えを文章化すること、さらに、様々な分野の語彙と多様な表現を増やす努力が不可欠です。私語、中座、携帯の使用は原則禁止とします。授業内での意欲的な取り組みを期待しています。

文化論／文化論 b 前川 督雄	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1005	後学期	選 択

授業のねらい

この講義の主題は、人間と文化です。

文化をも言語を使う動物はたくさんいます。しかし、祝祭や葬礼を行う生き物は人類だけです。音楽は祝祭と密接に結びつき、古来、祝祭のなかで大切な役割を果たしてきました。世界各地の音楽には、民族の太古からの智慧がつまっています。また音楽は娯楽やコミュニケーションの重要な鍵となります。

「文化論(文化論b)」では、音楽と祭りを主な切り口にして文化人類学・民族藝術学の基礎を学びます。

到達目標

人類史の中で自分の立つ位置、現代の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。

受講態度、学習意欲、小レポート等	(40%)
定期試験	(60%)

小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習

毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り(90分)、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。

環境情報学部学生は、前後して「生命－情報－環境」（前期開講）とあわせて履修することで、より重層的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第1講	ガイダンス／人間と動物の違い
第2講	人類はいつどこで生まれたのか
第3講	人類はどのように世界にひろがったのか
第4講	文化をつくる脳の働き
第5講	民族と文化(1) アフリカ
第6講	文化の発展・伝播
第7講	民族と文化(2) ペルシャ
第8講	民族と文化(3) シルクロード
第9講	民族と文化(4) 日本
第10講	文明の生態史観
第11講	文化の衝突
第12講	文化相対主義
第13講	多文化共生と世界遺産
第14講	神と祭り 一神教と多神教
第15講	まとめ
定期試験	
(内容・順序を必要に応じて変更することがあります)	

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはありません。
必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。

担当者から一言

人文系列の枠組みを超えた学際的・総合的な講義内容になります。
この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視
します。

日本史概論／歴史学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
岡 佑哉	GLAH1007	前学期	選 択

授業のねらい

現代の国際秩序・国家体制・社会状況・価値観などは、すべて歴史的な背景のもとに形成されているが、歴史というと単なる「暗記科目」という印象を持つ人も多いと思われる。
しかし、歴史学という学問は、常識にとらわれず通説を疑い、史料という根拠に基づき歴史上の人物・出来事・時代の捉え方を考察するものである。
本講義は、日本史（特に近現代史）を中心に教養としての知識のみならず、歴史学という学問の意義を学習する。その際、教科書的な通説とあわせ近年の研究を紹介し、歴史には多様な捉え方が存在することを学ぶ。

到達目標

①教養としての歴史（本講義は日本史中心）の知識を身につける。②知識を活用し論理立てて記述をする力を身につける。③物事を複眼的・客観的に捉える力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

①筆記試験、②出席が前提で、毎回提出のコメントペーパーなどの授業態度等の平常評価で行う。コメントペーパーは次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

事前・事後学習

①本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。②歴史は現代の世界・日本の出来事と繋がっている。大学生として新聞を読むこと。（90分）

世界史概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
李 修二	GLAH1008	後学期	選 択

授業のねらい

近代19世紀以降の世界史は、私たちの現代社会に直接連なる歴史です。今日の政治制度、社会制度、経済体制などの重要で基本的な物事は、ほとんどこの19世紀以降の歴史の中で形成されてきました。そこで、この講義のねらいは、19世紀における幾つかの主要な国々の歴史を、主として経済の動きを中心に比較検討しながら順次学んでいくことです。さらに20世紀に入って、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる時期における世界史の動向を概観し、20世紀前半の世界史と世界経済の流れを大づかみに理解することです。

到達目標

講義での到達目標は、①欧米を中心とした主要な国々の歴史を経済の動きを中心に比較しながら学ぶことによって、それらの国々の今日の社会・経済的な特徴の歴史的由来を理解すること、②20世紀に入ってからますます緊密になっていく世界各国の歴史を十分に理解することの2つです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業毎のミニツペーパーで50％評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の筆記試験で50％評価します。（ミニツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明。筆記試験時の持ち込みは不可。試験終了後、希望者には解答を公表します。）

事前・事後学習

毎回の授業後、ミニツペーパー（小レポート）を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習・予習、計60分以上）
さらに、参考文献など授業内容に関連した歴史書を図書館などで毎週読書するようにしてください。（30分以上）

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	日本文化のはじまりー縄文・弥生・古墳時代ー
第3回	律令国家から王朝国家へー飛鳥・奈良・平安時代ー
第4回	武家政権の成立と展開ー鎌倉・室町・戦国時代ー
第5回	江戸幕府の支配体制ー江戸時代ー
第6回	討幕運動と明治新政府の成立ー幕末・維新期ー
第7回	国会開設運動と憲法制定ー明治時代中期ー
第8回	日清戦争と日露戦争ー明治時代後期ー
第9回	大正デモクラシーー大正時代ー
第10回	満洲事変と「国家改造」運動ー昭和戦前期ー
第11回	日中戦争から日米開戦へー昭和戦時期（1）ー
第12回	アジア・太平洋戦争ー昭和戦時期（2）ー
第13回	戦後日本と象徴天皇制ー昭和戦後期ー
第14回	平成日本の政治と社会ー現代ー
第15回	講義の総括

定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。毎回プリントを配布する。

担当者から一言

①遅刻厳禁。入室は認めない。プリントも配布しない。
②私語厳禁。
③スマホ・音楽プレーヤー・イヤホンはしまうこと。
④バイトなどと称した無断早退、トイレなどと称した無断退出厳禁。
⑤コメントペーパーの代筆厳禁。発見した段階で受講を認めない。不備（プリント・ウィキペディア・友人の丸写し）も平常点なし。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画

第1講	ガイダンス 世界史概論の視角と課題
第2講	19世紀の世界の中心 ～イギリス（その1）
第3講	19世紀の世界の中心 ～イギリス（その2）
第4講	19世紀ヨーロッパの主要国1 ～フランス
第5講	19世紀ヨーロッパの主要国2 ～ドイツ
第6講	19世紀北アメリカの主要国 ～アメリカ
第7講	19世紀ユーラシアの主要国 ～ロシア
第8講	19世紀東アジアの新興国 ～日本
第9講	19世紀東アジアの王朝 ～中国
第10講	19世紀世界の典型的な従属地域 ～アイルランドとインド
第11講	19世紀世界史概論のまとめと20世紀世界史への展望
第12講	第一次世界大戦後1920年代の国際関係
第13講	1929年世界大恐慌
第14講	両大戦間期1930年代の混迷
第15講	第二次世界大戦期の戦後世界秩序の再建構想

定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。
参考文献：
W・H・マクニール『世界史（下）』（中公文庫）
堺 憲一『あなたが歴史と出会うとき』（名古屋大学出版会）

担当者から一言

暗記に偏りがちな高校までの歴史学習とは違い、歴史の因果関係を理解することに歴史を学ぶ醍醐味があります。理解すること、意味を探ることの面白さを味わってください。それと共に、身に付いた世界史の教養そのものが、ちょっとした、人生の自信にもなるはずです。

地理学概論		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位	授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
磯野 巧		GLAH1009	後学期	選 択	

授業のねらい 地理学的な視点から、地球環境と人間活動との相互関係について解説する。その中で、地域を分析する方法(地図の読み方、図・表・写真の解釈など)を習得し、地域という観点から人間をとりまく多様な「環境」について考えることができるようになる。
到達目標 地理学に関する基礎知識およびその運用能力を身につけ、地球環境と人間活動の相互関係を説明できる「地理学的なモノの見方」を習得すること。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 試験100％（論述形式）
事前・事後学習 予習の必要はありません。授業内容の復習を重視して下さい（必要に応じて、毎授業の最後に発展的な学習に必要な参考文献やURLを提示します）

授業の位置づけ				
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授 業 計 画				
1. ガイダンス ―地理学とは― 2. 日本の国土・自然・生活① 3. 日本の国土・自然・生活② 4. 人口移動①(少子高齢化問題など) 5. 人口移動②(在留外国人, 移民問題など) 6. 産業と地域① 7. 産業と地域② 8. 農村地域の動態①(ツーリズム) 9. 農村地域の動態②(地域創生など) 10. 都市地域の動態①(都市とは／歴史的町並み) 11. 都市地域の動態②(コンテンツ, 聖地巡礼, 都市とツーリズム) 12. 観光地域の動態①(インバウンド・ツーリズムの基礎) 13. 観光地域の動態②(ナイトタイムエコノミー, 夜のツーリズム) 14. 観光地域の動態③(MICEと地域) 15. 観光地域の動態④(スポーツ・ツーリズム) 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む） 特になし。毎回プリント教材を配布します。地図帳を毎時持参して下さい。				
担当者から一言 地理学は我々の日常生活と密接にかかわり合う学問です。地理学の基礎を学び、身近な地域の性格や課題について考えてみましょう。				

地誌		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位	授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
磯野 巧		GLAH1010	後学期	選 択	

授業のねらい 多様な地域の関係性や空間的スケールに着目しつつ、日本および世界の地域的特性および地域構造について説明する。その中で、地域概念について理解し、空間的スケールの相違に着目しながら日本および世界の地域的多様性とその諸相に関する知見を深めていく。
到達目標 ある特定の地域の特性や構造を、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できるようになる。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 試験100％（論述形式）
事前・事後学習 予習の必要はありません。授業内容の復習を重視して下さい（必要に応じて、毎授業の最後に発展的な学習に必要な参考文献やURLを提示します）

授業の位置づけ				
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授 業 計 画				
1. ガイダンス ―地誌学とは― 2. 関東地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 郊外化など) 3. 関東地方の地誌②(観光, 開発, 在留外国人, 人口動態など) 4. 近畿地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 郊外化など) 5. 近畿地方の地誌②(伝統文化, 観光, 人口動態, 都市圏など) 6. 中部地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 歴史, 郊外化など) 7. 中部地方の地誌②(観光, 交通, スポーツ, 山村集落など) 8. 三重県の地誌①(地域区分, 人口動態, 歴史, 工業, 環境など) 9. 三重県の地誌②(観光, 都市圏, 5地域の性格など) 10. 徳島県の地誌①(四国の概観, 人口問題, 交通など) 11. 徳島県の地誌②(徳島県の構造, 観光, 地域創生, ICTなど) 12. オーストラリア地誌① (自然環境, 歴史, 都市構造, 歴史, 移民など) 13. オーストラリア地誌②(ウルル・カタジュタ国立公園の観光と文化) 14. オーストラリア地誌③(地方都市, 貿易, 資源開発など) 15. オーストラリア地誌④ (マイノリティ, インナーシティ問題, 多文化共生など) 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む） 特になし。毎回プリント教材を配布します。地図帳を毎時持参して下さい。				
担当者から一言 地誌学は地域の性格を相対的に理解するおらかな学問です。日本だけでなく世界各地の性格や構造、そして地域間の関係性を解明し、世界観を広げていきましょう。				

科学的思考論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉山青翔 GLAN1001	後学期	選 択

授業のねらい 今日、国際社会で、日本が果たす役割が大きくなりつつあり、そして、近年、数多くの日本人科学者がノーベル賞を受賞しているに伴い、日本の科学、技術、さらに日本人の科学的な独創力と科学的思考方式はますます注目されています。 本講義は、江戸時代における日本人の数学の思考様式と特徴、その形成と社会的創造風土の関係、さらに近代日本社会とのつながりを中心として日本人の科学的思考様式をさぐります。
--

到達目標 日本人の科学的思考様式および科学上の発見と発明の特徴を歴史的に把握し、日本の科学技術に関する諸社会的問題に関する理解に思想的な基礎を据えることができるでしょう。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 中間テスト(30点)と期末テスト(70点)により総合評価。

事前・事後学習 授業前に90分ほどをかけて指定された資料とテキストを予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて、配布された資料、自分が取ったノート、テキストを使って復習してください。
--

科学思想史	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉山青翔 GLAN1002	前学期	選 択

授業のねらい 本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学の誕生過程と発展の特徴、科学的な宇宙観、および社会や宗教等との関係を探り、科学の本当の姿に迫ります。
--

到達目標 自然科学の全体的な姿を歴史的に把握すること、また、科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 中間テスト(30点)・期末定期試験(70点)により総合評価。
--

事前・事後学習 授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を読み、予習しておき、授業後にも1時間半ほどをかけて配布された資料と自分のとったノートを使って、授業の内容を復習してください。

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 科学、技術、そして社会との基本的な関係 第3講 日本における伝統科学と近代科学の構図 第4講 日本の伝統天文学と医学、及びその基礎～中国の伝統天文学と医学 第5講 日本で伝統科学と朝鮮の伝統科学との関連性 第6講 日本数学の基礎1：中国の数学記号体系 第7講 日本数学の基礎2：中国の代数学思想 第8講 日本数学の基礎3：中国の方程式思想 第9講 日本数学の伝統：遺題継承と算額奉掲 第10講 日本の伝統的な数学記号体系：傍書法 第11講 日本の伝統的な導関数：窮商 第12講 日本の伝統的な極限法：増約術 第13講 日本の伝統的な積分法：円理 第14講 日本伝統科学の衰退と近代西洋科学の受容 第15講 総括
--

テキスト・教材（参考文献含む） テキスト 王青翔（＝吉山青翔）著『算本を超えた男～もう一つの近代数学と関孝和』（東洋書店、2004年第2刷発行） 参考文献 数内 清著『中国の数学』（岩波文庫） 小倉金之助著『日本の数学』（岩波文庫）

担当者から一言 1）本講義は一般教養科目ですので、公務員試験など資格試験には直接役に立ちません。2）授業中、パワーポイントなど電子機器を使わず、板書がやや多いので、ノートを取らない者は本講義には不向きです。
--

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 古代オリエント科学の概観 第3講 古代ギリシア科学の概観 第4講 アリストテレスの自然学 第5講 中世の科学と近代大学の誕生 第6講 近代科学の開始：コペルニクスの地動説の成立 第7講 地動説をめぐる科学と宗教の闘争：ガリレオ裁判 第8講 万有引力法則の発見と近代力学の成立 第9講 理髪師から近代解剖学へ 第10講 血液循環説の確立と近代医学の成立 第11講 酸素の発見と近代化学の成立 第12講 進化論の確立と近代生物学の成立 第13講 蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生 第14講 女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生 第15講 総括
--

テキスト・教材（参考文献含む） テキスト とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。
--

担当者から一言 1）本講義は一般教養科目ですので、公務員試験などの資格試験に直接役に立ちません。2）授業中、必要時に資料を配布しますが、パワーポイントなど電子機器を基本的に使わず、板書の量が多くて、ノートを取らない者は本講義に不向きであります。

自然科学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
田中伊知郎	GLAN1003	後学期	選 択

授業のねらい 個人を扱うのが文学で、ムラの人々のような集団を議論するのが社会学や文化人類学ですが、さらに大きな集合的な見方をするのが自然科学です。それは人間だけでなく、物質やその関係などの自然現象全体に広がります。そして、経済活動でも同じ動きが見られます。それらはどのように変化するかを説明します。
--

到達目標 文学のように個人を扱うのではなく、集団としての見方を獲得します。さらに、たし算や掛け算などと違う自然の変化の仕方を見通す能力を身につけます。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義内各単元の終わりに練習問題（実習：実践課題）をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題40％ 定期試験 60％
--

事前・事後学習 授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。
--

数学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
小川 東	GLAN1004	前学期	選 択

授業のねらい マルコフ連鎖の考え方は金融から遺伝学までのいろいろな場面で応用されています。ここでその入門として例題を中心に基礎的な概念を理解することを目標にします。またそのときに必要となる確率、行列の演算も学びます。

到達目標 (1)確率が使われる場面を知ること (2)行列の簡単な演算が出来るようになること (3)マルコフ連鎖について理解すること
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 期末試験により評価します。宿題を出した場合はその結果もプラスします。 3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。

事前・事後学習 講義内容のノートを見返して、不明な点をなどは参考文献で調べたりしてください(90分)。毎回、次回のキーワードを予告するので、下調べをしてください(90分)。

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス:自然観察の有益性 第2講 自然現象と人間の思いの違い 第3講 事実 第4講 仲間(人間社会)から自然へ 第5講 個別でなく集団で考える:集合(分類からの実習) 第6講 自然数から連続量へ 第7講 指数の導入:細菌の増殖 第8講 桁数と指数(計算実習) 第9講 日常の指数:複利と物価(計算実習) 第10講 借金と情報の非対称性(ローン計算実習) 第11講 客観的な関係である関数:一次関数と予測可能性の実習 第12講 指数関数:立ち上がりの早さ(グラフ作成実習) 第13講 プラトーの概念(グラフ作成自習) 第14講 繰り返すもの(周期) 第15講 関数の予測:差分から微分へ 定期試験 持ち込み不可
テキスト・教材（参考文献含む） なし
担当者から一言 できるだけ日常的な言葉で説明します。実践課題の結果、理解の浅いところは、講義を修正して再度行い、より深い理解に努力します。

テキスト・教材（参考文献含む） なし

担当者から一言 できるだけ日常的な言葉で説明します。実践課題の結果、理解の浅いところは、講義を修正して再度行い、より深い理解に努力します。
--

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 確率(1)条件付き確率 第3講 確率(2)確率ツリー 第4講 行列の演算(1)加減乗除 第5講 行列の演算(2)逆行列 第6講 マルコフ連鎖 第7講 遷移行列のべき乗 第8講 例題 第9講 正則マルコフ連鎖 第10講 例題 第11講 吸収マルコフ連鎖 第12講 例題 第13講 極限行列 第14講 例題 第15講 まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献含む） テキスト：ありません。 参考文献：バーネット他・柳沼壽訳『初歩からの数学III 確率とマルコフ連鎖』（丸善出版、2015年）、2,600円。
担当者から一言 今年は簡単なマルコフ連鎖について話をします。確率、行列の計算など必要な事柄も話しますので、特に予備知識はいりません。いろいろな例題を楽しんでもらえたらと思っています。

化学概論／化学 1	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
牧田 直子	GLAN1005	前学期	選 択

授業のねらい

化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの講義のねらいである。自然界は様々な物質によって成り立っており、それらの正体は何なのか、その物質に関する自然の法則を探究していくのが化学である。物質を作る原子や変化のしくみを学び、様々な角度から物質を眺めることによって、物質の本質に迫る手段を増やすことができる。これらは電子の配置や挙動を追うことで説明できるので、電子については詳しく解説する。

関連科目は「環境化学」、「環境化学実験」など。

到達目標

「元素の周期表からの確かな情報を引き出す」

物質の構成要素がわかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。周期表を使いこなせるようになろう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

宿題プリント(13回分):25%、試験:75%

宿題は翌週の講義開始10分以内に提出。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。宿題の評価は正解率ではなく、解答率(問題数に対する解答数)に準ずる。

宿題プリントと授業内に行った演習プリントは、採点して返却する。

事前・事後学習

- (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する(90分)。
- (2) 教科書を読む(60分)。各回の講義に該当する教科書のページ数を明記した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載。
- (3) ノートの見直し、まとめ(30分)。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | 物質とは何か |
| 第3講 | 身の回りの物質 |
| 第4講 | 物質の性質 |
| 第5講 | 物質の状態 |
| 第6講 | 原子と電子軌道 |
| 第7講 | 電子配置と周期表 |
| 第8講 | 化学結合1 |
| 第9講 | 化学結合2、物質質量 |
| 第10講 | 気体と溶液の性質 |
| 第11講 | 化学反応 |
| 第12講 | 酸と塩基 |
| 第13講 | 酸化と還元 |
| 第14講 | 光 |
| 第15講 | まとめ |
- 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

教科書:

日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編『『化学』入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ』化学同人(2007)、2,160円(税込)

担当者から一言

試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。ノートを用意して下さい(ルーズリーフは不可)。
講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。

地学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
森 康 則	GLAN1006	前学期	選 択

授業のねらい

環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など実際の地学的事象を通じて学びます。

到達目標

地球の成り立ちやその構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

- (1) 各回の講義時に回答シートを提出する
5点×15回=75点
遅刻・早退・私語等は減点対象とする
- (2) 定期試験 25点
計100点

事前・事後学習

講義は主に板書により進めていきます。各回の回答シートや定期試験の内容は、板書内容、あるいはそれに関連する内容を出題しますので、ノートをもとにした復習が重要です。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|------------------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | 地球の構造と形状 |
| 第3講 | 三重県の地学 |
| 第4講 | 火成岩ー火山岩と深成岩ー |
| 第5講 | 堆積作用と堆積岩 |
| 第6講 | 化石と地質年代1ー先カンブリア代から古生代ー |
| 第7講 | 化石と地質年代2ー中生代から新生代ー |
| 第8講 | プレートテクトニクス |
| 第9講 | 火山 |
| 第10講 | 地震 |
| 第11講 | 自然災害 |
| 第12講 | 地下水 |
| 第13講 | 大気と海洋 |
| 第14講 | 宇宙の中の地球 |
| 第15講 | まとめ |
- 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

特になし

担当者から一言

高等学校で地学を履修していない学生がほとんどかと思うので、高校地学を履修していないことを前提として講義を進めます。

生物学概論／生物学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
田 中 伊 知 郎	GLAN1007	前学期	選 択

授業のねらい 自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。
--

到達目標 人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義の各単元の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60% 定期試験 40%

事前・事後学習 授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。
--

生物と進化	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
田 中 伊 知 郎	GLAN1008	後学期	選 択

授業のねらい 自然科学のうち生物学が扱う分野の視点をはっきりさせて行きます。まず、生物が、お互いに地球上でどのようなかわり合いを持って生きているのか明らかにしていきます(生態系)。次に、百万年単位の長い時間で見ると、生き物の生き方(姿かたちや行動パターン)は変わっていきます(進化)。特に、人類がどのように変化してきたのか明らかにしていきます。

到達目標 環境問題を考える上で、土台となる知識(生物のエネルギー生産・生態系)を養うこと、人間の生物としての特徴を進化の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義の各単元の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%

事前・事後学習 授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点や化石や遺跡などの画像を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 生物のエネルギー:代謝 第3講 光合成:エネルギーの生産 第4講 呼吸:エネルギーの活用 第5講 生体物質:反応できる窒素 第6講 タンパク質:安定した生体物質 第7講 RNA:即時処理のための核酸(形を理解する実習) 第8講 遺伝的情報:安定した核酸であるDNA 第9講 遺伝子:DNA内の情報システム 第10講 遺伝子発現の情報処理 第11講 生物の環境応答:刺激の受容 第12講 生理的情報:刺激伝達と神経システム 第13講 生理的情報の統合:興奮と抑制 第14講 環境への反応:効果器の代表としての筋肉 第15講 行動:統合された反応 定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材（参考文献含む） なし

担当者から一言 生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。
--

授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス・自然環境と人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 生態系:動物と植物の関係 第3講 生態系:草食動物と肉食動物 第4講 生態系:肉食動物と食物連鎖(海中) 第5講 生態系:疎水性物質の生物濃縮 第6講 生態系:環境との相互作用・日本の植生の特徴 第7講 生態系:採集狩猟社会と環境変化 第8講 生態系:農業の特徴 第9講 進化の定義 第10講 進化:化石から見た人類進化・骨の意味するもの(人類の特徴の作図実習) 第11講 進化:化石から見た人類進化・祖先の運動パターン(腕渡りの作図実習) 第12講 進化:直立二足歩行の起源(腕渡りとの関係の作図実習) 第13講 進化:分岐年代 第14講 進化:核における情報管理 第15講 進化:ダイナミックな変化の示唆 定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材（参考文献含む） なし

担当者から一言 生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。
--

環境論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
吉 山 青 翔	GLAN1009	後学期	選 択

授業のねらい

この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史」の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。

到達目標

環境問題の全体像を把握し、自分の環境観の形成を期待することができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

中間テスト(30点)・期末定期試験(70点)により総合評価。毎回授業が終わる前に、授業の内容と質問に関するミニレポートを提出してもらい、次回授業でそれに基づいて再確認とコメントする。

事前・事後学習

授業前に次回の授業内容を確認し、それに関する指定、あるいは配布された資料を使って1時間半ほどをかけて予習しておき、授業後に自分の取ったノートと配布された資料を使って1時間半ほどをかけて復習してください。

心理学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
田 中 伊 知 郎	GLAN1010	後学期	選 択

授業のねらい

情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえらる情報伝達」とはどういうものかを進化の視点から明らかにすることを講義のねらいとします。

到達目標

生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは稀です。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義中の実践課題 30% レポート 40% 定期試験 30%
講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。

事前・事後学習

授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講 ガイダンス:環境論の仕組み及び課題
第2講 「自然」の定義と仕組み
第3講 「環境」の定義と仕組み
第4講 「文化」の定義と仕組み
第5講 「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性
第6講 環境に関する人類の認識1:ヒボクラテスによる医学上の見解
第7講 環境に関する人類の認識2:C. ダーウィンによる生物学上の見解
第8講 中間テスト
第9講 環境に関する人類の認識3:C. ベルナールによる生理学上の見解
第10講 環境に関する人類の認識4:C. ラツェルによる地理学上の見解
第11講 科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見
第12講 蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生
第13講 環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告
第14講 国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化
第15講 総括:環境問題の解決に対する思想的基礎:環境倫理学

テキスト・教材(参考文献含む)

とくになし。随時に授業内容に関する予習などの資料を指定、配布します。

担当者から一言

この講義は板書がやや多いので、ノートを取る手が苦手な者には不向きです。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講 ガイダンス:視覚情報:色彩 色の対処理
第2講 視覚情報:色彩 赤と青を同時に使わない(実習)
第3講 視覚情報:色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用
第4講 資格情報:色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習)
第5講 視覚情報:形 両眼視
第6講 視覚情報:形 アフォーダンス
第7講 視覚情報:アフォーダンス 実習1 ポケの効果
第8講 視覚情報:アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習)
第9講 実験心理学からみた学習
第10講 個別学習と社会学習の違い
第11講 社会学習における課題
第12講 心の理論:人類における「教えること」の成立(レポート課題の配布)
第13講 心の理論:理解できるコミュニケーションの基礎となる同情
第14講 実験心理学の技法・統計:因子分析を例にして
第15講 レポート返却(コメント付き)・講評
定期試験 各自のコメントに関連した問題

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

担当者から一言

教育は一方方向の情報発信でなく、双方方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。

キャリア基礎Ⅰ 岩崎祐・岡良・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		GECC1001	後学期	必 修
授業のねらい この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。				
到達目標 以下の3つが目標です。 ① 働く意義について考える。 ② 就業環境について理解する。 ③ 採用試験の基礎知識を習得する。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50% 課題は適宜コメントをして返却します。				
事前・事後学習 予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。				

キャリア基礎Ⅰ(公務員クラス) 高田晴美・中西紀夫		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		GECC1001	後学期	必 修
授業のねらい この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。 「キャリア基礎Ⅰ」では、公務員だけでなく一般企業も含めた就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。				
到達目標 以下の3つが目標です。 ① 働く意義について考える。 ② 就業環境について理解する。 ③ 公務員試験、一般企業の採用試験の基礎知識を習得する。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50% 課題は適宜コメントをして返却します。				
事前・事後学習 予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。				

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

第1講 ガイダンス／キャリアをどう考えるか 9/28
第2講 課題と実習(社会人基礎力①) 10/5
第3講 課題と実習(社会人基礎力②) 10/12
第4講 知っておきたい採用試験の基礎① 10/19
第5講 知っておきたい採用試験の基礎② 10/26
第6講 働き方はどうなっているか 11/2
第7講 経営者によるキャリア講演会 11/9
第8講 課題と実習 11/16
第9講 知っておきたい採用試験の基礎③ 11/23
第10講 働く者の権利 11/30
第11講 知っておきたい採用試験の基礎④ 12/7
第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑤ 12/14
第13講 大学生の雇用と求人の情勢 12/21
第14講 キャリアサポートセンターについて 1/4
第15講 まとめ 1/18

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

就職は何より学生自身の問題です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

第1講 ガイダンス／キャリアをどう考えるか
第2講 課題と実習(社会人基礎力①)
第3講 課題と実習(社会人基礎力②)
第4講 知っておきたい採用試験の基礎①
第5講 知っておきたい採用試験の基礎②
第6講 働き方はどうなっているか
第7講 知っておきたい採用試験の基礎③
第8講 公務員の職種について
第9講 知っておきたい採用試験の基礎④
第10講 働く者の権利
第11講 知っておきたい採用試験の基礎⑤
第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑥
第13講 大学生の雇用と求人の情勢
第14講 キャリアサポートセンターについて
第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑦

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

公務員志望者のためのクラスです。引き続き、スキル科目「公務員養成ユニット」を全科目、開講年次通りに履修してください。自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいきましょう。

キャリア基礎Ⅱ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岩崎祐・岡良・永井・本部・関根・田中伊・廣住・牧田・吉山	GECC1002	前学期	必修

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。

「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標

以下の4つの到達目標があります。

- ① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。
- ② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみること。
- ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。
- ④ 採用試験の基礎を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50％、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50％
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

キャリア基礎Ⅱ (公務員クラス)	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
高田晴美・中西紀夫	GECC1002	前学期	必修

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。

「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて公務員試験に備えた基礎学力の習得(「数的推理」の補足中心)をめざします。

到達目標

以下の4つの到達目標があります。

- ① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。
- ② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみること。
- ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。
- ④ 採用試験の基礎を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50％、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50％
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

第1講	ガイダンス／自己分析のすすめ	4 /13
第2講	自己分析実習①適性をみる	4 /20
第3講	知っておきたい採用試験の基礎⑥	4 /27
第4講	自己分析実習②過去の自分をふりかえる	5 /11
第5講	自己分析実習③他者の意見を聞く	5 /18
第6講	知っておきたい採用試験の基礎⑦	5 /25
第7講	自己分析実習④未来の自分を考える	6 /1
第8講	自己分析実習⑤自己PRを考える	6 /8
第9講	知っておきたい採用試験の基礎⑧	6 /15
第10講	業界・企業研究のすすめ	6 /22
第11講	企業研究実習	6 /29
第12講	知っておきたい採用試験の基礎⑨	7 /6
第13講	履歴書・エントリーシートを書く(実習)①	7 /13
第14講	履歴書・エントリーシートを書く(実習)②	7 /20
第15講	知っておきたい採用試験の基礎⑩	7 /27

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

第1講	ガイダンス／自己分析のすすめ	4 /13
第2講	自己分析実習①適性をみる	4 /20
第3講	知っておきたい採用試験の基礎⑧	4 /27
第4講	自己分析実習②過去の自分をふりかえる	5 /11
第5講	自己分析実習③他者の意見を聞く	5 /18
第6講	知っておきたい採用試験の基礎⑨	5 /25
第7講	自己分析実習④未来の自分を考える	6 /1
第8講	自己分析実習⑤自己PRを考える	6 /8
第9講	知っておきたい採用試験の基礎⑩	6 /15
第10講	業界・企業研究のすすめ	6 /22
第11講	企業研究実習	6 /29
第12講	知っておきたい採用試験の基礎⑪	7 /6
第13講	履歴書・エントリーシートを書く(実習)①	7 /13
第14講	履歴書・エントリーシートを書く(実習)②	7 /20
第15講	知っておきたい採用試験の基礎⑫	7 /27

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

公務員志望者のためのクラスです。引き続き、スキル科目「公務員養成ユニット」を全科目、開講年次通りに履修してください。自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいきましょう。

キャリア基礎Ⅲ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岩崎祐・岡良・永井・本部・関根・田中伊・廣住・牧田・吉山	GECC1003	後学期	選 択

授業のねらい

キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひとつおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

到達目標

模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。

- ① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
- ② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること
- ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
- ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
- ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50％、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50％
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

キャリア基礎Ⅲ(公務員クラス)	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
高田晴美・中西紀夫	GECC1003	後学期	選 択

授業のねらい

「キャリア基礎Ⅲ」では、具体的な就職活動を想定し、情報収集・エントリー・面接など、ひとつおりの公務員や一般企業の就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

到達目標

模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。

- ① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
- ② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること
- ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
- ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
- ⑤ b全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50％、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50％
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授 業 計 画

第1講	ガイダンス／グループディスカッション①	9/28
第2講	グループディスカッション②	10/5
第3講	グループディスカッション③	10/12
第4講	日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか	10/19
第5講	新聞を読む(日本経済新聞社)	10/26
第6講	新聞を読む(実習)	11/2
第7講	ビジネスマナー①(面接)	11/9
第8講	模擬合同企業説明会	11/16
第9講	エントリーシートの作成①	11/23
第10講	模擬面接(実習)①	11/30
第11講	模擬面接(実習)②	12/7
第12講	ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話応対)①	12/14
第13講	プレゼン面接(実習)②	12/21
第14講	プレゼン面接(実習)	1/4
第15講	まとめ	1/18

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

3年生では就職ガイダンスがはじまります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授 業 計 画

第1講	ガイダンス／グループディスカッション①	9/28
第2講	グループディスカッション②	10/5
第3講	グループディスカッション③	10/12
第4講	日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか	10/19
第5講	新聞を読む(日本経済新聞社)	10/26
第6講	新聞を読む(実習)	11/2
第7講	ビジネスマナー①(面接)	11/9
第8講	模擬自治体研究と情報収集	11/16
第9講	エントリーシートの作成①	11/23
第10講	模擬面接(実習)①	11/30
第11講	模擬面接(実習)②	12/7
第12講	ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話応対)①	12/14
第13講	プレゼン面接(実習)①	12/21
第14講	プレゼン面接(実習)②	1/4
第15講	まとめ	1/18

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

3年生では就職ガイダンスがはじまります。公務員試験の準備も本格化します。綿密な準備がどれだけできたかが問われます。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。

ボランティア活動 a・b	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
松井 真理子	GESC1001	前学期	選 択

授業のねらい 障害がある人、子どもなどを支援する活動、災害救援活動、環境保全活動など、地域にはさまざまな社会貢献活動が行われています。これらの活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では把握できない生きた学びの機会となるとともに、ともに支えあう地域社会づくりに貢献するなど、大きな意義を持っています。四日市大学では、多くのが学生の参加促進のため、一定の時間参加した場合は、所定の手続きを経て単位認定します。 ＊ボランティア活動 a の単位修得後、b を取得します。
--

到達目標 1 現場体験を通じて、社会の様々な課題を深く理解すること。 2 主体的な行動力を身に着けること。 3 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身に着けること。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定します。 評価は「認(認定)」となります。(履修制限単位に含まれない) 提出したレポートについて、希望により面談やコメントをします。
--

事前・事後学習 (事前) 参加する活動や団体に関する情報を収集し、よく内容を理解しておくこと。(90分) (事後) 学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと(90分)
--

国際協力研修／青年海外協力研修	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
岩崎 祐子	GESC1003	後学期	選 択

授業のねらい 青年海外協力隊、NGO(非政府団体)、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。
--

到達目標 1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2 国際感覚を身に付けます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書(様式自由)および活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。 レポートは、研修・活動の成果、全体の感想などが明記され、研修・活動の経験を今後どう活かすかについて言及すること。
--

事前・事後学習 事前：参加する活動や団体に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと(90分) 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも目を通すこと(90分)

授業の位置づけ 「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授 業 計 画 1 対象となる活動 ①ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ②別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上 (複数の活動や、年度を超えた活動でもかまいません。) 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 単位認定を希望する場合は、参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」(授業課にあります)を授業課に提出してください。 (ボランティアセンターが紹介したボランティア活動については不要です。) 5 単位認定申請 実労働時間が60時間が予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、授業課に下記の書類を提出してください。(卒業年度の1月末日まで) ①ボランティア活動 a 単位認定申請書 ②ボランティア活動団体発行の証明書 ③活動日誌・レポート(様式自由、1000字程度)
--

テキスト・教材(参考文献含む) なし

担当者から一言 ボランティアセンターのボランティア情報を活用するほか、これ以外のボランティア活動の紹介もします。積極的に参加されることを期待しています。
--

授業の位置づけ 「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス(集中講義期間) 第2講 事前研修(集中講義期間) 第3講 事前研修(集中講義期間) 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ・四日市大学では、タイ・スタディツアーを2021年2月に実施予定です。期間は1週間、海外研修に関わる説明会には参加してください。 ・大学外の海外研修・海外協力活動への参加の場合には、事前申請を行ってください。 第2講～第15講 ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク

テキスト・教材(参考文献含む) 四日市大学の海外研修の場合、研修国、研修訪問先(団体、プロジェクト)に関する資料を配布します。

担当者から一言 四日市大学の研修参加希望者は学内で開催する説明会に必ず参加してください。研修終了後は、自分はいかに活動を継続的に関わることができるか考えてください。 大学の研修では、時期・研修国が決まっています。自分の希望に合わせて、関心のある研修先を探して(事前申請をして)海外研修とすることができます。
--

インターンシップ 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GESC1004	前学期	選 択
授業のねらい 大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■ インターンシップを履修するための条件 ・ 3 か月以上のアルバイトの経験(週 2 日以上)の定期アルバイト)があること ・ 基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・ どのような研修をしたいのか、明確な目標があること			
到達目標 正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。			
事前・事後学習 講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。			
社会調査入門／社会調査論 三田 泰雅	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSSR1001	前学期	選 択
授業のねらい 世の中のできごとを知る方法のひとつに社会調査がある。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えてゆく。これまでに行なわれた調査の実例を紹介し、社会調査の方法、目的に合わせた方法の選択、調査結果の解釈について学ぶ。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することがねらいである。			
到達目標 社会調査の基本的知識を身につける。授業内では適宜グループワークを行い、社会調査についての理解を深める。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価：平常点30％、中間試験15％、期末試験55％ 課題：各回の最後に小レポートを課す フィードバック方法：小レポートのいくつかをとりあげ次回にコメントする			
事前・事後学習 新聞・ニュース等に目を通す(10分) 授業のノートを確認する(10分)			
授業の位置づけ 「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。			
授 業 計 画 ★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 4 月：説明会(CSC主催)・・・スケジュール詳細説明／申込用紙配布 4 月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表 5 月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表 5 月下旬：ガイダンス・・・受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等 6 月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7 月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 7 月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 8～9 月上旬：インターンシップ研修 11 月：事後研修・・・レポート提出 12 月頃：単位認定 ＊春期休業期間等にインターンシップ研修を行う場合のスケジュールなどは、担当教員が個別に対応する。			
テキスト・教材（参考文献含む） なし			
担当者から一言 明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。			
社会調査入門／社会調査論 三田 泰雅	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSSR1001	前学期	選 択
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 1 ガイダンス 2 社会調査の歴史 3 社会調査の発展 4 日本における社会調査 5 質的調査と量的調査 6 社会調査の種類と方法 7 サンプルングの発展 8 公的統計の意義と活用 9 二次分析の実例 10 量的な社会調査の実例 11 質的な社会調査の実例 12 実験的方法の実例 13 調査の倫理 14 社会調査をめぐる環境 15 まとめ			
テキスト・教材（参考文献含む） 大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013			
担当者から一言 この科目は社会調査士養成ユニットに含まれており、社会調査士資格の対象科目(A)になっています。			

社会調査の技法／社会調査方法論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
三 田 泰 雅	GSSR1002	後学期	選 択

授業のねらい この授業では社会調査を行なう際に必要となる知識と、注意すべき点を紹介する。「社会のできごとについて調べる」という、広い意味での社会調査は誰でも簡単に始められるが、より確かで質の良いデータを集めようとするると一定の知識が必要になる。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に習得をはかる。
--

到達目標 必要に応じて調査の実例を紹介しながら、社会調査の方法、目的に合わせた方法の選択、調査結果の分析について学ぶ。社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 <評価> 授業内の小レポート30%、中間試験15%、期末試験55% <フィードバック> 小レポートは翌週の授業でコメントする
--

事前・事後学習 新聞やニュースに目を通しておくこと(毎日20分以上)

データ分析の基礎／データ分析論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
田 中 伊 知 郎	GSSR1003	前学期	選 択

授業のねらい 公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。

到達目標 相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身につけて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。点数を提示し、次回までの課題も示します。

事前・事後学習 授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 1 ガイダンス 2 社会調査の企画 3 質的調査の方法 4 インタビューの準備 5 インタビューの実践 6 質的データの分析 7 量的調査の方法 8 調査票の作成① 9 調査票の作成② 10 標本抽出の考え方 11 標本抽出の手続き 12 実査とデータ作成 13 量的データ分析の基礎 14 データのまとめ方 15 調査の倫理
--

テキスト・教材（参考文献含む） <参考文献>玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社、2008.
--

担当者から一言 この科目は社会調査士養成ユニットに含まれており、社会調査士資格の対象科目(B)になっています。
--

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認 第2講 度数分布表の作成:いろいろな値段のある回転寿司屋さん 第3講 いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差) 第4講 既存統計資料の読み方と使い方 第5講 量的データと伴って変わる量 第6講 比例と1次関数 第7講 1次関数のグラフの拡張:散布図 第8講 Excelを使つての散布図の作成 第9講 1次関数と相関係数 第10講 Excelを使つての相関係数の求め方 第11講 相関係数の性質 第12講 データの性質の拡張:質的データ 第13講 データの入力と照合(統計的資料を使つて) 第14講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明 第15講 相関関係・関連性と因果関係の違い:擬似相関と実験計画 定期試験 持ち込み不可 第2講から第14講までパソコンを使つての実習となります。
--

テキスト・教材（参考文献含む） なし

担当者から一言 パソコン教室の実習形式で行います。パソコンを使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。
--

統計的分析／社会調査のための統計学	科目 ナンバリング GSSR1004	2 年次 後学期	2 単位 選 択
授業のねらい 統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関する D 科目に相当します。			
到達目標 量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身に付けます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの（要因）を見つける力を養います。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計（60点満点）します。定期試験（40点）と合計して成績とします。点数を提示して、次回への課題も示します。			
事前・事後学習 授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください（30分）。2・3日後に、プリントアウトを見直して（30分）、その次に当たることを考えてください（30分）。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください（60分）。			
データ解析の技法／量的データ解析法	科目 ナンバリング GSSR1006	2 年次 後学期	2 単位 選 択
授業のねらい 複雑な現代社会を読み解く方法のひとつに、数量データを用いた多変量解析がある。本講義では多変量解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。できるだけself-containedな講義にするために、必要となる数学の基礎を統計処理を意識しながら最初にまとめ、受講者の便を図る。			
到達目標 重回帰分析、分散分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析など、多変量解析の基礎を理解すること。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 定期試験により評価します。講義中に宿題などを出した場合はその結果もプラスします。 3 割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。			
事前・事後学習 背景となる数学の知識を復習してください（90分）。毎回、次回の講義のキーワードを予告しますので、調べておいてください（90分）。			
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス:平均値・中央値と度数分布の確認 第2講 サンプリング:標本と母集団の関係とヒストグラムの作成 第3講 正規分布:確率論の基礎、ゆらぎ(分散)の概念の獲得 第4講 正規分布かの検定(Kolmogorov-Smirnov検定) 第5講 平均値の差の検定:二つの正規分布か、同じ分布か:実習 第6講 分散分析(3要因への検定の拡張)と効果量 第7講 分散分析の実習 第8講 一次関数と相関係数:Excelを使つての求め方 第9講 相関係数の性質と回帰分析 第10講 データの性質の拡張・測定の尺度としての順位変数など 第11講 ノンパラメトリック検定(正規分布でない場合) 第12講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明と実践・ 第13講 クロス集計の実践:質的アンケートと円グラフ 第14講 クロス集計の検定(正確確率検定など) 第15講 クロス集計の検定:実習 定期試験 持ち込み不可 第2講から第15講までパソコンを用いた実習となります。			
テキスト・教材（参考文献含む） なし			
担当者から一言 パソコン教室の実習形式で行います。パソコンを使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。			
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス～多変量解析とは 第2講 数学の復習 第3講 平均値、分散、共分散 第4講 正規分布 第5講 標準化 第6講 回帰分析(1)回帰分析とは 第7講 回帰分析(2)平面の当てはめ 第8講 回帰分析(3)例 第9講 主成分分析(1)主成分分析とは 第10講 主成分分析(2)主成分分析の式 第11講 主成分分析(3)例 第12講 因子分析(1)因子分析とは 第13講 因子分析(2)因子分析の式(行列表現) 第14講 因子分析(3)例 第15講 まとめ 定期試験			
テキスト・教材（参考文献含む） テキスト：ありません。 参考文献：久保川達也・国友直人『統計学』東京大学出版会、2016年、2,800円。			
担当者から一言 多変量解析にはベクトルや行列の知識が必須ですので、線型代数の講義や自分に合った数学の本で基礎を固めておくのがいいでしょう。			

フィールドワーク論／比較文化論 富田 与	科目 ナンバリング GSSR1005	2 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい この講義では、「聞き取り」と「参与観察」での発問の仕方を中心に考えていきます。「聞き取り」と「参与観察」では、ある目的を持って質問していくことが求められます。何を、どのように質問したらいいのでしょうか。講義では、具体的なフィールドワークの報告を読みながら、「ライフヒストリー」、「談話分析」などそれぞれの報告で使われている方法を踏まえた、発問の仕方を考えていきます。毎回の課題に関するディスカッションの形で講義を進めます。			
到達目標 調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義への参加度(発言等) :30% 各回のレポート:30% 最終レポート:40% 各回のレポートは講義の中で発表してもらいます。 最終レポートは希望者には返却します。			
事前・事後学習 各章のレポートを作成してもらいます(180分)。			
社会調査実習1／まちづくり研究 三田 泰雅	科目 ナンバリング GSSR1007	3 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい 社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。とくに、以下の4つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データの分析を通してレポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの基礎強化を図ること、などが期待できる。			
到達目標 本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価方法:実習への参加度50%、期末レポート50% 課題:不定期に中間報告の機会を設ける フィードバック方法:報告をもとに教員を含めた全員でディスカッションする			
事前・事後学習 報告準備をする(30分)			
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 序章 現代文化のフィールドワークとは何か 第3講 第1章 出産:ドキュメント分析とインタビュー調査の齟齬から 第4講 第2章 地域政策:ドキュメント分析からインタビュー調査へ 第5講 第3章 共生文化:談話分析と参与観察の齟齬から 第6講 第4章 介助者:参与観察からライフヒストリー(キャリア・パス分析)へ 第7講 第5章 祭り:儀礼調査から見た社会変容 第8講 第6章 民藝:「モノ」への注目 第9講 第7章 頼母子講:参与観察(生活者として) 第10講 第8章 引揚者:ドキュメント分析・オーラルヒストリーの比較 第11講 第9章 信心:オーラルヒストリーと世界観 第12講 第10章 エスノメソッド:エスノメソッドロジー 第13講 第11章 住民のためらい:エスノメソッドロジーの発明(メディア社会との関係) 第14講 調査計画とは(レポートのガイダンス) 第15講 まとめ			
テキスト・教材 (参考文献含む) 『現代文化のフィールドワーク入門』 山泰幸・足立重和編 ミネルヴァ書房 3,000円 絶版となっているため、基本的にはコピーを用意します。			
担当者から一言 調査やインタビューに関する面白い新書の出版が相次いでいます。ぜひ手にとって読んでみてください。 *経済経営学科の再履修がいるため、今年も同じテキスト使うことにしました。			
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 1. ガイダンス 2. 問題の整理 3. 対象について学ぶ 4. 問いを立てる 5. 先行研究をさがす 6. 先行研究の検討(1) 7. 先行研究の検討(2) 8. 仮説の形成 9. 調査項目の洗い出し 10. 調査表作成の基礎 11. 調査票の作成(1) 12. 調査票の作成(2) 13. 調査票の完成 14. 調査の実施 15. まとめ			
テキスト・教材 (参考文献含む) 大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房、2013.			
担当者から一言 社会調査士養成ユニットの実習です。この科目を履修するには、社会調査士養成ユニットから6単位(3科目)以上取得している必要があります。			

社会調査実習2／コース別研修	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
三 田 泰 雅	GSSR1008	後学期	選 択

授業のねらい 社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。以下の5項目に重点を置いて運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データを分析する。(5)レポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの強化を図ること、などが期待できる。

到達目標 本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価方法:実習への参加度50%、期末レポート50% 課題:不定期に中間報告の機会を設ける フィードバック方法:報告をもとに教員を含めた全員でディスカッションする
--

事前・事後学習 報告準備(30分)
--

公務のための数的推理／公務のための数的処理	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
高 田 晴 美	GSPO1001	後学期	選 択

授業のねらい 皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員1次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、殆どが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理の殆どのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。

到達目標 1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回の小テスト 30% 定期試験(資料持ち込み不可) 70% 授業時に行う小テストに関しては、テスト実施直後に解説を行います。

事前・事後学習 次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし(90分) ・講義では飛ばした問題を解く(90分) 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。
--

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 1. ガイダンス 2. データの整理 3. データ入力(1) 4. データ入力(2) 5. データ分析の基本 6. データの分析(1) 7. データの分析(2) 8. 分析結果の報告(1) 9. 分析結果の報告(2) 10. 分析結果の報告(3) 11. レポートのまとめ方 12. 報告原稿の発表(1) 13. 報告原稿の発表(2) 14. 報告原稿の発表(3) 15. 報告書の作成
--

テキスト・教材（参考文献含む） 大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013
--

担当者から一言 この科目を履修するには、社会調査士養成ユニットから6単位（3科目）以上、かつ「社会調査実習Ⅰ」の単位を取得している必要があります。社会調査士資格を取得するには「社会調査実習Ⅰ」と同一年度に単位取得することが必要です。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス、整数の性質 第2講 比と割合 第3講 方程式と不等式① 第4講 方程式と不等式② 第5講 濃度 第6講 仕事算、ニュートン算 第7講 年齢算、平均算など 第8講 集合 第9講 速さ① 第10講 速さ② 第11講 場合の数 第12講 確率 第13講 剰余系の問題 第14講 n進法 第15講 数列 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 数的推理／資料解釈 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円

担当者から一言 この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。
--

公務のための判断推理	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
高田晴美	GSP01002	前学期	選 択

授業のねらい

公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。

到達目標

- 1 判断推理の解法を一通り身に付ける。
- 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。
- 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小テスト 30%
定期試験(資料持ち込み不可) 70%
授業時に行う小テストに関しては、テスト実施直後に解説を行います。

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。
・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

公務のための現代文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
高田晴美	GSP01003	後学期	選 択

授業のねらい

公務員試験科目のうちの「文章理解(国語分野)」の「現代文」と「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解(国語)」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプが限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきたいと思います。

到達目標

- 1 「文章理解(国語分野)」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。
- 2 「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小テスト(漢字) 30%
定期試験(資料持ち込み不可) 70%
小テストに関しては、毎回、実施直後に要注意ポイントを解説します。

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元(授業でやったあたり)について、以下のことをしておくこと。
・(特に「資料解釈」では)講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。
上記に加えて、毎回の漢字テストの対策をすること。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- | | |
|------|------------|
| 第1講 | ガイダンス、順序関係 |
| 第2講 | 順序関係 |
| 第3講 | 位置関係 |
| 第4講 | 対応関係 |
| 第5講 | 試合 |
| 第6講 | 数量関係 |
| 第7講 | 命題と論理 |
| 第8講 | 真偽 |
| 第9講 | 暗号と規則性 |
| 第10講 | 操作・手順 |
| 第11講 | パズル問題 |
| 第12講 | 移動と軌跡 |
| 第13講 | 立体図形 |
| 第14講 | 展開図 |
| 第15講 | サイコロと位相 |
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 判断推理 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- | | |
|------|------------------|
| 第1講 | ガイダンス、現代文①——内容把握 |
| 第2講 | 現代文②——内容把握 |
| 第3講 | 現代文③——要旨把握 |
| 第4講 | 現代文④——要旨把握 |
| 第5講 | 現代文⑤——文章整序 |
| 第6講 | 現代文⑥——文章整序 |
| 第7講 | 現代文⑦——空欄補充 |
| 第8講 | 資料解釈①——実数 |
| 第9講 | 資料解釈②——実数 |
| 第10講 | 資料解釈③——割合・構成比 |
| 第11講 | 資料解釈④——割合・構成比 |
| 第12講 | 資料解釈⑤——指数・増加率 |
| 第13講 | 資料解釈⑥——指数・増加率 |
| 第14講 | 資料解釈⑦——特殊な問題 |
| 第15講 | 資料解釈⑧——特殊な問題 |
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

- 瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック』実務教育出版(2011年)1,600円+税
- 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 数的推理／資料解釈 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円(「公務のための数的推理」と同テキスト)

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、特に「資料解釈」は真面目学習しないと得点できず、単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための政治学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
小林 慶太郎	GSP01004	後学期	選 択

授業のねらい わたしたちが、役所の人(公務員)に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。
--

到達目標 市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況:30% ・定期試験(持込不可):70% 毎回実施する小テストは、回収・採点し、次の授業時に返却・解説を行います。
--

事前・事後学習 必ず予習・復習(各90分)をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。

公務のための経済学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
鬼頭 浩文	GSP01005	後学期	選 択

授業のねらい この講義では、公務員や金融機関、大学院などをを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけると、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。
--

到達目標 経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業を理解した上で課題(8回を予定)を提出することが、単位認定の最低条件。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。
--

事前・事後学習 指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次の講義で質問できるように準備をしておくこと。8回の課題には、各3時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学」単位取得後の受講が好ましい。
--

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス:この授業の進め方 第2講 三権分立と法の支配 第3講 議院内閣制 第4講 国会 第5講 内閣 第6講 官僚制と行政 第7講 裁判所 第8講 地方自治 第9講 直接請求権 第10講 選挙 第11講 政党政治 第12講 政治理論 第13講 各国の政治制度 第14講 国際政治 第15講 時事問題 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） 資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,404円(税込) ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

担当者から一言 遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 1. ガイダンス(基礎数学復習と一次関数の演習問題)＜課題①＞ 2. 無差別曲線と消費者の行動① 3. 無差別曲線と消費者の行動②＜課題②＞ 4. 企業の行動① 5. 企業の行動②＜課題③＞ 6. 需要の価格弾力性① 7. 需要の価格弾力性②＜課題④＞ 8. 市場メカニズムと安定性 9. 比較優位の理論①＜課題⑤＞ 10. 比較優位の理論② 11. 財政政策・金融政策①＜課題⑥＞ 12. 財政政策・金融政策② 13. 公共財の供給①＜課題⑦＞ 14. 公共財の供給② 15. その他の経済学の問題演習＜課題⑧＞
--

テキスト・教材（参考文献含む） 資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,404円(税込) ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

担当者から一言 公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。

公務のための法学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
中西 紀 夫	GSP01006	前学期	選 択

授業のねらい 公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさん問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思っています。

到達目標 法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 小テスト 30% ： 授業中に行う小テストは採点をして2週間以内に返却します。受講態度等も含みます。 定期試験 70% ： 択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
--

事前・事後学習 その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。(毎回の予習90分と復習90分)
--

公務のための人文科学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
李 修 二	GSP01007	前学期	選 択

授業のねらい 非常に幅広い人文科学の知識を、問題演習を通じて効率良く学び、それによって、どこでも通用するような、この分野の基礎知識を身に付けることをねらいとした授業です。公務員試験を目指す学生のみならず、様々な業種の就職試験などで課せられる一般教養の知識をできるだけ身に付けておきたいような学生にも適した授業となるはずです。

到達目標 幅広い人文科学の知識を、それらの意味も十分に理解したうえで確実に身に付けることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎授業のミニッツペーパーで50%評価し、学期末の筆記試験で50%評価します。(ミニッツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明します。)

事前・事後学習 毎回の授業後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。そのため、授業の復習に30分以上、予習に60分以上かける必要があるでしょう。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈 第3講 大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き 第4講 人権の発達、基本的人権の原理 第5講 日本国憲法における基本的人権の種類 第6講 人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権 第7講 参政権と請求権、新しい人権と国民の義務 第8講 要約(これまでの確認) 第9講 民法、刑法、その他の法律 第10講 主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質 第11講 労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題 第12講 社会保障、高齢社会、少子社会 第13講 地球環境問題 第14講 資源・エネルギー問題 第15講 要約(これまでの確認) 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） 資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第2版〕』実務教育出版(2018年)1,300円＋税(価格) 必要に応じて、プリントでも補足します。 ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。
--

担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 1. ガイダンス 2. 日本史① 3. 日本史② 4. 日本史③ 5. 世界史① 6. 世界史② 7. 世界史③ 8. 世界史④ 9. 地理① 10. 地理② 11. 地理③ 12. 思想 13. 文学・芸術① 14. 文学・芸術② 15. 国語 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） 大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学 改訂第2版 実務教育出版 2018年 1,300円＋税

担当者から一言 あきらめずに最後までやり抜くことが大事です。やり終えた後、必ず何がしかの自信が湧いてくることでしょう。
--

公務のための自然科学	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
高田 晴 美	GSPO1008	前学期	選 択

授業のねらい 公務員試験の「自然科学」の内容は、「物理」「化学」「生物」「地学」「数学」（高校数学）です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点をできるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く浅く知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。
--

到達目標 公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 定期試験(資料持込不可) 70% 課題 30% 課題に関しては、講義で解説も行います。

事前・事後学習 次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし (90分) ・講義では飛ばした問題を解く (90分) 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

公務のための英文理解	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
ゴードン・リース	GSPO1009	後学期	選 択

授業のねらい 現在、日本では、公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しない。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の記事を毎回読んで、ディスカッションを行います。そのため、Facts and Figures というテキストを採用しました。
--

到達目標 1. 英語の読解力を向上させる。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 学習態度 15% 単語ブック・小テスト 25% レポート 20% プレゼンテーション（1） 20% 定期試験 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
--

事前・事後学習 1. 講座が始まる前に資格英語や基礎英語I and II のテキストを復習する。 2. プリントを配布するので、ファイル(A4)を用意する。 3. Spend 90 minutes reviewing the textbook exercises, class handouts and reading the article aloud from the previous lesson. In addition, try and spend about 90 minutes reading ahead in the text and looking up vocabulary words that you are unfamiliar with.
--

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス、物理① 第2講 物理② 第3講 物理③ 第4講 物理④ 第5講 地学① 第6講 地学② 第7講 地学③ 第8講 地学④ 第9講 生物① 第10講 生物② 第11講 生物③ 第12講 生物④ 第13講 化学① 第14講 化学② 第15講 化学③ 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） 『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 自然科学 改訂第2版』実務教育出版(2018年)1,404円(税込) その他、適宜プリントを配布。

担当者から一言 この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。
--

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 1. Guidance/Course Introduction 2. An Australian Surprise: The Koala Bear 3. A Gold Swimmer 4. The Dolphin 5. Why Do We Yawn? 6. Happy Medicine 7. Dream a Little Dream 8. Bamboo 9. The Everyman Food 10. The Green Power: Kiwifruit 11. Student presentations and reports 12. Old Time Rock'n Roll 13. A Rapper's Dream 14. The Most Exciting Job in the World 15. Review 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） New Reading and Vocabulary Development: Facts and Figures 1-Student book with audio cd Patricia Ackert Cengage Learning 3,270 yen
--

担当者から一言 皆さんと楽しく授業をしたいです。以下のルールを守って下さい。1. 授業にテキストとプリントを整理するためのファイルを持ってこない学生は欠席扱いになる。2. 英和辞典を持参する。3. 5回以上欠席すると単位がもらえない。履修者が24名を超えた場合は抽選となります。
--

公務のための論文・面接	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
小林慶太郎	GSPO1010	前学期	選 択

授業のねらい

わたしたちが、役所の人(公務員)に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょうか。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。

この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、学生諸君が、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

到達目標

市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。

- ・課題等への取り組み状況:45%
- ・講義時に指示する宿題の提出状況:30%
- ・受講態度:25%

提出された論文は、毎回添削して返却します。

事前・事後学習

毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください(60分)。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください(毎日20分以上)。

ビジネスマナー	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
岡 良 浩 他	GSHM1001	前学期	選 択

授業のねらい

本講義は、おもてなし経営ユニット全体の導入にあたる授業です。おもてなし経営として、何より重要なのは、お客様との接し方です。コミュニケーションには言葉(言語)以外に、身ぶり・手ぶりといった非言語コミュニケーションも含まれます。実はコミュニケーションの要素としては非言語のコミュニケーションのほうが重要です。さらにコミュニケーション技術以前に、おもてなしをしようとする精神がなにより大事とも言われます。

この授業ではこのようなコミュニケーションの基礎としてのビジネスマナーを学びます。

到達目標

本講義の到達目標は以下の3点です。

1. 人間関係としてのマナーの基礎を習得すること
2. 言語としての敬語を適切に使えるように習得すること
3. 上記を通じて適切なコミュニケーションの基礎を理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業での参加態度および課題の提出状況50%、定期試験50%
課題は講義の振り返りとして課します。課題は採点して返却します。

事前・事後学習

予習:テキストで指定する範囲を読んでおくこと。(90分)
復習:授業中に配布する理解度テストを行うとともに復習すること。(90分)
留学生はN1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身に付けておくことが望まれます。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

第1講	ガイダンス:この授業の進め方
第2講	文章の書き方(実習)
第3講	面接の心構え(実習)
第4講	論文のテーマ(実習)
第5講	面接の態度(実習)
第6講	論文の構成(実習)
第7講	面接での性格PR(実習)
第8講	論文の文体(実習)
第9講	面接での志望動機(実習)
第10講	論文の論旨(実習)
第11講	面接での経験PR(実習)
第12講	論文の論拠(実習)
第13講	集団面接での受け答え(実習)
第14講	論文のまとめ方(実習)
第15講	集団討論(実習)

テキスト・教材(参考文献含む)

なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言

この講義は、公務員試験に間に合うよう、6月上旬までの期間に集中して週2回実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

第1講	4/13	ガイダンス(岡)
第2講	4/20	人間関係づくり①コミュニケーションゲーム(長野)
第3講	4/27	人間関係づくり②コミュニケーションとは(石田)
第4講	5/11	人間関係づくり③パフォーマンス学(石田)
第5講	5/18	人間関係づくり④話し方・聞き方・考え方(木村)
第6講	5/25	一般的なマナー①敬語(木村)
第7講	6/1	一般的なマナー②敬語(木村)
第8講	6/8	一般的なマナー③表情・声・身体表現(則武)
第9講	6/15	ビジネスマナー①職場のルール(報連相)(則武)
第10講	6/22	ビジネスマナー②受付・案内・席次・訪問時のマナー(則武)
第11講	6/29	ビジネスマナー③ビジネス文書(田上)
第12講	7/6	ビジネスマナー④プレゼンテーション(田上)
第13講	7/13	ビジネスマナー⑤プレゼンテーション(田上)
第14講	7/20	ビジネスマナー⑥クレーム応対(田上)
第15講	7/27	総合演習(場面に応じた対応)(田上)

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストとしては以下を使用するので購入しておくこと。
有限会社幸プランニング『コミュニケーション&ビジネスマナー』SEP
自己表現能力出版部 1,500円
追加で適宜プリントを配布する。

担当者から一言

ビジネスマナーは社会で生きていくための必須の資質です。学生時代に、先んじてビジネスマナーを学びたいと思う学生は是非受講して下さい。

サービス経営論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSHM1002	後学期	選 択

岡 良 浩

授業のねらい この講義はサービス業を念頭においた経営の基礎を学びます。 日本では、経済に占めるサービス業の割合が年々増加しておりGDPの3／4を占めると言われています。サービス業は、製造業と違って、形のない扱いにくい性質を価値として販売するため、仕組み自体が製造業とは異なります。 本講義では、このようなサービスの経営学を総合的に学びます。 また初年次の受講者が多いことから、大人の考え方の基礎としての「7つの習慣」についても副読します。
--

到達目標 以下の3つを目標とします。 1. サービス業の特徴を理解すること。 2. サービス業の経営の特徴を理解すること。 3. ホスピタリティ・おもてなしについて理解すること。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業への参加態度(含む講義中の小レポート)20% 期末試験 80% 小レポートはコメントをつけて返却します。

事前・事後学習 予習:資料を読んで理解しておくこと(90分) 復習:小テストの実施(90分)

販売士講座／販売士論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSHM1003	前学期	選 択

山 川 和 美

授業のねらい 消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング(販売士)」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。 私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。
--

到達目標 就職の選択肢の多くを占める流通・小売業界に興味を持っていたことを考えています。 また就職活動を一歩リードできるようにスキルを身につけていきましょう。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・平常点(授業態度、簡単な課題の提出状況等)60点 ・定期試験:40点 なお、講義時に提出されたレポートは、3段階評価をつけて返却します。

事前・事後学習 事前(予習): 事前に渡されるプリントを読んでおくこと。(90分) 事後(復習): ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけて授業の検証に心がけること。(90分)

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 サービスの産業構造と経営の特徴 第3講 サービス業の人材育成 第4講 サービスの事例(1)リッツカールトン 第5講 サービスの事例(2)スーパーホテル 第6講 サービスの事例(3)クロネコヤマト 第7講 サービスの事例(4)TESSEN(新幹線清掃チーム) 第8講 製造業の3S、サービスのQSC 第9講 マーケティング 第10講 サービスのマーケティング 第11講 おもてなし経営とは 第12講 三重のおもてなし経営企業 第13講 ホスピタリティとおもてなし 第14講 サービス企業のガバナンスと組織 第15講 まとめ
--

テキスト・教材(参考文献含む) 特に使用しません。(その都度資料を配付します。)
--

担当者から一言 特にありません。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス ストアオペレーションのポイント① 第2講 ストアオペレーションのポイント② 第3講 ストアオペレーションのポイント③ 第4講 小売業の類型のポイント① 第5講 小売業の類型のポイント② 第6講 小売業の類型のポイント③ 第7講 マーチャンダイジングのポイント① 第8講 マーチャンダイジングのポイント② 第9講 マーチャンダイジングのポイント③ 第10講 リテールマーケティングのポイント① 第11講 リテールマーケティングのポイント② 第12講 リテールマーケティングのポイント③ 第13講 販売・経営管理のポイント① 第14講 販売・経営管理のポイント② 第15講 販売・経営管理のポイント③ 定期試験
--

テキスト・教材(参考文献含む) なし(必要に応じてプリントを配布します) 【参考文献】 日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック(2冊セット)」カリアック(2019年)5,400円
--

担当者から一言 店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。

ビジネスコミュニケーション／秘書実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岡 良 浩	GSHM1004	前学期	選 択

授業のねらい

本科目では、ホテル等の観光業での接客技術を学びます。
顧客に幸福や感動を与える接客の要素としては、一般に精神（マインド）・設備・技術の3要素があると言われます。その技術を学ぶことになります。
リッツカールトンホテルの企業理念のなかに「紳士淑女をおもてなしする私たちもまた紳士淑女です」というものがあります。これは接客を行おうとするものは、まず自分自身が紳士淑女の素養を持つ必要があるということをあらわしています。その基礎を学ぶということでもあります。

到達目標

観光業での接客を行うための以下の技術を習得することが目標です。
①おもてなしの基礎的なコミュニケーション技術を習得する。
②ホテル・旅館のフロント・客室・パンケットでの接客技術の基礎を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験 50% 参加態度および小テスト 50%
小テストは、講義のふりかえりとして課します。提出されたものはコメントをつけて返却します。

事前・事後学習

予習：毎回のプリントをあらかじめ読んでおくこと。(90分)
復習：毎回の授業で学んだ技術を訓練するとともに、ふりかえりの小テストを行うこと。(90分)

「ビジネスマナー」を先行して履修していることが望ましい（必須ではありません）。

グローバルコミュニケーション	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
富田 与	GSHM1005	後学期	選 択

授業のねらい

この講義では、多文化共存の状況とそこでの関係者の行動を見ながら、文化や行動の多様化と制約、そして、そうしたものに対応するにはどうしたらいいのかについて考えます。おもに、参加者とのディスカッションを中心に、「仕事の文化」という視点から、二つの文化が出会う場面でのホスト＝ゲスト関係を実践的な挑戦としてとらえていくことにしたいと思います。

到達目標

多文化共存の状況を理解し、日常生活や仕事の中でそれに対応できる能力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学期末に、参加度（発言、発表等）40%、レポート60%の割合で総合評価を出します。
レポートは希望者に返却します。
講義中の課題は、毎時間発表してもらいます。

事前・事後学習

予習：指示された教材を読み、必要なデータに目を通しておいください(90分)。
毎回、簡単な発表をしてもらいます。
復習：教材を読み直し、レポート等の課題を作成してもらいます (90分)。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

- | | | |
|----|------|----------------------------------|
| 1 | 4/7 | ガイダンス(岡) |
| 2 | 4/14 | ①チームワーク(価値交流ワーク)(長野) |
| 3 | 4/21 | ②ホテリエの心得(ほめるワーク)(武井) |
| 4 | 4/28 | ③コミュニケーション(ホウレンソウ ワーク)(武井) |
| 5 | 5/12 | ④ESとCS(私の感動体験ワーク)(武井) |
| 6 | 5/19 | おもてなしの技術①(笑顔・会釈・発声・言葉遣いワーク)(武井) |
| 7 | 5/26 | おもてなしの技術②(贈答)(武井) |
| 8 | 6/2 | おもてなしの技術③(電話・レター・メール) |
| 9 | 6/9 | パフォーマンス学(長野) |
| 10 | 6/16 | 和の技術① 日本伝統文化と着付け(体験 浴衣着付け実習)(早川) |
| 11 | 6/23 | 和の技術②(設備+案内ロールプレイング)(早川) |
| 12 | 6/30 | 客室の技術①(設備+案内ロールプレイング)(水谷) |
| 13 | 7/7 | 客室の技術②(ハウスキーピング/メンテナンス)(水谷) |
| 14 | 7/14 | パンケットの技術①仕器・食器+テーブルセッティング(水谷) |
| 15 | 7/21 | パンケットの技術②(テーブルサービスの技術)(水谷) |

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布します。
和の技術の実習費として学生1人1,000円を徴収します。

担当者から一言

この授業は、外部講師による実践的な接客技術を学びます。意欲的な学生を期待します。
1. この授業は「オペレーション演習」を受講する前提となります。
2. 希望者が多数の場合は「オペレーション演習」受講者を優先し、40名程度に履修者数を制限します。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | 第1章 なぜアジアに移住するのか。その1 |
| 第3講 | 第1章 なぜアジアに移住するのか。その2 |
| 第4講 | 第1章 なぜアジアに移住するのか。その3 |
| 第5講 | 第2章 和食職人の伝統。その1 |
| 第6講 | 第2章 和食職人の伝統。その2 |
| 第7講 | 第3章 「おもてなし」という感情労働。その1 |
| 第8講 | 第3章 「おもてなし」という感情労働。その2 |
| 第9講 | 第4章 日本化したアメリカ文化。その1 |
| 第10講 | 第4章 日本化したアメリカ文化。その2 |
| 第11講 | 第5章 「国語」教育から「日本語」教育へ。その1 |
| 第12講 | 第5章 「国語」教育から「日本語」教育へ。その2 |
| 第13講 | 第6章 再発見された仕事の価値。その1 |
| 第14講 | 第6章 再発見された仕事の価値。その2 |
| 第15講 | まとめ：グローバル化の中での仕事とコミュニケーション |

テキスト・教材（参考文献含む）

『世界に広がる日本の職人』 青山玲次郎著 ちくま新書 820円

担当者から一言

多文化が共存する社会では、その文化を理解していなくても、異なった文化背景を持つ人々とコミュニケーションを取っていかなければなりません。そんな時、どうしたらいいのか。一緒に考えてみましょう。

オペレーション演習	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
永井 博・岡 良浩・杉谷克芳	GSHM1006	前学期	選 択

授業のねらい サービス業の中心となる技術である接客技術を、現地研修を通して身に付けることが本講義のねらいである。ホテルや旅館などの宿泊施設、土産物店やレストランなどの物販・飲食店、その他の観光関連事業は接客が仕事の最前線である。客から言えば、接客に当たる店員の「おもてなし」の態度・印象、それを支える知識や技術がその店のすべてであると言っても過言ではない。その技術は座学だけではすべてを身に付けることはできない。実際にホテル・土産物店・レストランなどの現場の業務を体験しながらノウハウを身に付けてもらう。

到達目標 サービス業の中心である接客技術を身に付けることが目標である。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 研修の態度70％、課題レポート30％
--

事前・事後学習 2年生前期の「ビジネスコミュニケーション」を履修していないと受講できません。(同時履修は可能) 予習：上記「ビジネスコミュニケーション」で学習した接客技術の基礎事項を復習しておくこと。(90分相当) 復習：研修内容を整理すること。(90分相当)

ビジネスマネジメント	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
岩崎祐子・奥原貴士	GSHM1007	前学期	選 択

授業のねらい 本講義の前半(第2講～第7講)は、サービス業や観光業などのビジネス環境を学びます。ビジネスの競争環境などを理解します。そして、実際の企業活動におけるマネジメントをビジネスゲームを通して体験し、研究発表を行います。 次に、ビジネスをマネジメントするには企業の会計情報を利用する知識が必要になります。そこで本講義の後半(第9講～第15講)では、サービス業や観光業を営む企業の売上高・純利益などの会計情報を用いて、企業の収益性・安全性・生産性・不確実性などの経営分析を行う方法について学習します。
--

到達目標 ・ビジネスの競争環境を理解する。 ・ビジネスマネジメントの実際を把握する。 ・経営分析の方法を理解する。 ・企業の会計情報を使用して経営分析を行うことができる。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点(授業への積極的な参加、小レポートなど)30％ 中間試験40％ レポート(第9講～第15講の間に行う) 定期試験30％

事前・事後学習 事前:新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ(90分) 事後:授業の復習と関連情報の収集(90分) 普段から新聞や雑誌などを読んで、この企業の経営はうまくいってそうだと、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、というように企業の経営状態に関心をもつようにしてください。
--

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 受け入れ先企業において、夏季休暇中に15コマ相当の研修を行う。 前期授業期間中に事前説明会を行い、受け入れ企業を決定する。受講を希望する学生は、事前説明会に必ず出席すること。 受け入れ先企業が決まるまで、夏季休暇中の予定を空けておくこと。 参考までに、2019年度の受け入れ先企業とそれぞれの実習期間は以下の通りである。 志摩スペイン村:9月3日(火)～9月7日(土) 伊勢かぐらばリゾート千の柱:8月19日(月)～8月23日(金) 鳥羽シーサイドホテル:8月23日(金)～8月27日(火) 伊勢安土桃山文化村:8月12日(月)～8月16日(金) 戸田家:8月12日(月)～8月16日(金) ねむりリゾート:8月27日(火)～8月31日(土) わんわんパラダイス:9月5日(木)～9月9日(月)
--

テキスト・教材（参考文献含む） 大学からは特になし。受け入れ先企業から資料が配布される場合がある。
--

担当者から一言 学生の現地研修と言っても、客から見れば企業の一員である。社会人としての自覚をもって研修に臨むこと。また、事前の説明会に無断欠席、遅刻した場合、頭髪や服装に問題がある場合、あるいは留学生で日本語能力が著しく不足する場合は実習に参加させないことがある。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 グループ分け、グループワークの説明 第3講 ビジネスマネジメントの実際 第4講 ビジネスマネジメントの実際 第5講 ビジネスマネジメントの実際 第6講 ビジネスマネジメントの実際 第7講 プレゼンテーション 第8講 中間試験 第9講 経営分析の視点と方法 第10講 収益性の分析 第11講 収益性の分析 第12講 安全性の分析 第13講 安全性の分析 第14講 生産性の分析 第15講 不確実性の分析 定期試験 第2講～第6講 グループワーク、第7講 プレゼンテーション

テキスト・教材（参考文献含む） 講義資料は毎回プリントを配布する。 (参考文献) 桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。
--

担当者から一言 本講義で学習する経営分析の知識は社会に出てから自社やライバル企業の経営状態を分析する際に不可欠です。すなわち、ビジネスの世界で活躍するために必要な知識です。

マーケティング演習	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
岡 良浩・岩崎祐子・西浦尚夫	GSHM1008	後学期	選 択

授業のねらい 本科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。 マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客にニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング＝市場調査と思っても良いでしょう。 ここでは「じばさん三重」で行われている物販事業をとりあげ、その物販会場で来場者を対象とした市場調査を行います。調査結果をもとに顧客のニーズを探ったうえで、報告書を作成し発表していただきます。

到達目標 本科目の到達目標は以下の3点です。 ① 市場調査の一連の技法を身につけること (調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案) ② 調査の過程で、実際の市場関係者の考え方を理解すること ③ 市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 定期試験(レポート試験) 50% 参加態度 50% 全期間を通じて、その都度、理解度を確認しながらすすめます。
--

事前・事後学習 予習:配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分) 復習:学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)

おもてなし特別講義 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岩崎祐子・岡 良浩	GSHM1009	前学期	選 択

授業のねらい 本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見ることがこの講義のねらいである。 企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。
--

到達目標 ・おもてなし経営の成功事例を理解する。 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用(普遍化)を考察する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業中に作成するレポート(40%)、グループワーク・発表(30%)、定期試験(30%)により評価します。 授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。
--

事前・事後学習 日頃から、「おもてなし」をキーワードに企業経営、サービス、観光に関するニュースに目を通すようにして下さい(30分、週3日以上)。 授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください(90分)。
--

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1回 ガイダンス 9/28 第2回 調査概要と担当者の割り振り 10/5 第3回 調査集計の方法 10/12 第4回 地場産品の学習 10/19 第5回 調査実施のロールプレイング 10/26 第6回 調査実習と入力作業の最終確認 11/2 第7回～11回 調査実習※ 第12回 調査票の入力 12/14 第13回 調査票の集計 12/21 第14回 調査報告書の作成 1/4 第15回 調査結果の発表 1/18 ※調査実習 期間中のじばさん三重の出店会場に出向き、受講生が市場調査を実施する。 日程などは講義中に調整する。参考として2019年度は以下のとおり。 10/29(火)8:30～17:00地場産業めぐり 11/1(金)13:00～17:00三重北勢地域の地場産品フェアin金山 11/2(土)13:00～17:00三重北勢地域の地場産品フェアin金山 11/10(日)9:00～19:00御在所SA物産店 11/29(金)8:30～17:00地場産業めぐり 11/30(土)10:00～17:00じばさん市 12/1(日)10:00～17:00じばさん市
--

テキスト・教材（参考文献含む） テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布します。
--

担当者から一言 学外の実際の会場で調査をします。貴重な体験の場になります。意欲ある学生の参加を期待しています。
--

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1回 ガイダンス 第2回 外部講師による講義 第3回 授業中レポート 第4回 外部講師による講義 第5回 授業中レポート 第6回 外部講師による講義 第7回 授業中レポート 第8回 外部講師による講義 第9回 授業中レポート 第10回 外部講師による講義 第11回 授業中レポート 第12回 記事担当の学生の振り分け・記事の執筆 第13回 記事の執筆 第14回 記事の仮提出と指導 第15回 記事の発表 定期試験 第12回～第14回 グループワーク、第15回 プレゼンテーション ※日程は変更する可能性があります。 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。 ※履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。
--

テキスト・教材（参考文献含む） テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。 参照資料として三重県「三重のおもてなし経営企業選」のホームページを参照してください。

担当者から一言 第12講以降PC教室を使用するため、履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。 「外部講師による講義」の際にも積極的に質問してください。多くの企業や経営者との出会い、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。

おもてなし特別講義 b		科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
池田幹男・岩崎祐子・岡 良浩		GSHM1010	後学期	選 択
授業のねらい				
様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。				
到達目標				
情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法				
授業態度30％、教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション30％、最終レポート40％で採点します。教育支援システム(Moodle)を通じてフィードバックします。レポートの採点にはループリックを使用します。ループリックの基準については、教育支援システムで呈示します。				
事前・事後学習				
観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を日常的に調査してください。(毎日30分)				
観光英語 I ／英会話 a		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
エリック・ブレイ		GSET1001	前学期	選 択
授業のねらい				
In this class students will do listening activities and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious Intermediate level students who want to improve their English skills. このTravel English科目は1年生から参加できますが、英語のレベルは中級～上級者向けです、初級者は先に基礎英語 1, 2 とEnglish Communication 1, 2 の受講を推奨します。				
到達目標				
The goal of this class is to help students prepare for experiences as tourists or as workers abroad. As English is a commonly used language in many countries, the focus will be on helping students develop the English skills useful in a variety of situations and also help students understand the customs and values of people in English speaking countries.				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法				
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%) , as well as the quality of their written work (60%) . Feedback will be given on a regular basis.				
事前・事後学習				
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson(90 minutes).				
授業の位置づけ				
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授 業 計 画				
第1講 ガイドンス 第2講 「おもてなし」と情報技術 第3講 おもてなしとロボット 第4講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として) 第5講 観光資源としてのロボット 第6講 インターネットとクラウドシステム 第7講 キャッシュレス決済 第8講 ビッグデータ 第9講 AI(音声合成、音声認識) 第10講 AI(対話システム、翻訳、ディープラーニング) 第11講 デジタルサイネージ 第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1) 第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2) 第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3) 第15講 フリーディスカッション				
テキスト・教材 (参考文献含む)				
教材は、教育支援システム(Moodle)を通じて呈示します。				
担当者から一言				
この授業は、コンピュータでの入力が必要となるので、人数に制限があります。最初の授業には必ず出席してください。 この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じてフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。				
授業の位置づけ				
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授 業 計 画				
Week 1 - Introduction/Guidance Week 2 - Talking about likes and dislikes Week 3 - Talking about genre Week 4 - Giving a summary 1 Week 5 - Giving a summary 2 Week 6 - Giving your reaction 1 Week 7 - Giving your reaction 2 Week 8 - Making a Prediction 1 Week 9 - Making a Prediction 2 Week 10 - Talking about culture 1 Week 11 - Talking about culture 2 Week 12 - Talking about people - Appearance 1 Week 13 - Talking about people - Appearance 2 Week 14 - Talking about a movie you saw Week 15 - Review and Reflect 定期試験				
テキスト・教材 (参考文献含む)				
Textbook: Movie Time! Publisher: Nan'un-do Publishing				
担当者から一言				
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。				

観光英語Ⅱ／英会話b エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1002	後学期	選 択

授業のねらい

In this class students will do listening activities and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious intermediate level students who want to improve their English skills. このTravel English科目は1年生から参加できますが、英語のレベルは中級～上級者向けです、初級者は先に基礎英語1、2とEnglish Communication 1、2の受講を推奨します。

到達目標

The goal of this class is to help students prepare for experiences as tourists or as workers abroad. As English is a commonly used language in many countries, the focus will be on helping students develop the English skills useful in a variety of situations and to understand the customs and values of people in English speaking countries.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%) , as well as the quality of their written work (60%) . Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習

Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes).

コンピュータ英語I/英語でメモ・e-mail 柴田啓文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1003	前学期	選 択

授業のねらい

インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、ニュース・サイトやクラウドに関わる英語の基本を学びます。また、PythonやRのプログラミングも体験します。さらに、Excelの使用法に関わる英語を学び、毎回のノートとExcelで提出します。
コンピュータとインターネットと英語を同時に学びたいという学生のみなさんのための授業です。

到達目標

1. コンピュータ、インターネットに関わる基本的な英語を理解できる。
2. Excelに関わる基本的な英語を理解できる。
3. プログラムに関わる基本的な英語を理解できる。
4. インターネットを利用して、基本的な英語情報を収集できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出と小テストなどによります。提出ノートのや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

事前・事後学習

英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSを眺めてください。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

Week 1 – Introduction/Guidance
Week 2 – Talking about likes and dislikes 2
Week 3 – Talking about genre 2
Week 4 – Giving a summary 3
Week 5 – Giving your reaction 3
Week 6 – Making a Prediction 3
Week 7 – Talking about culture 3
Week 8 – Talking about people - Character 1
Week 9 – Talking about people - Character 2
Week 10 – Talking about Proverbs
Week 11 – Talking about World Languages
Week 12 – Talking about Countries
Week 13 – Talking about Music
Week 14 – Talking about a movie you saw 2
Week 15 – Review and Reflect
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

Textbook: Movie Time!
Publisher: Nan'und-do Publishing

担当者から一言

この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。
第2回 教育支援システムの利用法。
第3回 ニュースの英語(毎回)、英語辞書と翻訳サイトの使用法。
第4回 Excelの英語の基礎1：基本的な使用法。
第5回 Excelの英語の基礎2：高齢化グラフの作成。
第6回 イラスト作成の英語の基礎1：Inkscapeの描画。
第7回 イラスト作成の英語の基礎2：Inkscapeで名刺作成。
第8回 写真編集の英語の基礎：Gimpでクリーニング。
第9回 PythonとRの英語の基礎1：基本的な集計。
第10回 PythonとRの英語の基礎2：モンティホール問題。
第11回 PythonとRの英語の基礎3：サイコロの同じ目がでる確率。
第12回 会話ロボットのプログラムの基礎。
第13回 株や仮想通貨の英語の基礎。
第14回 経済の英語の基礎：自然エネルギーによるパワー・シフト。
第15回 まとめ。
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

使用しません。

担当者から一言

学習支援システム(Moodle)を利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語の基礎を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。
事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。

コンピュータ英語Ⅱ／英語でコンピュータ 柴田 啓文		科目 ナンバリング GSET1004	1 年次 後学期	2 単位 選 択
授業のねらい インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、ニュース・サイトやクラウドに関わる英語を学びます。また、PythonやRのプログラムも作成します。さらに、Excelの使用法に関わる英語を学び、毎回のノートとExcelで提出します。 コンピュータとインターネットと英語を同時に学びたいという学生のみなさんのための授業です。				
到達目標 1. コンピュータ、インターネットに関わる英語を理解できる。 2. Excelに関わる英語を理解できる。 3. プログラムに関わる英語を理解できる。 4. インターネットを利用して、英語情報を収集できる。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点50％と学期末試験50％により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出と小テストなどによります。提出ノートのや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。				
事前・事後学習 英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSを眺めてください。				
英語表現Ⅰ／英語で映画 ゴードン・リース		科目 ナンバリング GSET1005	2 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい Presentation Skills and Performance In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook, but we will also use graded readers which are novels or short stories that have been abbreviated for EFL learners. Students will be expected to make short presentations and group performances based on the reading in class. この講座は英語のプレゼンテーション・スキルとパフォーマンス能力を身につけるための講座です。				
到達目標 1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 観光英語の知識を身に付けるとともに、日本文化をより深く理解する。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 学習態度 15％ Summer vacation- speaking test 10％ Favourite restaurant speech 10％ Hometown speech 25％ WHS pres 40％				
事前・事後学習 1. 講座が始まる前に基礎英語のテキストを復習する。 2. プリントを配布しますので、ファイル(A4)を用意する。 3. After each class, spend 90 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises we covered in the lesson. In addition, try and spend about 90 minutes by preparing and reading ahead				
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授 業 計 画 第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。 第2回 教育支援システムの利用法。 第3回 ニュースの英語(毎回)、英語辞書と翻訳サイトの使用法。 第4回 Excelの英語の基礎1：基本的な使用法。 第5回 Excelの英語の基礎2：グラフの作成。 第6回 イラスト作成の英語の基礎1：InkscapeのText。 第7回 イラスト作成の英語の基礎2：Inkscapeでアニメーション。 第8回 写真編集の英語の基礎：Gimpのフィルター。 第9回 PythonとRの英語の基礎1：基本的な集計。 第10回 PythonとRの英語の基礎2：日本の高齢化。 第11回 PythonとRの英語の基礎3：世界の高齢化。 第12回 会話ロボットのプログラムの英語の基礎。 第13回 株や仮想通貨の英語。 第14回 経済の英語：自然エネルギーによる「パワー・シフト」。 第15回 まとめ。				
テキスト・教材（参考文献含む） 使用しません。				
担当者から一言 学習支援システム(Moodle)を利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語の基礎を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。 事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。				
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授 業 計 画 1. Guidance/ Radio Thriller 2. Radio Thriller- Final performance/ Start Sherlock Holmes- The Red Headed League 3. Sherlock Holmes- The Red Headed League 4. Sherlock Holmes- The Red Headed League (Quiz 1) 5. Sherlock Holmes- The Red Headed League-Radio drama 6. Drumtown Girls- Reading 7. Drumtown Girls- Reading(Quiz 2) 8. The Bank 9. 学外授業-演劇観戦 10. The Bank 11. The Bank 12. The Bank- Final Performance 13. Demonstration speech- preparation 14. Demonstration speech- preparation 15. Demonstration speech-preparation 16. Demonstration speech 学外授業という形で外国人の劇団の英語劇をクラス全員で見に行く予定をしている。交通費、入場料、食事代等は学生の負担になる。事情によって、学外授業を実施しない場合、または予定を変更する場合がある。ご了承ください。				
テキスト・教材（参考文献含む） Discovering Cool Japan Akiko Tsuda Seibido 2019 2,700 yen				
担当者から一言 皆さんと楽しく授業をしたいです。以下のルールを守って下さい。授業にテキストとプリントを整理するためのファイルを持ってこない学生は欠席扱いになります。Bring a dictionary to class! 5回以上欠席すると単位がもらえません。履修者が20名を超えると抽選になります。				

英語表現Ⅱ／英語でドラマ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1006	後学期	選 択

授業のねらい
注意。この授業は映画を見る授業ではありません！ 演劇を通じて、学生の英語コミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙い。学生が英語を使って、スキットを演じることがメインです。毎回テキストのスキットを読みながら、スキットに出てくる英文法を説明して、スキットの内容確認する。そのあと、学生にスキットの役を与えて、練習を行う。次の授業までにセリフを覚えてもらって、授業にスキットを演技する。沢山の台詞を覚える必要があるので、毎回単語テストと台詞テストを実施する。

到達目標
1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法	
学習態度	15%
Skit performances(6)	30%
台詞テスト/単語テスト	25%
Reader's Theatre- Slow Food	30%

事前・事後学習
1. 英和辞典は必携。 2. プリントを配布しますので、ファイル(A4)を用意する。 3. Spend 90 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises covered in the previous class, as well as read aloud the skits that were explained.

ビジネス英語Ⅰ デイビッド・ダイクス	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1007	前学期	選 択

授業のねらい
ホテルや旅行代理店など、様々な観光業界に就職したプロの意見を交えながら、「おもてなし」の現場ならではの英語を身に付けるための授業。 The aim of this course is to master the kind of English widely used in the "hospitality scene" of the tourism and travel-related working world. We will also read about the experiences of people who have jobs in this area.

到達目標
訪日観光客を相手に、交通、宿泊施設、観光地などについての案内や、日本食、伝統文化体験、お土産などの説明に必要なスキルをみがくことが大きな目標です。 The main target in this course is to polish up skills needed to offer visitors practical guidance in areas such as transportation, accommodation and sightseeing, and information about things such as food, cultural experiences and shopping.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法	
20% for BEFORE-CLASS / IN-CLASS performance	
40% for Short tests	
40% for End-of-term exam	
I'm happy to respond to questions or comments.	
For written comments, I normally answer within a week.	

事前・事後学習
BEFORE CLASS (90 min.)
[1] Fill in "Vocabulary Check" & "Pre-Activity"(30).
[2] Pre-read "Reading for Information"(30).
[3] Follow travel-related media topics(30).
AFTER CLASS(about 90 min.)
[1] Check you understood everything.
[2] Try to memori

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1. Guidance/Course Introduction/ Ice Breaker 2. A New Host Skit 3. A New Host Skit- Performance #1 4. Asking Permission and Learning the Rules 5. Asking Permission and Learning the Rules- Performance #2 6. Asking Permission and Learning the Rules- Performance #3 7. Talking About Time and Schedules 8. Talking About Time and Schedules- Performance #4 9. Talking About Time and Schedules-Performance #5 10. Meet Kim 11. Meet Kim 12. Meet Kim-Skit- Performance #6 13. Start Slow Food reader's theatre activity 14. Slow Food practice 15. Reader's Theatre- Slow Food 16. Final Test- Reader's Theater- Slow Food

テキスト・教材（参考文献含む）
Performance David Harrington and Charles Le Beau Language Solutions Inc. 2,600 yen

担当者から一言
積極的に授業に参加する学生を歓迎します。 1. 授業にテキストを持ってこない学生は欠席扱いになります。 2. 2回遅刻すると1回の欠席になります。 3. 5回以上欠席すると単位がもらえません。 履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1 Guidance. Example topic: "Transportation" 2 "At a hotel check-in counter" 3 "Hotel facilities and services" 4 "Giving directions" 5 "Recommending a trip" 6 "Dining in Japan"(1) 7 "Dining in Japan"(2) 8 "Arranging a tour" 9 "Staying at a ryokan inn" 10 "Culture experience in Japan"(1) 11 "Culture experience in Japan"(2) 12 "Japanese souvenirs" 13 "Health problems and emergencies" 14 "Complaints and accidents" 15 "Departure". Final review. Week 16: End-of-term exam

テキスト・教材（参考文献含む）
上杉恵美、阿部佳、涓東史江、松島康彦、神末武彦、Jacob Schere 著、 "Hospitality on the Scene" 金星堂、2018年、定価:2,200円(税別)

担当者から一言
[1] 科目の履修を決めしだい、テキストを早めに買うこと。 [2] この科目用のホルダー(また、ノート)を用意すること。 [3] ふつうは、欠席・遅刻しない。おたがいに責任感を示す。 [4] 活発に有意義な授業になるように！

ビジネス英語Ⅱ／ビジネス英語	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
デイビッド・ダイクス	GSET1008	後学期	選 択

授業のねらい
In this class, we will practice the sort of English used in office work, at meetings, on business trips, in phone exchanges, for presentations, etc. Most of the practice is for listening and speaking communication, but there will also be some reading and writing tasks of the kind important for work, and a lot of business vocabulary. Most lessons will feature workplace problems and ways of dealing with them, for example: how to keep a plan on schedule.

到達目標
The main target is to polish up skills for cooperating with coworkers in routine office duties, discussing work projects, making plans, and sharing information. Supportive and creative teamwork, information and goal sharing, and positive human relations, through the right words and actions, are targets that will be stressed all through.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
20% for BEFORE-CLASS / IN-CLASS performance 30% for Short tests 50% for End-of-term exam

事前・事後学習
BEFORE CLASS(90 min.) [1] Check “Vocabulary Preview” & “Grammar Point”(30). [2] Fill in "Grammar" page as far as you can(30). [3] Follow Business English media topics(30). AFTER CLASS(90 min.) [1] Check you understood everything. [2] Complete

検定英語Ⅰ	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
河野桂一	GSET1009	前学期	選 択

授業のねらい
この授業ではTOEICへの架け橋となるTOEIC Bridgeから学習を始めます。 単語・熟語、文法レベルなど易しめのTOEIC Bridgeの問題演習を通してTOEICに慣れることを目標とします。 4技能のうち特に「リーディング力」「リスニング力」アップにつながる授業です。 TOEICを受験したことがない人、受験したものの対策方法を見出したい人に向いています。

到達目標
この授業では、学生諸君が、 1. TOEICの問題形式になれること 2. TOEICの得点をアップできること を到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。 ・中間テストおよび受講態度：40％ ・定期試験：60％ 中間テストでは辞書（電子辞書可）の使用を認めます。 定期試験では辞書（電子辞書可）及び手書き自筆ノートの持ち込みを認めません。 中間テストの解説は翌週の講義（第7講）で行います。 6回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

事前・事後学習
テキスト購入後、音声ファイル無料ダウンロードを必ず行うこと。 事前学習として、授業で取り上げる各Unitのリスニング及びリーディングのVocabulary Checkを行い、Grammar欄を読んでおくこと(30分)。 事後学習として、授業で扱ったリスニングのスクリプトを見ながら音読を行い、リスニング及びリーディングの復習としてノートにまとめること(60分)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画
1 Guidance. Then small talk: "This is my first visit." 2 Questions: "How do you like Bangkok?" 3 Scheduling: "It's going well so far." 4 Reporting: "Have they decided on the design yet?" 5 Help: "Could you take a look at them?" 6 A problem: "My flight was canceled." 7 Explaining a task: "What do you want me to do?" 8 Poor human relations: "She knows marketing very well, but ..." 9 Recruiting: "Thank you for coming to our interview." 10 Marketing meeting: "The competition will be very strong." 11 Before a presentation: "This is where we hold meetings." 12 Presentation: "I'd like to talk about our latest model." 13 Good human relations: "You are much better than me." 14 Aiming for promotion: "If I were you, I wouldn't miss it." 15 Announcing: "I'd like to propose a toast." Then review. Week 16: End-of-term exam

テキスト・教材（参考文献含む）
角山照彦、Simon Capper 著:"Let's Read Aloud More" 成美堂、2016年、定価:2,200円(税別)

担当者から一言
[1] 科目の履修を決めしだい、テキストを早めを買うこと。 [2] この科目用のホルダー(また、ノート)を用意すること。 [3] ふつうは、欠席・遅刻しない。おたがいに責任感を示す。 [4] 活発に有意義な授業になるように！

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス 授業の説明 第2講 Eating Out be動詞 第3講 Travel 一般動詞 第4講 Amusement 品詞 第5講 Meetings 自動詞・他動詞 第6講 Personnel 受動態 中間テスト 第7講 Shopping 代名詞 中間テスト解説 第8講 Advertisement 数えられる名詞、数えられない名詞 第9講 Daily Life 数量詞 第10講 Office Work To不定詞 第11講 Business 動名詞 第12講 Traffice 助動詞 第13講 Finance and Banking 前置詞 第14講 Media 接続詞 第15講 Health and Welfare 比較 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
林姿穂 西田晴美 Brian Covert「ブリッジから始めるTOEICテスト」 朝日出版社 定価1,980円(税込)

担当者から一言
講義では積極的に発音練習、音読トレーニングに取り組んでください。 遅刻、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話（スマホ）の使用は原則禁止します。

検定英語Ⅱ／資格のための英語 河野 桂一	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSET1010	後学期	選 択
授業のねらい この授業では、大学生にとって最も身近な資格試験であるTOEIC試験の対策を行います。			
到達目標 本授業では、 1. テスト形式に慣れ、実践力を養うこと 2. 解答のためのテクニックを身に付けること を目標にします。 使用するテキストは、TOEICスコア400点以上を目標とする学習者を対象にしたものです。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・中間テスト①②および受講態度：40％ ・定期試験：60％ 中間テスト①②では辞書（電子辞書可）の使用を認めます。 定期試験では辞書（電子辞書可）及び手書き自筆ノートを持ち込みを認めます。 中間テスト①②の解説は翌週の講義（第7講、第15講）で行います。 6回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。			
事前・事後学習 事前学習として、授業で取り上げる各UnitのSound Check及びGrammar Checkを読み、最後のKey Wordsを調べておくこと(30分)。 事後学習として、授業で扱ったリスニングのスクリプトを見ながら音読を行い、リスニング及びリーディングの復習としてノートにまとめること(60分)。			
メディアツール a 池田 幹男	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1001	前学期	選 択
授業のねらい ラスタ画像とベクトル画像の違いについて知り、Web用のベクトル画像として標準化されてSVG (Scalable Vector Graphie) について学びます。SVGファイルを編集するソフトウェアであるInkscapeを使用してベクトル画像編集の基礎を学びます。			
到達目標 Inkscapeを使用してロゴやアイコンのデザインができるようになることを目標にします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 業参加 30％，提出課題 70％で評価し、定期試験は実施しません。 フィードバックは教育支援システム(Moodle)を通じて実施します。			
事前・事後学習 授業のみでは操作に習熟することは不可能です。授業時間以外にもInkscapeを使用して操作に慣れるようにしてください。(週180分)			
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 授業の説明 第2講 Traffic 第3講 Weather & Events 第4講 Lunchtime 第5講 Hotels 第6講 Health 第7講 A New Life 中間テスト① 第8講 Job Hunting 中間テスト① の解説 第9講 Workplaces & Products 第10講 Customer Service & Office Crime 第11講 Office Messages 第12講 Ordering & Shipping 第13講 Business Trips 第14講 Success in Business 中間テスト② 第15講 中間テスト② の解説 定期試験			
テキスト・教材（参考文献含む） Terry O'brien 三原 京 他「TOEICテスト：チャレンジ400」南雲堂 定価2,090円(税込)			
担当者から一言 講義では積極的に発音練習、音読トレーニングに取り組んでください。 遅刻、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話（スマホ）の使用は原則禁止します。			
メディアツール a 池田 幹男	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1001	前学期	選 択
授業のねらい ラスタ画像とベクトル画像の違いについて知り、Web用のベクトル画像として標準化されてSVG (Scalable Vector Graphie) について学びます。SVGファイルを編集するソフトウェアであるInkscapeを使用してベクトル画像編集の基礎を学びます。			
到達目標 Inkscapeを使用してロゴやアイコンのデザインができるようになることを目標にします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 業参加 30％，提出課題 70％で評価し、定期試験は実施しません。 フィードバックは教育支援システム(Moodle)を通じて実施します。			
事前・事後学習 授業のみでは操作に習熟することは不可能です。授業時間以外にもInkscapeを使用して操作に慣れるようにしてください。(週180分)			
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 Windows PCを用いた演習を行います。 第1講 ガイダンス ラスタ画像とベクトル画像 第2講 SVG(Scalable Vector Graphic)について 第3講 ベジェ曲線を描く 第4講 ベジェ曲線の操作に慣れる 第5講 パスツールを使用して曲線を変更する 第6講 その他のInkscape組み込みの図形 第7講 文字の入力と配置 第8講 グループ化 第9講 図形の切り取りと併合 第10講 レイヤー 第11講 その他のInkscapeの機能 第12講 最終課題の制作(1) 第13講 最終課題の制作(2) 第14講 最終課題の制作(3) 第15講 最終課題の提出と参加者による講評 授業はいずれもPCを用いた実習です。			
テキスト・教材（参考文献含む） 全ての教材は四日市大学教育支援システム(Moodle)に提示します。 参考図書「できるクリエイターInkscape独習ナビ」インプレスジャパン 発行			
担当者から一言 InkscapeはGPLで配布されているソフトウェアで自由に使用することができます。可能ならば自分のPCにインストールしてInkscapeの様々な可能性に挑戦してください。			

メディアツール a		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
池上 貴文		GSMD1001	前学期	選 択
授業のねらい				
DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるドロー系ソフトの定番、Adobe社の「イラストレーター」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。				
到達目標				
ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法				
授業内の課題(100%)。 課題の講評によってフィードバックします。				
事前・事後学習				
世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。				

メディアツール a		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
都 映里		GSMD1001	前学期	選 択
授業のねらい				
Apple社Macintosh (Mac) でAdobe社IllustratorとPhotoshopを使用。メディアツール a では主にIllustratorの実習を通して、色や文字、レイアウト、デザインの基本を習得し、視覚効果を学びます。 *メディアツール a で得た知識と技術がメディアツール b で生きてきますので、b を受ける前に a を受けておくことを強く薦めます。				
到達目標				
インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。 どの分野の職業に進んでも、メディアツールで習得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。 提出課題と取り組み姿勢が成績評価の対象となります。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法				
出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄え・小テスト・取り組み姿勢すべての総合点。 課題提出がすべてであっても取り組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。 制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上をしてもらいます。				
事前・事後学習				
宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。 Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。				

授業の位置づけ				
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授 業 計 画				
Macを用いた演習を行います。 1. ガイダンス 2. 基本操作 3. 描画の基本 4. 自由曲線による描画 5. 色の指定、配色 6. 文字の入力、変形 7. イラストレーション 8. その他のツール 9. 写真の操作 10. 文章の編集 11. データの編集 12. デザインの実践1 13. デザインの実践2 14. オリジナル作品制作 15. 合評会				
テキスト・教材（参考文献含む）				
実習内容に応じて教員から参考資料、データなどを配布します。				
担当者から一言				
これまでコンピュータが苦手だった方でも、興味があれば大丈夫です！				

メディアツール a		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
都 映里		GSMD1001	前学期	選 択
授業の位置づけ				
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授 業 計 画				
Macを用いた演習を行います。 第1 講 ガイダンス・ファイル管理から課題提出までの流れ・Mac、Illustratorの基本操作 第2 講 色について・書体について 第3 講 トレーニング(回転・整列・パスファインダー・ペン・上下関係) 第4 講 四コマまんが(複製・移動・レイヤー) 第5 講 ログタイプ・ロゴマーク 第6 講 名刺(レイヤー・文字組み) 第7 講 ポストカード(画像補正・変換・配置・マスク) 第8 講 DM① 第9 講 DM② 第10 講 GIFアニメーション 第11 講 WEBバナー① 第12 講 WEBバナー② 第13 講 小テスト(筆記・実技) 第14 講 チラシ① 第15 講 チラシ②				
授業はいずれもMacを用いた実習です。 *欠席すると理解不十分となっていくので、やむを得ない場合以外は必ず出席すること。 *欠席した場合は、翌週までに欠席した分の講義内容を把握しておくこと。				
テキスト・教材（参考文献含む）				
教員が用意するもの、及び、目に映るすべてのもの。 配布されたものは必ずファイリングして講義時に持参。				
担当者から一言				
技術的なことだけでなく、楽しみながら表現に対しての考える力を身につけ、想像力を創造力にしていきたいと思います。				

メディアツールb 池田 幹 男	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位	授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
	GSMD1002	後学期	選 択	
授業のねらい コンピュータにおける色表現と、さまざまなカラーのラスタ画像ファイルフォーマットについて理解し、ラスタ画像編集ソフトウェアGIMPの使用方法について学び、色の変更、画像の変形、合成、フィルターなどの様々な画像処理について学びます。				
到達目標 GIMPを使用してラスター画像の色補正、画像の変形、合成など処理ができ、複数レイヤーを活用した画像が作れるようになることを目標とします。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業の演習課題(50%)と最終課題(30%)、授業への参加態度(20%)で評価します。定期テストは実施しません。フィードバックは教育支援システム(M o o d l e)を通じて実施します。				
事前・事後学習 GIMPの操作は簡単には身につきません。授業以外の時間にも操作して慣れるようにしてください。(週180分) GIMPは自由にインストールできるので、可能ならば自分自身のコンピュータで動かして操作してください。				
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授 業 計 画 Windows PCを用いた演習を行います。 第1講 ガイダンスとコンピュータでのラスター画像表現 第2講 レイヤー 第3講 フィルター 第4講 色の補正 第5講 パス 第6講 パスの編集 第7講 文字の入力と変形 第8講 レイヤーマスクとアルファチャンネル 第9講 スタンプを使用した画像の修正 第10講 画像ファイルへのエクスポートと注意点 第11講 GIMPのその他の機能 第12講 最終課題の制作(1) 第13講 最終課題の制作(2) 第14講 最終課題の制作(3) 第15講 最終課題の提出と講評 授業はいずれもPCを用いた実習です				
テキスト・教材（参考文献含む） GIMPの操作は簡単には身につきません。授業以外の時間にも操作して慣れるようにしてください。(週180分)				
担当者から一言 GIMPはGPLで配布されているソフトウェアで無料で使用することができます。可能ならば自分自身のPCにインストールしてGIMPの様々な可能性に挑戦してください。描きたい絵を描くことが、上達することです。				

メディアツールb 池上 貴 文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位	授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
	GSMD1002	後学期	選 択	
授業のねらい DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるペイント系ソフトの定番、Adobe社の「フォトショップ」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。				
到達目標 ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業内の課題(100%)。 課題の講評によってフィードバックします。				
事前・事後学習 世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。				
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授 業 計 画 Macを用いた演習を行います。 1. ガイダンス 2. 基本操作 3. 画像処理の基本 4. 選択範囲作成 5. 写真修正、画像合成コラージュ 6. 変形、拡大縮小と解像度 7. ペイント、色変換 8. 文字入力、加工 9. イラストレーション 10. フィルター、その他のツール 11. GIFアニメーション 12. デザインの実践1 13. デザインの実践2 14. オリジナル作品制作 15. 合評会				
テキスト・教材（参考文献含む） 実習内容に応じて教員から参考資料、データなどを配布します。				
担当者から一言 これまでコンピュータが苦手だった方でも、興味があれば大丈夫です！				

メディアツールb 都 映 里	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1002	後学期	選 択
授業のねらい Apple社Macintosh (Mac)でAdobe社PhotoshopとIllustratorを使用。 メディアツールbでは主にPhotoshopの実習を通して、画像補正・加工・編集の基本を習得し、視覚効果の表現を広げ、DTP、WEB、映像などのメディアに展開できる知識と技術を身につけます。 ＊メディアツールbではaで得た知識と技術が生きてきますので、bを受ける前にaを受けておくようにしてください。			
到達目標 インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。 どの分野の職業に進んでも、メディアツールで習得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。 提出課題と取り組み姿勢が成績評価の対象となります。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄え・小テスト・取り組み姿勢すべての総合点。 課題提出がすべてであっても取り組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。 制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上をしてもらいます。			
事前・事後学習 宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。 Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。			
メディアツールc 田 中 麻 衣	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1003	前学期	選 択
授業のねらい 今後、専門教育科目でメディアを学びたい学生に映像の基礎を勉強し、卒業論文へ向けてスキルを積み上げていきます。 この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。			
到達目標 Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者最終的には映像作品の制作が目標です。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 最終的にグループになって作品を1本作成してもらいます。 作品の出来栄え、授業に対する意欲、授業での態度などを総合評価し成績を出します。			
事前・事後学習 たくさんの映像作品にふれてもらいたいので、Youtubeにアップロードされているもの、TVドラマ、CM、ドキュメンタリー、映画など、最低でも1日に1本程度みることを準備学習とします。			
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 Macを用いた演習を行います。 第1講 ガイダンス・ファイル管理から課題提出までの流れ・Mac、Photoshopの基本操作、色補正 第2講 移動・選択・テキスト・レイヤー・レイヤー効果 第3講 画像データの修正 第4講 ロゴタイプ・ロゴマーク 第5講 ロゴタイプを使ったデザインカード 第6講 切り抜きと合成(トレーニング) 第7講 映画広告① 第8講 映画広告② 第9講 WEBサイトデザイン①(素材収集) 第10講 WEBサイトデザイン②(素材・部品作り) 第11講 WEBサイトデザイン③(レイアウト) 第12講 小テスト(筆記・実技) 第13講 スライドショー①(素材作り) 第14講 スライドショー②(素材作り) 第15講 スライドショー③(編集)			
授業はいずれもMacを用いた実習です。 ＊欠席すると理解不十分となっていくので、やむを得ない場合以外は必ず出席すること。 ＊欠席した場合は、翌週までに欠席した分の講義内容を把握しておくこと。			
テキスト・教材（参考文献含む） 教員が用意するもの、及び、目に映るすべてのもの。 配布されたものは必ずファイリングして講義時に持参。			
担当者から一言 技術的なことだけでなく、楽しみながら表現に対しての考える力を身につけ、想像力を創造力にしていきたいと思います。			
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。			
授 業 計 画 Macを用いた演習を行います。 第1回:ガイダンス／自己紹介 第2回:色んな種類の映像を楽しむ 第3回:Premiere Pro「動画を編集するとは？」 第4回:Premiere Pro「動画素材／インターフェイスについて」 第5回:Premiere Pro「基本操作1」 第6回:Premiere Pro「基本操作2」 第7回:Premiere Pro「基本操作3」 第8回:Premiere Pro「Premiere Proその他の機能紹介」 第9回:Premiere Pro「応用編1」 第10回:Premiere Pro「応用編2」 第11回:Premiere Pro「応用編3」 第12回:動画制作に向けての企画 第13回:動画制作に必要な素材収集／撮影 第14回:動画制作1 第15回:まとめ／作品発表会			
テキスト・教材（参考文献含む） 必要に応じてプリントを配布します。			
担当者から一言 大学卒業後、映像業界へ進む方、編集に興味がある人に、少しでも学んだ事をいかしてもらえそうな授業をしたいと思います。 一緒に、学びましょう。			

メディアツール d	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
関根辰夫	GSMD1004	後学期	選 択

授業のねらい Apple社の音楽制作ソフトであるGarageBandをツールとして使い、楽器を演奏できない人でも自己表現の一つとしての音楽を作り出すことができるようにする。また映像に合わせて音楽やSE(効果音)などを編集する基礎を学ぶ。

到達目標 音源制作の基礎を学びオリジナルの音源を作り上げる力を身につける。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回の実習態度及び課題や作品づくりを通して評価します。 定期試験は行いません。 作品づくり 1 (15%)、作品づくり 2 (30%) 毎回の課題(55%) その場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日フィードバックします。
--

事前・事後学習 毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にし、不明な点は参考文献などで調べておくこと - 60分) またiPhoneやiPad版のGarageBandもあるので、持っている人はMacintosh版との共通点や異なる点を意識しつつ復習や予習のツールにする。(毎日30分程度) メディアツールの a、b を先行して履修し、Macintoshの操作には慣れていることが望ましい。
--

Webデザイン a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
池田幹男	GSMD1005	後学期	選 択

授業のねらい World-Wide Webの基本であるHTML (Hyper Text Markup Language) とCSS (Cascading Style Sheet) について学び、実際にウェブページをデザインします。
--

到達目標 HTMLとCSSについて理解し、スタイルシートを持ち、ページ間でリンクがあるウェブページを実際に作製できるようになることを目標とします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業態度30%、提出物30%、総合演習40%で評価し、定期試験は実施しません。

事前・事後学習 W3Cの仕様書などを授業の開始前後に読んで、各々のHTML要素・アトリビュート・CSSプロパティの意味を予習復習し、仕様書内の例を実際に表示して実習してください。(週180分)

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス(履修者選抜のくじ引き)/音楽の基礎 第2講 GarageBand体験 第3講 Apple Loops の検索、配置 第4講 Apple Loops 編集、オーディオ化など 第5講 作品づくり 構想、企画 第6講 作品づくり 打ち込み 第7講 作品づくり ミキシング～作品提出～発表 第8講 既成の曲の取り込み/編集 第9講 生音の録音/編集 第10講 エフェクトについて 第11講 ミキシングについて 第12講 作品づくり 2 構想、企画 第13講 作品づくり 2 打ち込み等 第14講 作品づくり 2 ミキシング～作品提出 第15講 発表～まとめ 授業はいずれもMacを用いた実習です。 履修希望者が20名を超えていた場合、第1 講においてクジ引きで受講者を選びます。 第1 講を欠席・遅刻した学生は、自動的に受講できなくなると考えてください。
--

テキスト・教材（参考文献含む） 配布するプリント

担当者から一言 音楽を作るには楽器ができないと無理だと考えるかもしれませんが、今ではコンピューターを使い楽器の演奏ができなくても、音楽作品を作ることが可能です。この講義では音楽の理論の基礎も少しずつ学びながら、簡単な楽曲を仕上げる力を養います。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
--

授 業 計 画 Windows PCを用いた演習を行います。 第1講 ガイダンス e-Learning (Moodle)の使用法 第2講 HTML(1):見出しと段落(h1、h2、h3、p) 第3講 HTML(2):字体の変更(em、strong)と特殊な文字の表示方法 第4講 HTML(3):画像の埋め込み(img) 第5講 HTML(4):箇条書き(ul、ol、li) 第6講 HTML(5):リンク(a) 第7講 HTML(6):表の作製(table、tr、th、td) 第8講 CSS(1):フォントと文字のスタイル 第9講 CSS(2):色、背景のスタイル 第10講 CSS(3):ボックスモデル 第11講 CSS(4):スタイルシートのその他のプロパティ 第12講 総合演習(1) 第13講 総合演習(2) 第14講 総合演習(3) 第15講 総合演習(4) 授業はいずれもPCを用いた実習です。
--

テキスト・教材（参考文献含む） テキストは使用しません。学習支援システム(Moodle)を使用して呈示します。W3C (World Wide Web Consortium), http://www.w3.org/にある仕様を参考にしてください。
--

担当者から一言 「Webプログラミング a」を受講した後で履修することを推奨します。Webシステムである学習支援システム (Moodle) を使用して、授業を進めていきます。また、MoodleでのHTML要素、CSSプロパティを検証することは授業の理解の役に立ちます。

Webデザイン a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
堀内敬弘	GSMD1005	後学期	選 択

授業のねらい

この授業では主にWebデザインやHTML、CSS言語の役割などWebサイト制作の仕組みとWebサイト制作の背景について授業を行います。
例えば、どのような仕組みでWebサイトは構築され、どのような手順で製作されているのでしょうか。
Webサイトは現代でどのような役割を担い、どのような影響をもたらしているのでしょうか。
こういったWebサイトの背景を事例を通して知ること、時代とデザインの密接な関係性に気付き、表現方法を身につけ、Webデザインに対する関心を高めてもらう事をこの授業の狙いとしています。

到達目標

この授業では、学生諸君がWebサイト製作、デザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトへの制作ができるようになる事を到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・ 授業時に指示する簡単な課題の提出状況及び受講態度:20%
・ 授業ごとに行う簡易的なプレゼンテーションへの積極的な参加態度:20%
・ 全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度:60%
・ 定期試験:定期試験はありません

事前・事後学習

日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度)
上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

Webデザイン b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
堀内敬弘	GSMD1006	前学期	選 択

授業のねらい

この授業ではWebデザインaで学習したHTML・CSSのスキルを活かして実際の現場のようなWebデザイン業務を疑似体験しながらデザイン・構築・納品までのプロセスを学びます。
例えば、数人1組で制作チームを作り、架空のクライアントの要望に対してチーム対抗でコンペを行います。
先生はその制作のプロセス、デザイン、マークアップクオリティ、プレゼンテーション能力から総合評価。
生徒による個人票投票の総合で最も優秀なWebページを選定します。

到達目標

チームで丸となり一つのものを作り上げることでそのプロセスの楽しさ、大変さ、協調性、達成感などWebデザインにおける真の醍醐味を体験して頂くことを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・ 授業時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:10%
・ 第15講にプレゼンを行う課題の提出状況および制作のクオリティとプレゼン力:90%

事前・事後学習

日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度)
上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

Macを用いた演習を行います。
第1講<ガイダンス> 先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/これからのWEBデザイン/体験してみよう
第2講 Webデザインとは /Webサイトの構造
第3講 HTML・CSSとは / 実践の準備をしよう
第4講 ナビゲーション・ヘッダー制作1
第5講 ナビゲーション・ヘッダー制作2
第6講 ナビゲーション・ヘッダー制作3
第7講 ナビゲーション・ヘッダー制作4
第8講 メインビジュアル制作
第9講 新着情報コンテンツ(2カラム)制作1
第10講 新着情報コンテンツ(2カラム)制作2
第11講 1カラムレイアウト制作1
第12講 1カラムレイアウト制作2
第13講 2カラムレイアウト制作1
第14講 2カラムレイアウト制作2 / フッターレイアウト制作1
第15講 フッターレイアウト制作2

テキスト・教材 (参考文献含む)

なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言

パソコンが得意でなくてもいいです。絵にセンスがなくてもいいです。Webデザインはセンスは必要ありません。必要なのは学びたいと言う気持ちと受講を決めるあなたの行動力です。
先生と一緒にモノづくりの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

Macを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド
第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とヒヤリング
第3講 ワイヤフレーム制作(Photoshop)
第4講 ワイヤフレーム制作(Photoshop)
第5講 デザイン制作(Photoshop)
第6講 デザイン制作(Photoshop)
第7講 デザイン制作(Photoshop)
第8講 HTML・CSSマークアップ
第9講 HTML・CSSマークアップ
第10講 HTML・CSSマークアップ
第11講 HTML・CSSマークアップ
第12講 HTML・CSSマークアップ
第13講 HTML・CSSマークアップ/マークアップ調整
第14講 マークアップ調整/プレゼンテーション準備
第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ
授業はいずれもPCを用いた実習です。

テキスト・教材 (参考文献含む)

なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言

Webデザイン aを受講済みの生徒へオススメする授業です。Webデザイン aを受講されていない生徒でもあらかじめHTML・CSSの理解がある場合は受講をオススメします。
Webデザイン aで学習したHTML・CSSを活かしてチームで1つのWebサイトを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。

Webプログラミング a	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
片山 清和・前川 督雄	GSMD1007	後学期	選 択
授業のねらい ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学ぶ演習科目です。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。			
到達目標 HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 「提出物」(60%)、「作品」(40%) 提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。			
事前・事後学習 講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること(60分) 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと(120分)。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング b」で学習します。			
Webプログラミング b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
池田 幹 男	GSMD1008	前学期	選 択
授業のねらい この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれらを操作するプログラミングや、CanvasAPIを使用したグラフィックを操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。			
到達目標 JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回の授業の演習課題(70%)と、授業への参加態度(30%)で評価します。定期テストは実施しません。教育支援システム(Moodle)を通じてフィードバックします。			
事前・事後学習 教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developer での解説や例を予習(毎週90分)復習(毎週90分)することを推奨します。また、例題もとに新しいプログラムを自分の力で作るとより理解が深まります。			

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授 業 計 画 Windows PCを用いた演習を行います。 第1講 ガイダンス、WWWとWeb 第2講 HTML概要 第3講 画像とリンク 第4講 リストとナビゲーション 第5講 表組み 第6講 フォーム 第7講 CSS概要 第8講 見出しと段落 第9講 boxモデル 第10講 ページ全体のレイアウト 第11講 リストとナビゲーションのスタイリング 第12講 表のスタイリング 第13講 問合せフォーム 第14講 Webサイト制作(1) 第15講 Webサイト制作(2)
テキスト・教材（参考文献含む） 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書」 技術評論社 ￥2,680＋税
担当者から一言 プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。
授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授 業 計 画 Windows PCを用いた演習を行います。 第1講 ガイダンス e-Learning の使用法 第2講 JavaScript を使用した動的なウェブページの例 第3講 getElementById, getElementsByTagName, setInterval 第3講 JavaScript(式と変数) 第4講 JavaScript(関数) 第5講 JavaScript(繰り返し) 第6講 JavaScript(イベントとイベントハンドラ) 第7講 JavaScriptによるHTMLの操作 第8講 JavaScriptによるCSSの操作 第9講 Canvas APIの解説 第10講 Canvas APIプログラミング 1 第11講 Canvas APIプログラミング 2 第12講 自由課題(1) 第13講 自由課題(2) 第14講 自由課題(3) 第15講 自由課題(4) 授業はいずれもP Cを用いた実習です。
テキスト・教材（参考文献含む） 教育支援システム(Moodle)を通じて、資料やインターネット上の情報、プロトタイプを提供します。
担当者から一言 「Webプログラミングa」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分らなくなります。

インターネット論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
片山 清和	GSMD1009	前学期	選 択

授業のねらい
現在、スマホからパソコンに至るまでほとんど全てのコンピュータがインターネットでつながっている。そのインターネットを使って、電子メールを送受信したり、LINEなどのSNSを利用したりしています。この講義では、コンピュータネットワークの基礎知識と動作原理を最新の動向も含めて講義します。

到達目標
①インターネットの仕組みを説明できる。 ②TCP/IPモデルを説明できる。 ③ネットワーク機器の動作を説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
「レポート・小テスト」(40%)、「定期試験」(60%) レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。

事前・事後学習
講義前にはテキストを読んてくること(60分)。 講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと(120分)。

政策科学入門	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
永井・奥原・鬼頭・小林・高田・鶴田・富田・中西・本部・松井・三田	PFC1001	前学期	必 修

授業のねらい
この講義では、総合政策学部の専門教育科目を学ぶ上で必要となる「準備」をします。1冊のテキストを総合政策学部の教員が分担して講義します。既に高校で学習した内容も含まれていますが、大学生となった今、再度、各テーマをじっくり捉え、理解して下さい。また、この講義で紹介される用語は基本中の基本なのでしっかりと覚えていきましょう。

到達目標
学部の専門教育科目を学んでいくために必要となる基本的な用語や、現在の問題点や考え方を理解できるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価は、講義への参加意欲、講義で課すレポート等(75%)、学期末試験(25%)で総合評価します。なお、担当教員からレポートの内容をもとに学生に対して総合的なコメントを返します。

事前・事後学習
準備学習：テキストを読んておくこと(60分) 事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ作成すること(90分) なお、レポートの提出はその週の金曜日の16:00まで、提出先は教務課のレポートボックスです。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス、インターネットの歴史 第2講 ネットワークの基礎知識(1) 第3講 ネットワークの基礎知識(2) 第4講 ネットワークの基礎知識(3) 第5講 信号の伝送と衝突(1) 第6講 信号の伝送と衝突(2) 第7講 信号の伝送と衝突(3) 第8講 IPアドレッシング(1) 第9講 IPアドレッシング(2) 第10講 ルーティング(1) 第11講 ルーティング(2) 第12講 コネクションとポート番号(1) 第13講 コネクションとポート番号(2) 第14講 コネクションとポート番号(3) 第15講 まとめ 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
網野衛二 著 「[改訂新版]3分間ネットワーク基礎講座」 ¥1,780+税 【参考文献】 三上信男 著 「ネットワーク超入門講座 第3版」 SBクリエイティブ ¥1,980+税

担当者から一言
インターネットは現代社会を支える極めて重要な要素です。内容はやや専門的で難しく感じるかもしれませんが、皆さんが楽しく受講できるように、身近な事例を多く紹介します。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画
第1講 4/8 ガイダンス 永井 第2講 4/15 市民の社会① 永井 第3講 4/22 市民の社会② 松井 第4講 4/29 政治のしくみ① 中西 第5講 5/13 政治のしくみ② 中西 第6講 5/20 政治のしくみ③ 小林 第7講 5/27 経済のしくみ① 鶴田 第8講 6/3 経済のしくみ② 奥原 第9講 6/10 中間テスト 永井ほか 第10講 6/17 国際社会のなりたち① 富田 第11講 6/24 国際社会のなりたち② 鶴田 第12講 7/1 環境問題① 本部 第13講 7/8 環境問題② 鬼頭 第14講 7/15 現代の社会 三田 第15講 7/22 分野説明 小林・高田・鶴田 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
土屋彰久著「公民のおさらい」自由国民社(2010年) 1,200円(税別)

担当者から一言
4年間の学部での学修の基本になる大切な必修科目です。欠席や遅刻せずに必ず出席し、しっかりと15週間学んでください。

総合政策論Ⅰ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
永井・岡良・奥原・鬼頭・小林慶・富田・中西・フェハリー・本部・松井・三田・若山	PFC2001	後学期	必修

授業のねらい
総合政策とは、経済学や法学といった特定の学問領域のことではなく、まず、社会的な課題があり、それを色々な人や組織がそれぞれに持てる力を合わせて解決する、あるいはその解決策を見出していこうとすることです。この講義と2年前期の総合政策論IIでは、総合政策学部の教員が自己紹介をかねて、自分の考える「総合政策論」を持ち回りで担当するので、皆さんも「総合政策とは何か」を考えてください。

到達目標
各教員の取り組む研究テーマについてその概要を理解するとともに、2年次以降の履修について考えるための基礎力を身につけることです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価方法：各講で課す小レポート(75%)期末試験(25%) 課題：各講で課す小レポート フィードバック方法：各講の担当教員は提出されたレポートに対する講評を作成し、期末試験時に発表する。

事前・事後学習
準備学習：新聞やニュースに目を通しておくこと(30分) 事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ、独自に調べた情報と合わせて作成すること(90分) なお、レポートの提出はその週の金曜日の16：00まで、提出先は授業課のレポートボックスです。

総合政策論Ⅱ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
鶴田・岡良・加納・小泉・リース・小林慶・富田・中西・本部・松井	PFC2002	前学期	必修

授業のねらい
この「総合政策論Ⅱ」は、1年次後期の「総合政策論I」に引き続いて各教員が専門としているテーマについてできるだけやさしく講義し、皆さんの学問への興味を高めることがねらいです。

到達目標
各教員の取り組む研究テーマについてその概要を理解すること、そして、今後、指導を受けたいと思う教員を見つけることが、本講義の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価方法：各講で課す小レポート(75%)期末試験(25%) 課題：各講で課す小レポート フィードバック方法：各講の担当教員は提出されたレポートに対する講評を作成し、期末試験時に発表します。

事前・事後学習
準備学習：新聞やニュースに目を通しておくこと(30分) 事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ、独自に調べた情報と合わせて作成すること(90分) なお、レポートの提出はその週の金曜日の16：00まで、提出先は授業課のレポートボックスです。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画
第1講 9／29 永井 「総合政策論Ⅰ・Ⅱのガイダンス」 第2講 10／6 鬼頭 「総合政策学部と大学祭①」 第3講 10／13 鬼頭 「総合政策学部と大学祭②」 第4講 10／20 フェハリー「場所の哲学」 第5講 10／27 三田 「誕生日の力」 第6講 11／10 奥原 「会計の目的とは」 第7講 11／17 中西 「都市計画とまちづくりの関係」 第8講 11／24 高田 「恋と文学と男と女」 第9講 12／1 岩崎祐子 「アジアの世紀」 第10講 12／8 若山 「米国野球界の人材育成」 第11講 12／15 本部 「道路はどのようにして造られるのか?～道路計画学のすすめ～」 第12講 12／22 松井 「市民活動とは何か」 第13講 1／5 岡 「観光とまちづくり」 第14講 1／12 奥原 「会計情報は、どのように役立つのか」 第15講 1／19 永井 「沖縄学入門——沖縄と考える」 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。資料を配布することがある。

担当者から一言
全体の総括は代表教員(永井)が行いますが、各教員が自分の担当部分については責任を持って講義し評価します。提出されたレポートの採点結果が成績評価の重要な要素になるので、しっかり時間をかけて書き上げてください。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画
第1講 4／13 鶴田 「ガイダンス」 第2講 4／20 小林 「B-1 グランプリって何だ!？」 第3講 4／27 富田 「リアリティーの境界」 第4講 5／11 富田「フェイク・ニュースの怖さ」 第5講 5／18 リース 「米国のファストフードと肥満の問題」 第6講 5／25 リース 「Super Size Me !」 第7講 6／1 加納 「異文化理解の進め」 第8講 6／8 加納 「多文化共生社会と異文化コミュニケーション」 第9講 6／15 松井 「本気で社会を変える」 第10講 6／22 岡 「おもてなし経営とは何か」 第11講 6／29 中西 「環境基本法の捉え方」 第12講 7／6 本部 「地方鉄道の利用促進を図るには」 第13講 7／13 小泉 「高齢期における機能的自立維持に必要な身体運動」 第14講 7／20 小泉 「Well-Rounded Exercise」 第15講 7／27 鶴田 「消費税率はなぜ10%になったのか?」 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。教員がレジメを配布することがある。

担当者から一言
全体の総括は学部長が行うが、各教員が自分の担当部分については責任を持って講義し評価します。提出されたレポートの採点結果が成績評価の重要な要素になるので、しっかり時間をかけて書き上げてください。

基礎演習 a 奥原 貴士	科目 ナンバリング PSS2001	2 年次 前学期	2 単位 必 修
授業のねらい 企業の財務諸表は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しているが、こうした会計情報を読み取るには、財務諸表がどのようにして作成されているのかを理解していなければなりません。そこで本講義は、簿記の技術を身につけること、および会計学の基礎知識を習得することを目的とします。そして、日商簿記検定等の資格取得も目指します。			
到達目標 簿記・会計の基本的な知識を習得し、財務諸表を的確に読み取ることができるようになることを到達目標とします。これらは、専門演習での学習のベースとなります。 また、日商簿記検定等の資格取得も目指していきます。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価方法 平常点(授業への積極的な参加、発表内容、発言回数など) 80% 課題レポート 20% なお、発表・発言については適宜コメントをします。			
事前・事後学習 新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。(毎日90分以上)			
基礎演習 a 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング PSS2001	2 年次 前学期	2 単位 必 修
授業のねらい 自ら学び、情報収集し、論理的な文章を書き、わかりやすくプレゼンし、積極的に議論するという、大学生としての学びの基礎を身に付ける演習である。具体的には、前半は、パワーポイントを活用して各自設定したテーマについてプレゼン(スライド20枚程度で5分間の発表)する。後半は、新聞を読んで「手書き」で資料をまとめ、自分なりの考えをまとめる作業を行う。就職活動では、手書きで論文を書いたり、自己PRをしたりすることが多くなる。ゼミの後半では手書きで文章を綴る機会を多く持ち、自分を表現する能力を磨く。			
到達目標 人前で自分を表現する度胸をつけ、実際にプレゼンを完成させることを目標とする。また、アナログな手書きで自己表現する能力を身につけることも大切な目標である。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や課題への取り組み(5割)により総合評価する。 課題は、添削やコメントを記して返却する。			
事前・事後学習 ゼミは演習形式で各自が自分で課題に取り組むことになる。授業時間内では、課題の基本的な取り組み方を教員や学生間で議論するなどし、次の講義までに課題をまとめ上げることを繰り返していく。準備学習に必要な時間は、学生ごと、課題ごとに異なるが、15週間でトータル30～50時間を要する。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 簿記の演習 第3講 簿記の演習 第4講 簿記の演習 第5講 簿記の演習 第6講 簿記の演習 第7講 簿記の演習 第8講 簿記の演習 第9講 会計学の基礎 第10講 会計学の基礎 第11講 会計学の基礎 第12講 会計学の基礎 第13講 会計学の基礎 第14講 会計学の基礎 第15講 会計学の基礎			
テキスト・教材(参考文献含む) テキストはゼミが進んでから指定する。 講義資料はプリントを適宜配布する。 (参考文献) 『合格テキスト日商簿記3級』、『同2級』ITAC株式会社。 谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社。 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣。			
担当者から一言 簿記、会計学の講義回数に関しては、受講生との話し合いにより変更する可能性があります。 発表、ディスカッションへの積極的な参加を希望します。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 1. ガイダンス 自己紹介でプレゼンテーションを練習(自己紹介と互いのコメント) 2. 顔写真入り自己紹介をPCで作成(PC教室) 3. プレゼンのテーマ決定(PC教室) 4. パワポ講義(ウィザードで流れをつくる)(PC教室) 5. 写真や図をネットから引用して貼り付け(PC教室) 6. パワーポイント作成作業(PC教室) 7. プレゼン仕上げ(PC教室) 8. 発表前半(報告5分+質疑応答5分)感想シートの記入(PC教室) 9. 発表後半(報告5分+質疑応答5分)感想シートの記入(PC教室) 10. 自己PRの練習 11. 専門基礎演習説明会 12. 手書きで文書作りⅠ 自己紹介と「くるくるコメント」 13. 手書きで文書作りⅡ 新聞をよんでまとめる 14. 手書きで文書作りⅢ 新聞をよんでまとめる 15. 打ち上げ懇親会(お茶とお菓子とお話と)			
テキスト・教材(参考文献含む) 講義の中でプリントを配布する。			
担当者から一言 大学での学修に必要な基本的なコミュニケーション、情報収集・整理などを、楽しく学んでいこう！			

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
小泉 大 亮	PSS2001	前学期	必 修

授業のねらい

本演習では、自身で学習・調査した内容を相手に説明や表現するスキルの向上をねらいとして、学習していきます。特に「健康とスポーツ」をテーマにして、テーマに関する資料や文献などの情報収集方法、レポートへのまとめ、プレゼンテーション資料の作成に至る発表スキルの向上を目指していきます。

到達目標

1) 学術論文・統計資料の「検索」・「収集」・「分析」・「まとめ」など、論文やレポート作成に必要な基礎的なスキルを身につける。2) プレゼンテーション技法(スライド作成やレジュメ作成)を身につける。3) 健康スポーツ科学に関する基礎知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。
・授業への取り組み姿勢(レポート・発表などの準備):50%
・レポート・発表:50%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

授業の際に、健康やスポーツに関する話題やトピックスなどを各々発表してもらうので、それらに関連する新聞記事や雑誌などを調べて、数分程度で発表できるようにまとめておくこと(準備学習 15分/日)
発表資料やレポート作成などの課題があるので、授業までにしっかりと準備するように(60分)

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
小林 慶 太郎	PSS2001	前学期	必 修

授業のねらい

この演習では、将来、地方公務員や地域密着型の企業・団体等での就職を目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取り組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。

到達目標

この演習では、地方公務員の仕事や組織に関する基本的な知識を身につけ、地域の抱えている様々な課題とその解決に向けた取り組みを知ることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回出席することが基本です。無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・自身の担当回のレジュメ作成への取り組み姿勢:50%
・受講態度および授業中の課題への取り組み状況:50%
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

事前・事後学習

公務員の仕事や組織について扱う回については、各人がいずれかの回を分担して、データや基本情報等を調べ、レジュメを作成して提出してもらいます(360分程度)。
毎回欠かさず復習をし、分からなかったことを、そのまま分からないままにしないようにしてください(120分程度/回)。
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいってください(15分以上/日)。

授業の位置づけ
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画

第1講	ガイダンス 演習の概要
第2講	健康増進とスポーツ
第3講	高齢期における身体運動
第4講	調査資料の検索方法について
第5講	調査資料の収集方法について
第6講	調査資料の整理方法について
第7講	学術論文・文献の読み方
第8講	文献のまとめ方と発表の練習(アクティブラーニング)
第9講	レポートの書き方・作成方法
第10講	レポートの作成・プレゼン資料の作成
第11講	レポートの作成・プレゼン資料の作成
第12講	発表・報告①(アクティブラーニング)
第13講	発表・報告②(アクティブラーニング)
第14講	発表・報告③(アクティブラーニング)
第15講	授業のまとめ

テキスト・教材 (参考文献含む)

なし(必要に応じてプリントを配布します)
【参考文献】
竹島伸生、ロジャース・マイケル編集「高齢者のための地域型運動プログラム理論と実際」(有)ナッパ社(2006年)

担当者から一言

健康科学やスポーツ科学に関連する最新の話題やトピックスなどは、インターネットやマスメディアを通して広く情報発信されています。日頃から積極的な情報収集を心がけ、疑問や課題を追求しましょう。

授業の位置づけ
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画

第1講	ガイダンス
第2講	火事と救急出動(プレゼンテーションとディスカッション)
第3講	消防士と消防団員(プレゼンテーションとディスカッション)
第4講	防災・危機管理(プレゼンテーションとディスカッション)
第5講	事件と事故(プレゼンテーションとディスカッション)
第6講	警察と公安委員会(プレゼンテーションとディスカッション)
第7講	消防士・警察官になるために
第8講	公共事業と社会資本(プレゼンテーションとディスカッション)
第9講	地域経済と産業振興(プレゼンテーションとディスカッション)
第10講	スポーツと健康づくり(プレゼンテーションとディスカッション)
第11講	地元企業で働くために
第12講	子育てと福祉(プレゼンテーションとディスカッション)
第13講	文化・市民活動(プレゼンテーションとディスカッション)
第14講	多文化共生と人権(プレゼンテーションとディスカッション)
第15講	自治体行政職員になるために

※ 夏休みには、ゼミ旅行も予定したいと思います。

テキスト・教材 (参考文献含む)

テキスト:なし(必要に応じて、適宜プリントを配布します)
参考文献:新藤宗幸『日曜日の自治体学』東京堂出版、2013年、2,200円＋税

担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
高田 晴 美	PSS2001	前学期	必 修

授業のねらい 日常にあふれる様々な言葉や表現、物語は、人のどのような意識のもと発せられているのか。言葉や文化、作品の創作や享受の裏には、どのような時代状況・社会状況の反映があるのか。流行語や近現代の文学作品を取り上げ、これらの分析を通して、人間・人生・人間関係のあり方、社会の模様について考えを深めることを試みます。作品等に向き合うことで、「読む」「調べる」「分析する」「問題を見つける」「論じる」「文章にまとめる」「口頭発表する」「議論する」といった能力を鍛えましょう。

到達目標 ・読解力、解釈力、問題発見力、言葉に対する感性を養う。 ・自分の考えを文章にまとめて論じたレジュメを作成できるようになる。 ・口頭発表や質疑応答などの議論のスキルを身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ・発表(レジュメ内容、口頭発表の仕方、質疑応答の様子) 40% ・毎回の取り組み姿勢(発言意欲、コメント内容など) 60% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。 授業内で適宜コメントします。
--

事前・事後学習 基本的には、2週で1セットとなっています。1週目はみんなでテキストを読んでコメントを出し合い、2週目に発表担当者がレジュメを準備したうえで口頭発表します。発表担当者は相当の時間（1週間程度は毎日数時間ずつ）をかけて準備をすること。発表担当者以外も、与えられたテキストにまつわる情報（作者の情報、関連作品について等）を収集しておくこと(30分程度)。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
鶴田 利 恵	PSS2001	前学期	必 修

授業のねらい この授業では、“マンガ”で描かれたテキストを使って基本的な経済学の考え方を理解します。経済学は、「難しそうな言葉や複雑な計算がたくさん出てきそうだ」と思われがちですが、いくつかのキーワードを理解しておけば、数学ができなくても十分に理解できる学問です。また、そのようにして習得した経済学的な思考を使って、現実に行き起きている経済問題について考えていく力をつけてもらうことが、この授業のねらいです。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標 まずは、何がわからないかを声にだしてみましょう。その上で、経済学の基本的な考え方を習得し、テレビや新聞で報道されている経済問題を理解し、さらにその問題について自分の意見を言えるようになることを、到達目標とします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業内での報告や発言内容70％、レポート(2回)30％。 なお、2回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。

事前・事後学習 日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。授業後、その日読んだマンガのテキストを必ず読み返し、どんなことを話し合ったかを思い出す(30分以上)。
--

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス、文学ネタで自己紹介プレゼン 第2講 「○○女子」「△△男子」問題①——皆で考える 第3講 「○○女子」「△△男子」問題②——発表 第4講 「女子○」「男子○」問題①——皆で考える 第5講 「女子○」「男子△」問題②——発表 第6講 小説A①——読む・意見交換 第7講 小説A②——発表・議論 第8講 句会 第9講 マンガ①——読む・意見交換 第10講 マンガ②——発表・議論 第11講 ビブリオバトル(書評合戦)①——説明 第12講 小説B①——読む・意見交換 第13講 小説B②——発表・議論 第14講 ビブリオバトル②——実践 第15講 ビブリオバトル③——実践
--

テキスト・教材（参考文献含む） 演習で扱う作品のテキストは、プリントにして配布します。 その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。

担当者から一言 法律や制度とは離れたところで日常に隠されている問題を見つけること、普段自分から出会うことはなかなかない文学作品を読むこと、そしてそれを誰かと共有して語り合うことは、刺激的な体験となりえます。みんなで面白がりをましょう。
--

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 経済学って何をしようとする学問なの？ 第3講 モノの値段は何をもとに決まっている？ 第4講 「コスト＝費用」についての経済学的な考え方とは？ 第5講 マクロ経済学・ミクロ経済学って何？ 第6講 ニュースでよく出てくるGDP(国内総生産)って何？ 第7講 「日本はデフレ」ってどういう意味？ 第8講 ケインズって誰？ レポート提出① 第9講 「超低金利政策」って何？どうしてそんなことするの？ 第10講 消費したほうがいい？それとも貯蓄したほうがいい？ 第11講 財政政策って何？ 第12講 そもそもお金って何？ 第13講 金融政策って何？ 第14講 良いインフレと悪いインフレがあるらしい？レポート提出② 第15講 まとめ
--

テキスト・教材（参考文献含む） コピーを配布します。 使用テキスト:井堀利宏「大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる」KADOKAWA(2017年)1,200円(税抜き)

担当者から一言 わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	富田 与 PSS2001	前学期	必修

授業のねらい この演習では国際情報の性質を考えていきます。実際の授業では、具体的な報道記事を材料に、「誰が、何を、どう表現し」、それを「誰が、どのように受容したか」を、できるだけ一次資料にまで遡って分析し、その上で、入手できた資料を使いオリジナルの記事を作成してみましょう。最後の2回ではオリジナルの記事の合評会を予定しています。作業は留学生と日本人学生の混成グループにより進めることとし、作業中の使用言語は日本語と英語のみとします。
--

到達目標 1、一次資料に遡れる調査能力の獲得 2、資料に基づくレポート作成能力の獲得 3、多言語コミュニケーション能力の獲得 4、プレゼンテーション能力の獲得
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。授業中に発表してもらった課題(50%)を評価の対象とし、グループ作業への参加度(50%)を加味して総合評価とします。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習 各回の内容に応じて、次のような準備が必要になります。 1、材料とする報道記事の検索(1時間) 2、報道記事の分析(1時間半) 3、一次資料の調査(2時間) 4、発表資料の作成(2時間)

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	中西紀夫 PSS2001	前学期	必修

授業のねらい この演習では、まず、自己紹介によるスピーチの練習から始めていきたいと考えております。最近の学生で多くみられる傾向として、メールなどでの簡単な会話は問題ないのですが、実際の面と向かっての会話は、苦手な学生が多いように思えますので、この点の改善には、各講のテーマに関係なく意識して時間を使いたいと思います。ここでは、ニュースや新聞などで話題となっているような社会問題を素材として扱います。
--

到達目標 各自が設定したテーマに基づき、資料収集が出来ることはもとより、きちんとしたレジュメの作り方や報告方法までを到達目標とします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20% 報告で使用したレジュメや提出したレポートについては、その都度、指導します。

事前・事後学習 毎日、新聞を読むこと(1日20分)はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話しますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業計画 第1講:ガイダンス 第2講:報道記事を解剖する(講義) 第3講:出来事の選択 第4講:記事の持ち寄り 第5講:記事の選択(グループ作業) 第6講:記事の解剖(グループ作業) 第7講:情報源の特定(グループ作業) 第8講:資料の抽出(グループ作業) 第9講:資料の持ち寄り 第10講:資料の評価 第11講:記事作成のための資料選択(グループ作業) 第12講:オリジナル記事の構成(グループ作業) 第13講:オリジナル記事の作成(グループ作業) 第14講:合評会 第15講:合評会
--

テキスト・教材（参考文献含む） 特に指定しない。

担当者から一言 ひとつの報道記事には、いくつかの別の主体の判断や認識が含まれているのが一般的です。イメージと感情に偏りがちが最近の国際情報環境のなかで、細部にこだわった情報の読み取りを一度経験しておくことで、報道記事の見方もきっと変わると思います。

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 自己紹介(スピーチの練習) 第3講 資料の収集方法 第4講 レジュメの形式について 第5講 各自が注目した社会問題を意見交換(グループワーク) 第6講 研究テーマと概要を報告し、ミニレポートで提出 第7講 レジュメによる報告および意見交換① 第8講 レジュメによる報告および意見交換② 第9講 レジュメによる報告および意見交換③ 第10講 レジュメによる報告および意見交換④ 第11講 レジュメによる報告および意見交換⑤ 第12講 レジュメによる報告および意見交換⑥ 第13講 研究の進捗状況を報告し、ミニレポートで提出 第14講 討論会(テーマは多数決で決める) 第15講 まとめ、研究レポート提出
--

テキスト・教材（参考文献含む） 参考文献等は、必要に応じて紹介します。資料は適宜、配付します。
--

担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

基礎演習 a 松井真理子	科目 ナンバリング PSS2001	2 年次 前学期	2 単位 必修	授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。
授業のねらい 専門課程の学修の基礎力を養成するため、「社会課題の発見と解決」をテーマに、以下のことに取り組みます。 1 信頼できる資料を探して、わかりやすくまとめる。→資料を探す力、まとめる力 2 作成した資料を使って発表する →プレゼンテーション力 3 発表に基づき、学生同士が討論を行う →討論する力 4 政策づくり →企画力、文章作成力	授業計画 第1講 ガイダンス、自己紹介、グループづくり 第2講 「2050年の日本と世界」を調べる(人口、産業、気候変動等) 第3講 調査の発表とディスカッション(1) 第4講 調査の発表とディスカッション(2) 第5講 調査の発表とディスカッション(3) 第6講 調査の発表とディスカッション(4) 第7講 調査の発表とディスカッション(5) 第8講 調査の発表とディスカッション(6) 第9講 中間まとめ(1) 第10講 中間まとめ(2) 第11講 未来に向けた楽しい政策づくり(企画案検討1) 第12講 未来に向けた楽しい政策づくり(企画案検討2) 第13講 未来に向けた楽しい政策づくり(レポート作成1) 第14講 未来に向けた楽しい政策づくり(レポート作成2) 第15講 全体まとめ			
到達目標 1 資料を深く読み、自分で考えることができる。 2 わかりやすい資料を作成し、発表できる。 3 他者への質問力を付け、討論ができる。 4 テーマについて、論理的な文章を作成できる。 5 社会課題に関心を持ち、取り組むことができる。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業の取り組み姿勢 80% レポートの内容 20% なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。	テキスト・教材（参考文献含む） 参考文献を必要に応じて紹介します。			
事前・事後学習 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)	担当者から一言 専門分野の学問の入口です。問題意識を持つこと、わかりやすいプレゼンテーションをする力、集団討論の力は、就職にも必ず役に立つはずです。			
基礎演習 a 三田泰雅	科目 ナンバリング PSS2001	2 年次 前学期	2 単位 必修	授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。
授業のねらい この演習は、現実の出来事を手がかりに世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。前学期は社会に関するデータ収集の基礎と論説文の書き方を学びます。論説文の書き方は、レポートはもちろんプレゼンテーションの基本でもあります。自分の考えを正確にわかりやすく伝える力を高めましょう。	授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 文章の基本 第3講 段落をつくる1 第4講 段落をつくる2 第5講 文をつくる1 第6講 文をつくる2 第7講 文章をつくる 第8講 接続詞を学ぶ 第9講 文章に根拠をもたせる1 第10講 文章に根拠をもたせる2 第11講 文章に根拠をもたせる3 第12講 レジュメの作り方 第13講 レポートの書き方 第14講 レポート構想発表 第15講 まとめ			
到達目標 原稿用紙のマス目を埋めるだけの作文を卒業し、論理を備えた文章作成能力を身につけましょう。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 期末レポート25%、課題30%、授業への参加度45%で評価します。ゼミでは期末レポート作成の準備を進めながら、進捗報告を行ないます。各報告は教員を含めて全員でディスカッションします。	テキスト・教材（参考文献含む） 授業内で資料を用意する。			
事前・事後学習 新聞やニュースに目を通しておくこと(1日30分)	担当者から一言 実践する演習です。学生諸君の積極的な参加を期待します。			

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2001	前学期	必修
若山 裕晃			

授業のねらい
本演習では、スポーツ科学に関連した文献講読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成する。
到達目標
文献検索や資料作成等、研究を進めるための基礎的な手法を習得する。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法
課題文献の解説・要約 (50%)、レポート (50%)。レポート等の評価は個別に開示する。
事前・事後学習
予習として、課題文献に関連した資料収集を実施しておくこと (90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと (90分)。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必修
奥原 貴士			

授業のねらい
企業の財務諸表は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しているが、こうした会計情報を読み取るには、財務諸表がどのようにして作成されているのかを理解していなければなりません。そこで本講義は、簿記の技術を身につけること、および会計学の基礎知識を習得することを目的とします。そして、日商簿記検定等の資格取得も目指します。
到達目標
簿記・会計の基本的な知識を習得し、財務諸表を的確に読み取ることができるようになることを到達目標とします。これらは、専門演習での学習のベースとなります。 また、日商簿記検定等の資格取得も目指していきます。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点 (授業への積極的な参加、発表内容、発言回数など) 80% 課題レポート 20% なお、発表・発言については適宜コメントをします。
事前・事後学習
新聞や雑誌などで企業の会計数値 (売上高や利益額など) を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。(毎日90分以上)

授業の位置づけ
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探索する能力を身につける。

授業計画
第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 レポートのテーマ検討 第3講 レポートのテーマ検討 第4講 スポーツ科学とは 第5講 文献講読・討論 第6講 文献講読・討論 第7講 文献講読・討論 第8講 文献講読・討論 第9講 文献講読・討論 第10講 文献講読・討論 第11講 文献講読・討論 第12講 文献講読・討論 第13講 文献講読・討論 第14講 文献講読・討論 第15講 総括及び夏期休暇課題の説明

テキスト・教材 (参考文献含む)
特に指定しないが、適宜指示する。

担当者から一言
毎回担当者を決めて、課題文献の解説をしてもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。

授業の位置づけ
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探索する能力を身につける。

授業計画
第1講 ガイダンス 第2講 簿記の演習 第3講 簿記の演習 第4講 簿記の演習 第5講 簿記の演習 第6講 簿記の演習 第7講 簿記の演習 第8講 簿記の演習 第9講 会計学の基礎 第10講 会計学の基礎 第11講 会計学の基礎 第12講 会計学の基礎 第13講 会計学の基礎 第14講 会計学の基礎 第15講 会計学の基礎

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキストはゼミが進んでから指定する。 講義資料はプリントを適宜配布する。 (参考文献) 『合格テキスト 日商簿記 3 級』、『同 2 級』TAC株式会社。 谷武幸・桜井久勝編著『1 からの会計』中央経済社。 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣

担当者から一言
簿記、会計学の講義回数に関しては、受講生との話し合いにより変更する可能性があります。 発表、ディスカッションへの積極的な参加を希望します。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	鬼頭 浩 文	PSS2002	後学期 必 修
授業のねらい 自分を表現する能力を、具体的に自己PR大会などを通じて磨き上げる。また、新聞を使ったレポート作成やテーマ・課題を設定した小論文作成を行う。また、就職活動でよく質問される「大学時代に打ち込んだこと」を肉付けするために、積極的に課外活動を行う。具体的には、地域のイベントに実行委員として参加したり、大学祭などで学生が自ら企画して実行したりする。この演習は、専門演習の準備段階と位置づけ、コミュニケーション能力の向上とチームワーク作りにも力を入れていく。			
到達目標 新聞・テレビなどの報道を理解し、自分の力で考え、文章として書きあげる。そして、インパクトのあるプレゼンで魅力的に人に伝える能力を身に着けることが、この2年後期のわが鬼頭ゼミ；専門基礎の到達目標である。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、ゼミでの提出物（5 割）と、プレゼンテーション（5 割）から総合的に判断する。 課題は、添削やコメントを記して返却する。			
事前・事後学習 ニュースや新聞、ネットなどから1 週間の社会の動きを調べる学習に1 時間ほどかけること。また、第8～13回の小論文作成特訓では、事前に課題の予告（どんな分野の課題を出すか）をするので、それに関してネットで2時間ほどをかけて調べておくこと。			
基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	小泉 大 亮	PSS2002	後学期 必 修
授業のねらい 本演習では、論文作成やプレゼンテーションの基礎的な能力を養成する。テーマとして、「健康」「身体運動」を取り上げ、レポート作成、発表、討論を行う。			
到達目標 資料（書籍・雑誌・新聞記事・論文等）を整理し、レポートやプレゼンテーションにまとめて発表できる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・授業への取り組み姿勢（レポート・発表などの準備）：50% ・レポート・発表：50% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 論文抄読用の資料準備（90分） 発表用のレジュメやスライドの準備（90分）			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 1. ガイダンス；顔見せと自己紹介 2. 自己紹介を手書きで作ろう 3. 自己PR大会（一人5分で自己PR） 4. たこ焼き・ワッフル模擬店経営を通して経済を学ぶ 5. 新聞を読もう①気になる記事をまとめる（手書きレポート800字） 6. 新聞を読もう②気になる記事について考えを書く（手書きレポート800字） 7. 新聞を読もう③気になる記事の考察（手書きレポート1200字） 8. 小論文作成特訓&ディスカッション①：400字原稿用紙×3枚 9. 小論文作成特訓&ディスカッション②：小論文に関する討論 10. 小論文作成特訓&ディスカッション③：400字原稿用紙×3枚 11. 小論文作成特訓&ディスカッション④：小論文に関する討論 12. 小論文作成特訓&ディスカッション⑤：400字原稿用紙×3枚 13. 小論文作成特訓&ディスカッション⑥：小論文に関する討論 14. コミュニケーション能力を身につける演習 15. プレゼン能力を身に付ける演習 ★毎ゼミの最初の10分で、1 週間に起こった時事問題についてディスカッションする。			
テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。			
担当者から一言 ゼミの無断欠席は厳禁。鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。			
基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1 講 ガイダンス 演習の進め方 第2 講 自己紹介 第3 講 資料の検索方法と資料の整理方法 第4 講 プレゼンテーション資料の作成と発表方法 第5 講 レポート・プレゼンテーション資料作成① 第6 講 レポート・プレゼンテーション資料作成② 第7 講 レポート・プレゼンテーション資料作成③ 第8 講 レポート・プレゼンテーション資料作成④ 第9 講 プレゼンテーション・質疑応答・討論（アクティブラーニング） 第10講 プレゼンテーション・質疑応答・討論（アクティブラーニング） 第11講 プレゼンテーション・質疑応答・討論（アクティブラーニング） 第12講 プレゼンテーション・質疑応答・討論（アクティブラーニング） 第13講 プレゼンテーション・質疑応答・討論（アクティブラーニング） 第14講 プレゼンテーション・質疑応答・討論（アクティブラーニング） 第15講 まとめ			
テキスト・教材（参考文献含む） なし			
担当者から一言 発表担当者は、責任を持って資料を準備するように			

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
小林慶太郎	PSS2002	後学期	必修

授業のねらい この演習では、将来、地方公務員や地域密着型の企業・団体等での就職を目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。
--

到達目標 この演習では、地方公務員の仕事や組織に関する基本的な知識を身につけ、地域の抱えている様々な課題とその解決に向けた取り組みを知することを、到達目標としています。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回出席することが基本です。無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・自身の担当回のレジュメ作成への取り組み姿勢:50% ・受講態度および授業中の課題への取り組み状況:50% なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

事前・事後学習 毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます(150分程度)。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください(30分)。
--

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
高田晴美	PSS2002	後学期	必修

授業のねらい 日本の近現代の文学作品を、より学術的に分析・考察していきます。前半は元ネタがある作品を読み、元ネタとの比較・分析をすることで作者の意図に迫るスキルを身につけます。後半は、単に作品だけを見るのではなく、作者や作品の背景を調べることで、より作品に対する理解を深め、そこから問題点を設定し自分なりの論点で論じていきます。前期の「基礎演習 a」よりさらに一歩専門的に進めて、学術的に論じるとはどういうことかを、試行錯誤しながら身に付けていきましょう。
--

到達目標 ・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。 ・口頭発表のスキルを向上させる。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ・毎回のコメントと受講態度 60% ・発表と質疑応答の内容 40% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。授業内で適宜コメントします。

事前・事後学習 ・毎回、次回までに読んでくるべき資料を配布するので、それを読む(約1時間)。 ・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも1週間前から入念な発表準備をする(毎日数時間×7日間)。
--

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 課題の設定 第3講 インターネット検索 第4講 データの収集 第5講 文献調査 第6講 論点整理 第7講 ヒアリング調査 第8講 情報整理 第9講 補充調査 第10講 レジュメ作成 第11講 レジュメ完成 第12講 パワーポイント 第13講 プレゼンテーション練習 第14講 プレゼンテーション実践 第15講 来年度に向けて ※ 基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。各回に扱う内容は、各人の興味関心などに応じて、上記とは変更することがあります。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表会「ジョイントセミナー」(有志のみ)を、それぞれ予定しています。
--

テキスト・教材 (参考文献含む) なし(必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。
--

担当者から一言 一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 小説A①ー本文パート1と元ネタとの比較分析 第3講 小説A②ー本文パート2と元ネタとの比較分析 第4講 小説A③ー本文パート3と元ネタとの比較分析 第5講 小説A④ー本文パート4と元ネタとの比較分析 第6講 小説A⑤ー作品全体を論じる 第7講 歌会 第8講 小説B①ー作品を読む 第9講 小説B②ー作者や作品の時代背景などを調べる 第10講 小説B③ー作品を論じる 第11講 小説B④ー作品を論じる 第12講 小説C①ー作品を読む 第13講 小説C②ー作者や作品の時代背景などを調べる 第14講 小説C③ー作品を論じる 第15講 小説C④ー作品を論じる

テキスト・教材 (参考文献含む) 演習で扱う作品のテキストは、プリントにして配布します。その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。
--

担当者から一言 「基礎演習 a」では1つ1つの作品にはそれほど時間をかけませんでしたが、「基礎演習 b」では1つの作品にじっくりと向き合い、調べたり論じたりするという経験値を上げていきます。作品にどっぷりと付き合い、あーだこーだと考えることの楽しさを味わいましょう。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	鶴田 利恵	PSS2002 後学期	必修
授業のねらい この授業では、経済学のテキストを使い、基礎演習aで学んだ内容を復習するとともに、より広い範囲の経済理論を理解することを目的とします。鶴田による解説だけではなく、常に自分たちの意見や疑問点を出し合い、ディスカッションすることによって幅広い視野を身につけていきましょう。			
到達目標 基本的な経済理論と、身の回りで話題になっている経済問題を理解する。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業内での報告や発言内容70%、レポート(2回)30% なお、2回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。			
事前・事後学習 日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。授業後、その日読んだテキストを必ず読み返し、どんなことを話したかを思い出す(30分以上)。			
基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	富田 与	PSS2002 後学期	必修
授業のねらい この演習では、「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ことを考えていきます。 「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ためには、観察力と論理的思考が必要になります。授業では、現代アート作品(写真)を使って、「疑問」を見つけるための観察力の養い方を実践します。一方、論理的思考は文章を作成するなかで養われます。観察の中で見つけた「疑問」を文章で表現し、更に、関連の調査を通して、解答可能な「問題提起」に仕立てていくことにしたいと思います。			
到達目標 到達目標は「0.5秒で質問が作れるようになる」です。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポート、口頭発表:50% 議論への参加:50% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 授業の中で課題を出すので、次の授業までに報告できるように準備してください(180分)。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 マクロ経済学とGDP(国内総生産) 第3講 三面等価の原則と物価指数 第4講 ケインズ経済学とGDPの決定 第5講 財市場と貨幣市場の均衡 IS-LMモデル 第6講 家計の消費行動と企業の投資行動 第7講 政府の役割 第8講 財政政策とクラウディングアウト レポート提出 第9講 貨幣の役割 第10講 金融政策 第11講 インフレとデフレ 第12講 バブル経済とその崩壊 第13講 貿易の利益と比較優位の原則 第14講 国際収支と為替レート 第15講 経済統合と通貨統合 レポート提出			
テキスト・教材 (参考文献含む) コピーを配布します。 使用テキスト：井堀利宏「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」株式会社KADOKAWA(2019年)1,500円(税抜き)			
担当者から一言 わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。			
基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	富田 与	PSS2002 後学期	必修
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 アートの写真①-1 第3講 アートの写真①-2 第4講 アートの写真②-1 第5講 アートの写真②-2 第6講 「疑問」を表現する 第7講 合評会① 第8講 合評会② 第9講 「疑問」から「問題提起」へ 第10講 「問題提起」を表現する 第11講 解答を探してみよう① 第12講 解答を探してみよう② 第13講 合評会 第14講 「問題提起」から「結論」までの構成 第15講 まとめ			
テキスト・教材 (参考文献含む) 特に指定しない。			
担当者から一言 前期は誰かによって表現されたものを使って、表現されたことのエビデンスを考えました。後期は、表現の動機づけともいえる疑問について考えます。教員を質問攻めにして下さい。			

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	中西 紀 夫	PSS2002	後学期 必 修
授業のねらい 基礎演習 b では、基礎演習 a でも重視した新聞・TV のニュース・インターネットなどのトップページで扱われているような社会問題を素材とします。ここでは、自分が興味を持ったテーマを可能な限り詳しく調べ、ある程度、高度な発表ができるようにすることを講義のねらいとします。			
到達目標 社会における法律に関する諸問題を、ある程度、自分で思考し解決しようとする取っ掛かりの部分を身に着けることに重点を置いていきます。最終的な到達目標は、発表や意見交換の方法を学ぶところまでを予定しています。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 新聞やニュースで取り上げられた事件などの当該規定を、必要に応じ六法で調べるのはもとより、ジュリストなどの判例集もできるだけ読む習慣を身につけてください。(毎回、予習90分と復習90分)			
基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	松井 真理子	PSS2002	後学期 必 修
授業のねらい 専門課程の学修の基礎力を養成するため、以下のことに取り組みます。 1 専門分野の入門的な文献を読み込む → 深く読む力 2 自分の分析を加えた資料を作成して発表する → 考える力、プレゼンテーション力 3 発表に基づきグループ討論を行う → 討論する力 4 グループ討論の内容を全体発表する → まとめる力、プレゼンテーション力 5 レポート作成 → 文章作成力・研究力			
到達目標 1 専門分野(社会課題への自発的な貢献)の基本を理解する。 2 資料を深く読み、整理し、自分で考えることができる。 3 わかりやすい資料を作成し、発表できる。 4 他者への質問力を付け、討論ができる。 5 テーマについて調査を行い、論理的な文章を作成できる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業の取り組み姿勢 80% レポートの内容 20% なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。			
事前・事後学習 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 社会問題①(スピーチの練習) 第3講 グループディスカッションの練習① 第4講 グループディスカッションの練習② 第5講 研究テーマと内容の報告① 第6講 研究テーマと内容の報告② 第7講 レジュメによる発表と質疑応答① 第8講 レジュメによる発表と質疑応答② 第9講 レジュメによる発表と質疑応答③ 第10講 レジュメによる発表と質疑応答④ 第11講 レジュメによる発表と質疑応答⑤ 第12講 社会問題②(発表の練習) 第13講 社会問題③(発表の練習) 第14講 意見交換の方法 第15講 まとめ、レポート提出			
テキスト・教材(参考文献含む) 必要に応じて、資料を配付します。			
担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちららも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。			
基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	松井 真理子	PSS2002	後学期 必 修
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス、テーマ解説(子どもの人権)、役割分担決定 第2講 分担1 担当者による発表+意見交換 第3講 分担2 担当者による発表+意見交換 第4講 分担3 担当者による発表+意見交換 第5講 分担4 担当者による発表+意見交換 第6講 分担5 担当者による発表+意見交換 第7講 映像を見て考える 第8講 子どもの人権に関する活動への参加 第9講 課題の整理と役割分担 第10講 分担1 担当者による発表+意見交換 第11講 分担2 担当者による発表+意見交換 第12講 分担3 担当者による発表+意見交換 第13講 分担4 担当者による発表+意見交換 第14講 レポート作成 第15講 レポート発表			
テキスト・教材(参考文献含む) 教員が提供する教材を使います。			
担当者から一言 3年生の本格的な研究の導入となる予備的な学びを行います。子どもの人権に取り組む団体と連携して理解を深めます。			

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位	授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。
	三 田 泰 雅	PSS2002	後学期	
授業のねらい この演習は、世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。社会をより深く知るために、文章を読む力をのばすことに主眼をおきます。文章を通して色々な社会の見方に触れ、自分のまなざしを磨きましょう。				
到達目標 1. 文章を読み、内容を吟味できるようになる 2. レジュメ作成の能力を身につける 3. 社会学の基本的な用語や考え方を身につける				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 各回の報告50%、授業への参加度40%で評価します。それぞれの報告は教員を含めた全員で議論します。				
事前・事後学習 当日までに全員が指定された文献を読み、内容を理解しておくこと（1日10分）				

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する
	若 山 裕 晃	PSS2002	後学期	
授業のねらい 本演習は、スポーツ・運動・健康をテーマとして、レポート及び論文作成のための基礎的な能力養成を目的とする。				
到達目標 各種資料(書籍・雑誌・新聞記事・映像資料等)を整理し、レポートとしてまとめた上で発表する。その発表内容についてクラス全員で質疑応答や討論を重ねることによって、その後の研究テーマ選定へとつなげていく。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)。レポート等の評価は個別に開示する。				
事前・事後学習 予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。				

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 論説文の読み方 第3講 短い文章を読む 1 第4講 短い文章を読む 2 第5講 文章を吟味する 1 第6講 文章を吟味する 2 第7講 レジュメの作り方 第8講 報告と議論 1 第9講 報告と議論 2 第10講 報告と議論 3 第11講 書評レポートの書き方 第12講 報告と議論 4 第13講 報告と議論 5 第14講 報告と議論 6 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む） 倉沢進ほか，2001，『新訂 社会学入門』放送大学教育振興会。				
担当者から一言 同じものを見ても、知識のある人となない人とは感じる面白さが全然違います。本を読み、知識が増えれば、どんどん世界の面白さが開けてきます。どうせ生きていくなら面白いほうがいいですね。				

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 レポート・論文の書き方 第3講 資料収集法 第4講 レポート作成(はじめに) 第5講 レポート作成(はじめに) 第6講 レポート作成(はじめに) 第7講 レポート作成(方法) 第8講 レポート作成(結果及び考察) 第9講 レポート作成(結果及び考察) 第10講 レポート作成(結果及び考察) 第11講 レポート発表・質疑応答・討論 第12講 レポート発表・質疑応答・討論 第13講 レポート発表・質疑応答・討論 第14講 レポート修正版完成 第15講 レポート修正版完成				
テキスト・教材（参考文献含む） 特に指定しないが、適宜指示する。				
担当者から一言 学生の自主的なテーマ選定・資料収集・レポート作成・討論参加を期待する。				

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
奥原 貴士	PSS3001	前学期	必修

授業のねらい 財務会計や実証研究に関するテキストを輪読することで会計に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、研究の内容を理解する能力を身につけることも目的とします。これら輪読では担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。

到達目標 会計や研究方法の専門知識を習得したうえで、卒業研究のテーマを見つけることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点(発表内容、発言回数など) 80% 課題レポート 20% なお、発表・発言については適宜コメントをします。
--

事前・事後学習 新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。そして、卒業研究のテーマの候補を考えてください。(毎日90分以上)

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
鬼頭 浩文	PSS3001	前学期	必修

授業のねらい ゼミでは、就職も意識しながら、生きる力を身につけることが到達目標である。具体的には、自分を表現すること、就職に向けた資格取得、イベント参加、懸賞論文作成を行う。また課外活動として、ボランティアやイベント参加を通して「まちづくり」に参画しながら地域の問題点を考える。これは、書籍や資料だけではとらえきれない現場の実際の姿を知ることがゼミ活動の重要な要素となる。このゼミでは、テーマを設定し、自分で考え、調べ、結果を残すことができる能力を、懸賞論文の作成準備通じて身につける。
--

到達目標 自分の学生生活後半をどう送るか、しっかりと目標を設定して少しでも近づくことが到達目標である。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、ゼミでの提出物(5割)と、プレゼンテーション(5割)から総合的に判断する。 課題は、添削やコメントを記して返却する。
--

事前・事後学習 ニュースや新聞、ネットなどから1週間の社会の動きを調べる学習に1時間ほどかけること。また、第10～15回の懸賞論文作成作業では、講義時間外に20時間ほどをかける成果を出すこと。

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第3講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第4講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第5講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第6講 論文の輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第7講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第8講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第9講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第10講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第11講 論文の輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第12講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第13講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第14講 テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション) 第15講 卒業研究のテーマに関するディスカッション
--

テキスト・教材（参考文献含む） テキストは適宜指定します。 論文は配布します。
--

担当者から一言 発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。 簿記、会計に関する講義で学習した内容を復習しておいてください。

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画 1. ガイダンス:自己紹介でプレゼン練習(他学生の発表を記録する) 2. 自己PRプレゼンを手書き作成 3. 自己表現(大学履歴書用紙記入練習) 4. グループ・ディスカッション① 5. グループ・ディスカッション② 6. 就職談義(インターンシップを考える) 7. 大学時代に打ち込む個性発掘企画を作成 8. インターンシップを通して企業研究 9. 自分の課題に挑戦(秋の懸賞論文を目指してテーマ設定) 10. 懸賞論文作成の準備(基本的な情報収集) 11. 夏休みに行う懸賞論文の調査計画の作成①(ヒアリング計画;PC教室) 12. 夏休みに行う懸賞論文の調査計画の作成②(実際に依頼要請;PC教室) 13. 夏休みに行う懸賞論文の調査計画の作成③(必要な手続き;PC教室) 14. 懸賞論文構成(目次の作成・提出;PC教室) 15. 懸賞論文書き出し(A4×2枚;PC教室) ★毎ゼミの最初の10分で、1週間に起こった時事問題についてディスカッションする。
--

テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
--

担当者から一言 鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。

専門演習 a 小泉大亮	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3001	前学期	必修
授業のねらい 本演習では、健康スポーツ科学に関連した文献購読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成していきます。主に「健康増進と身体運動」に関する文献を討論し、その内容について理解を深めていくことを演習のねらいとします。			
到達目標 健康スポーツ科学領域における研究デザインの作成、分析、発表の方法を修得する。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・授業への取り組み姿勢(論文抄読・スライド作成・発表への準備):50% ・プレゼンテーション資料・発表および討論:50% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 論文抄読用の資料準備(45分) 発表用のレジュメやスライドの準備(45分)			

専門演習 a 小林慶太郎	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3001	前学期	必修
授業のねらい 差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょうか？ このゼミ(専門演習)では、身近な地域での問題の解決策(政策)や、その問題解決策を実行していく体制(行政や地域の様々な団体など)、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み(政治)等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思っています。			
到達目標 身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況:45% ・授業中の発言・受講態度:55% なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。			
事前・事後学習 自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます(300分程度)。 そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください(60分程度)。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください(毎日15分以上)。			

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。	
授業計画 第1講 ガイダンス 演習の進め方 自己紹介を兼ねてスピーチ 第2講 健康スポーツ科学とは 第3講 関心のある身体運動の話題についてスピーチ① 第4講 関心のある身体運動の話題についてスピーチ② 第5講 健康・身体運動に関する論文抄読・討論①(グループディスカッション)アクティブラーニング 第6講 健康・身体運動に関する論文抄読・討論②(グループディスカッション)アクティブラーニング 第7講 健康・身体運動に関する論文抄読・討論③(グループディスカッション)アクティブラーニング 第8講 健康・身体運動に関する論文抄読・討論④(グループディスカッション)アクティブラーニング 第9講 研究テーマ文献の検索 第10講 研究テーマの決定 第11講 研究テーマに関する調査・分析 第12講 研究発表用レジュメ作成 第13講 研究発表用スライド作成 第14講 研究報告・質疑①(プレゼンテーション)アクティブラーニング 第15講 研究報告・質疑②(プレゼンテーション)アクティブラーニング	
テキスト・教材(参考文献含む) なし(必要に応じて演習中に配布します)	
担当者から一言 個々の積極的な授業参加によりゼミ生全員の力が向上します。ゼミ生同士が互いに協力し、時には刺激しあうような教室を作りましょう。	

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。	
授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 「民主主義の学校」地方自治 第3講 地方自治の本旨と日本国憲法 第4講 団体自治と地方自治体の種類 第5講 住民自治と選挙・直接請求 第6講 二元代表制と議会・首長の役割 第7講 自治体行政と公務員 第8講 条例・規則と行政手続 第9講 計画行政と予算 第10講 地方自治のルーツを考える ―英米型と大陸型― 第11講 日本の前近代の地方自治の歴史 第12講 近代日本の地方自治と地方行政 第13講 現代日本の地方自治と地方分権改革 第14講 小規模多機能自治 ―地域における小さな自治― 第15講 市民参加と協働 ※ 第2講以降は毎回、プレゼンテーションとディスカッションを行います。各回に扱う内容は、各人の興味関心などに応じて、上記とは変更することがあります。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。夏休みには、ゼミ旅行も予定したいと思っています。	
テキスト・教材(参考文献含む) なし(必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきますが、さしあたって、新藤宗幸「日曜日の自治体学」(東京堂出版、2013年、2,200円+税)は、一読しておいてください。	
担当者から一言 一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！	

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
高田晴美	PSS3001	前学期	必修

授業のねらい 日本近現代文学のゼミです。今期は今まで以上に学術的に、作品に向き合います。作品の背景などを調べるだけでなく、先行研究（論文）も読み、どういうところを問題として設定し論じるのかを学びます。その上で、先行研究も俎上に挙げて、みんなで作品を論じていきます。
--

到達目標 ・関連情報を自分で調べ、考察する能力を身につける。 ・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。 ・口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ・毎回のコメントと受講態度 60% ・発表と質疑応答の内容 40% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。授業内で適宜コメントします。

事前・事後学習 ・次回までに読んでくるべきテキスト・資料を配布するので、それを読む(約1時間)。 ・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも1週間前から入念な発表準備をする(毎日数時間×7日間)。
--

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
鶴田利恵	PSS3001	前学期	必修

授業のねらい 1. 男女共に働きやすい環境作りをしている企業や、高齢者や障害者に対して心配りをしている企業、ユニークな取り組みをしている企業を訪問して記事にします(グループワーク)。これまで、四日市ドームや近鉄四日市駅、ホンダカーズなどを訪問しました。なお、この活動は、学外のNPO法人の協力を得て行います。 2. 経済に関する新聞記事を読んで、その内容、疑問に思ったことを報告し、全員でディスカッションします。

到達目標 企業訪問をすることによって、 ①社会に出た際に必要となるコミュニケーション能力を身につけること。 ②自分で感じたことを自分の言葉で表現できる力を身につけること。 ③チームワークを通じて考える力や貢献できる力を身に付けること。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 企業訪問の際の取り組み状況50%、新聞記事の報告内容50% フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントします。

事前・事後学習 日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。また、それらの記事の書き方を注意深く見ながら、自分が記事を書く際の参考にする(常時)。

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 小説Aパート1について議論する 第3講 小説Aパート2について議論する 第4講 小説Aの参考文献を読んでまとめる① 第5講 小説Aの参考文献を読んでまとめる② 第6講 小説Aを論じる 第7講 句会 第8講 小説Bについて意見交換 第9講 小説Bを論じる 第10講 小説Cについて意見交換 第11講 小説Cを論じる 第12講 小説Dパート1について議論する 第13講 小説Dパート2について議論する 第14講 小説Dの参考文献を読んでまとめる 第15講 小説Dを論じる

テキスト・教材（参考文献含む） 演習で扱う作品のテキスト、論文は、プリントにして配布します。その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。
--

担当者から一言 「専門演習 a」では、作者や時代・社会状況など、作品の背景となる情報の調査や、先行研究についての調査など、より専門的な手法で1つの作品の分析を深め、新たな視点、切り口で考察する、より実践的な研究手法を体験します。学問の醍醐味を味わいましょう。

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス、自己紹介 第2講 UDほっとねっとの活動報告(伊藤順子氏) 第3講 研修と練習① 電話によるアポ取り 第4講 研修と練習② 企業訪問の際のインタビュー 第5講 研修と練習③ 記事の書き方 第6講 訪問企業を決める 第7講 訪問企業及びその業界について調べる① 第8講 訪問企業及びその業界について調べる② 第9講 企業訪問をし、記事を書く、訪問先企業に記事の確認をする 第10講 企業訪問の振り返り 第11講 新聞記事の報告① 第12講 新聞記事の報告② 第13講 新聞記事の報告③ 第14講 新聞記事の報告④ 第15講 まとめ
--

テキスト・教材（参考文献含む） 適宜指示します。

担当者から一言 わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。
--

専門演習 a 富田 与	科目 ナンバリング PSS3001	3 年次 前学期	2 単位 必 修
授業のねらい この演習では、プレゼンテーションの準備を中心に考えていきます。 2 年生の演習で進めた各自の研究テーマに関する調査をもとに、口頭によるプレゼンテーション資料を作成します。音声、文字、画像の違いを意識しながら、効果的なレジュメ、スライドの作り方や発表の構成を実践することにしたと思います。			
到達目標 自分のアイディアを効果的に相手に伝えることができる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 発言等の参加 50% 報告 50% 口頭発表については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。			
事前・事後学習 毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します(180分)。			
専門演習 a 中西紀夫	科目 ナンバリング PSS3001	3 年次 前学期	2 単位 必 修
授業のねらい この専門演習では、現代社会における法の仕組みについての認識を深めることを、講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してありますが、複雑で多岐にわたる社会問題ですので関心のあるテーマを一つ選んで研究報告をしてもらいます。また、この研究はこれで終わりではなく、できれば継続性をもって引き続き図書や新聞、さらにはインターネットなども利用しながら研究内容を充実させてもらいたいと思います。そのとっかかりになる演習になればと考えております。			
到達目標 これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、就職活動などでも困らないように最新の社会問題についても取り上げます。最終的な到達目標は、各自が入手した資料や新聞等の関係資料も照らし合わせたくうえで、レジュメを基にした報告を行い、みんなで議論するところまでを考えています。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 毎日、新聞を読むこと（1 日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話しますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1 講 ガイダンス 第2 講 研究テーマの確認 第3 講 グループ分けの検討 第4 講 口頭発表のメディア(音声、文字、画像) 第5 講 メディアと内容の対応 第6 講 口頭発表の準備 1 第7 講 口頭発表の準備 2 第8 講 口頭発表 1 第9 講 口頭発表 2 第10 講 口頭発表 3 第11 講 口頭発表 4 第12 講 TEDを参考に 第13 講 再構想 1 第14 講 再構想 2 第15 講 まとめ			
テキスト・教材（参考文献含む） 特に指定しない。			
担当者から一言 3 年生では、自分で表現する事を考えてみましょう。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1 講 ガイダンス 第2 講 研究テーマ及び報告の順番の決定等 第3 講 法と裁判 第4 講 民事裁判 第5 講 刑事裁判 第6 講 裁判員制度① 第7 講 裁判員制度② 第8 講 憲法改正問題 第9 講 国家機密と国民の知る権利 第10 講 国内法と国際法 第11 講 公害・環境対策と法 第12 講 手形・小切手① 第13 講 手形・小切手② 第14 講 独占禁止法 第15 講 まとめ、レポート提出(研究報告したテーマで)			
テキスト・教材（参考文献含む） 必要に応じて、資料を配付します。			
担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座やスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちららも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。			

専門演習 a 松井真理子	科目 ナンバリング PSS3001	3 年次 前学期	2 単位 必修
授業のねらい 前年度の基礎演習 b での学びを発展させ、コンビニの問題を切り口に、1 年間を通じて以下のことに取組めます。 1 労働力不足と外国人労働者の問題 2 24 時間労働にみる長時間労働の問題 3 食品ロス問題 4 コンビニというシステムの可能性 5 課題解決のために必要な政策提言			
到達目標 1 現代におけるさまざまな社会課題を理解する。 2 社会課題の背景にある構造を理解する。 3 国際的な視点を持つ。 4 政策提言という視点を持つ。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業の取り組み姿勢 80% レポートの内容 20% なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。			
事前・事後学習 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日 30 分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60 分) (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90 分)			
専門演習 a 三田泰雅	科目 ナンバリング PSS3001	3 年次 前学期	2 単位 必修
授業のねらい この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。はじめにゼミ全体のテーマを一つ用意し、本を読みます。その後いくつかのグループに分かれて、個別テーマを立てて調査を進めます。履修者はデータを集め、整理と分析を行なって成果を発表します。また他者の発表に対してコメントし、意見交換を行います。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。			
到達目標 ①社会的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 <課題と評価> 報告回での報告 30%、期末レポート 20%、授業への参加度 50% ※報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。 <フィードバック> 報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論する。			
事前・事後学習 報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと(1 日 40 分)			
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通して地域社会に貢献する人材になる調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける			
授業計画 第 1 講 ガイダンス 第 2 講 分担 1・2 の発表 + 意見交換 第 3 講 分担 3・4 の発表 + 意見交換 第 4 講 分担 5 の発表 + 総合的な意見交換 第 5 講 分担 1・2 の発表 + 意見交換 第 6 講 分担 3・4 の発表 + 意見交換 第 7 講 分担 5 の発表 + 総合的な意見交換 第 8 講 分担 1・2 の発表 + 意見交換 第 9 講 分担 3・4 の発表 + 意見交換 第 10 講 分担 5 の発表 + 総合的な意見交換 第 11 講 現地調査 第 12 講 現地調査 第 13 講 現地調査のまとめ 第 14 講 現地調査のまとめ 第 15 講 レポート作成			
テキスト・教材 (参考文献含む) 教員が提供する教材を使います。			
担当者から一言 夏休みに海外のコンビニ調査を行います。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授業計画 第 1 講 ガイダンス 第 2 講 各自の関心を紹介する 第 3 講 本を読む準備 第 4 講 文献の報告と議論① 第 5 講 文献の報告と議論② 第 6 講 文献の報告と議論③ 第 7 講 文献の報告と議論④ 第 8 講 文献の報告と議論⑤ 第 9 講 グループワークの準備 1 第 10 講 グループワークの準備 2 第 11 講 グループ報告① 第 12 講 グループ報告② 第 13 講 グループ報告③ 第 14 講 グループ報告④ 第 15 講 合同報告会			
テキスト・教材 (参考文献含む) 白井利明・高橋一郎, 2013, 『よくわかる卒論の書き方 第 2 版』ミネルヴァ書房。			
担当者から一言 世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。			

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
若山 裕晃	PSS3001	前学期	必修

授業のねらい

本演習では、2 年次に取り組んだ研究を展開するために、追加の情報を収集し、論文の冒頭部分(はじめに)を作成し発表する。

到達目標

文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

論文の進行状況 (50%)、プレゼンテーション (50%)。レポート等の評価は個別に開示する。

事前・事後学習

予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと (90 分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと (90分)。

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
奥原 貴士	PSS3002	後学期	必修

授業のねらい

専門演習aに続いて、財務会計や実証研究のテキストを輪読することで会計に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、研究の内容を理解する能力を身につけることも目的とします。そして、実際に分析をしてその内容を発表します。これらでは担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。卒業研究のテーマについては適宜話し合いを行います。

到達目標

会計や研究方法の専門知識を習得したうえで、実際に分析ができるようになることを到達目標とします。そして、卒業研究のテーマを見つけることも到達目標です。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点(発表内容、発言回数など) 60%
課題レポート 40%
発表や課題についてそのつどコメントします。

事前・事後学習

各自、分析を進めてください。また、新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。そして、卒業研究のテーマの候補を考えてください。(毎日90分以上)

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する

授業計画

第1講 ガイダンス 授業の概要
第2講 関心のあるスポーツの話題についてスピーチ
第3講 2 年次作成のレポートの振り返り
第4講 2 年次作成のレポートの振り返り
第5講 論文作成準備(追加情報収集)
第6講 論文作成準備(追加情報収集)
第7講 論文作成準備(追加情報収集)
第8講 論文作成準備(追加情報収集)
第9講 論文作成準備(追加情報収集)
第10講 論文作成(はじめに)
第11講 論文作成(はじめに)
第12講 論文作成(はじめに)
第13講 論文中間発表・質疑応答・討論
第14講 論文中間発表・質疑応答・討論
第15講 総括及び夏期休暇課題の説明

テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しないが、適宜指示する。

担当者から一言

学生の積極的な研究及び討論への参加を期待する。

授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業計画

第1講 ガイダンス
第2講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第3講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第4講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第5講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第6講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第7講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第8講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第9講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第10講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第11講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第12講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第13講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第14講 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション)
第15講 卒業研究のテーマに関するディスカッション

テキスト・教材（参考文献含む）

テキストは適宜指定します。
論文は配布します。

担当者から一言

発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

専門演習 b 鬼頭 浩 文	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修
授業のねらい このゼミでは、自由にテーマを設定し、自分で考え、調べ、結果を残すことができる能力を身につけ、就職活動につなげることが最大のテーマといえる。ゼミでは、就職も意識しながら、社会人として最低限持っていてほしい常識について学習する。具体的には、イベント参加などを通して「まちづくり」に参画しながら地域の問題点を考え、懸賞論文提出を目標に研究を進める。また、就職活動キックオフ（企業研究とインターンシップ参加）を通して社会を観る力を身につけることを重視していく。			
到達目標 社会との接点を持つこと、学生懸賞論文で受賞レベルに到達することを通じ、就職活動のキックオフにつなげる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、ゼミでの提出物（5 割）と、プレゼンテーション（5 割）から総合的に判断する。 課題は、添削やコメントを記して返却する。			
事前・事後学習 懸賞論文の作成作業は、講義の時間以外に20時間ほどをかけること。また、自分の進路を決めるためにネットや新聞から情報を集め（20時間ほどをかける）、人間力を高める。			
専門演習 b 小泉 大 亮	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修
授業のねらい 本演習では、卒業研究のテーマの選定につなげることを目的とし、個人で自由に調査・研究テーマを設定し、資料をまとめて発表する。			
到達目標 発表テーマの選定、レポート作成、プレゼンテーションを自身でおこなえるようにする。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・授業への取り組む姿勢(レポート・発表などの準備) :50% ・レポート・発表:50% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 論文抄読用の資料準備(45分) 発表用のレジュメやスライドの準備(45分)			
授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身に付ける。 系統的に学修し、進路に即した人間力根幹の形成する。			
授 業 計 画 1. ガイダンス：夏休みを振り返り、今後のゼミ活動のビジョンをかためる 2. CSC(キャリアサポートセンター)登録用紙の自己PR文作成と添削 3. 全員の自己PRを交換して互いにコメントする 4. 懸賞論文執筆作業①(情報収集と整理:PC教室) 5. 懸賞論文執筆作業②(章立ての完成:PC教室) 6. 懸賞論文執筆作業③(イントロとテーマ背景の作成:PC教室) 7. 懸賞論文執筆作業④(途中経過の報告会:PC教室) 8. 懸賞論文執筆作業⑤(論文執筆と添削指導:PC教室) 9. 懸賞論文執筆作業⑥(論文執筆と添削指導:PC教室)⇒提出(A 4 × 8 ページ) 10. 就職活動キックオフ懇談会 11. 就職活動ネット裏ワザ指導①(インターネット活用:PC教室) 12. 就職活動ネット裏ワザ指導②(インターネット活用:PC教室) 13. インターンシップにエントリー(社会を観る能力の養成:PC教室) 14. インターンシップに参加した感想を述べ合う 15. 30社のエントリー予定リスト完成(PC教室)			
テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。			
担当者から一言 鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。			
専門演習 b 小泉 大 亮	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1 講 ガイダンス 演習の概要 第2 講 研究テーマの検討① 第3 講 研究テーマの検討② 第4 講 資料情報収集① 第5 講 資料情報収集② 第6 講 レポート・PCプレゼンテーション作成① 第7 講 レポート・PCプレゼンテーション作成② 第8 講 レポート・PCプレゼンテーション作成③ 第9 講 PCプレゼンテーション・質疑応答① (アクティブラーニング) 第10講 PCプレゼンテーション・質疑応答② (アクティブラーニング) 第11講 PCプレゼンテーション・質疑応答③ (アクティブラーニング) 第12講 PCプレゼンテーション・質疑応答④ (アクティブラーニング) 第13講 PCプレゼンテーション・質疑応答⑤ (アクティブラーニング) 第14講 PCプレゼンテーション・質疑応答⑥ (アクティブラーニング) 第15講 まとめ			
テキスト・教材（参考文献含む） なし			
担当者から一言 発表担当者は、責任を持って資料を準備するように			

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
小林慶太郎	PSS3002	後学期	必修

授業のねらい 差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょうか？このゼミ（専門演習）では、身近な地域での問題の解決策（政策）や、その問題解決策を実行していく体制（行政や地域の様々な団体など）、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み（政治）等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思っています。
--

到達目標 身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況:45% ・授業中の発言・受講態度:55% なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。
--

事前・事後学習 毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます(150分程度)。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください(30分)。

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
高田晴美	PSS3002	後学期	必修

授業のねらい 日本近現代文学のゼミです。研究発表会に向けて、ゼミで共通の研究テーマ（文学作品や文化現象など）を自分たちで設定し、調べる項目も自分たちで考え、様々な視点、手法でそのテーマについて取り組み、それを研究発表という形にすることを試みます。文学作品やサブカルチャーなどの文化現象には、興味深い研究の種が潜んでいます。それを自分たちで見つけて、調理することで、アイデアを生む力、調査能力、分析力、考察能力、論旨をまとめる力、プレゼン能力等、総合的な力を身につけることができます。
--

到達目標 ・関連情報を自分で調べ、考察する力を身につける。 ・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。 ・口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ・毎回のコメントと受講態度 60% ・発表と質疑応答の内容 40% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。授業内で適宜コメントします。

事前・事後学習 ・次回までに読んでくるべきテキスト・資料を配布するので、それを読む(約1時間)。 ・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも1週間前から入念な発表準備をする(毎日数時間×7日間)。
--

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 課題の設定 第3講 インターネット検索 第4講 データの収集 第5講 文献調査 第6講 論点整理 第7講 ヒアリング調査 第8講 情報整理 第9講 補充調査 第10講 レジュメ作成 第11講 レジュメ完成 第12講 パワーポイント 第13講 ジョイントセミナー反省会 第14講 カンファレンス準備 第15講 学部カンファレンス ※ 基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。各回に扱う内容は、各人の興味関心などに応じて、上記とは変更することがあります。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表会合宿「ジョイントセミナー」を、それぞれ予定しています。
--

テキスト・教材（参考文献含む） なし（必要な資料等は、演習の際に配布する予定です）。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。
--

担当者から一言 一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。就職活動に向けた準備・勉強との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！
--

授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 みんなで共通研究テーマ(取り上げる作品等)を決める 第3講 その作品について、議論したうえで、調査項目を設定する 第4講 調査内容を各自発表 第5講 調査内容を各自発表 第6講 調査内容を各自発表 第7講 改めて作品を分析する 第8講 改めて作品を分析する 第9講 発表の流れを考える 第10講 各自の発表担当箇所について発表 第11講 各自の発表担当箇所について発表 第12講 みんなで発表内容をまとめる 第13講 発表練習① 第14講 発表練習② 第15講 研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む） 演習で扱う作品のテキストは、短い作品はプリントにして配布します。長い作品は購入するか図書館等で借りてください。その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。
--

担当者から一言 「専門演習 b」では、「わかもの学会予選」での研究発表を想定して、ゼミで1つの共通研究テーマ（作品、文化現象等）を設定し、色々な角度で調査したり分析して、何らかの論を立て、口頭発表・発表資料の準備を行います。文学研究は基本的には個人プレーなのですが、たまにはチームプレーもやってみましょう。
--

専門演習 b 鶴田 利 恵	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修
授業のねらい 日本経済や世界経済の諸問題について書かれたテキストを読みながら、解決策や今後の課題を理解していきます。授業では、鶴田による解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。			
到達目標 日本経済や国際経済についての理解を深めるとともに考える力や視野を広く持つ力を身につけること。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業内での報告や発言内容70％、レポート（2回）30％ なお、2回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。			
事前・事後学習 日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。また、それらの記事の書き方を注意深く見ながら、自分が記事を書く際の参考にする（常時）。			
専門演習 b 富田 与	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修
授業のねらい この演習では、論文作成を中心に考えます。前期までに考えてきた各自のテーマを論文のスタイルで表現してみましょう。その準備段階として、「一文作文」、「構成」、「一枚作文」という3つの作業を順番に進めます。最後には、足りないデータを探す方法を考えたいと思います。			
到達目標 自分で論文作成の準備ができる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 発言等の参加 50％ 報告 50％ 一文作文を評価の課題とし、一文作文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。			
事前・事後学習 毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します(180分)。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマ探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス、自己紹介 第2講 日本の景気は今どうなっていますか？ 第3講 物価が下がると得したきがするの、どうして困るのですか？ 第4講 これから給料はちゃんと上がるのですか？ 第5講 「働き方改革」は順調に進んでいるのですか？ 第6講 「ダイバーシティ」は日本企業でも取り入れられていますか？ 第7講 外国人労働者は今後どのくらい増えるのですか？ 第8講 M&Aや企業提携はこれからも増えますか？＋レポート 第9講 円高と円安、どちらが日本にとってプラスですか？ 第10講 消費税10％で日本経済はどうなりますか？ 第11講 日本は借金し続けて大丈夫ですか？ 第12講 東京五輪後の経済はどうなりますか？ 第13講 2020年はトランプ政権の最終年ですが、今後はどうなりますか？ 第14講 欧州はどこへ向かうのでしょうか？ 第15講 これから注目すべきアジアの新興国はどこですか？＋レポート			
テキスト・教材（参考文献含む） コピーを配布します。 使用テキスト：日本経済新聞社編「Q&A日本経済のニュースがわかる！2020年版」日本経済新聞出版社(2019年)1,500円(税抜き)			
担当者から一言 わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。			
専門演習 b 富田 与	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマ探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマの確認 第3講 論文とは 第4講 論文の仕組み 第5講 「一文作文」の作成 1 第6講 「一文作文」の作成 2 第7講 「一文作文」から「構成」へ 第8講 「パラグラフ・ライティング」1 第9講 「パラグラフ・ライティング」2 第10講 「構成」から「一枚作文」へ 1 第11講 「構成」から「一枚作文」へ 2 第12講 「一枚作文」の合評会 1 第13講 「一枚作文」の合評会 2 第14講 追加データの確認 第15講 まとめ			
テキスト・教材（参考文献含む） 特に指定しない。			
担当者から一言 3年生では、自ら表現することを中心に考えていきます。			

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	中西 紀 夫	PSS3002	後学期 必 修
授業のねらい この専門演習では、環境法の仕組みを理解することを講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してある通りですが、複雑で多岐にわたる環境問題ですので関心のあるテーマの一つ選んで、研究報告をしてもらいます。これまでの演習でも指摘しておきましたが、ここで報告した研究はこれで終わりではなく、できるだけ継続性をもって認識を深めていってほしいと考えています。			
到達目標 到達目標としては、ここまでで取得した知識を土台として、卒業までの研究を視野に入れたものにしたいと考えています。前学期の演習では社会環境問題を素材としましたが、ここでは主に自然環境問題を素材とします。学問の構築だけでなく、就職活動でも困らないように最新の問題も議論し認識を深めます。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 毎日、新聞を読むこと（1日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。また、本学の情報センターも積極的に利用しましょう。			
専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	松井 真理子	PSS3002	後学期 必 修
授業のねらい 前学期に続き、コンビニの問題を切り口に、1年間を通じて以下のことに取組めます。 1 労働力不足と外国人労働者の問題 2 24時間労働にみる長時間労働の問題 3 食品ロス問題 4 コンビニというシステムの可能性 5 課題解決のために必要な政策提言			
到達目標 1 現代におけるさまざまな社会課題を理解する。 2 社会課題の背景にある構造を理解する。 3 国際的な視点を持つ。 4 政策提言という視点を持つ。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業の取り組み姿勢 80% レポートの内容 20% なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。			
事前・事後学習 （授業前）日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと（毎日30分程度） 授業内容について事前に予習しておくこと（60分） （授業後）学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと（90分）			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマ探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマ及び報告の順番の決定 第3講 公害と法 第4講 環境法の捉え方 第5講 環境法の伝統的な法体系 第6講 公害・環境規制法① 第7講 公害・環境規制法② 第8講 環境対策と法規制の概要① 第9講 環境対策と法規制の概要② 第10講 エネルギー問題① 第11講 エネルギー問題② 第12講 環境アセスメント 第13講 廃棄物・リサイクル 第14講 まとめ、レポート報告（提出） 第15講 学部の研究発表会			
テキスト・教材（参考文献含む） 必要に応じて、資料を配付します。			
担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。			
専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	松井 真理子	PSS3002	後学期 必 修
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通して地域社会に貢献する人材になる 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける			
授 業 計 画 第1講 海外調査のまとめと意見交換 第2講 分担1・2の発表＋意見交換 第3講 分担3・4の発表＋意見交換 第4講 分担5の発表＋総合的な意見交換 第5講 分担1・2の発表＋意見交換 第6講 分担3・4の発表＋意見交換 第7講 分担5の発表＋総合的な意見交換 第8講 分担1・2の発表＋意見交換 第9講 分担3・4の発表＋意見交換 第10講 分担5の発表＋総合的な意見交換 第11講 調査のまとめ 第12講 レポート作成・発表原稿作成 第13講 レポート作成・発表原稿作成 第14講 レポート作成・発表原稿作成 第15講 レポート完成・発表練習			
テキスト・教材（参考文献含む） 教員が提供する教材を使います。			
担当者から一言 2年次から1年半かけた研究の総まとめを行います。			

専門演習 b		科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
三 田 泰 雅		PSS3002	後学期	必 修

授業のねらい				
この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。前学期に引きつづき、個別テーマを立てて調査を進めます。履修者は自分でデータや資料を集め、分析を行なって成果を発表します。また他者の発表を聞いてコメントし、意見交換を行ないます。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。				
到達目標				
①社会的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法				
報告回での報告30%、期末レポート20%、授業への参加度50%として評価します。報告担当回に欠席した場合、原則として単位を与えないので注意すること。期末レポートとして卒業研究の研究計画書を作成します。中間報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。				
事前・事後学習				
報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと（1日40分）				

専門演習 b		科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
若 山 裕 晃		PSS3002	後学期	必 修

授業のねらい				
本演習では、卒業研究のテーマ選定を意識しつつ、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。				
到達目標				
文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法				
論文の進行状況（50%）、プレゼンテーション（50%）。レポート等の評価は個別に開示する。				
事前・事後学習				
予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと（90分）。				

授業の位置づけ				
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける				

授 業 計 画				
第1講	ガイダンス			
第2講	各自の関心を紹介する			
第3講	データの扱い方			
第4講	報告と議論①			
第5講	報告と議論②			
第6講	報告と議論③			
第7講	報告と議論④			
第8講	報告と議論⑤			
第9講	報告と議論⑥			
第10講	報告と議論⑦			
第11講	報告と議論⑧			
第12講	報告と議論⑨			
第13講	コメント力を磨く			
第14講	まとめ①			
第15講	まとめ②			

テキスト・教材（参考文献含む）				
白井利明・高橋一郎, 2013, 『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房.				
担当者から一言				
世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。				

授業の位置づけ				
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する				

授 業 計 画				
第1講	ガイダンス	授業の概要		
第2講	論文作成準備（追加情報収集）			
第3講	論文作成準備（追加情報収集）			
第4講	論文作成準備（追加情報収集）			
第5講	論文作成（方法）			
第6講	論文作成（方法）			
第7講	論文作成（方法）			
第8講	「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める			
第9講	「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める			
第10講	「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める			
第11講	「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める			
第12講	「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める			
第13講	論文中間発表・質疑応答・討論			
第14講	論文中間発表・質疑応答・討論			
第15講	総括			

テキスト・教材（参考文献含む）				
特に指定しないが、適宜指示する。				
担当者から一言				
学生の積極的な研究及び討論への参加を期待する。				

専門演習 c	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
奥原 貴士	PSS4001	前学期	必修
授業のねらい 卒業論文に関する研究の発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行うことで、研究内容を向上させていきます。加えて、実証研究や財務諸表分析のテキストを輪読することで研究に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、先行研究の内容を知識として蓄積することも目的とします。これら輪読においても担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。			
到達目標 実証研究や財務諸表分析の専門的知識を習得したうえで、卒業論文の作成を進めることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点(発表内容、発言回数など) 60% 卒業論文に関する研究の進捗状況 40% なお、発表・発言については適宜コメントをします。			
事前・事後学習 各自の研究テーマに関する先行研究を読んで知識を深めてください。そして、卒業論文の執筆を進めていってください(毎日90分以上)。			

専門演習 c	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
鬼頭 浩文	PSS4001	前学期	必修
授業のねらい ゼミでは、就職指導もしながら、生きる力を身につけるさまざまな演習を行う。就職活動は、この専門演習 c の時期と重なる。これをプラスに捉え、就職活動を通して社会を知り、自分について見つめなおし、内定を得た企業や日本社会のために自分がなすべきことを考える機会と考える。就職試験を通して企業の持つカルチャーを感じ、社会を自由自在に泳ぐ感性を身につけよう。社会のために役立つ仕事を見つけ、自己実現と生活の両立ができるよう、生きる力を強化しよう。			
到達目標 ゼミは就職活動のための研究で始まり、就職先が決定したものは社会に出る準備を整えることが到達目標となる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、ゼミでの提出物(5割)と、プレゼンテーション(5割)から総合的に判断する。 課題は、添削やコメントを記して返却する。			
事前・事後学習 課題をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ準備学習・振り返り学習をする。これらの学習には、毎講義3時間ほどを要する。			

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 研究の発表、テキストの輪読 第3講 研究の発表、テキストの輪読 第4講 研究の発表、テキストの輪読 第5講 研究の発表、論文の輪読 第6講 研究の発表、テキストの輪読 第7講 研究の発表、テキストの輪読 第8講 研究の発表、テキストの輪読 第9講 研究の発表、論文の輪読 第10講 研究の発表、テキストの輪読 第11講 研究の発表、テキストの輪読 第12講 研究の発表、テキストの輪読 第13講 研究の発表、論文の輪読 第14講 研究の発表、テキストの輪読 第15講 卒業論文の内容に関するディスカッション
テキスト・教材（参考文献含む） テキストは適宜指定します。 論文は配布します。
担当者から一言 研究をどんどん進めてください。 発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 幅広い人間力を身に付ける。
授 業 計 画 1. ガイダンス;就職活動の中間報告会 2. エントリーシートに磨きをかける 3. 企業研究とディスカッション 4. 課題作成に向けた準備 5. 自分が進むキャリアの調査 6. 自分が進むキャリアの研究 7. 自分が進むキャリアに関する小論文を作成 8. 自分が進む業界の調査 9. 自分が進む業界の研究 10. 自分が進む業界に関する小論文の作成 11. 自分が就職する企業のライバルを調査 12. 自分が就職する企業のライバルを研究 13. 自分が就職する企業のライバルに関する小論文を作成 14. 研究発表会① 15. 研究発表会②
テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
担当者から一言 できるだけ早く内定をとり、社会に出るための準備をして、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。

専門演習 c	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	小泉 大 亮	PSS4001	前学期 必 修
授業のねらい 卒業研究にむけての研究指導をおこなう。教員や他のメンバーと意見交換しながら卒業研究テーマを確定する。			
到達目標 卒業研究のテーマを確定し、論文作成や発表に向けた計画をたてる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・授業への取り組み姿勢(レポート・発表などの準備) :50% ・レポート・発表:50% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 論文抄読用の資料準備(90分) 発表用のレジュメやスライドの準備(90分)			
専門演習 c	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	小林 慶 太郎	PSS4001	前学期 必 修
授業のねらい 差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょうか？このゼミ(専門演習)では、身近な地域での問題の解決策(政策)や、その問題解決策を実行していく体制(行政や地域の様々な団体など)、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み(政治)等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思っています。			
到達目標 身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況:45% ・授業中の発言・受講態度:55% なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。			
事前・事後学習 自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます(300分程度)。 そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください(60分程度)。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいってください(毎日15分以上)。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 演習の概要 第2講 研究テーマに関する意見交換① グループディスカッション(アクティブラーニング) 第3講 研究テーマに関する意見交換② グループディスカッション(アクティブラーニング) 第4講 研究テーマに関する意見交換③ グループディスカッション(アクティブラーニング) 第5講 研究テーマに関する意見交換④ グループディスカッション(アクティブラーニング) 第6講 卒業研究の概要作成① 第7講 卒業研究の概要作成② 第8講 卒業研究の概要作成③ 第9講 卒業研究の概要作成④ 第10講 卒業研究のスケジュール作成① 第11講 卒業研究のスケジュール作成② 第12講 研究の進捗状況報告① 第13講 研究の進捗状況報告② 第14講 研究の進捗状況報告③ 第15講 夏期休暇中の研究打ち合わせ			
テキスト・教材(参考文献含む) なし			
担当者から一言 発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。			
専門演習 c	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	小林 慶 太郎	PSS4001	前学期 必 修
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 「民主主義の学校」地方自治 第3講 地方自治の本旨と日本国憲法 第4講 団体自治と地方自治体の種類 第5講 住民自治と選挙・直接請求 第6講 二元代表制と議会・首長の役割 第7講 自治体行政と公務員 第8講 条例・規則と行政手続 第9講 計画行政と予算 第10講 地方自治のルーツを考える ―英米型と大陸型― 第11講 日本の前近代の地方自治の歴史 第12講 近代日本の地方自治と地方行政 第13講 現代日本の地方自治と地方分権改革 第14講 小規模多機能自治 ―地域における小さな自治― 第15講 市民参加と協働 ※ 第2講以降は毎回、プレゼンテーションとディスカッションを行います。各回に扱う内容は、各人の興味関心などに応じて、上記とは変更することがあります。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。夏休みには、ゼミ旅行も予定したいと思っています。			
テキスト・教材(参考文献含む) なし(必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきますが、さしあたって、新藤宗幸「日曜日の自治体学」(東京堂出版、2013年、2,200円＋税)は、一読しておいてください。			
担当者から一言 一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。就職活動との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！			

専門演習 c 高田 晴 美	科目 ナンバリング PSS4001	4 年次 前学期	2 単位 必 修
授業のねらい 日本近現代文学のゼミです。今期は各自、卒業論文の執筆に向けて、取り扱う作品や作家、文化現象を決め、テーマを設定し、論じていくための準備をしていきます。そのために、めいめいが扱う作品もしくはその作家の別作品について、ゼミのメンバー皆で読みあい、議論することで、各自の卒業論文の論の手がかりを得てもらいたいと思います。皆さんの研究テーマに応じた、多種多様な作品を皆で読んでいきましょう。			
到達目標 ・卒業論文のテーマを自分で設定する。 ・地道なテキスト・文献読み、調査を行う ・論を立て、展開し、まとめる能力を養う。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ・毎回のコメントと受講態度 70% ・発表と質疑応答の内容 30% それぞれの卒業研究について、ゼミ内で適宜コメントをします。			
事前・事後学習 ・毎回、次回までに、次回扱う作品や文献について読んでくること。(1時間程度) ・それと並行して、自分の卒業論文のための準備を進めていくこと。(数時間)			
専門演習 c 鶴 田 利 恵	科目 ナンバリング PSS4001	4 年次 前学期	2 単位 必 修
授業のねらい 3年間の大学生活の中で培ってきた知識をもとに各自で研究テーマを設定した上で、それに関する文献や情報を収集し、分析と考察を行います。授業では各自の報告だけでなく、私を含めたみなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。			
到達目標 自分で収集した文献をまとめて報告します。 最終的には専門演習 d において研究の成果を報告できるように積みかさねていきます。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 文献収集の取り組み状況50% 、研究報告内容50% フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントする。			
事前・事後学習 日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。			
授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス、卒論について 第2講 卒論で扱う作品の報告 第3講 小説を読む 第4講 1人目の研究対象について議論 第5講 1人目の研究対象について議論 第6講 2人目の研究対象について議論 第7講 2人目の研究対象について議論 第8講 句会 第9講 3人目の研究対象について議論 第10講 3人目の研究対象について議論 第11講 4人目の研究対象について議論 第12講 4人目の研究対象について議論 第13講 5人目の研究対象について議論 第14講 5人目の研究対象について議論 第15講 卒業研究中間発表			
テキスト・教材（参考文献含む） テキスト等については、適宜プリントを配布するか、購入してもらいます。 各自、自分の卒業論文のためのテキスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。			
担当者から一言 ゼミを通して、じっくりと自分の卒業論文のための準備をしていくとともに、並行して、他のメンバーの卒業研究の様子を知ること、研究のテーマやスタイル等の多様性も楽しみましょう。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマ探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス、3年生との顔合わせ 第2講 研究テーマの設定 第3講 文献報告① 第4講 文献報告② 第5講 文献報告③ 第6講 3年生の指導 第7講 文献報告④ 第8講 文献報告⑤ 第9講 文献報告⑥ 第10講 文献報告⑦ 第11講 研究報告① 第12講 研究報告② 第13講 研究報告③ 第14講 研究報告④ 第15講 まとめ			
テキスト・教材（参考文献含む） 適宜指示をします。			
担当者から一言 4年生として、3年生への指導(取材方法や記事の書き方)も行ってもらいます。人を指導することで自分も成長できるという経験をしてください。			

専門演習 c	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	富田 与 PSS4001	前学期	必修
授業のねらい この演習では、卒業研究に向けた調査を中心とした作業と議論を進めていきます。作業は参加者各人で進めてもらいますが、議論を通じて、資料の妥当性を中心に資料批判をしていくことにしたいと思います。			
到達目標 必要な資料の探索と見つけた資料の資料批判ができるようになる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 調査の達成度 50% 報告の内容 50% 一文作文を評価の課題とし、一文作文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。			
事前・事後学習 必要な調査を進め、報告の準備をする(180分程度)。			
専門演習 c	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	中西紀夫 PSS4001	前学期	必修
授業のねらい この専門演習では、環境法を中心に扱います。とくに都道府県が制定する上乗せ条例等に関わる法的問題点や、国際標準化機構が発行するISO14001規格に関わる専門的な内容、さらには循環型社会構築のための知識を担当教員が実際に経験した実践的なノウハウも取り入れながら、現代の環境マネジメントシステムにもマッチできるように、できるだけ新しい素材を使いながら教授します。			
到達目標 これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築だけでなく、就職活動などでも困らないように最新の社会問題を議論することにも重点を置きたいと思います。最終的な到達目標は、全員が卒業研究に向けた進捗状況の報告を行い、経過報告としてレポートにまとめるところまでを考えています。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 毎日、新聞を読むこと(1日30分)はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマ探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマの確認 第3講 必要な資料の報告と検討1 第4講 必要な資料の報告と検討2 第5講 必要な資料の報告と検討3 第6講 見つけた資料の報告と検討1 第7講 見つけた資料の報告と検討2 第8講 見つけた資料の報告と検討3 第9講 再構想1 第10講 再構想2 第11講 必要な資料の報告と検討1 第12講 必要な資料の報告と検討2 第13講 一文作文の再構成1 第14講 一文作文の再構成2 第15講 まとめ			
テキスト・教材（参考文献含む） 特に指定しない。			
担当者から一言 各自のテーマに沿った調査を進めるなかで、そこで出会った「情報」の意味を問い続けてください。			
専門演習 c	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	中西紀夫 PSS4001	前学期	必修
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマ探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 条例による規制とその問題点① 第3講 条例による規制とその問題点② 第4講 ISO14001と環境法① 第5講 ISO14001と環境法② 第6講 循環型社会構築のために① 第7講 循環型社会構築のために② 第8講 卒業研究の進捗状況の報告① 第9講 卒業研究の進捗状況の報告② 第10講 卒業研究の進捗状況の報告③ 第11講 卒業研究の進捗状況の報告④ 第12講 卒業研究の進捗状況の報告⑤ 第13講 卒業研究の進捗状況の報告⑥ 第14講 卒業研究の進捗状況の報告⑦ 第15講 まとめ、レポート提出			
テキスト・教材（参考文献含む） ガイダンスで指示します。			
担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。			

専門演習 c 松井真理子	科目 ナンバリング PSS4001	4 年次 前学期	2 単位 必修
授業のねらい 3 年次に取組んだ食品ロスの削減について、継続的に取り組みます。 1. 食品ロス削減への理解を深め、行動変容を起こす啓発手法の研究開発 2. 研究開発した啓発手法を使った実践と評価 3. 必要な政策提言			
到達目標 1 SDGsの理解と各目標をつなぐ思考の獲得 2 わからないことは独自の研究によって明らかにするという思考の獲得と具体化 3 政策提言という視点の獲得とその具体化			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業の取り組み姿勢 80% レポートの内容 20% なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。			
事前・事後学習 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)			
専門演習 c 三田泰雅	科目 ナンバリング PSS4001	4 年次 前学期	2 単位 必修
授業のねらい 履修者は卒業研究の準備を行ないます。自ら文献を調べ、データを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないます。 この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。			
到達目標 ①社会的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける ⑤大学生としての文章作成能力を身につける			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 報告回での報告50%、授業への参加度50%として評価します。報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。			
事前・事後学習 報告内容に関する資料に目を通しておくこと(40分) 新聞・ニュースに親しんでおくこと(1日20分)			
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける			
授業計画 第1講 ガイダンス・SDGsの学習 第2講 日本の食品ロス削減の啓発手法の整理 第3講 イギリスの食品ロス削減の啓発手法の学習 第4講 行動変容を起こす啓発の研究(1) 第5講 行動変容を起こす啓発の研究(2) 第6講 行動変容を起こす啓発の研究(3) 第7講 啓発教材等の検討・作成(1) 第8講 啓発教材等の検討・作成(2) 第9講 啓発教材等の検討・作成(3) 第10講 啓発教材等の検討・作成(4) 第11講 啓発教材等の検討・作成(5) 第12講 啓発教材を使った啓発の実践 第13講 実践結果の分析・改善 第14講 政策提言の検討 第15講 取組のまとめ・レポート作成			
テキスト・教材(参考文献含む) 教員が提供する教材を使います。			
担当者から一言 SDGs等を学ぶことで、就職時に「語れるもの」がつくれると思います。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。調査・分析を通じて研究テーマ探求する能力を身につける。			
授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 各自の関心を発表する 第3講 卒業研究報告① 第4講 卒業研究報告② 第5講 卒業研究報告③ 第6講 卒業研究報告④ 第7講 中間まとめ 第8講 卒業研究報告⑤ 第9講 卒業研究報告⑥ 第10講 卒業研究報告⑦ 第11講 中間まとめ 第12講 卒業研究報告⑧ 第13講 卒業研究報告⑨ 第14講 卒業研究報告⑩ 第15講 まとめ			
テキスト・教材(参考文献含む) 必要に応じて資料を配布します			
担当者から一言 世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。			

専門演習 c 若山 裕晃	科目 ナンバリング PSS4001	4 年次 前学期	2 単位 必修
授業のねらい 本演習では、卒業研究のテーマを確定し、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。これまでの研究概要について、教員や他のメンバーと意見を交換して、卒業研究のテーマを熟考していく。			
到達目標 卒業研究のテーマを決定し、文献検索、卒業論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 論文の進行状況 (50%)、プレゼンテーション (50%)。レポート等の評価は個別に開示する。			
事前・事後学習 予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと (90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと (90分)。			
専門演習 d 奥原 貴士	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修
授業のねらい 卒業論文に関する研究の発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行うことで、研究内容を向上させていきます。			
到達目標 研究のレベルが高い卒業論文を完成させることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点(発表内容、発言回数など)50% 卒業論文50% 発表のつどコメントします。			
事前・事後学習 先行研究をしっかりと読んで、研究を進めてください(毎日90分以上)。			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 研究について簡単なスピーチ 第3講 研究について簡単なスピーチ 第4講 これまでの研究概要発表・意見交換 第5講 これまでの研究概要発表・意見交換 第6講 これまでの研究概要発表・意見交換 第7講 これまでの研究概要発表・意見交換 第8講 これまでの研究概要発表・意見交換 第9講 これまでの研究概要発表・意見交換 第10講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第11講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第12講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第13講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第14講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第15講 総括及び夏期休暇課題の説明			
テキスト・教材（参考文献含む） 特に指定しないが、適宜指示する。			
担当者から一言 学生の積極的な研究及び討論参加を期待する。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 卒業論文の進捗状況の報告 第2講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第3講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第4講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第5講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第6講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第7講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第8講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第9講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第10講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第11講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第12講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第13講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第14講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第15講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション)			
テキスト・教材（参考文献含む） テキストや論文に関しては適宜指定します。			
担当者から一言 発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。			

専門演習 d 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修	授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。 幅広い人間力を身に付ける。 授業計画 1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査 3. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究 4. 設定したテーマに関する情報収集と整理 5. 設定したテーマに関する情報収集と研究 6. 設定したテーマに関する背景の執筆 7. 設定したテーマに関する概要の執筆 8. テーマを深く探究するための研究整理 9. テーマを深く探究する考察 10. 卒論執筆 11. 卒論校閲 12. プレゼン準備 13. プレゼン作成 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会 テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 担当者から一言 社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。
専門演習 d 小泉 大亮	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修	授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。 授業計画 第1講 ガイダンス 演習の概要 第2講 卒業研究進捗状況の報告① 第3講 卒業研究進捗状況の報告② 第4講 卒業研究進捗状況の報告③ 第5講 卒業研究進捗状況の報告④ 第6講 卒業研究進捗状況の報告⑤ 第7講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換① アクティブ ラーニング 第8講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換② アクティブ ラーニング 第9講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換③ アクティブ ラーニング 第10講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換④ アクティブ ラーニング 第11講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換⑤ アクティブ ラーニング 第12講 卒業研究発表① 第13講 卒業研究発表② 第14講 卒業研究発表③ 第15講 まとめ テキスト・教材（参考文献含む） なし 担当者から一言 発表担当者は、責任を持って資料を準備するように
専門演習 d 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修	授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。 幅広い人間力を身に付ける。 授業計画 1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査 3. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究 4. 設定したテーマに関する情報収集と整理 5. 設定したテーマに関する情報収集と研究 6. 設定したテーマに関する背景の執筆 7. 設定したテーマに関する概要の執筆 8. テーマを深く探究するための研究整理 9. テーマを深く探究する考察 10. 卒論執筆 11. 卒論校閲 12. プレゼン準備 13. プレゼン作成 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会 テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 担当者から一言 社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。
専門演習 d 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修	授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。 幅広い人間力を身に付ける。 授業計画 1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査 3. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究 4. 設定したテーマに関する情報収集と整理 5. 設定したテーマに関する情報収集と研究 6. 設定したテーマに関する背景の執筆 7. 設定したテーマに関する概要の執筆 8. テーマを深く探究するための研究整理 9. テーマを深く探究する考察 10. 卒論執筆 11. 卒論校閲 12. プレゼン準備 13. プレゼン作成 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会 テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 担当者から一言 社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。
専門演習 d 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修	授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。 幅広い人間力を身に付ける。 授業計画 1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査 3. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究 4. 設定したテーマに関する情報収集と整理 5. 設定したテーマに関する情報収集と研究 6. 設定したテーマに関する背景の執筆 7. 設定したテーマに関する概要の執筆 8. テーマを深く探究するための研究整理 9. テーマを深く探究する考察 10. 卒論執筆 11. 卒論校閲 12. プレゼン準備 13. プレゼン作成 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会 テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 担当者から一言 社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。
専門演習 d 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修	授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。 幅広い人間力を身に付ける。 授業計画 1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査 3. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究 4. 設定したテーマに関する情報収集と整理 5. 設定したテーマに関する情報収集と研究 6. 設定したテーマに関する背景の執筆 7. 設定したテーマに関する概要の執筆 8. テーマを深く探究するための研究整理 9. テーマを深く探究する考察 10. 卒論執筆 11. 卒論校閲 12. プレゼン準備 13. プレゼン作成 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会 テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 担当者から一言 社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。
専門演習 d 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修	授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。 幅広い人間力を身に付ける。 授業計画 1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査 3. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究 4. 設定したテーマに関する情報収集と整理 5. 設定したテーマに関する情報収集と研究 6. 設定したテーマに関する背景の執筆 7. 設定したテーマに関する概要の執筆 8. テーマを深く探究するための研究整理 9. テーマを深く探究する考察 10. 卒論執筆 11. 卒論校閲 12. プレゼン準備 13. プレゼン作成 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会 テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 担当者から一言 社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。
専門演習 d 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修	授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。 幅広い人間力を身に付ける。 授業計画 1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査 3. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究 4. 設定したテーマに関する情報収集と整理 5. 設定したテーマに関する情報収集と研究 6. 設定したテーマに関する背景の執筆 7. 設定したテーマに関する概要の執筆 8. テーマを深く探究するための研究整理 9. テーマを深く探究する考察 10. 卒論執筆 11. 卒論校閲 12. プレゼン準備 13. プレゼン作成 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会 テキスト・教材（参考文献含む） テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 担当者から一言 社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。

専門演習 d	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
小林慶太郎	PSS4002	後学期	必修

授業のねらい 差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょうか？このゼミ（専門演習）では、身近な地域での問題の解決策（政策）や、その問題解決策を実行していく体制（行政や地域の様々な団体など）、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み（政治）等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思っています。
--

到達目標 身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 無断欠席者および卒論未提出者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況:30% ・授業中の発言・受講態度:30% ・卒業論文:40% なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。
--

事前・事後学習 毎回、何らかのことを調べたり整理したりレジュメを作成したりして来てもらいます(150分程度)。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいってください(30分)。
--

専門演習 d	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
高田晴美	PSS4002	後学期	必修

授業のねらい 日本近現代文学のゼミです。今期はいよいよ、各自、卒業論文の完成に向けて研究を進めていきます。前期に引き続いて、めいめいが扱う作品もしくはその作家の関連作品について、ゼミのメンバー皆で読みあい、議論することで、各自の卒業論文の参考にし、論文をまとめていきましょう。

到達目標 ・卒業論文のテーマにそって、論旨を組み立てていく。 ・そのための地道なテキスト・文献読み、調査を行う ・論を「卒業論文」という形にまとめる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 ・毎回のコメントと受講態度 70% ・発表と質疑応答の内容 30% それぞれの卒業研究について、ゼミ内で適宜コメントをします。
--

事前・事後学習 ・毎回、次回までに、次回扱う作品や文献について読んでくること。（1時間程度） ・それと並行して、自分の卒業論文のための準備を進めていくこと。（数十時間）

授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 課題の設定 第3講 インターネット検索 第4講 データの収集 第5講 文献調査 第6講 論点整理 第7講 ヒアリング調査 第8講 情報整理 第9講 補充調査 第10講 レジュメ作成 第11講 レジュメ完成 第12講 パワーポイント 第13講 ジョイントセミナー反省会 第14講 カンファレンス準備 第15講 学部カンファレンス ※ 基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。各回に扱う内容は、各人の興味関心などに応じて、上記とは変更することがあります。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表会宿「ジョイントセミナー」を、それぞれ予定しています。
--

テキスト・教材（参考文献含む） なし（必要な資料等は、演習の際に配布する予定です）。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。
--

担当者から一言 一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。卒業に向けた準備・勉強との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！
--

授業の位置づけ 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。

授業計画 第1講 ガイダンス、卒論について 第2講 卒業研究進捗状況方向 第3講 歌会 第4講 1人目の研究対象について議論 第5講 2人目の研究対象について議論 第6講 3人目の研究対象について議論 第7講 4人目の研究対象について議論 第8講 5人目の研究対象について議論 第9講 1人目の卒業研究の一部を発表 第10講 2人目の卒業研究の一部を発表 第11講 3人目の卒業研究の一部を発表 第12講 4人目の卒業研究の一部を発表 第13講 5人目の卒業研究の一部を発表 第14講 卒業研究直前発表 第15講 研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む） テキスト等については、適宜プリントを配布するか、購入してもらいます。各自、自分の卒業論文のためのテキスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。
--

担当者から一言 いよいよ卒業論文を執筆し、仕上げていきます。大学での学びの集大成です。情熱を傾けて、ひたむきに取り組んでいきましょう。そして、他のメンバーの研究にもアドバイスをし、切磋琢磨していきましょう。
--

専門演習 d	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位	授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。
	鶴田 利 恵 PSS4002	後学期	必 修	
授業のねらい 前期で行った、文献や情報の収集とその報告を何度か繰り返して卒業研究を完成させていきます。各自による報告だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。				
到達目標 年度末の研究報告の完成を目指します。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 文献や情報収集などへの取り組み(50%)、研究報告の内容(50%) フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントする。				
事前・事後学習 日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。				

専門演習 d	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位	授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。
	富田 与 PSS4002	後学期	必 修	
授業のねらい この演習では、卒業論文の完成を目指します。これまでやってきた作業の繰り返しと、文章の作成を中心に進めていきます。				
到達目標 卒業論文の完成				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 卒業研究の達成度 100% 卒業論文を評価の課題とし、卒業論文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。				
事前・事後学習 とにかく卒業論文を書き進めてください。(180分以上)				

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 3年生の指導 第3講 卒業研究報告とディスカッション 第4講 卒業研究報告とディスカッション 第5講 卒業研究報告とディスカッション 第6講 卒業研究報告とディスカッション 第7講 卒業研究報告とディスカッション 第8講 3年生の指導 第9講 卒業研究報告とディスカッション 第10講 卒業研究報告とディスカッション 第11講 卒業研究報告とディスカッション 第12講 卒業研究報告とディスカッション 第13講 卒業研究報告とディスカッション 第14講 卒業研究報告とディスカッション 第15講 3、4年生合同報告会				
テキスト・教材（参考文献含む） 適宜指示します。				
担当者から一言 大学4年間の集大成です。思いっきり楽しんで研究報告を完成させてください。				

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 一文作文の確認 第3講 一文作文から構成へ1 第4講 一文作文から構成へ2 第5講 草稿の報告と検討1 第6講 草稿の報告と検討2 第7講 草稿の報告と検討3 第8講 草稿の報告と検討4 第9講 作成論文の報告と検討1 第10講 作成論文の報告と検討2 第11講 作成論文の報告と検討3 第12講 作成論文の報告と検討4 第13講 発表会1 第14講 発表会2 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む） 特に指定しない。				
担当者から一言 4年のまとめを形に残すことを常に心がけてください。				

専門演習 d 中西紀夫	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修
授業のねらい この専門演習では、全体としての指導というよりマンツーマンでの指導が多くなります。この演習はこれまでの集大成として精度の高い研究を目指しておりますので、ただ完成させるということではなく、社会人になってからでも自信をもって発信できるものにしていただきたいと思いますと考えております。そのため、第3講から第9講までは毎回、進捗状況をできるだけ細かく報告してもらい、素晴らしい研究発表となるように丁寧な指導をしたいと考えております。			
到達目標 到達目標としては、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築はもとより、継続中の就職活動などでも困らないように最新の社会問題も議論できればと考えています。この演習によって、自信をもって社会人になっていただくための必要不可欠な法律知識を身につけ、その特徴を生かし、あらゆる場面で頼りにされる人材になるための土台をつくることができると考えています。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような評点配分です。 受講態度 50% 研究成果 50% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 発表者には、発表の一週間前の授業時間中までに、テーマと内容を簡単に報告してもらう。 また、週6日は新聞やニュース等も含め1日に30分以上は学習すること。			
専門演習 d 松井真理子	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必修
授業のねらい 前期に取組んだことや、自分の進路などを基に、研究テーマを決めます。そのテーマを掘り下げ、4年間の学びの集大成となる研究を行います。			
到達目標 1 自分の進路や4年間の学びの集大成となる研究を完成させる。 2 調査・研究の手法や、論文の書き方を身に付ける。 3 これからの時代への視座を持つ。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業の取り組み姿勢 50% 卒業研究の内容 50% なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。			
事前・事後学習 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後) 学んだ内容を復習し、卒業研究に生かせるようにしておくこと(90分)			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。			
授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 研究内容の確認及び指導 第3講 研究の進捗状況報告及び指導 第4講 研究の進捗状況報告及び指導 第5講 研究の進捗状況報告及び指導 第6講 研究の進捗状況報告及び指導 第7講 研究の進捗状況報告及び指導 第8講 研究の進捗状況報告及び指導 第9講 研究の進捗状況報告及び指導 第10講 研究発表会に向けた指導 第11講 卒業研究の発表会 第12講 卒業研究の発表会 第13講 卒業研究の発表会 第14講 まとめ、卒業研究論文の提出 第15講 学部の研究発表会			
テキスト・教材（参考文献含む） 適宜指示します。			
担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。有意義な卒業研究になるように、精一杯がんばりましょう。			
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける			
授業計画 第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマの検討(1) 第3講 研究テーマの検討(2) 第4講 調査の方法・論文の書き方 第5講 卒業研究(1) 第6講 卒業研究(2) 第7講 卒業研究(3) 第8講 卒業研究(4) 第9講 卒業研究(5) 第10講 中間発表会 第11講 卒業研究(6) 第12講 卒業研究(7) 第13講 卒業研究(8) 第14講 発表会(1) 第15講 発表会(2)			
テキスト・教材（参考文献含む） 各自が探してきた資料が中心です。 適宜教員も必要な教材を提供します。			
担当者から一言 4年間の集大成を行います。これからの自分の進路に生かせる学びにします。			

専門演習 d 三田 泰雅	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必 修
授業のねらい この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。 前学期に引きつづき、履修者は自ら調査しデータを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないます。 最終的に卒業論文またはそれに準ずるレポートを執筆します。この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。			
到達目標 ①社会学的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける ⑤大学生としての文章作成能力を身につける			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 報告回での報告30%、卒業研究レポート30%、授業への参加度40%として評価します。報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。			
事前・事後学習 報告内容に関する資料に目を通しておくこと(40分) 新聞・ニュースに親しんでおくこと(1日20分)			
専門演習 d 若山 裕晃	科目 ナンバリング PSS4002	4 年次 後学期	2 単位 必 修
授業のねらい 本演習では、これまでに習得した知識や情報を活かして、計画的に卒業研究を展開していく。			
到達目標 卒業研究を展開し、卒業論文を完成させる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 研究内容(50%)、プレゼンテーション(50%)。レポート等の評価は個別に開示する。			
事前・事後学習 予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で議論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 卒業研究報告 第3講 卒業研究報告 第4講 卒業研究報告 第5講 卒業研究報告 第6講 卒業研究報告 第7講 中間まとめ 第8講 卒業研究報告 第9講 卒業研究報告 第10講 卒業研究報告 第11講 まとめ① 第12講 卒業研究報告 第13講 論文指導 第14講 論文指導 第15講 まとめ②			
テキスト・教材（参考文献含む） 必要に応じて資料を配布します			
担当者から一言 世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第3講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第4講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第5講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第6講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第7講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第8講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第9講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第10講 卒業研究についてプレゼンテーション 第11講 卒業研究についてプレゼンテーション 第12講 卒業研究についてプレゼンテーション 第13講 卒業研究についてプレゼンテーション 第14講 卒業研究についてプレゼンテーション 第15講 総括			
テキスト・教材（参考文献含む） 特に指定しないが、適宜指示する。			
担当者から一言 毎回担当者を決めて、卒業研究について発表してもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。			

地方自治論		科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
小林慶太郎		PCD2001	後学期	分野必修

授業のねらい
この授業は、地域・まちづくり分野の分野必修科目です。主に、地方自治の仕組みと課題について扱います。 公立学校、ゴミの収集・処理、上下水道、道路整備、消防・救急……。それぞれの地域での私たちの生活は、様々な場面で、地方自治体の活動によって支えられています。 私たちの暮らしている地域の仕組みやまちづくりの課題について基礎的なことを学ぶことが、今後の総合政策学部での地域・まちづくり分野の学修に役立てられ、さらに将来の地域での生活やまちづくり活動に役立てられることを、この授業のねらいとしています。
到達目標
この授業では、学生諸君が、地方自治の仕組みや課題に関する基本的な用語や知識を身につけ、テレビや新聞の地方自治関連のニュースを理解できるようになることを、到達目標としています。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30% ・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70% なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。
事前・事後学習
日頃からテレビや新聞の地域ニュースに目を通すこと(毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

地域経済論		科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岡 良 浩		PCD2002	前学期	分野必修

授業のねらい
地域経済とは、日本では行政区分である都道府県や経済的区分である首都圏・近畿圏などのことで、厳密に言えば「1つの国内を対象として、国民経済内部を地理的に分割した自立的な経済圏」のことを意味しています。このような地域の経済諸問題を対象とするのが地域経済学という学問分野です。この講義では地域経済学を概説します。
到達目標
以下の3つを掲げています。 ①地域経済を理解する上で重要な基礎的概念を理解すること。 ②具体的な地域(中部圏)がどのような特徴をもった地域かということを理解すること ③実証分析をするために、データの所在と分析方法を理解すること。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への参加態度(含む講義中の小テスト)20% 期末テスト80% 小テストはコメントをつけて返却します。
事前・事後学習
予習はテキストをあらかじめ読んでおいてください。経済学の応用分野ですから、経済原論を復習しておいてください。(90分) 復習は、講義中に理解度を確認する小テストを課します。(90分)

授業の位置づけ	
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。	

授 業 計 画	
第1講	ガイダンス
第2講	「民主主義の学校」地方自治
第3講	地方自治の本旨と日本国憲法
第4講	団体自治と地方自治体の種類
第5講	住民自治と選挙・直接請求
第6講	二元代表制と議会・首長の役割
第7講	自治体行政と公務員
第8講	条例・規則と行政手続
第9講	計画行政と予算
第10講	地方自治のルーツを考える ―英米型と大陸型―
第11講	日本の前近代の地方自治の歴史
第12講	近代日本の地方自治と地方行政
第13講	現代日本の地方自治と地方分権改革
第14講	小規模多機能自治 ―地域における小さな自治―
第15講	市民参加と協働
定期試験	

テキスト・教材(参考文献含む)	
なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります) 【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版、2013年 阿部齋・今村都南雄・寄本勝美編著「地方自治の現代用語(新版第一次改訂版)」学陽書房、2000年	
担当者から一言	
遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。	

授業の位置づけ	
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。	

授 業 計 画	
第1講	ガイダンス／地域の時代
第2講	地域の経済学(地域経済の開放性)
第3講	県民経済計算
第4講	地域所得の決定理論
第5講	地域経済の成長理論
第6講	地域間格差
第7講	都市の成立・発展
第8講	都市圏の設定と都市化の過程
第9講	中心地理論と都市システム
第10講	中部経済のあらまし(1)
第11講	中部経済のあらまし(2)
第12講	都市・地域の経済分析(その1)人口分析、コーホート分析
第13講	都市・地域の経済分析(その2)工業分析
第14講	都市・地域の経済分析(その3)商業分析
第15講	まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)	
テキストは特に使用せず、講義中に資料配付します。 代表的な参考文献として以下があります。 ①山田浩之『地域経済学入門 新版(有斐閣コンパクト)』有斐閣 ②黒田達朗・中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学 新版(有斐閣ブックス)』有斐閣	
担当者から一言	
経済理論を積極的に応用し、地域経済を理解しようとする意欲のある学生の履修を期待します。	

政策過程論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
小林慶太郎	PCD2003	後学期	分野必修

授業のねらい 公害、経済格差、差別…。私たちの暮らしている社会には様々な問題があふれています。そうした問題を解決・改善していくための方策が、政策です。 この授業では、問題の発見から政策の立案・決定、実行、そしてその結果の評価に至るまでの過程を取り上げ、いつ、誰が、どのように、その過程に関わっていくのかを考えます。 学生諸君が将来、自らが暮らす地域をより良いものにするまちづくりの過程に主体的に関わっていきけるような人になることを、ねらいとしています。なお、この授業は地域・まちづくり分野の分野必修科目です。

到達目標 この授業を通じて、学生諸君が、政策の過程についての理解を深め、社会を担う主体的な人間になっていくことを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30% ・定期試験(自筆ノートのみ持込可) :70% なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習 日頃からテレビや新聞の、政治や地域のニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。
--

現代財政学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
鶴田利恵	PPT2001	前学期	選 択

授業のねらい この講義では、財政の基本的な理論や考え方、経済政策や社会保障制度、税の基礎理論と税制の仕組みについて、ミクロ経済学・マクロ経済学の両面から学んでいきます。また、現在の日本が抱えている財政上の諸問題についても適宜解説していきます。授業では、鶴田による解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めていきます。
--

到達目標 財政の基本的な考え方や仕組みを理解し、日本の財政政策について自分なりの意見を言える力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業態度(20%)、定期試験(80%)により評価します。 フィードバック方法：授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
--

事前・事後学習 日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス:この講義の進め方 第2講 政策循環と政策過程 第3講 静態的政策過程論と動態的政策過程論 第4講 政策過程の担い手と「鉄の三角形」 第5講 経済成長の政策過程① 第6講 経済成長の政策過程② 第7講 合理モデルと満足モデル・漸変モデル 第8講 組織過程モデルと組織内政治モデル 第9講 政策類型論とブルーリズム(多元主義) 第10講 コーポラティズム 第11講 エリート理論とテクノクラート理論 第12講 新制度論と政府間関係論 第13講 政策評価論 第14講 市民参加と協働 第15講 コミュニティと自治 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） テキスト・教材(参考文献含む)なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります) 【参考文献】 伊藤光利、田中愛治、真淵勝「政治過程論」有斐閣アルマ(2000年)

担当者から一言 遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 政府の役割 第3講 市場と政府 第4講 財政の仕組み 第5講 公共財 第6講 経済政策 第7講 社会保障制度 第8講 社会政策 第9講 税制の設計 第10講 直接税 第11講 間接税と税制改革 第12講 政府の借金 第13講 地方分権 第14講 公民連携 第15講 まとめ 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） コピーを配布します。 使用テキスト：山重慎二「財政学」中央経済社ベーシックプラスシリーズ(2016年)2,400円(税別)

担当者から一言 質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

行政法 小林慶太郎 他	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PPT2002	後学期	選 択
授業のねらい この授業では、行政と法の関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。 講師として、現在四日市市の職員として働いている本学OB（清水さん、中村さん、室田さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、法的な規範がどのように使われているか、お話いただきます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も、私たちの生活が、いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくれることを、ねらいとしています。			
到達目標 法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 欠席 4 回以上の方には、原則、単位は与えません。成績は以下の配分により評価します。 ・取組姿勢および講義時に指示する簡単な課題の提出状況:75% ・定期試験(レポート):25% なお、講義時に提出された課題に対しては、以降の講義でコメントします。			
事前・事後学習 日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと(毎日 3 0 分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと(6 0 分)。			
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献できる人材になる。			
授 業 計 画 第 1 講 ガイダンス～「行政法」について～(小林) 第 2 講 法学の中の行政法(中西) 第 3 講 法令と条例(小林) 第 4 講 先端産業・企業誘致と法規制(清水) 第 5 講 中心市街地活性化と法律(清水) 第 6 講 農業や伝統産業の振興と法(清水) 第 7 講 公営ギャンブルと法(清水) 第 8 講 選挙活動と公職選挙法(中村) 第 9 講 スポーツ・文化活動と社会教育法(中村) 第10講 公務員倫理と法(室田) 第11講 公共施設の指定管理(中村) 第12講 観光・シティプロモーションと法(中村) 第13講 市民協働を促進するための条例(室田、小林) 第14講 夜の街と法規制(室田) 第15講 行政・まちづくりと法規範(小林) 定期試験(レポート提出) ※ 講師の都合などにより、日程や内容が変更になる場合があります。			
テキスト・教材（参考文献含む） なし(必要に応じて資料を配布する場合があります)			
担当者から一言 学問としての行政法だけではなく、実際の行政・まちづくり活動の視点から、法について講義を行います。 ※ 本科目は三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格の認定科目です。			
行政学 藤本和弘	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PPT2003	後学期	選 択
授業のねらい 主な政策の執行主体が行政であることから、行政の役割、政策立案機能、政策立案手法、政策執行の現状や評価等を体系的に学ぶ。行政事例として三重県における政策執行過程を広範に学ぶことにより、将来、三重県内のいずれの職に赴こうとも、県内外の政策動向を理解できるようにすることを目指す。			
到達目標 毎日報道されている新聞記事やニュース内容について、政策上どのような動向によってもたらされているかを深く理解できるようになること。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 以下のような配分で評価する。 ・講義時に指示する簡単な課題への提出状況および受講態度 50% ・定期試験時に提出してもらうこれまでの講義に即したレポートの内容 50% なお、毎回提出してもらう課題については、翌週回において説明する。			
事前・事後学習 事前学習においては、毎日、新聞やテレビニュースを見ること(30分)。新聞やニュースで見た政策動向に関する図書を読むこと(60分)。事後学習においては、講義で使用したレジュメや自らが記述したノートを見直し、必要事項を覚えるとともに、不明な点等は参考文献等で調べておくこと(90分)。			
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。幅広い人間力を身につける。			
授 業 計 画 1. ガイダンス、行政学について 2. 日本の行政構造の組織的側面 3. 日本の行政構造の財政的側面 4. 地方行政機構成立の基盤 5. 地方行政機構の現状 6. 地方行政機構の業務 7. 総合計画の策定 8. 地域産業の振興 9. 観光産業の振興 10. 市街地活性化政策 11. 医療健康福祉政策 12. 地域環境保全政策 13. 教育政策 14. インフラ整備政策 15. 行政経営			
テキスト・教材（参考文献含む） なし			
担当者から一言 講義中における遅刻、中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動並びに使用は禁止。守られない者には退出を命じることがある。真剣な態度で受講すること。講義中に指名されたら元気に返事すること。			

都市法	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
中西紀夫	PPT3001	前学期	選 択

授業のねらい 本講義のねらいは、都市計画の骨子と環境対策の基本を学ぶことです。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる都市をつくり、改善もしていく仕組みです。これは憲法25条の「生存権」から導き出されるとも考えられます。都市計画の学び方としては、「都市計画を定める仕組み」という法律学の観点から学んでいきます。また、都市計画に必要となる環境対策においても現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。

到達目標 本講義では、都市計画や環境対策の関連法を体系的に理解することを目指しています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市計画や環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30% ： 授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果や出席状況も含む。 定期試験 70% ： テキストのみ持込可なお、授業中に実施した小テストについては、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習 毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくといでしょう。

政策法務	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
中西紀夫	PPT3002	後学期	選 択

授業のねらい 自治体の政策に関わる法律の実務、すなわち自治体法務について学びます。憲法との関係を基本に置きつつ、民法や地方自治法などの法律の規定や行政実例を覚えることを繰り返していても、法処理技術(法務能力)を身につけることは困難であると考えられています。そこで、法律や条例を使いこなすために必要な「法的な捉え方」が身につくように工夫しながら、一方的な講義形式にならないような形にしていきたいと思っています。

到達目標 市役所等を目指している人にとって、就活時に法律や条例を実務上で使いこなせる能力、すなわち、法的な考え方が出来る学び方をしたというアピールをできるくらいになるまでの学力の修得を、教育目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30% ： 授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果や出席状況も含む。 定期試験 70% ： テキストのみ持込可なお、授業中に実施した小テストについては、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習 毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくといでしょう。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス ～都市計画編～ 第2講 都市計画の基本的枠組み 第3講 第2次世界大戦前と後の都市計画の時代 第4講 現行都市計画法の制定時の都市計画の時代、地区計画・規制緩和・コンパクトシティの時代 第5講 これだけは知っておきたい都市計画用語、都市計画図書の読み方 第6講 都市計画区域と都市計画の内容のポイント 第7講 都市計画のための手続きと土地利用に関する都市計画の実現手法 第8講 まとめ ～環境対策編～ 第9講 環境法と既存の法(憲法・行政法・民法・刑法)との関係 第10講 環境対策と法規制、主な環境規制法 第11講 環境アセスメントの考え方 第12講 私法的な救済方法 第13講 条例による規制とその問題点 第14講 環境マネジメントシステム 第15講 まとめ 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） 参考文献 ： 佐々木晶二著『いちからわかる知識&雑学シリーズ 都市計画のキホン』ぎょうせい(2018年)2,000円＋税(価格) 参考文献 ： 中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年) プリントを配布しますが、最新の内容は提供します。

担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 法的なものの考え方(1) 第3講 法的なものの考え方(2) 第4講 法律問題の考え方(1) 第5講 法律問題の考え方(2) 第6講 法の解釈適用～基礎編～(1) 第7講 法の解釈適用～基礎編～(2) 第8講 法の解釈適用～応用編～(1) 第9講 法の解釈適用～応用編～(2) 第10講 条例、規則、要綱 第11講 契約と行政処分のしくみ 第12講 行政手続のしくみ 第13講 自治体の組織のしくみ 第14講 法律問題の実際、条例の役割 第15講 まとめ

テキスト・教材（参考文献含む） テキスト ： 森幸二著『1万人が愛した はじめての自治体法務テキスト』第一法規(2017年)2,400円＋税(価格) 参考文献 ： 吉田勉著『自治体法務・入門講座』学陽書房(2018年)2,600円＋税(価格)

担当者から一言 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取って下さい。出席する以上は、集中して受講しましょう。
--

地域産業論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岡 良 浩	PCD2001	前学期	選 択

授業のねらい 地域の将来を考えると、それぞれの地域の産業がどのように発展するかが重要です。産業構造が変化するなかで、地域の産業は一概ではありません。我が国では、地域の既存集積や資源を活用して、どのように産業を産み出していくかが重要になりつつあります。地域産業政策も、基盤整備型・産業誘致型の政策から、産業創造力を支える仕組みづくりが重要になりつつあります。 本講義では、地域産業に関する緒論や産業立地論を解説するとともに、地域産業政策を理解します。またフィールドワークを実施し、地域産業の理解を深めます。
--

到達目標 到達目標は、以下の3つです。 1. 地域産業に関する緒論を理解する 2. 産業立地論や地域産業政策を理解する 3. 四.日市・北勢地域の地域企業や産業を知る
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 学期末試験（50％）小レポート（25％）フィールドワーク課題（25％）によって評価します。 小テストは講義中に課し、提出されたものは添削して返却します。

事前・事後学習 配付資料に事前に目を通しておいてください。（90分） 講義中に課される小レポートを行ってください。（90分）
--

地域開発論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岡 良 浩	PCD2004	後学期	選 択

授業のねらい この講義では、都市を中心に空間利用のあり方を考えます。そのねらいは大きくわけて以下の4つです。第1は、人類の長い歴史のなかで、都市がなぜ、どのように形成されていったのか(都市の原理)を理解することです。第2は、産業革命後の都市問題の発生と解決方法(近代都市計画)の形成過程を知ることです。第3は、現在の都市がどのような制度によって計画されているか(都市計画制度)を理解することです。第4は、これからの都市のあり方がどのように考えられているかということを理解することです。

到達目標 到達目標としては、講義のねらいの4つ(都市の原理・近代都市計画・都市計画制度・都市のあり方)を理解し、まちづくりを空間利用という観点から考える基礎を身につけることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業への参加態度(含む講義中の小テスト)20% 期末テスト80% 小テストはコメントをつけて返却します。
--

事前・事後学習 予習:テキストをあらかじめ指定した範囲を読んでおくこと(90分)。 復習:講義中に課される小テスト(作文)を行ってください(90分)。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 地域産業の緒論(1)ベティークラークの法則／産業分類 第3講 地域産業の緒論(2) ホフマンの法則／ロストウの発展段階説？ 第4講 地域産業の緒論(3)工業化の終焉／産業空洞化 第5講 産業立地論(1)工業立地論の概観／輸送費問題 第6講 産業立地論(2)ウェーバー工業立地論 第7講 産業立地論(3)商業立地論(ホテリングモデル) 第8講 地域産業政策(1) 新産業構造ビジョン 第9講 地域産業政策(2) 大都市工業論／産業集積論 第10講 地域産業政策(3)三重県・四日市市の産業振興？ 第11講 地域産業フィールドワーク※ 第12講 地域産業フィールドワーク※ 第13講 地域産業フィールドワーク※ 第14講 地域産業フィールドワーク※ 第15講 まとめ ※フィールドワーク 夏期の集中講義期間のうち1日利用して、フィールドワーク（地域企業の訪問）を実施します。 日程および見学先は講義中にガイダンスします。 参加できない学生には、別途、自由課題を課します。
--

テキスト・教材（参考文献含む） 特に使用せず、講義中に資料配布します。 代表的な参考文献は以下です。 伊藤正昭『新地域産業論～産業の地域化を求めて～』学文社

担当者から一言 講義を通じて、自分の故郷や関心のある地域をイメージし、どのような産業発展を経験し、どのような課題・展望があるかを考えるきっかけにしてください。
--

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス／地域開発と都市 第2講 都市の時代(世界人口・都市人口) 第3講 世界の都市形成史 第4講 日本の都市形成と都市構造の特質 第5講 都市と人間(都市の原理) 第6講 近代都市計画の潮流（1）産業革命と都市問題／ロバート・オーエンの理想郷 第7講 近代都市計画の潮流(2) E. ハワードの田園都市論／C. A. ベリーの近隣住区論 第8講 日本の都市計画制度(1)都市計画の内容／法体系 第9講 日本の都市計画制度(2)都市計画マスタープラン、土地利用計画 第10講 日本の都市計画制度(3)市街地開発事業 第11講 総合的な開発の事例 第12講 三重県の都市計画 第13講 サステイナブル・シティ（Sustainable City）／コンパクトシティ(Compact City) 第14講 都市再生・中心市街地活性化 第15講 国土計画(国土利用計画法、国土形成計画法)

テキスト・教材（参考文献含む） 講義の冒頭でテキストを配布します。 参考文献リストもテキスト内で呈示します。
--

担当者から一言 都市は、日常生活にかかわる身近な場です。自分のふるさとや魅力あるまちを頭に思い浮かべながら、皆さんが都市づくりに関心を持つことを期待します。 本科目は三重創生ファンタジスタ(パーシック)資格の認定対象科目です。

地域福祉論／福祉住環境論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
柴田 啓文	PCD2002	前学期	選 択

授業のねらい 福祉は社会で排除された人々を社会に取り戻す活動です。特に、障害者や女性、子ども、高齢者、経済的困窮者などいわゆる「社会的弱者」の生活向上、社会参画の支援、権利を擁護することで、共に生きる社会を創造することを目標にしています。 この科目では、まず、福祉の理念を学び、その観点から地域にどのような問題があるのか、また、どのような対応が可能であるかについて、できるかぎり具体的なデータに基づいて検討します。
--

到達目標 福祉の理念を理解し、地域の現状を知り、あるべき地域福祉のあり方を自ら考える力を身につけます。また、そのために関係データを収集し、処理するスキルを養います。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点50％と学期末試験50％により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcel）の提出と小テストなどによります。小テストの得点は直後に、提出ノートの得点は一週間以内に教育支援システムのコースの「評定」に表示します。
--

事前・事後学習 福祉関連サイトを紹介しますので、毎日30分は各サイトを閲覧し、福祉についての最新の情報を収集してください。また、授業で取り上げた各テーマについてのデータを集めて分析してください。

社会保障論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
李 修二	PCD2005	後学期	選 択

授業のねらい この講義では、現代日本における社会保障制度の基本的な枠組みを概観し、学んでいきます。社会保障制度は、少子高齢化を前提とする今後の日本社会にとって、最も重要な社会経済制度と位置づけられるものの一つになっています。そして、経済のかんりの部分が、何らかの形で社会保障制度と関係するようになってきています。そこで、現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴を理解することが講義のねらいとなります。

到達目標 この講義で学ぶ様々な社会保障制度がなぜ必要とされているか、どのような経緯で成立させられてきたのか、そして、将来に向けてどのような課題があるのか。将来の日本の社会保障のあり方をめぐって意欲的な議論を展開するテキストを用いて、それら社会保障論の要点を理解することが講義の到達目標となります。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎授業毎のミニツペーパーで50％評価し、学期末の筆記試験で50％評価します。（ミニツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明します。また、提出済みミニツペーパーに対し、次の授業時に講評します。）

事前・事後学習 毎回の授業後、ミニツペーパー（小レポート）を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず授業前に講義ノートやテキストを復習・予習して授業にのぞんでください。（復習・予習、計60分以上） さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブなどでの社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（30分以上）
--

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる

授 業 計 画 第1回 ガイダンス:授業の内容と評価(毎回の授業ノートはExcel) 第2回 教育支援システムの登録 第3回 少子高齢化社会と福祉 第4回 国家予算と福祉 第5回 福祉の理念:障害の社会モデル 第6回 福祉の理念:障害者の自立とノーマライゼーション 第7回 バリアフリーとユニバーサルデザイン 第8回 地域における特別のニーズとは何か？ 第9回 地域における特別のニーズとは何か？ 第10回 福祉職の現状 第11回 福祉とAIの1 第12回 福祉とAIの2 第13回 福祉とInternet of Things 第14回 多様な人々 第15回 まとめ

テキスト・教材（参考文献含む） 使用しません。

担当者から一言 学習支援システム（MOODLE）を利用。ExcelやWordの基本的な用法についても解説します。「地域福祉論」を通して、自らの生き方や社会のあり方について考えようとするみなさんの受講を期待します。
--

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 「人生前半の社会保障」とは 第3講 ライフサイクル 第4講 日本の社会保障の特徴 第5講 社会保障をめぐる新しい課題 第6講 教育と社会保障 第7講 ライフサイクルと再分配 第8講 年金改革 第9講 福祉国家 第10講 定常型社会 第11講 環境・福祉・経済 第12講 政策統合ないし総合政策 第13講 まちづくり・都市政策との関連 第14講 医療政策 第15講 新しいコミュニティ 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） テキスト：広井良典著『持続可能な福祉社会 ～「もう一つの日本」の構想」ちくま新書 テキストの内容に沿った書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。 参考文献：椋野美智子ほか著『はじめての社会保障』有斐閣

担当者から一言 社会保障制度の知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。なぜ、そのような制度となっているのか、意味を理解するように学んでください。
--

地域社会学 三田 泰雅	科目 ナンバリング PCD2003	2 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい 地域社会の問題は、どんなに小さなことでも世界や時代などの大きな背景とつながっています。この授業では地域社会を考えるための基礎的知識を学ぶとともに、現代の地域社会が抱える問題を社会的な視点から解説します。			
到達目標 現代社会を考えるための基礎的知識を身につけ、より広い視点から地域の問題を考えられるようになる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 <評価> 毎回の小レポート30%、中間試験15%、期末試験55% <フィードバック> 小レポートは翌週の授業内でコメントする			
事前・事後学習 新聞・ニュースに目を通す(1日30分)			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 地域社会学の射程 第3講 都市の成長 第4講 都市と社会階層 第5講 都市の人間関係 第6講 都市空間の社会地図 第7講 家と村 第8講 少子高齢化と地域社会 第9講 グローバル化と地域社会 第10講 大学と地域 第11講 地域社会とジェンダー 第12講～第15講 フィールドワーク ※フィールドワークは三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」にて学外授業を行ないます。			
テキスト・教材（参考文献含む） <参考文献> 森岡清志編『地域の社会学』有斐閣、2008年。			
担当者から一言 学外授業の日程は初回のガイダンスで調整します。			

環境社会学 橋本 幸彦	科目 ナンバリング PCD2006	2 年次 後学期	2 単位 選 択
授業のねらい 環境社会学という学問の基本的な知識や考え方を習得することを目指す。過去および現在の様々な環境問題について理解し、その解決方法について考察します。後半では近年、深刻化している野生動物の問題を題材として、ディスカッションなどを行い、問題解決能力の向上を図ります。			
到達目標 人間社会と環境の間にある、複雑かつ多岐にわたる様々な環境問題について、歴史を学び、そこから得た教訓を踏まえ、一人一人が考え、行動できるよう、基礎知識や思考法等を身につけることを目標とします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業に対する積極性(50%)、期末試験(50%)を元に総合的に評価します。毎回、小レポートの提出を課し、授業に対する積極性として評価します。その他、授業中の発言や質問なども評価します。			
事前・事後学習 前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週60分)。また日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで地域社会に関する情報をチェックし、わからない用語を調べ、なぜ関心を持ったか自分の中で整理してください(1日平均20分)。			
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 環境社会学とは 第3講 環境問題の歴史 ① 第二次世界大戦以前 第4講 環境問題の歴史 ② 産業公害を中心に 第5講 環境問題の歴史 ③ 生活公害を中心に 第6講 被害構造論 第7講 受益圏・受苦圏 第8講 社会的ジレンマ論 第9講 生活環境主義 第10講 環境問題と環境運動 第11講 野生動物保護管理とは 第12講 野生動物と人間社会 ① 第13講 野生動物と人間社会 ② 第14講 野生生物保護管理と動物の生態 第15講 まとめ 定期試験			
テキスト・教材（参考文献含む） 自作プリント、必要に応じて関連資料配布。 参考文献 飯島伸子著「環境社会学のすすめ」丸善 鳥越皓之・帯屋博明編著「よくわかる環境社会学」ミネルバ書房			
担当者から一言 最近では、環境問題に関するニュースが毎週のように報じられています。これらのニュースがあれば、随時紹介します。みなさんも関心のあるニュースなどを見つけたら、講義中に発言してください。積極的な講義への参加を期待します。			

食とまちづくり	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
小林慶太郎	PCP2001	前学期	選 択

授業のねらい この授業では、食とまちづくりについて扱っていきます。近年、まちづくりとの関係から注目されるようになってきている食文化。この授業では、食文化を通じたまちづくりの可能性について、四日市とんてきなどの食を通じて実際にまちづくり活動に取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、5月に四日市で開かれる「ご当地グルメでまちおこしの祭典B-1グランプリ」にスタッフとして参加したりすることを通じて学びます。学生諸君が、まちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。

到達目標 この授業では、学生諸君が、まちづくりの現場を体験することを経て、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 欠席4回以上の者には、原則、単位は与えません。成績は以下の配分により評価します。 ・グループワークや実習への取組姿勢:75% ・定期試験(レポート):25% なお、グループワークや実習で出された質問に対しては、コメントを返します。

事前・事後学習 日頃から食やまちづくりに関するテレビや新聞のニュースに目を通すこと(90分/週)。ご当地グルメを求めて積極的に各地を旅したり情報を収集したりすること(1泊に相当する程度)。

祭りとまちづくり	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岩崎恭典 他	PCO2003	前学期	選 択

授業のねらい 地域の文化は、そこに生活する人々によって育まれている。しかし、高齢化や生活様式、価値観の多様化により、伝統文化の継承は、危機に瀕している場合が多い。 この講義では、「大入道山車」(三重県指定有形民俗文化財)、富田の鯨船行事(ユネスコ文化遺産)を事例として、伝統文化の保存・継承には、どのような課題があるか、保存・継承の持つ意味を、実際に祭りや保存活動に参加することにより、考えてもらおうとするものである。

到達目標 講義と実習を通じて、祭りの持つ意味と、祭りの果たす地域統合の役割について学び、自分自身がこれからの地域社会で何ができるのかを明確にすることを到達目標とする。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義については、いわゆる「大福帳」を用いてフィードバックを行なう。成績評価については、組立実習や祭りなどへの取り組み意欲(50%)、レポート(A4版3枚以上)の評価(50%)により行う。現地実習に際しては、その都度、振り返りを行う。
--

事前・事後学習 講義期間中については、専門家による講義もあるので、前回までの講義内容の復習をしておくことが必要である。実習期間までに、間があるので、講義内容は実習までに復習しておくこと。また、形態の異なる3つの実習に参加するので、それぞれについて、復習が必要である。(1日30分)

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。
--

授 業 計 画 第1講(4/10) ガイダンス:まちづくりとは何だろう 第2講(4/17) 四日市とんてきによるまちおこしの取り組み 第3講(4/18土曜) ボランティアの役割(説明会に参加) 第4講(4/24) 四日市の魅力を発掘(グループワーク) 第5講(5/1) 四日市の魅力を伝えるために(グループワーク) 第6講(日程未定夜間)世代を超えた絆づくり(スタッフ結団式) 第7講(5/8) 学生にできるおもてなし(グループワーク) 第8講～第13講 (5/16～17)「東海・北陸B－1グランプリin四日市」へのスタッフとしての参加を授業6回分としてカウントする(実習) 第14講(5/22) B－1グランプリとまちづくり(グループワーク) 第15講(7/17) 食によるまちづくりの課題と可能性(グループワーク) 定期試験(レポート提出) ※ ゲストスピーカーの都合やイベントの状況などにより、順番や内容が大きく変更になる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む） なし(必要に応じて資料を配布する場合があります) 【参考文献】 依懐一「B級ご当地グルメでまちおこし」学芸出版社(2011年)
--

担当者から一言 実習に参加できない学生には、単位は与えられません。履修者は必ず実習に参加するようにして下さい。なお、実習先までの交通費は、原則として個人負担となります。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス(詳細な日程を示す) 第2講 地域文化の意味(岩崎) 第3講 祭礼とイベント 第3～7講担当者…前田憲司氏(芸能評論家) 第4講 四日市祭の歴史 第5講 四日市祭の現在 第6講 四日市祭の課題 第7講 保存継承の問題点と今後の課題 第8講 岩戸山の復活 講義(岩戸山保存会会長) 第9講 大入道山車の保存継承上の課題 講義(大入道保存会会長) 第10講 富田鯨船の保存継承上の課題 講義(富田鯨船中島組会長) 第11講 現地実習① 7月19日 土曜日 終日(大入道の組み立てへの参加) 第12講 現地実習② 8月2日 日曜日 終日 大四日市祭 岩戸山、大入道の演技への参加 第13講 現地実習② 8月2日 日曜日 終日 大四日市祭 岩戸山、大入道の演技への参加 第14講 現地実習③ 8月15日 土曜日 終日 富田鯨船行事への参加 第15講 現地実習③ 8月15日 土曜日 終日 富田鯨船行事への参加 オリンピックの影響で大幅な日程変更の可能性あり。
--

テキスト・教材（参考文献含む） なし。必要に応じてレジメを出す。

担当者から一言 この講座は、四日市市と四日市市中納屋町大入道保存会のご協力を得て過去12年にわたって開講しているものである。地域の祭りに主体的に参加してみようとする学生諸君の参加を希望する。なお今年度は、6月6日(土)に「鯨船シンポジウム」が予定されているので、一連の講義・実習の一環として、出席することが望ましい。

音楽とまちづくり／芸術学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PCO2006	後学期	選 択

授業のねらい 四日市市では、「街は劇場、通りは舞台 主役はあなた」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。 この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。
--

到達目標 音楽フェスの運営方法を実践的に学ぶとともに、音楽をまちづくりにつなげる仕組みや市民の活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30%、講義で課す課題40% (①～⑧)、定期試験(レポート)30%で総合評価する。 小レポートに関しては、採点し、学生の疑問や理解の足りない部分について、授業の中でフィードバックする。
--

事前・事後学習 座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、課題に取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちにパンフレットを見ながらイベントを振り返ること。
--

鉄道とまちづくり	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PCO2007	後学期	選 択

授業のねらい 自動車が移動手段として普通となっている北勢地域であるため、どの鉄道会社も、通勤・通学客の減少によって、苦境にあることは事実である。 では、このまま、鉄道は消え去る運命にあるのだろうか。 この講義では、今後の超高齢社会のなかでは、必要性が高まるに違いないはずの鉄道事業者たる三岐鉄道を素材として、その経営戦略を具体的に学ぶとともに、地域社会はどうあるべきか、公共交通体系はどうあるべきか、そのためには、企業とともに我々住民はどうあるべきかを、具体的に学ぼうとするものである。

到達目標 この講義を通じて、公共交通の重要性を知るとともに、そのために住民としてどう行動すべきかを知り、また、鉄道の利用者増を目指したさまざまなイベントのノウハウを取得することも到達目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価は、研究テーマへの取り組み意欲 (50%)、成果報告のプレゼンテーション結果の評価 (50%) により行う。現地視察、サンタ電車の運行については、その都度振り返りを実施する。
--

事前・事後学習 地方鉄道の苦境、特に近隣のあすなろう鉄道や養老鉄道、伊賀鉄道の動向を伝える新聞記事、ネット情報を収集しておくように。イベント企画や事例研究の際に役立つであろう。(1日30分)

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。
--

授 業 計 画 第1講(10/1)ガイダンス(教員全員) 第2講(10/8)JAZZフェスとまちづくり(実行委員長柳川)① 第3講(10/15)会場設営(実行委員会 堀木)② 第4講(10/22)イベントに向けた心構えと詳細打ち合わせ(実行委員会 山川)③ 第5・6講(10/24)現地実習 第7～10講(10/25)現地実習 10/29休み 第11講(11/5)経費と協賛(実行委員会 阪)④ 第12講(11/12)発信とメディア(実行委員会 山川)⑤ 第13講(11/19)音楽イベントと音響(関根)⑥ 第14講(11/26)音楽イベントとしてのオペラの制作とミュージカルとの比較(関根)⑦ 第15講(12/3)まちづくりにおける音(前川)⑧ (以降は予備日) ※都合により講義計画が変更になる可能性があります。掲示等を見て見るようにしてください。なお、現地実習を遅刻・欠席した者には原則として単位は与えません。忌引きや伝染病などの公欠にあたる理由が発生した場合は、課題などで代替することを検討します。
--

テキスト・教材 (参考文献含む) JAZZフェスのパンフレットと配布資料
--

担当者から一言 最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 開講の狙い 三岐鉄道の経営戦略 講義(担当者…岩崎) 第2～3講 10月4日・日曜日を予定 現地見学 北勢線を実際に乗り回し、ボランティア運営による施設(軽便鉄道博物館、貨物鉄道博物館等)、東員駅のCTC等を見学する 第4講 鉄道とまちづくり 北勢地域の鉄道 講義(岩崎) 第5講 三岐鉄道の鉄道事業概要 講義(株三岐鉄道鉄道部長及び担当者) 第6講 個別研究のテーマ出し 第7講 テーマ別の研究班編成 第8講 研究班ごとのグループワーク 第9講 研究班ごとのグループワーク 第10講 研究班ごとのグループワーク 第11講 研究班ごとのグループワーク 第12講 サンタ電車運行準備 第13講 サンタ電車運行準備 第14講 12月19日・土曜日を予定 北勢線サンタ電車運行 第15講 グループワーク成果報告会・反省会、レポート提出

テキスト・教材 (参考文献含む) 教材は、コピーにて配布する。希望者には、(株)三岐鉄道・四日市大学総合政策学部編「地域活性化に地方鉄道が果たす役割－三岐鉄道の場合」(2008年9月、交通新聞社)を貸し出す。
--

担当者から一言 この講座は、三岐鉄道の全面的な協力により実施されるものです。実際に、三岐鉄道の事業に触れて、鉄道の存続に賭ける社員の情熱を感じてください。 講義、実習、ゼミ形式と様々な形式で行われますから、特に日程に注意して下さい。

コミュニティ論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
岩崎 恭典	PCO2002	後学期	選 択

授業のねらい この講義では、主として包括的な地縁組織として深く住民の生活に関わっている町内会・自治会(以下、町内会)を取り上げる。 市町村合併終了後、狭域の自治を育む仕組みとして、町内会は再評価されている。しかし、その一方で、自治体行政の下請機関化した町内会を、そのまま、新しい自治の単位とすることについては、多くの危惧がある。 そこで、講義では、町内会の歴史を辿り、問題点や課題を整理し、自治の単位としての「近隣政府」の可能性を追及し、実習を通じて、新たな地縁組織の必要性について理解する。

到達目標 1. 地縁組織としての町内会の歴史的な役割を理解し、コミュニティとの違いを理解する。 2. さらに、今後の地域社会のなかでの団体の果たすべき役割と個人としての関わり方を、 3. 実際の町内会の運営を理解することにより知る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義への出席は前提である。定期試験55％、県内の実地調査による地域自治組織のレポートあるいは課題図書 of レポート45％の割合で評価する。 講義に際しては、「大福帳」を使用し、講義内容についての質疑応答を行う。

事前・事後学習 諸君が居住する地域で町内会・自治会がどのような状況にあるか、日常的に関心を持ってみておくように。レポートの題材となる場合もある。 講義は、町内会の歴史的変遷を扱うことから、予習・復習は欠かせない。また、フィールドワークを実施する際には、十分な事前準備が必要となる。(1日30分)

地方議会論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
松井 真理子	PCO2004	前学期	選 択

授業のねらい 議会は多様な市民の声を代表し、自治体の重要な意思決定権も行う、きわめて重要な役割があることから、近年三重県議会、四日市市議会などで、全国に先駆けて議会改革に積極的に取り組まれています。この講義では、議会や議員についての基礎的な知識を修得するとともに、四日市市議会での議案への事前意見募集や議会報告会などに参加することを通じて、現場の議会改革最前線の動きを学びます。議会を身近に感じ、今日における地方議会の意義を理解することで、選挙への参加意欲の向上も図ります。
--

到達目標 1 地方議会の仕組みと機能を理解する。 2 地方議会と市民の生活の関係を理解する。 3 議員を身近に感じ、選挙への参加意欲を高める。 4 議会の機能を発揮するための議会改革の必要性とその取組内容を理解する。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎講義時のミニレポート 30％ 議会報告会のレポート 20％ 定期試験 50％ 毎講義時のミニレポートの質問については、次の授業で解説する。

事前・事後学習 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 現地調査プランの提起とレポートの詳細提示 第2講 地域団体とは何か、町内会の現状と課題 第3講 町内会の歴史 1 第4講 町内会の歴史 2 第5講 町内会の歴史 3 第6講 町内会の展望 なぜ、今、近隣政府か 第7講 事例研究に向けて 四日市市における町内会の概要について 第8講 事例研究に向けて 大学近隣の町内会の現状について(四日市市内の町内会役員) 第9講 事例研究 町内会の取り組み実習 11月中旬の土曜日あるいは日曜日を予定 第10講 事例研究 第11講 事例研究 第12講 事例研究 第13講 まとめ 1 事例研究 報告会 第14講 まとめ 2 事例研究 報告会 第15講 まとめ 3 近隣政府をつくるための住民団体の役割とは何か 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む) なし、レジメと資料を配布する。
--

担当者から一言 町内会は、風土の賜物といわれるぐらい、地域によってそのあり方が違います。そこで、フィールドワークをしてもらいます。その日程は、土日が中心になりますが、参加は必須です。活発に活動されている地域の高齢者の方々と話をしてみてください。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス・地方議会の仕組み(1) 第2講 地方議会の仕組み(2) 第3講 地方議会の議員になること(議員講話) 第4講 市民の生活課題と地方議会(1) 第5講 市民の生活課題と地方議会(2) 第6講 議会改革総論 第7講 三重県の議会改革(1) 第8講 四日市議会6月定例会議会の議案への意見提出(グループワーク・プレゼンテーション) 第9講 三重県の議会改革(2) 第10講 三重県の議会改革(3) 第11講 議会ウォッチャーから見た議会改革 第12講 四日市市の議会改革 第13講 四日市市議会報告会参加(夜間・実習) 第14講 四日市市議会報告会の振り返り(グループワーク) 第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む) 毎回講義時に資料を配布します。
--

担当者から一言 地方議会の現場と連携した授業です。身近な議会や議員に興味が出てくるはずです。

NPO論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
松井真理子	PCO2005	前学期	選 択

授業のねらい 社会を構成している3つのセクター（政府、企業、市民）のうち、市民セクター（市民社会ともいいます）は他のセクターとは異なる特徴と重要性があります。四日市市の市民セクターにはさまざまな担い手が活動していますが、どのような担い手が、どんな活動を行っているのかを、地域の実践家を招いて具体的に紹介します。これらを通じて、市民セクターの存在意義を深く理解するとともに、市民が市民を支える社会づくりへの参画の一歩とします。

到達目標 1 市民社会の基本理念を理解する。 2 多様な市民社会の担い手の存在を理解する。 3 市民社会が抱える課題や、それに対する新しい方向性について理解する。 4 市民が市民を支える社会づくりについて関心を高め、一歩を踏み出す。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎講義時のミニレポート 40% 定期試験 60% 毎講義時のミニレポートの質問については、次回の授業で解説する。
--

事前・事後学習 （授業前）日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと（毎日30分程度） 授業内容について事前に予習しておくこと（60分） （授業後）学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと（90分）

マイノリティ政策	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
小林慶太郎	PRP2001	前学期	選 択

授業のねらい この授業では主に、マイノリティ（少数者）に関する政策について扱っていきます。一口にマイノリティといっても、少数民族や外国人、性同一性障害者や同性愛者、障害者や難病患者など、その内訳は様々です。また、時と場合によっては誰しもがマイノリティになる可能性も持っています。しかしながら、これまでしばしばマイノリティは、その存在が無視されたり差別の対象となってきたりしました。この講義は、こうしたマイノリティの存在を知ること社会の多様性に気づき、寛容な心を持つようになってくれることを、ねらいとしています。
--

到達目標 この授業では、学生諸君が、日本の社会においてマイノリティが直面している様々な問題に関する基本的な知識を身につけ、マイノリティの存在を念頭に置いた思考が出来るようになることを、到達目標としています。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30% ・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70% なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習 日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス・NPOとボランティアとは何か 第2講 さまざまな市民活動 第3・4講 ささえあいのまち創造基金公開プレゼンテーション参加（実習） 第5講 学生にもできる活動 第6講 NPOの組織と財源 第7講 地域の課題とNPO(1) ～子ども・若者を支える活動 第8講 地域の課題とNPO(2) ～高齢者を支える活動 第9講 地域の課題とNPO(3) ～障害者を支援する活動 第10講 地域の課題とNPO(4) ～環境問題に取り組む活動 第11講 社会的企業～社会課題をビジネスの手法で取組む 第12講 市民活動をつなぐ中間支援 第13講 国際的課題とNGO 第14講 新しい公共と協働 第15講 まとめ

テキスト・教材（参考文献含む） 毎回講義時に、教員が作成した資料を配布します。
--

担当者から一言 ボランティアセンターが紹介する地域のボランティア活動にも、ぜひ参加してください。

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する幅広い人間力を身につける
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス:この講義の進め方 第2講 あなたの隣のマイノリティ(グループワーク) 第3講 民族と国民国家 第4講 棲み分けか統合か ～諸外国のケースから～ 第5講 日本における少数民族政策 第6講 もう一つの民族問題 在住外国人 第7講 日本における在住外国人政策 第8講 地域における在住外国人政策 第9講 セクシュアルマイノリティとLGBT 第10講 トランスジェンダーと性同一性障害 第11講 同性愛・両性愛と異性愛 第12講 性感染症をめぐる差別とタブー 第13講 地域におけるセクシュアルマイノリティ政策 第14講 日本の歴史の中のマイノリティ 第15講 これからのマイノリティ政策(グループワーク) 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)。 【参考文献】 塩川伸明「民族とネイション」岩波新書(2008年) 小林慶太郎「LGBTと自治体行政」時事通信社(2016年)
--

担当者から一言 遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

環境政策	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
鬼頭 浩文・岡 良 浩	PRP2002	前学期	選 択
授業のねらい			
環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。			
到達目標			
環境問題の持つ難しさと環境改善の手法を多面的に理解することを通して、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身につけることが到達目標である。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法			
小レポート 5 点×約10回として全体の50%、学期末試験50%の配分で、総合的に評価する。フィードバックとして、小レポートから課題の解説や学生の主な間違いを指摘し、要望のある学生には課題の点数を伝える。			
事前・事後学習			
シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。小レポートでは、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、書いてほしい。			
観光政策／観光実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
千葉 賢・岡 良 浩	PRP2003	前学期	選 択
授業のねらい			
政府は「観光ビジョン実現プログラム2019」を策定し、インバウンド観光を利用した地域の活性化に取り組むと発表した。本授業ではインバウンド観光に限らず、日本人も対象としたツーリズムによる経済活性化と地域おこしの方法と事例について学ぶ。また、自然環境と歴史文化資源などの地域の魅力を観光に生かす方法を学ぶ。授業の後半で、地域魅力発見体験合宿を行い、地域の方々と触れあい、田舎暮らしを体験し、地域の仕事を手伝う。この中で、地域の魅力を自分の目で発見する。これら経験をまとめてプレゼンする能力の育成も行う。			
到達目標			
ツーリズムによる地域経済の活性化や地域おこしの手法を学ぶとともに、それに関連した自然環境と歴史文化資源の保全の重要性を理解できるようになる。地域魅力発見体験合宿を通じて、地域の隠れた観光資源を発掘する方法を習得する。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法			
講義と合宿の取組み姿勢（60%）、合宿成果発表会（20%）、合宿成果レポート（20%）により評価する。合宿に参加しない者、合宿成果発表会で発表しない者、合宿成果レポートを提出しない者には単位を与えない。実習時や成果発表会を通じて学生に学習進度をフィードバックする。			
事前・事後学習			
四日市地域やいなべ市などのツーリズム関連の資料、自然資源や歴史文化資源の資料を配布するので、それを予習（180分）して授業に臨むこと。			

授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる
授 業 計 画
第1 講 ガイダンス・環境政策とは（岡） 第2 講 ゴミ問題から環境政策を考える（岡） 第3 講 循環型社会とリサイクル（岡） 第4 講 ICETTの取り組み（鬼頭：ゲスト講師＝ICETTより） 第5・6 講 四日市公害と中国の大気汚染対策①②（鬼頭） 第7 講 四日市公害と夜景クルーズ（鬼頭：ゲスト講師＝寺本） 第8 講 三重の産廃問題とメガソーラーの環境影響（岡：ゲスト講師＝武本） 第9 講 モンゴル・インドネシアの環境問題（岡：ゲスト講師＝武本） 第10・11 講 伊勢湾の水質問題と環境政策①②（千葉） 第12 講 地球温暖化の仕組みと現状（鬼頭） 第13 講 三重の地球温暖化対策（鬼頭：ゲスト講師＝三重県） 第14 講 映像で観る今日の環境政策の課題（鬼頭） 第15 講 まとめと講義の振り返り（鬼頭）
テキスト・教材（参考文献含む）
講義でプリントを配布する
担当者から一言
仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。
授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。
授 業 計 画
第1 講 ガイダンス、ツーリズムとは 第2 講 ツーリズム概論（講師：岡） 第3 講 ツーリズム概論（講師：岡） 第4 講 ツーリズム概論（外部講師） 第5 講 ツーリズムと環境問題（講師：千葉） 第6 講 ツーリズムと環境問題（講師：千葉） 第7 講 地域魅力発見合宿のガイダンス（講師：岡、千葉） 第8－13 講 地域魅力発見合宿（3泊4日前後） 第14－15 講 合宿成果発表会（合宿地にて）（講師：岡、千葉） レポート 合宿成果をレポートとして提出
定員：合宿を行う関係から、履修者上限を20名とする。 合宿期間：8月下旬から9月上旬 合宿予定地：鳥羽市答志島桃取町 合宿費用、旅費：学生負担。ただし、大きな負担にならないように配慮する。 食事：自炊
テキスト・教材（参考文献含む）
なし。資料を配布する。
担当者から一言
田舎暮らしを体験し、地域の方々と触れ合い、地域の魅力を発見し、それを発表するアクティブラーニング形式の授業です。観光産業に興味のある人、農業、漁業、田舎暮らしや神社仏閣や史跡に興味のある人、企画好きな人は是非参加してください。

経済政策 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PRP2005	後学期	選 択
授業のねらい この講義では、経済政策の効果について考えていく。この経済政策の効果は、まず「競争」についての知識がないと理解できない。ここでは映像や外部講師により、直感的・感覚的に「競争」を感じながら学んでいく。そこでは、できるかぎり事例を紹介しながら説明する。講義の後半には、実際の日本の経済政策について各自で調べ、資料を作成していく課題に取り組む。その上で、テーマごとにディスカッションを通し、より深く経済政策を理解する。			
到達目標 経済政策について深く理解し、自分の考えをレポートにまとめる力を身につけることが目標である。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 テマごとに実施するレポート試験（25％；5回を予定）、2つの課題（30％）、学期末試験（45％）により、総合的に評価する。課題は期末試験に持ち込んで参考にするため、フィードバックとして、課題の解説や学生の主な間違いを指摘し、要望のある学生には課題の点数を伝える。			
事前・事後学習 レポートや課題に取り組む準備学習・事後学習の時間を確保すること。必要な時間は、レポート各3時間（15時間）ほど、課題は各10時間ほど（20時間）が必要である。また、期末試験に向けて、授業全体を振り返る復習が10時間ほど必要である。			
都市政策 藤本 和弘	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PRP2004	前学期	選 択
授業のねらい 地域・まちづくり分野においては、地域づくりあるいはまちづくりの現状や課題を学ぶことが最重要と考える。そこで、都市政策をまちづくりの実態を学ぶ主要な課題と位置づけ、その成り立ち、構造、実態、今後の課題等を体系的かつ論理的に学ぶ。それにより、将来、官民いずれの職に赴こうとも、政策遂行や社会動向に関心を持ち、かつ理解できるように学修することを目指す。			
到達目標 毎日報道されている新聞記事やニュース内容、さらには政策動向に関する図書について、理解が早まること。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 以下のような配分で評価する。 ・講義時に指示する簡単な課題への提出状況及び受講態度 50％ ・定期試験時に提出してもらうこれまでの講義に即したレポートの内容 50％ なお、毎回提出してもらう課題については、翌週回において説明する。			
事前・事後学習 事前学習においては、毎日、新聞やテレビニュースを見ること（30分）。新聞やニュースで見た政策動向に係る図書を読むこと（60分）。事後学習においては、講義で使ったレジュメや自らが記述したノートを見直し、必要事項を覚えるとともに、不明な点等は参考文献等で調べておくこと（90分）。			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する幅広い人間力を身につける			
授 業 計 画 第1講 9/29 ガイダンス；経済政策に関するディスカッション 第2講 10/6 中国の医療現場における自由競争の現状を知る 第3講 10/13 日本の医療の競争を制限するメリットとデメリットを知る：レポート① 第4講 10/20 独占禁止政策と談合① 第5講 10/27 独占禁止政策と談合②：レポート② 第6講 11/10 実際の独占禁止政策について学ぶ（講師：公正取引委員会）：レポート③ 第7講 11/17 映像で平成前半の経済政策を振り返る 第8講 11/24 映像で平成後半の経済政策を振り返る 第9講 12/1 ネットで平成の経済政策を振り返る：課題提出① 第10講 12/8 ネットで今年1年前半の経済政策を振り返る 第11講 12/15 ネットで今年1年後半の経済政策を振り返る：課題提出② 第12講 12/22 課題の振り返りとフィードバック 第13講 1/5 震災復興から財政政策の効果を考える：レポート④ 第14講 1/12 震災復興から金融の地域経済に対する役割について学ぶ：レポート⑤ 第15講 1/19 講義のまとめ			
テキスト・教材（参考文献含む） テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。			
担当者から一言 出席して、参加して、理解すること、これらの全てが重要である。提出されたレポートや課題によって参加意欲と理解度を厳しく判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。			
都市政策 藤本 和弘	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PRP2004	前学期	選 択
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。幅広い人間力を身につける。			
授 業 計 画 1. ガイダンス、都市政策とは 2. 都市政策の歴史 3. 都市政策の構造と手法 4. 都市政策のハード 5. 都市政策のソフト 6. 「住む」都市政策 7. 「働く」都市政策 8. 「憩う」都市政策 9. 「移動する」都市政策 10. 総合的都市政策の必要性 11. 持続可能な都市政策 12. 都市、農村・山村・漁村連携のあり方 13. 都市間連携のあり方 14. 広域連携のあり方 15. 地域政策としての都市政策			
テキスト・教材（参考文献含む） なし			
担当者から一言 講義中における遅刻、中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動並びに使用は禁止。守られない者には退出を命ずることがある。真剣な態度で受講すること。講義中に指名されたら元気に返事をする。			

交通政策	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PRP2006	後学期	選 択

本部 賢一

授業のねらい 地域の交通政策づくりは、生活交通だけでなく、地域福祉の課題でもあり、教育、地域コミュニティなど住民が地域で生きていく上での土台となる総合的な社会的政策づくりです。 本講義では、交通政策づくりを進めるため、①「地域交通政策を考える上での基本的な認識と考え方」、②「まちづくり、福祉、教育、交通安全など地域の課題とともに交通問題を解決していこうとする各地の取り組み事例」、③「人口減少・高齢社会における地域交通政策に必要な要件とその政策を実現する運動の進め方」などについて学びます。
--

到達目標 授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域や公務員として従事される自治体職場での地域交通政策づくりに参加した際、地域の抱える問題の本質を見極めるとともに、他の地域における成功事例を参考にしながら、より良い政策提言を行なうことができる力を身につけることを到達目標としています。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により総合的に評価します。 ・授業時に出す課題の提出状況:30% ・定期試験:70% なお、授業時に提出した課題については、添削の上、以降の授業で返却します。4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

事前・事後学習 【事前学習】90分 配布されたプリントには必ず目を通し、事前に疑問点を整理しておきましょう。 【事後学習】90分 ノート整理を行い、講義中に出てきた不明なキーワードをインターネットで検索し知識を補うことをお勧めします。

都市計画論	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PRP3001	前学期	選 択

本部 賢一

授業のねらい 都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人たちに対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。 本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画、都市防災計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。
--

到達目標 授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域や公務員として従事される自治体職場での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できるようになるだけでなく、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により総合的に評価します。 ・授業時に出す課題の提出状況:30% ・定期試験:70% なお、授業時に提出した課題については、添削の上、以降の授業で返却します。4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

事前・事後学習 【予習】90分 配布されたプリントには必ず目を通し、疑問点を整理しておきましょう。 【復習】90分 ノート整理を行い、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。また、プリントに出てきた自治体の都市計画部局のサイトを閲覧しましょう。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授 業 計 画 第01講 ガイダンス(講義内容の説明) 第02講 誰もが生き生きと住み続けられる地域交通政策づくりを(1) 第03講 誰もが生き生きと住み続けられる地域交通政策づくりを(2) 第04講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた自治体例 第05講 地方自治をいかして交通政策をつくりあげた自治体例 第06講 交通政策をまちづくりと一体で進める自治体例 第07講 交通システムを福祉政策と一体でつくりあげた自治体例 第08講 自動車交通の安全を確保する交通政策をつくりあげた自治体例 第09講 こどもを守り育てる通学路とスクールバス 第10講 子どもの学習権を保障する交通づくりの方策 第11講 人口減少・高齢社会における地域交通政策 第12講 地域交通政策づくりと運動 第13講 地域交通政策への提言(1) 第14講 地域交通政策への提言(2) 第15講 講義のまとめ 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） なし(適宜プリントを配布)
--

担当者から一言 スライドを見ながら口頭で説明する内容が多いので、ノートテイクが重要です。 講義中の遅刻、中座、飲食、携帯電話の使用などは禁止です。

授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授 業 計 画 第01講 ガイダンス(講義内容の説明) 第02講 都市形成のメカニズム 第03講 日本の都市化の進展とそれに伴う諸問題 第04講 都市の進化とプランニング 第05講 計画の概念とプランナーの役割 第06講 都市の暮らしを支える施設配置計画 第07講 豊かさを実感できる都市空間づくりとは 第08講 都市環境計画(1) 第09講 都市環境計画(2) 第10講 環境保全対策 第11講 環境経済評価(1) 第12講 環境経済評価(2) 第13講 都市防災計画(1) 第14講 都市防災計画(2) 第15講 まとめ 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） なし(適宜プリントを配布)
--

担当者から一言 スライドを見ながら口頭で説明する内容が多いので、ノートテイクが重要です。 講義中の遅刻、中座、飲食、携帯電話の使用などは禁止です。

からだところ		科目 ナンバリング	2 年次	2 単位	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する 幅広い人間力を身につける
萩 典子・大西信行・杉崎一美		PSH2002	前学期	分野必修	
授業のねらい この授業ではこころの健康と精神の発達について、人間の成長発達及び生涯発達の視点で概観する。 またこころとからだの健康の保持増進、メンタルヘルス不調の予防について学ぶ。					
到達目標 1. 人のからだとこころの健康に関する基礎知識を理解する。 2. 精神の発達について人の成長発達の視点から理解する。 3. メンタルヘルスの保持増進について理解する。					
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 1. レポート課題50% 2. 定期試験50%（持ち込み不可） 講義中、講義後に質問を受けつけ、タイムリーにコメントをフィードバックし、内容によっては次回講義で説明を追加する。					
事前・事後学習 1. 日常生活やメディアから人間発達や、精神健康についての関連することを見つけ、調べてみる(毎講30分) 2. 授業で学んだ内容に関して、疑問や興味を持ったことに関してさらに文献で調べてみる(60分)					

こころの科学		科目 ナンバリング	2 年次	2 単位	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
若山裕晃		PSH2003	後学期	分野必修	
授業のねらい 本講義では、対人関係の中で生きている人間の存在について、社会心理学的観点から検討する。社会的認知、対人相互作用、個人と集団等のトピックを取り上げ、社会と人間の関係についての理解を深める。					
到達目標 自分自身の存在と社会との関係性について考察を加え、今後の社会生活にいかせる実践的な知識を身につける。					
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。レポート等の評価は個別に開示する。					
事前・事後学習 予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、自己と他者、対人関係、集団、社会等に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。					

授 業 計 画	
第1講	ガイダンス(萩)
第2講	メンタルヘルスとその不調について(萩)
第3講	ストレスとコーピング(萩)
第4講	こころのあらわれ成り立ち①(大西)
第5講	こころのあらわれ成り立ち②グループディスカッション（大西）
第6講	思春期とこころの健康(大西)
第7講	乳児期の発達(別所)
第8講	幼児期の発達(別所)
第9講	児童期の発達(別所)
第10講	青年期の発達①(杉崎)
第11講	青年期の発達②グループディスカッション(杉崎)
第12講	成人期の発達①(杉崎)
第13講	成人期の発達②グループディスカッション(杉崎)
第14講	老年期の発達①(杉崎)
第15講	老年期の発達②グループディスカッション(杉崎)
テキスト・教材（参考文献含む） 1. 担当教員が配布する資料と授業内で示すスライドを中心とする。 2. 参考文献 船島なをみ「看護のための人間発達学」第5版 医学書院	
担当者から一言 学んだことを自分自身の日常生活や成長発達と関連づけて考えてみて下さい。	

授 業 計 画	
第1講	ガイダンス
第2講	社会的認知
第3講	社会的認知
第4講	社会的影響
第5講	社会的影響
第6講	対人関係と対人相互作用
第7講	対人関係と対人相互作用
第8講	個人と集団
第9講	個人と集団
第10講	マスコミュニケーションの影響
第11講	マスコミュニケーションの影響
第12講	ソーシャルネットワーク
第13講	ソーシャルネットワーク
第14講	社会心理学を理解するために
第15講	社会心理学を理解するために
テキスト・教材（参考文献含む） 参考文献:「よくわかる社会心理学」ミネルヴァ書房 授業では、講義内容に沿った資料を配付する。	
担当者から一言 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。	

スポーツ政策論 小泉大亮 科目 ナンバリング PSH2001 1 年次 後学期 2 単位 分野必修	授業のねらい この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者やスポーツクラブのクラブマネジャーとしての必要なマネジメントの知識、心構えや法的知識等を学習する。 到達目標 国家のスポーツ政策から自治体のスポーツ政策に至るまでの幅広い知識を身につけるとともに、様々な対象に応じたスポーツマネジメントを理解し、クラブマネジメントの実践に活かせるようにする。 成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート:50% ・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):50% 講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。 事前・事後学習 シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 授 業 計 画 第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 スポーツ行政とその関わり・スポーツ振興 第3講 競技スポーツ政策 第4講 健康体力政策・スポーツ基本計画と健康日本21 第5講 スポーツマネジメントとは・大学スポーツのマネジメント 第6講 子どもスポーツのマネジメント・障害者スポーツのマネジメント 第7講 高齢者スポーツのマネジメント・高齢者を取り巻く環境 第8講 中間テスト 第9講 地域スポーツを取り巻く環境 第10講 地域スポーツクラブの機能とその役割・スポーツ少年団について 第11講 総合型クラブについて・総合型クラブを取り巻く環境 第12講 総合型クラブの立ち上げ方式の分類・総合型クラブのマネジメント 第13講 総合型クラブの具体的な事例(設立から運営まで)・クラブマネジャーの位置づけ 第14講 総合型クラブの自主運営に必要な条件・スポーツとNPO・法人格の取得 第15講 まとめ 定期試験 テキスト・教材(参考文献含む) 講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編「よくわかるスポーツマネジメント」ミネルヴァ書房 担当者から一言 遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。
スポーツ指導論 若山裕晃 科目 ナンバリング PSB2001 1 年次 前学期 2 単位 選 択	授業のねらい 本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。 到達目標 スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。 成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。 事前・事後学習 予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 授 業 計 画 第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 スポーツ指導者とは 第3講 指導者の心構え・視点 第4講 競技者育成プログラムの理念 第5講 スポーツと健康 第6講 スポーツ活動中に多いケガや病気 第7講 救急処置 第8講 指導計画の立て方 第9講 スポーツ活動と安全管理 第10講 中高年者とスポーツ 第11講 女性とスポーツ 第12講 障害者とスポーツ 第13講 プレイヤーと指導者の望ましい関係 第14講 ミーティングの方法 第15講 総括 テキスト・教材(参考文献含む) 参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。 担当者から一言 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。

スポーツトレーニング論 若山裕晃	科目 ナンバリング PSB2002	1 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい 本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。			
到達目標 トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。			
事前・事後学習 予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。			

スポーツ心理学 若山裕晃	科目 ナンバリング PSB2003	1 年次 後学期	2 単位 選 択
授業のねらい 本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。授業では、意欲・学習・発達・性格特性・集団・環境など多岐にわたる要因を広く取り上げ、スポーツと心理の関係についての理解を深める。			
到達目標 スポーツ場面における心理的諸問題について考察を加え、スポーツ活動及びコーチング行動にいかせる基礎的かつ実践的な知識を身につける。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。			
事前・事後学習 予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ心理学やメンタルトレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。			

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
授業計画 第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 体力とは 第3講 体力とは 第4講 トレーニングの進め方 第5講 トレーニングの進め方 第6講 トレーニングの種類 第7講 トレーニングの種類 第8講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第9講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第10講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第11講 発育発達期に多いケガや病気 第12講 発育発達期に多いケガや病気 第13講 発育発達期のプログラム 第14講 発育発達期のプログラム 第15講 総括
テキスト・教材（参考文献含む） 参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。
担当者から一言 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
授業計画 第1講 ガイダンス・スポーツ心理学とは 第2講 スポーツと心 第3講 スポーツにおける動機づけ 第4講 技能の練習と指導 第5講 プレイヤーの個人指導と心理的問題 第6講 チームの指導と心理的問題 第7講 コーチングの評価 第8講 メンタルマネジメントとは 第9講 リラクゼーション 第10講 イメージトレーニング・集中力トレーニング 第11講 心理的コンディショニング 第12講 プレッシャー・あがり・スランプの克服 第13講 指導者のメンタルマネジメント 第14講 スポーツ環境における精神障害と対策 第15講 総括
テキスト・教材（参考文献含む） 参考文献：日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、Robert S. Weinberg, Daniel Gould「Foundations of sport and exercise psychology」Human Kinetics、若山裕晃・渡辺英児「野球メンタル強化メソッド」実業之日本社
担当者から一言 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。

スポーツ社会学 若山 裕晃 科目 ナンバリング PSB2004 2 年次 後学期 2 単位 選 択	授業のねらい 本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。 現代がスポーツに及ぼす影響は大きい。われわれの生活とスポーツ活動は密接に関わっており、社会制度や地域社会においてスポーツが果たす役割が増大している。最近では、スポーツの商業化が加速したことによりスポーツ産業の発展が著しいが、一方ではスポーツの商業主義を優先することにより、勝利至上主義などの社会病理現象が表出している。本講義では、関連する最新データを用いてスポーツの社会構造について学習する。 到達目標 近代から現代のスポーツ文化を社会学の観点から検討し、スポーツの社会構造と社会への影響を考察できる視点を身につける。 成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。 事前・事後学習 予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ社会学に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 授 業 計 画 第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 スポーツの歴史と概念 第3講 スポーツ行政の仕組み 第4講 スポーツ振興策 第5講 スポーツ事業の効果的運営 第6講 スポーツ指導者論1 第7講 スポーツ指導者論2 第8講 スポーツ指導者論3 第9講 スポーツ施設管理論 第10講 スポーツ系理論 第11講 スキルとは何か 第12講 地域スポーツ経営論 第13講 スポーツとメディア 第14講 スポーツにおける逸脱行為 第15講 総括 テキスト・教材（参考文献含む） 参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 授業では、講義内容に沿った資料を配付する。 担当者から一言 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。
スポーツ生理学 小泉 大亮 科目 ナンバリング PSB2005 2 年次 前学期 2 単位 選 択	授業のねらい この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。ヒトが身体運動やスポーツを実施することによって、呼吸、循環、代謝、筋、血液、神経といった身体の諸機能がどのような応答、適応を示すのか、またそれらが環境条件の違いによってどのような影響を受けるのかを学習する。 到達目標 スポーツや身体運動による身体の適応について理解し、実際のスポーツ実践やスポーツ指導の中で利用できることを目標とする。 成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート:40% ・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):60% 講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。 事前・事後学習 シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 授 業 計 画 第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 運動器と身体運動学 第3講 筋の構造と筋の生理学 第4講 筋の収縮様式とエネルギー供給 第5講 呼吸器系と運動 第6講 循環器系と運動① 第7講 循環器系と運動② 第8講 中間テスト 第9講 神経系と運動① 第10講 神経系と運動② 第11講 内分泌系・免疫能と運動 第12講 特殊環境下での運動 第13講 老化に伴う機能の低下 第14講 運動処方 第15講 まとめ 定期試験 テキスト・教材（参考文献含む） 講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 Scott K. Powers, Edward T. Howley 「Exercise Physiology」 Human Kinetics 担当者から一言 遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

健康スポーツ論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
	小泉大亮 PSB2006	後学期	選 択	
授業のねらい この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。健康科学やスポーツ科学の学習から具体的な健康スポーツ指導に必要な運動方法を身につけるとともに、様々な対象者に応じたスポーツ指導方法を学習する。				授 業 計 画 第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 健康の概念・ヘルスプロモーション 第3講 健康とスポーツ・運動不足と健康障害 第4講 メタボリックシンドローム・認知行動療法 第5講 ロコモティブシンドローム 第6講 中間テスト 第7講 エアロビクス運動の理論 第8講 レジスタンス運動の理論 第9講 柔軟性運動の理論 第10講 バランス運動の理論 第11講 中高年者のスポーツ指導 第12講 女性とスポーツ 第13講 女性のスポーツ指導 第14講 障害者のスポーツ指導 第15講 まとめ 定期試験
到達目標 健康スポーツ科学の基礎知識と様々な対象者の特徴を理解し、スポーツ指導の際に必要な方法を身につける。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート:40% ・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):60% 講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。				
事前・事後学習 日頃から健康スポーツに関する話題を調べる(毎日20分程度) シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(15分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自身でまとめること(40分)				テキスト・教材（参考文献含む） 講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 竹島伸生編「ウエルビクスのすすめ」有限会社ナップ
担当者から一言 遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。				

スポーツ栄養学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位	授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
	櫻井智美 PSB2007	後学期	選 択	
授業のねらい 本講は、日本スポーツ協会公認のスポーツ指導者に必要なスポーツ栄養学の基礎的知識を習得し、アスリートのパフォーマンス向上等をサポートできる栄養管理の理解を深める。				授 業 計 画 第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 5大栄養素の役割①(糖質・タンパク質・脂質) 第3講 5大栄養素の役割②(ビタミン・ミネラル) 第4講 スポーツ選手の基本の食事 第5講 トレーニングとエネルギー消費量 第6講 スポーツ選手の身体組成 第7講 熱中症の予防と水分補給 第8講 目的別の食事 第9講 スポーツ選手に多くみられる栄養障害 第10講 試合前後の食事 第11講 トレーニング時の食事 第12講 サプリメントとエルゴジェニックエイド 第13講 ジュニア期の栄養管理と女性の三主徴 第14講 スポーツ選手の栄養教育の進め方 第15講 まとめ 定期試験
到達目標 スポーツ栄養学の基礎的知識を習得し、そのことについて説明できるようにする。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業態度(出席率を含む)・レポート課題(50%)及び定期試験(50%)				
事前・事後学習 予習として、次の講義内容に関して調べる。予習のための課題を課す場合もある(90分) 復習として、講義内容の資料等を見直す(90分)				テキスト・教材（参考文献含む） 講義に沿ったプリント配布 ＜参考文献＞ 公認スポーツ指導者養成テキスト(公益社団法人 日本スポーツ協会) 新版コンディショニングのスポーツ栄養学 樋口満編著(市村出版) 理論と実践 スポーツ栄養学 鈴木志保子著(日本文芸社)
担当者から一言 遅刻や授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用等は、原則禁止します。これらの事が守れない者には、退室を命じ欠席扱いと致します。				

アスリート育成論 若山 裕晃	科目 ナンバリング PSP2001	1 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい 本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。			
到達目標 アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。			
事前・事後学習 予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。			
スポーツ応用科学 小泉 大亮	科目 ナンバリング PSP2003	2 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ科学に関する新しいエビデンスよりトレーニング指導に関する知識を習得する。			
到達目標 最新のトレーニング科学研究の成果に基づくトレーニング理論を理解し、スポーツ指導の現場に活かせることを目的とする。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート:40% ・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):60% 講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。			
事前・事後学習 シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 競技者育成プログラムの理念に基づく展開 第3講 競技者育成と評価競技 第4講 競技者育成システムにおける指導計画 第5講 競技力向上のためにチームマネジメント 第6講 スポーツとIT 第7講 アスリートの健康管理 第8講 アスリートの内科的障害と対策 第9講 アスリートの外傷・傷害と対策 第10講 アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 第11講 コンディショニングの手法 第12講 スポーツによる精神障害と対策 第13講 特殊環境下での対応 第14講 アンチドーピング 第15講 総括			
テキスト・教材（参考文献含む） 参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。			
担当者から一言 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 健康に関連する体力要素 第3講 身体運動学 第4講 トレーニング指導 -健康づくりを目指した運動指導について- 第5講 トレーニングの基礎知識と筋力トレーニング 第6講 スピードトレーニング・持久力トレーニング 第7講 トレーニング計画①「トレーニングの目標設定」 第8講 トレーニング計画②「トレーニングプログラムの設計」 第9講 トレーニング計画③「疲労および回復」・「トレーニング環境の整備」 第10講 中間テスト 第11講 測定評価「テストの選択と実施の原則」 第12講 測定評価「身体組成の評価」 第13講 測定評価「筋力・筋パワー」「無酸素性能力・有酸素性能力」「測定結果の活用」 第14講 スキルトレーニングの原理・スキルの獲得過程について 第15講 まとめ 定期試験			
テキスト・教材（参考文献含む） 講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」			
担当者から一言 遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。			

スポーツメディカル論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
小泉大亮	PSP2005	後学期	選 択

授業のねらい この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。身体運動学や運動生理学などのスポーツ医学に関する基礎知識を学習し、スポーツで起こる外傷や障害などの予防や治療、応急手当についての方法を理解する。
--

到達目標 身体運動の重要性を医学的な面から理解し、スポーツの指導現場で実践できる能力を身につける。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート:50% ・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):50% 講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

事前・事後学習 シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)

地域スポーツ論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
小泉大亮	PSP2004	前学期	選 択

授業のねらい この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。講義を通じて、スポーツクラブをマネジメントするための知識・技術の習得を目指す。また、「組織のあり方」、「コミュニケーション能力」を意識しながら、スポーツクラブだけでなく、集団活動の場に適応できる力を養う。
--

到達目標 スポーツ場面における多様なニーズに対応方法、クラブ育成に関する知識を身につけ、クラブマネジメントの実践に役立てる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート:50% ・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):50% 講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

事前・事後学習 シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 加齢と体力 第3講 スポーツ医学の基礎知識①「スポーツが心臓血管系に及ぼす影響」 第4講 スポーツ医学の基礎知識②「呼吸器系の機能と構造・スポーツと呼吸器系」 第5講 スポーツ医学の基礎知識③「体液と体温調節」 第6講 スポーツ医学の基礎知識④「スポーツと内分泌系」 第7講 スポーツ医学の基礎知識⑤「身体運動学・機能解剖」 第8講 中間テスト 第9講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(急性) 第10講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(慢性) 第11講 スポーツ外傷とスポーツ障害 第12講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(上肢) 第13講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(下肢) 第14講 救急処置(救急蘇生法) 第15講 まとめ 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） 講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 目崎登「スポーツ医学入門」分光堂
--

担当者から一言 遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 地域スポーツ組織の事業と運営 第3講 国家施策としての地域スポーツクラブ 第4講 クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの位置づけと求められる能力 第5講 クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの役割 第6講 中間テスト 第7講 クラブマネジャーに求められる能力「コミュニケーション・ロジカルシンキング」 第8講 クラブマネジャーに求められる能力「経営戦略」・「マーケティング」 第9講 クラブマネジャーに求められる能力「ヒト・組織のマネジメント」 第10講 クラブマネジャーに求められる能力「ホスピタリティ」・「施設の管理と運営」 第11講 クラブマネジャーに求められる能力「財務・会計」・「事業計画作成」 第12講 クラブ設立の準備・総合型クラブの自主運営に必要な条件 第13講 クラブの作り方・クラブの運営 第14講 総合型クラブ 事例クラブ紹介 第15講 まとめ 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） 講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 公益財団法人日本体育協会編「公認アシスタントマネジャー養成テキスト」
--

担当者から一言 遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。

スポーツ実技／スポーツ実技b 若山 裕晃	科目 ナンバリング PSP2002	1 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい この授業では、適度な運動量が得られレクリエーションにも利用しやすい各種スポーツを実施する。種目については、人数や学生の希望等を考慮しながら、状況に応じて選定する。また、序盤と終盤に体力テストを実施し、自分自身のデータを基に「スポーツ習慣による心身への効果」というテーマのレポートを作成する。			
到達目標 ルールを覚え、楽しく安全にスポーツを体験することによって、生涯スポーツによる健康維持増進を自ら実践できる能力及び習慣を身につける。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業への参加姿勢・服装(50%)とレポートの内容(50%)で成績評価する。レポート等の評価は個別に開示する。			
事前・事後学習 予習として、授業以外の日にも、積極的に身体活動を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で実施した種目の動作について、動画サイト等も活用しながら確認しておくこと(90分)。			
介護予防スポーツ／スポーツ実技a 池田 裕美子	科目 ナンバリング PHH2002	2 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい この授業のメインテーマは「地域社会と介護予防運動」です。 現在、社会的問題にもなっている介護や認知症に関する知識を深め、介護現場は勿論、日常の運動不足解消など、様々な場面で活用することが出来る「介護予防運動・体操(元気ダンス)」を習得します。 具体的には、地域社会における介護予防の必要性、介護に関する基本的な知識や、高齢者が運動するうえで注意すべきこと、ダンスを実施するうえで必要なリズムの知識や指導方法などを学び、それらを生かし実際に体を動かして「元気ダンス」の実技を行います。			
到達目標 講義過程を通じて、運動・音楽・介護予防・地域社会などについての知識を深めること。 日本介護予防ダンス協会公認「学生3級ゼネラルアドバイザー」資格を取得することを目標とします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業への積極性 30% 毎回の小テスト・小レポート 30% 実技試験・定期試験 40% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 地域包括ケア、高齢者の健康に関わるニュース等に関心を持ち積極的にチェックして下さい。(1日20分以上) 毎回の講義内容の復習。特に実技内容は反復練習を望みます。(20分)			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。			
授 業 計 画 第1講:ガイダンス 授業の概要 第2講:体力テスト 第3講:体力テスト 第4講:実技 第5講:実技 第6講:実技 第7講:実技 第8講:実技 第9講:実技 第10講:実技 第11講:実技 第12講:体力テスト 第13講:体力テスト 第14講:実技 第15講:まとめ・レポート提出			
テキスト・教材（参考文献含む） なし			
担当者から一言 学生の積極性に期待する。安全性を考慮し、スポーツ活動に適した服装(シューズも含む)で参加すること。			
授業の位置づけ 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる			
授 業 計 画 第1講 学科① ガイダンス 第2講 学科② 現代社会における「元気ダンス」 第3講 学科③ 色々な音楽・リズム(学科) 第4講 学科④ 地域と介護予防 第5講 学科⑤ 危険予測・回避・処置(学科) 第6講 学科⑥ 学科総合 第7講 講演 この地域での介護予防【講演】 第8講 実技① 元気ウォームアップ・元気ベーシック(実技) 第9講 実技② 元気マンボ・元気クールダウン(実技) 第10講 実技③ 元気ダンス指導法Ⅰ(実技) 第11講 実技④ 元気ダンス指導法Ⅱ(実技) 第12講 実技⑤ 元気ダンス指導法Ⅲ(実技) 第13講 実習【交流実習】 第14講 試験 実技試験 第15講 試験 学科試験			
テキスト・教材（参考文献含む） ・テキスト 日本介護予防ダンス協会出版「ゼネラルアドバイザー教本」2015年発行 *テキストを購入しない場合は授業をうけることが出来ません。 ・プリント 必要に応じて配布します。			
担当者から一言 学科も実技も参加型の授業です。「ダンス」とはありますが、音楽に合わせて身体を動かす「運動・体操」となりますので、技術は必要ありません。遅刻・授業中の中座・私語・飲食などは原則禁止しますが、明るく楽しく授業への積極性を求めます。			

健康スポーツ実技／スポーツ実技c 小泉 大 亮	科目 ナンバリング PHH2004	2 年次 前学期	2 単位 選 択
授業のねらい 健康の維持・増進のためにはスポーツや身体運動の実践が必要である。本講義では、生涯を通じて実践可能なスポーツの方法やルールを学ぶ。また、スポーツの創作なども通してスポーツ指導者としての想像性を育む。			
到達目標 ルールを覚え、楽しく安全にスポーツができる方法を学ぶことにより、生涯を通じたスポーツ実践につなげる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績は次のような配分により評価します。 ・日頃の準備学習や復習の様子や受講態度:70% ・レポート:30% レポートの評価については個別に報告します。			
事前・事後学習 実技に関して、インターネット等で動画を検索し、ルールや動き方などの技術を確認しておくこと(毎日20分) 実技に関するルールを調べておく(45分)			
こころの健康／健康科学 萩 典子・伊藤 薫・後藤由紀		科目 ナンバリング PHH2001	1 年次 後学期 選 択
授業のねらい この講義では人間の健康に影響を及ぼす生活習慣や人間関係、ストレス対処等の傾向を理解することをめざします。健康は一日にして成るものではなく、毎日の積み重ねにより築かれます。自己の生活を振り返り、健康とは何かを考え、自分自身の生活につなげてもらいたいと考えています。			
到達目標 人間のこころとからだの健康に関する基本知識を理解すると共に、自己の日常生活に生かし、健康の維持増進につなげる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 受講態度(20%) レポート(80%) 講義中、講義後に質問を受けつけ、タイムリーにコメントをフィードバックし、内容によっては次回講義で説明を追加する。			
事前・事後学習 書籍やインターネットなどで健康に関連する情報を得る(毎週2時間程度) 配布されたプリントを読み返し、学んだことを整理し、自分自身の生活に取り入れる目標を決め実践する(30分以上)			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 幅広い人間力を身につける			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 体力測定1 第3講 体力測定2 第4講 競技ルールの解説 第5講 実技 第6講 実技 第7講 実技 第8講 実技 第9講 実技 第10講 実技 第11講 実技 第12講 実技 第13講 実技 第14講 体力測定3 第15講 体力測定4			
テキスト・教材(参考文献含む) 雨天時 運動解説「DVD」			
担当者から一言 授業は屋外でおこないます。運動のできる服装(ウェア・シューズ)を用意して参加する事。服装を用意していない場合は欠席扱いとします。雨天時は屋内で実施しますので、体育館シューズを持参してください。			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する 幅広い人間力を身につける			
授 業 計 画 1 ガイダンス 健康とは(萩) 2 人間の発達と健康(萩) 3 メンタルヘルス不調(萩) 4 人間関係と健康(萩) 5 生活習慣と健康① 食生活と健康(後藤) 6 生活習慣と健康② 運動と健康(後藤) 7 生活習慣と健康③ 睡眠と健康(後藤) 8 生活習慣と健康④ たばこ・アルコール(後藤) 9 セルフマネジメント① 怒りのコントロール(後藤) 10 セルフマネジメント② リラクゼーション(伊藤) 11 セルフマネジメント③ リラクゼーション(伊藤) 12 セルフマネジメント④ ストレス対処(伊藤) 13 セルフマネジメント⑤ 首尾一貫感覚(伊藤) 14 自分自身と健康(萩) 15 まとめ(萩)			
テキスト・教材(参考文献含む) プリントを配布します			
担当者から一言 人間の健康を生活していくうえで重要な要素となります。これからの人生を自分らしく豊かに生きていくための資源としてぜひ活用して下さい。			

こころと文学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
高田晴美	PHH2003	前学期	選 択

授業のねらい
この講義では、文学作品を読むことで、人間の様々な心のあり方、人と人との関係、人生の様相について、その深みに触れ、味わい、思いをはせることを目指します。「事実は小説より奇なり」とはよく言われます。しかし、「事実」だけがそんなに偉いのか。事実としては他人事であるかもしれない、自分では体験できないような人生も含めて、この世界と人間の想像力を表現し得るのが文学。それを他人事ではなく我が事として実感し、複雑怪奇で多様な世界を知ることができる。この授業を通して、それを体験してもらいたいと考えています。

到達目標
・ステレオタイプではない心のあり方というものを知る。 ・人間や心、人生のあり方に対する感受性や洞察力、分析力、そして広く受け入れる寛容性を養う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の小レポート 50% レポート試験 50% 毎回の小レポートについては、次回の講義の際にコメントを返します。

事前・事後学習
講義で取り上げた文学作品やその作家の別作品を、図書館の書籍やネット上の青空文庫などでいくつか読んでみましょう。映像化されている作品を観てみるのもおすすめです(毎週3時間程度)。

国際経済事情	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
鶴田利恵	PIM2001	後学期	分野必修

授業のねらい
この講義では、貿易の理論や為替レートの決定理論など、国際経済を理解する上で必要となる国際経済学の基本的な理論を解説するとともに、第二次世界大戦後の国際経済体制の変容、途上国問題、直接投資、地域統合、リーマン・ショック後の国際経済の状況について解説します。また、日本の経済が国際経済の変化からどのような影響を受けてきたのかについても講義します。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をおつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標
国際経済学の基本的な理論を理解するとともに、国際経済の現状を知ることによって、今後の国際経済と日本経済の行方を自分で考察できるようにすること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度(20%)、定期試験(80%)により評価します。 フィードバック方法：講義中や講義後の質問や疑問には適宜コメントします。

事前・事後学習
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。講義後は、その日読んだテキストを必ず読み返す(30分以上)。

授業の位置づけ
幅広い人間力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス、まずは短歌や俳句を味わってみよう 第2講 観念小説に見る恋愛——泉鏡花「外科室」 第3講 究極を求める心——芥川「地獄変」 第4講 男女の争闘——田村俊子 第5講 男は皆ロリコン？——田山花袋「少女病」 第6講 モテナイ男の行き所——江戸川乱歩「人間椅子」 第7講 「クズ」とは何か——横槍メンゴ「クズの本懐」 第8講 情欲と業——円地文子 第9講 青春の苦悩——太宰治「斜陽」 第10講 嫉妬、憎悪、妄執——中勘助「提婆達多」 第11講 狂気とはかなさ——樋口一葉「にごりえ」 第12講 苦々しい人生——アリス・マンロー「イラクサ」「なぐさめ」 第13講 華やぐ命——岡本かの子「老妓抄」 第14講 永続する恋、続かない恋——ウィリアム・トレヴァー「パラダイス・ラウンジ」 第15講 取り返しのつかない人生、捨てたものではない人生——向田邦子等

テキスト・教材（参考文献含む）
毎回、プリントを配布します。

担当者から一言
まずは気軽に、変わった話が聞きたい、小説を味わいたい、物語を楽しみたいという気分で受講してください。心を柔らかく、広く、深く——。きっと世界が、もっと広く深く甘く渋くなる。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス 第2講 国際収支の内容 第3講 貿易の理論(1) 第4講 貿易の理論(2) 第5講 第二次世界大戦後の国際経済体制 第6講 外国為替市場と為替レートの決定理論 第7講 発展途上国の諸問題 第8講 国際経済と直接投資 第9講 ブラザ合意以降の国際経済(1) 第10講 ブラザ合意以降の国際経済(2) 第11講 サブプライム・ローンからリーマン・ショック、世界同時不況へ 第12講 産業間貿易と産業内貿易 第13講 地域統合の動き(1) 第14講 地域統合の動き(2) 第15講 まとめ 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
プリントを配布します。

担当者から一言
質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

国際関係論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
富田 与	PIM2002	前学期	分野必修

授業のねらい
最近の国際ニュースを見ると、企業やテロ組織など国家以外のアクター(主体)の行為が問題視されることが増えています。ところが、いったん国際的な問題が発生すると、国家が国連などの国家の集まりが解決するしかありません。この講義では、ナイの『国際紛争』をテキストに、国際関係の歴史と理論を考えていきます。このテキストからは、理論や歴史だけではなく、現実的な対応への手掛かりを見つけることができるでしょう。毎回の課題に関するディスカッションを中心に講義を進めます。

到達目標
到達目標は「最近の国際ニュースが説明できるようになる」です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義への参加度(発言等) :30% 講義期間中のレポート:30% 最終レポート:40% 講義期間中のレポートは毎回発表してもらいます。 最終レポートは希望者に返却します。

事前・事後学習
毎回、各章末につけられた「学習上の論点」からレポート課題を出します(180分)。

経営管理論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
楓 森博	PIM2003	後学期	分野必修

授業のねらい
本講義は企業そのものを理解するため、企業活動の目的、ルール、管理の基本知識を講義します。経営学(経営戦略・マーケティング・会計・財務管理)、ファイナンス、企業経済学などの発展的研究への導入講義です。経営戦略など経営管理の基本を解説します。講義で学ぶ経営管理論の基礎を活用しながら企業経営の実際をケーススタディにより理解を深めることを、この講義のねらいとします。

到達目標
この講義では、日本の企業経営や社会に関する基本的な用語や知識を身につけ、社会人としてビジネスの基礎力を習得することを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期的に講義内容の確認レポートを提出。小テストまたは確認レポート50%、最終レポート50% 無断欠席者については、減点等ペナルティを課すことがある。 レポートにて理解度を確認し、授業進行を調整する。 なお、提出したレポートは、評価して以降の講義内で返却します。

事前・事後学習
日ごろから新聞やテレビのビジネス関連ニュースに目を通す。(60分) 講義で提示した新しい用語等を自分で再度調べてみる。また、新聞・雑誌・インターネット等で事例を確認する。(120分)

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス
第2講 第1章 国際政治における紛争には一貫した論理があるか
第3講 第2章 20世紀における大紛争の期限
第4講 第3章 バランス・オブ・パワーと第一次世界大戦
第5講 第3章 つづき
第6講 第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦
第7講 第4章 つづき
第8講 第5章 冷戦
第9講 第5章 つづき
第10講 第6章 介入、制度、地域・エスニック紛争
第11講 第7章 グローバリゼーションと相互依存
第12講 第8章 情報革命、脱国家主体とパワーの分散
第13講 第8章 つづき
第14講 第9章 新しい世界秩序
第15講 まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）
『国際紛争』 ジョセフ・ナイ著 有斐閣 2,600円

担当者から一言
出来るだけ時事問題を取り上げていきたいと思います。 関心のある出来事があったら、教員に伝えて下さい。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス、講義の概要
第2講 企業経営とは
第3講 経営管理の全体の流れ
第4講 古典的管理論
第5講 企業の組織化
第6講 経営戦略の基礎
第7講 マネジメントイノベーション
第8講 財務管理の基礎(企業の財務情報)
第9講 経営理念と企業目標
第10講 企業と社会
第11講 コーポレート・カバナンス
第12講 企業倫理、企業文化、社会的責任
第13講 コンプライアンス
第14講 ケース・スタディ I（講義の時点で話題となっている企業を取り上げる）
第15講 全体のまとめ 最終レポート

テキスト・教材（参考文献含む）
レジュメを配布する。

担当者から一言
受講予定者は、第1回講義に必ず出席してください。 講義内容で不明な点は、積極的に質問してください。また、授業中はリアクションできる真摯な態度で受講してください。

日本経済事情	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	杉谷 克 芳	PIU2001 後学期	選 択
授業のねらい バブル崩壊(1991年)以降の「失われた20年(25年?)」を経て、日本の経済も社会も大きく様変わりしました。しかし、そもそも日本経済とはどんな経済であり、どんな特質を持っていたのか。たとえば、バブル崩壊以降の「日本の経営」「日本の雇用システム」の終焉が言われますが、「日本の経営」や「日本の雇用システム」とは何だったのか。現在の日本の経済や社会の閉塞感の実相を理解する前提として、第2次世界大戦以後の日本の経済・社会の歩みをふり返りたいと思います。			
到達目標 日本の経営、大衆消費社会、高度経済成長、オイルショック、バブル経済など、知っているようで知らない、もしくは実感としてピンと来ないのではないですか。この講義では、経済学を学ぶ前提として、日本経済の常識的、基礎的な理解を身につけることを目標とします。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 基本的には定期試験の結果によって評価します(80%)。また、授業への積極的な参加度、小テスト、レポート(任意提出)等による加点を行います(20%程度)。定期試験だけで秀をとる人はきわめて稀です。受講態度や小テスト等による加点をねらいましょう。授業中・授業後の質問には、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 新聞、雑誌などの日本経済に関する記事に目を通すこと、テレビやインターネットでも構いません(毎日30分以上)。講義後は、その日のノートを見返して、不明な点を参考文献等で調べておくこと(60分以上)。			
金融論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	岩崎 祐 子	PIU2002 前学期	選 択
授業のねらい この講義では、日本の金融市場、金融機関、金融商品などについて学んでいきます。これから社会に出て、自分の資産をいかに増やそうと思ったときに、金融に関する知識が必要となります。この講義は、今後、現実の金融取引を行う際に、自らの責任で、自らの判断で、取引を行うための基礎力をつけることを目的とします。			
到達目標 一般紙の金融・経済欄の記事内容を理解できるようになることを、到達目標としています。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 定期試験(60%)および授業中に作成する小レポート(40%)により評価します。 授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。			
事前・事後学習 日頃から、金融に関するニュースに目を通すようにして下さい(30分、週3日以上)。授業内容のノートを復習して、専門用語の理解に努めてください(90分)。			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス、講義の概要 第2講 戦後復興期①：焼跡闇市、アメリカの占領政策、東西冷戦の始まり 第3講 戦後復興期②：経済の民主化(農地改革、労働改革、財閥解体) 第4講 戦後復興期③：復興インフレ、傾斜生産方式、団塊の世代 第5講 1949年の日本：ドッジライン、デフレ不況、朝鮮戦争 第6講 「3丁目の夕日」の時代(1958年)①：特需景気、もはや戦後ではない 第7講 「3丁目の夕日」の時代②：所得倍増計画、集団就職、三種の神器 第8講 ベトナムの戦後史 第9講 「バッチギ」の時代(1968年)①：昭和元禄、大衆消費社会 第10講 「バッチギ」の時代(1968年)②：ベトナム戦争と日本、日本の経営の三種の神器 第11講 二つのニクソンショックとオイルショック、高度成長から安定成長へ、『ジャパン・アズ・ナンバーワン』 第12講 バブル経済、失われた〇年 第13講 テーラーシステムとフォーディズム、トヨタイズム 第14講 デフレと経済政策 第15講 そして「今」			
テキスト・教材(参考文献含む) 参考文献 菊池史彦『「幸せ」の戦後史』トランスビュー(2013年) 橋本寿朗『現代日本経済史』岩波書店(2000年) 松尾匡『不況は人災です!』筑摩書房(2010年)			
担当者から一言 あまり難しい話にならず、学生さんの興味を引く授業にしたいと思いますが、そのためには学生さんの協力が必要です。私語は苦手ですので、よろしく。また、講義中のスマホ使用も禁止します。			
金融論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	岩崎 祐 子	PIU2002 前学期	選 択
授業のねらい この講義では、日本の金融市場、金融機関、金融商品などについて学んでいきます。これから社会に出て、自分の資産をいかに増やそうと思ったときに、金融に関する知識が必要となります。この講義は、今後、現実の金融取引を行う際に、自らの責任で、自らの判断で、取引を行うための基礎力をつけることを目的とします。			
到達目標 一般紙の金融・経済欄の記事内容を理解できるようになることを、到達目標としています。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 定期試験(60%)および授業中に作成する小レポート(40%)により評価します。 授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。			
事前・事後学習 日頃から、金融に関するニュースに目を通すようにして下さい(30分、週3日以上)。授業内容のノートを復習して、専門用語の理解に努めてください(90分)。			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 金融市場1 第3講 金融市場2 第4講 金融機関1(銀行、信用金庫) 第5講 金融機関2(証券会社) 第6講 金融商品1(債券) 第7講 金融商品2(株式、投資信託) 第8講 金融政策 第9講 為替相場の見方 第10講 国際通貨制度 第11講 リスク管理 第12講 トピックス1 第13講 トピックス2 第14講 トピックス3 第15講 まとめ 定期試験 ※第12講はグループワークをします。			
テキスト・教材(参考文献含む) 使用しません。教材として、プリントや新聞記事を使用します。 参考文献：「みんなが欲しかった! FPの教科書 3級 2020-2021年」滝澤 ななみ(著)TAC出版、5月出版予定、前年は1,620円(予)			
担当者から一言 日頃から金融・経済に関するニュースに関心をもつようにして下さい。金融機関への就職を考えている学生は、履修を検討してください。			

国際経営論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PIU2003	後学期	選 択
吉 成 亮			
授業のねらい 日本国内の市場は人口減少のためにこれ以上大きくなることを期待できません。したがって、企業が海外の市場へ展開することは、日本企業が今後とも存続していく上で欠かすことはできません。それゆえどのような企業の、どのような事業を企業の発展段階に応じて海外に展開していくのかと言うことを学ぶ必要があります。主に中心は国内の企業を事例にあげるものの、留学生も配慮し、海外の企業の事例も取り上げ、これらのことを企業戦略との関連で講義します。			
到達目標 留学生を含め、国内および海外の特定の企業を取り上げ、自国における企業の海外進出を段階的に自分で説明できるようになることを目標にしています。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 各授業の評価点 小テスト90% まとめテスト10% 以上の割合を基本にしながら総合的に判断する。小テストは各授業で実施し、小テストの評価は次回の授業でフィードバックする。まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとする。			
事前・事後学習 講義の前後に授業中で指示された配付資料の予習復習（それぞれ1日30分程度）を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。			
国際協力論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PIU2004	後学期	選 択
富 田 与			
授業のねらい この講義では「ODA（政府開発援助）はなぜ必要なのか」という問いを考えていきます。近年、「途上国」と呼ばれていた国々が急速に経済成長を遂げ、「新興経済国」として世界経済のけん引役ともなりつつあります。そうした中で、ODAはなぜ必要なのでしょう。この講義では、ODA政策を開発経済と外交政策の両面から考えていくことにします。講義は毎回の課題に関するディスカッションを中心に進めていきます。			
到達目標 到達目標は「なぜ、ODAが必要なのかを説明できる」です。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40% 講義期間中のレポートは毎回発表してもらいます。 最終レポートは希望者に返却します。返却する最終レポートにはコメントを付けます。レポートの作成については希望に応じて個別に指導します。			
事前・事後学習 毎回の講義で課題を出すので、予習と復習を兼ねて取り組んでください(180分)。			
授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する 幅広い人間力を身につける			
授 業 計 画 第1講. ガイダンス 第2講. 企業戦略 第3講. 国際化の段階とその選択(1) 第4講. 国際化の段階とその選択(2) 第5講. 国際化の段階とその選択(2) 第6講. 本社と海外子会社(1) 第7講. 本社と海外子会社(2) 第8講. まとめと中間試験 第9講. 国際R & D戦略 第10講. 国際生産戦略 第11講. 国際マーケティング戦略 第12講. 国際人的資源戦略(1) 第13講. 国際人的資源戦略(2) 第14講. 国際戦略提携 第15講. まとめ 定期試験本授業ではディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションを含みます。			
テキスト・教材（参考文献含む） 適時に資料を配付します。参考書は齊藤 毅憲 著「経営学を楽しく学ぶ Ver.3」中央経済社(2012定価:2,376円(税込)とします。			
担当者から一言 国内だけでなく、海外に目を向けて幅広い視野でビジネスを考えることができるようになります。			
国際協力論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PIU2004	後学期	選 択
富 田 与			
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。			
授 業 計 画 第1講:ガイダンス 第2講:なぜ、ODAは必要なのか(1):開発経済からの知見1 第3講:なぜ、ODAは必要なのか(2):開発経済からの知見2 第4講:なぜ、ODAは必要なのか(3):開発経済からの知見3 第5講:なぜ、ODAは必要なのか(4):国際関係からの知見 第6講:なぜ、ODAは必要なのか(5):日本の政治経済から 第7講:ODA予算の推移 第8講:ODAを巡る政策決定過程1 第9講:ODAを巡る政策決定過程2 第10講:ODAと日本外交史(1):1950年代 第11講:ODAと日本外交史(2):1960年代 第12講:ODAと日本外交史(3):1970-80年代 第13講:ODAと日本外交史(4):1990年代 第14講:ODAと日本外交史(5):2000年代 第15講:人間の安全保障			
テキスト・教材（参考文献含む） テキストと参考文献は特に指定しません。			
担当者から一言 講義の中では、できるだけ関連した時事問題を取り上げながら進めることにしたいと思います。国際情勢に関心のある学生の受講を期待しています。			

開発経済学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
鶴田 利恵	PIU2005	前学期	選 択

授業のねらい この講義では、日本を含むアジア諸国の経済発展がどのような変遷を辿ってきたのかを、経済理論と実際の流れによって説明します。特に、国内の工業化政策、諸外国との貿易と直接投資、外国からの政府開発援助（ODA）、そして、グローバリゼーションが進む国際経済における自由貿易（FTA）や地域連携協定（EPA）が、経済成長を進める上でどのような役割を担っているのかに焦点を置いて講義していきます。授業では鶴田の解説だけでなく、活発なディスカッションを行いながら進めます。
到達目標 経済成長に関する基本的な理論とアジア諸国の実情を理解する。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 授業態度(20%)、定期試験(80%)により評価します。 フィードバック方法：授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
事前・事後学習 日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

簿記入門	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
奥原 貴士	PBM2001	前学期	選 択

授業のねらい 企業は日常的に様々な活動をしています。たとえば、商品を仕入れてその商品を販売したり、事務所に使う建物を購入したり、資金が不足したら銀行から借り入れたりなど多種多様な取引を行っています。そして、これらの取引は簿記によって記録され、その記録に基づいて財務諸表が作成されます。本講義では、企業が行う取引について簿記の技術を用いてどのように記録するのかを学習します。
到達目標 簿記では、企業が行う取引を仕訳によって記録していきます。よって、まず仕訳のルールを理解します。そして、商品の売買や銀行からの借入れなどの取引に関する仕訳の方法を身につけます。最後に、仕訳の内容に基づいて試算表が作成できるようになることを本講義の到達目標とします。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価方法 平常点(授業への積極的な参加、小テスト等)60% 定期試験40% なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。
事前・事後学習 予習は必要ないですが、講義で学習した内容をそのつど復習してください。新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください（毎日90分以上）。

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 GDPの決定(1) 第3講 GDPの決定(2) 第4講 財政政策 第5講 金融政策 第6講 為替・国際収支 第7講 マルサスの罠 第8講 ベティ＝クラークの法則 第9講 2部門モデル 第10講 工業化の初期条件と輸入代替工業化 第11講 輸出志向型工業化と対外直接投資 第12講 日本の政府開発援助 第13講 多様化する外国資本投資とアジア通貨危機 第14講 アジア経済の新動態 第15講 まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献含む） プリントを配布します。
担当者から一言 質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
--

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 簿記の基礎 第2講 日常の手続き(簿記上の取引・仕訳など) 第3講 日常の手続き(転記・試算表作成の基礎) 第4講 商品売買 第5講 商品売買 第6講 商品売買 第7講 現金・当座預金 第8講 現金・当座預金 第9講 小口現金・手形 第10講 小口現金・手形 第11講 その他の期中取引(貸付金・借入金など) 第12講 その他の期中取引(固定資産・有価証券など) 第13講 その他の期中取引(税金の支払など) 第14講 試算表の作成 第15講 試算表の作成 定期試験
テキスト・教材（参考文献含む） 講義資料は毎回プリントを配布します。 (参考文献) 『合格テキスト日商簿記3級』TAC株式会社。 『合格トレーニング日商簿記3級』TAC株式会社。
担当者から一言 簿記の知識を習得するには連続した学習が必要です。したがって、毎回の出席と復習が重要となります。 電卓を毎回用意してください。進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。

会計学総論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	奥原 貴士	PBM2002 後学期	選 択

授業のねらい 会計に関する知識は、経済社会を生き抜いていくためには必要不可欠だといわれています。企業の決算書を見ると、その企業はどのようにして利益をあげているのかを知ることができます。また、その企業が将来に倒産するおそれがどのくらいあるのかといったことも推測することができます。ただし、このようなことを決算書から読み取るには会計の知識が必要となります。したがって、本講義は、会計学の主要な論点をとりあげて解説を行い、会計学の基礎知識を身につけることを目的とします。

到達目標 まず会計の役割を理解し、資産や負債などに関する会計学の基本的な知識を習得します。そして、それらの知識に基づいて企業の決算書から、その企業の財政状態・経営成績などを読み取ることができるようになることを到達目標とします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点(授業への積極的な参加、小テスト等)60％ 小テストは15回の講義中に4回程度行います。 定期試験40％ なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。
--

事前・事後学習 新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください(毎日90分以上)。

財務諸表論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	奥原 貴士	PBM2004 前学期	選 択

授業のねらい 企業の決算書は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しており、こうした会計情報に関する知識は、ビジネスの世界で活躍するためにも不可欠だといわれています。そして、会計情報を的確に読み取るためには、財務諸表がどのようなルールに基づいて作成されているのかを理解する必要があります。したがって本講義では財務会計の重要な論点を取り上げて解説を行い、財務会計の重要な論点を網羅的に理解することを目的とします。

到達目標 まず財務会計の役割、会計基準の必要性などの基礎知識を習得します。続いて、財務会計における主要な論点を理解することを到達目標とします。
--

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点(授業への積極的な参加、小テスト等)60％ 小テストは15回の講義中に4回程度行います。 定期試験40％ なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。
--

事前・事後学習 新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください(毎日90分以上)。

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 会計情報の役割 第3講 会計制度と社会(1) 第4講 会計制度と社会(2) 第5講 会計の仕組み(1) 第6講 会計の仕組み(2) 第7講 貸借対照表(1) 第8講 貸借対照表(2) 第9講 在庫の会計 第10講 生産設備の会計 第11講 金融資産の会計 第12講 負債と資本の会計 第13講 損益計算書(1) 第14講 損益計算書(2) 第15講 営業活動の会計 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） 講義資料は毎回プリントを配布します。 (参考文献) 谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社。 桜井久勝『会計学入門』日本経済新聞出版社。
--

担当者から一言 進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。
--

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 財務会計の機能と制度 第3講 利益計算の仕組み 第4講 利益計算の仕組み 第5講 会計理論と会計基準 第6講 会計理論と会計基準 第7講 利益測定と資産評価の基礎概念 第8講 利益測定と資産評価の基礎概念 第9講 現金預金と有価証券 第10講 売上高と売上債権 第11講 棚卸資産と売上原価 第12講 有形固定資産と減価償却 第13講 損益計算書と貸借対照表 第14講 損益計算書と貸借対照表 第15講 連結財務諸表 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） 講義資料は毎回プリントを配布します。 (参考文献) 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣。 桜井久勝『会計学入門』日本経済新聞出版社。

担当者から一言 進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。 日商簿記検定等の資格取得の相談にも対応します。 簿記・会計に関する講義で学習した内容を復習しておいてください。

経営戦略論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	PBM2003	後学期	選 択

西 浦 尚 夫

授業のねらい

経営戦略論は、企業が競争に勝ち、長期的に成長し発展するための方策の研究を目指しています。授業では、経営戦略の基本的フレームワークおよび戦略手法について解説します。企業経営の核心ともいえる経営戦略の意義を理解した上で、経営環境分析、事業戦略、競争戦略等に対する実践プロセスを習得します。授業では、実際に社会の最前線で活躍する経営者等をゲストスピーカーとして迎え、実践されている企業活動の考察を通して経営戦略の基礎を学ぶことを目的としています。

到達目標

授業終了後、経営戦略策定に当たり、①企業におけるミッション、理念、ビジョンの重要性が理解できる。②経営資源の質と量の差にもとづいた競争上の地位に相応しい戦略が構想できる。③企業を支えるのは顧客であることを理解し、戦略を構築するために必要な視点を持つことを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

・出席回数及び授業態度 30%
・課題レポートの内容 30%
・定期試験 40%
(自筆ノートのみ持込可)
課題レポートで理解度と文章構成力を確認し評価します。
なお、無断で3回以上欠席した学生には、原則として単位を与えないこととします。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の経済ニュースに目をとおり、各業種の企業がどのような経営戦略を用いているかを考えること(1日30分以上)。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画

第1講 ガイダンス・企業活動と経営戦略
第2講 経営戦略の概念
第3講 基本戦略の内容(経営戦略構成要素)
第4講 環境分析(SWOT分析)
第5講 経営管理
第6講 競争の戦略(1)
第7講 競争の戦略(2)
第8講 成長戦略
第9講 イノベーション戦略
第10講 事例研究①
第11講 事例研究②
第12講 事例研究③
第13講 事例研究④
第14講 事例研究⑤
第15講 経営戦略論まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

市販のテキストは使用せず、適宜、資料やパワーポイントを活用しながら、理解を深める授業を展開します。

担当者から一言

遅刻、授業中の中座、スマートフォンの操作、携帯電話の鳴動等は原則禁止します。就職活動の参考になるよう、実際に社会の最前線で活躍する経営者等をゲストスピーカーとして迎え、実践されている企業活動の考察を通して経営戦略を学ぶという実践的な授業を目指しています。真剣な態度で受講してください。

マーケティング論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PBM2005	前学期	選 択

西 浦 尚 夫

授業のねらい

「マーケティング」は企業経営における中核的な理念や活動の指針として着目され、果たす役割は、ますます大きくなってきています。授業では、マーケティングの必要性を考え、実際に社会の最前線で活躍する経営者等をゲストスピーカーとして迎え、実践されている企業活動の考察を通してマーケティングの基礎を学ぶことを目的としています。

到達目標

授業終了後、マーケティングについて、定義と具体例により、論理的に自らの考えを述べることを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

・出席回数及び授業態度 30%
・課題レポートの内容 30%
・定期試験 40%
(自筆ノートのみ持込可)
課題レポートで理解度と文章構成力を確認し評価します。
なお、無断で3回以上欠席した学生には、原則として単位を与えないこととします。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の経済ニュースに目をとおり、自分の購入した商品等がどのような戦略を用いているかを考えること(1日30分以上)。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画

第1講 ガイダンス・マーケティングの基礎概念
第2講 マーケティングプロセス
第3講 製品戦略
第4講 価格・流通戦略
第5講 戦略・戦術的マーケティング
第6講 プロダクトライフサイクル
第7講 マーケティングリサーチ
第8講 ブランド戦略
第9講 地域活性化へのマーケティング戦略
第10講 事例研究①
第11講 事例研究②
第12講 事例研究③
第13講 事例研究④
第14講 事例研究⑤
第15講 マーケティング論まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

市販のテキストは使用せず、適宜、資料やパワーポイントを活用しながら、理解を深める授業を展開します。

担当者から一言

遅刻、授業中の中座、スマートフォンの操作、携帯電話の鳴動等は原則禁止します。就職活動の参考になるよう、実際に社会の最前線で活躍する経営者等をゲストスピーカーとして迎え、実践されている企業活動の考察を通してマーケティングを学ぶ授業を目指しています。真剣な態度で受講してください。

中小企業論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岡 良 浩	PBM2008	後学期	選 択

授業のねらい
この講義は企業経営を人的側面からみることをねらいとしています。企業経営には「正解」というものではありません。企業は、日々、自らの事業の改良や新しいビジネスを模索しています。 この講義では、毎回、経営者の対談やエピソードに関する映像を見てください、その経営者が何を重要と思いながら日々経営を考えているか、なぜそのような経営理念が生まれるのかを探ることを目標とします。 またフィールドワークを実施し、中小企業の理解を深めます。

到達目標
以下の3つを目標とします。 1. 中小企業の役割や課題を理解する。 2. 企業の経営理念と事業内容の関係を理解する。 3. 全体を通じて中小企業がもつ経営の特質を理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の要約(40%) 学期末のレポート試験(40%) フィールドワーク課題(20%) 要約はコメントをつけて返却します。

事前・事後学習
予習:とりあげる企業の概要を調べておくこと(90分) 復習:毎回の要約の提出(90分)

人事管理論	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
吉 成 亮	PBM3001	前学期	選 択

授業のねらい
この授業のねらいは企業ではたらくさまざまなひとびとに関する様々な問題と、その解決策としての人事の制度を理解することです。企業ではたらくひとびとの問題は多岐にわたるとともに、企業の根幹をなしています。なぜならば、企業ではたらくひとびとを管理し、ひとびとを育てずに長期的な成長を夢見ることはできないからです。そのためこれから就職をしようと考えている学生にとって重要な科目です。

到達目標
この授業の到達目標は、企業が抱えている、はたらくひとびとの問題点を複数、自分で発見できるだけでなく、企業ではたらくひとびとの問題点への対処法を自分なりに考え、その考えでまわりのひとびとに納得させることができることが目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
各授業の小テスト90%、まとめテスト10% 成績評価は以上の割合を基本にしながら総合的に判断します。小テストのフィードバックは小テストの実施後の授業で行います。まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとします。

事前・事後学習
講義の前後に授業中で指示された配付資料の予習復習（それぞれ1日30分程度）を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。

授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる

授 業 計 画
第1講 ガイダンス 第2講 ヤマト運輸 第3講 星野リゾート 第4講 ユニバーサルスタジオジャパン 第5講 矢場トン 第6講 コメダ珈琲 第7講 全日空 第8講 花王 第9講 井村屋 第10講 ものづくりツアーin三重 第11講 まとめ 第12講 中小企業フィールドワーク※ 第13講 中小企業フィールドワーク※ 第14講 中小企業フィールドワーク※ 第15講 中小企業フィールドワーク※ ※冬期の集中講義期間のうち1日利用して、フィールドワーク（中小企業の訪問）を実施します。日程および見学先は講義中にガイダンスします。参加できない学生には、別途、課題を課します。 ※講義でとりあげる企業は変更することがあります。

テキスト・教材（参考文献含む）
特に使用しません。 四日市大学教育支援システム(moodle)を使用します。

担当者から一言
皆さんも経営者になった気持ちで、受講してください。 毎回、映像の内容を要約するのは大変ですが、よい訓練になります。

授業の位置づけ
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する 幅広い人間力を身につける

授 業 計 画
第1講 ガイダンス 第2講 戦略と人事戦略 第3講 採用(1) 第4講 採用(2) 第5講 人事評価 第6講 報酬(1) 第7講 報酬(2) 第8講 昇進昇格 第9講 配置と移動 第10講 教育訓練(1) 第11講 教育訓練(2) 第12講 退職管理 第13講 懲罰 第14講 労使関係 第15講 まとめ 定期試験 本授業ではディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションを含みます。

テキスト・教材（参考文献含む）
授業内で指定の教科書を指示します。参考書は齊藤 毅憲 著「経営学を楽しく学ぶVer.3」中央経済社(2012年定価:2,376円(税込)。今野 浩一郎・佐藤 博樹著「マネジメント・テキスト 人事管理入門<第2版>」日本経済新聞社(2009年)定価:3,240円(税込)です。

担当者から一言
特に企業はどのように人を育てているのかということを理解し、自分の活かし方を学んでほしいです。

ものづくり経営 楓 森博	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PBM2006	後学期	選 択
授業のねらい 本講義は企業の生産活動を理解するため、ものづくりの理念、過程、管理の基本知識を講義します。経営管理の中で生産管理について製造業を中心に概観する講義です。経営戦略など経営管理の基本も解説します。講義で学ぶ生産管理の基礎を活用しながら企業経営の実際をケーススタディにより理解を深めることを、この講義のねらいとします。			
到達目標 この講義では、日本のものづくりの実態を概観し、生産管理の基本的な用語や知識を身につけ、社会人としてビジネスの基礎力を習得することを、到達目標としています。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 定期的に講義内容の確認レポートを提出。小テストまたは確認レポート50%、最終レポート50% 無断欠席者については、減点等ペナルティを課すことがある。 レポートにて理解度を確認し、授業進行を調整する。 なお、提出したレポートは、評価して以降の講義内で返却します。			
事前・事後学習 日ごろから新聞やテレビの講義に関連したニュースに目を通す。(60分)講義で提示した新しい用語等を自分で再度調べてみる。また、新聞・雑誌・インターネット等で事例を確認する。(120分)			
流通論 杉谷 克芳	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PBM2007	前学期	選 択
授業のねらい 本講義では、現実の流通業の動向にホットな関心を抱きつつ、「流通の社会的役割」「農産物流通」「投機的流通から延期的流通へ」等の流通経済の理論的な話をしていきます。流通業は、もっとも身近な産業だと言えます。私たちは毎日どこかで買物をしており、流通業の変化は私たちの消費生活に直接的に影響を与えます。また、卒業後のあなたの方の就職先として流通業が近年ますます大きな比重を占めてもいます。流通業の動きに興味をもったり、何気なく買物をしていた店舗を見る眼が変わったりのきっかけになればと思っています。			
到達目標 流通論の基本的用語や理論を理解した上で、現実の流通業の動きに関心もち、自分なりに分析する力を培うこと。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 基本的には定期試験の結果によって評価します (80%)。また、授業への積極的な参加度、小テスト、レポート (任意提出) 等による加点を行います (20%程度)。定期試験だけで秀をとる人はきわめて稀です。受講態度や小テスト等による加点をねらいましょう。授業中・授業後の質問には、適宜、授業内で回答していきます。			
事前・事後学習 新聞、雑誌などの流通業に関する記事に目を通すこと、テレビやインターネットでも構いません (毎日30分以上)。講義後は、その日のノートを見返して、不明な点を参考文献等で調べておくこと (60分以上)。			

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する	
授 業 計 画 第1講 ガイダンス、講義の概要 第2講 ものづくり経営とは 第3講 経営管理の全体の流れ 第4講 生産のプロセス 第5講 企業の組織化 第6講 経営戦略の基礎 第7講 マネジメントイノベーション 第8講 生産管理の基礎(企業の財務情報) 第9講 経営理念と企業目標 第10講 企業と社会 第11講 コーポレート・カバナンス 第12講 企業倫理、企業文化、社会的責任 第13講 コストの管理ー原価管理 第14講 ケース・スタディ I (講義の時点で話題となっている企業を取り上げる) 第15講 全体のまとめ 最終レポート	
テキスト・教材 (参考文献含む) レジュメを配布する。	
担当者から一言 受講予定者は、第1回講義に必ず出席してください。 講義内容で不明な点は、積極的に質問してください。また、授業中はリアクションできる真摯な態度で受講してください。	
授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。	
授 業 計 画 第1講 ガイダンス、講義の概要 第2講 必要としての買物と娯楽としての買物 第3講 小売業の定義、小売業と卸売業、小売業とサービス業 第4講 社会的分業と流通、生産と消費の間の懸隔の架橋 第5講 流通の4要素と流通フロー、流通の担い手とは 第6講 商業者の存立基盤、取引数最小化の原理 第7講 農産物流通ー卸売市場流通と卸売市場外流通、食料品ニーズの変化 第8講 農産物流通ー卸売市場の誕生とその目的 第9講 農産物流通ー卸売市場の仕組み 第10講 農産物流通ー青果物流通の現在、畜産・米・お茶の流通 第11講 在庫の役割、危険プールの原理 第12講 投機的流通の延期化、ファーストファッション 第13講 延期と投機、回転寿司 第14講 SPAと延期化、ユニクロ 第15講 セブンイレブン・ジャパン、コンビニを支えるもの	
テキスト・教材 (参考文献含む) 特になし。講義中に適宜プリントを配布します。	
担当者から一言 あまり難しい話にならず、学生さんの興味を引く授業にしたいと思いますが、そのためには学生さんの協力が必要です。私語は苦手ですので、よろしく。また、講義中のスマホ使用も禁止します。	

農業経営論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
鶴田利恵・杉谷克芳	PBM2009	後学期	選 択

授業のねらい
この講義では、前半（杉谷担当）において主に日本の農業問題に焦点を当て、後半（鶴田担当）では国際的な視点から農業問題を考えます。日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスががどのように進展していったのかを学びます。国際的な視点からはGATT（貿易と関税に関する一般協定）やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。皆さんの意見や疑問もぶつけ合いながら、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標
日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
前半のレポート(50%)と後半の試験(50%)により評価します。 フィードバック方法：講義中や終了後の質問や疑問には適宜コメントします。

事前・事後学習
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

起業論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
岡 良 浩	PBM2010	前学期	選 択

授業のねらい
この講義では起業家精神（アントレプレナーシップ）を養うための講義と演習を行います。 起業家精神とは、事業を起こす可能性を追求する能力のことです。このような能力は、例えば暗記したり学説を理解したりする能力とは全く異なり、創造的思考が必要です。 まずアントレプレナーシップの事例を学びます。次に創造的思考の技法を学びます。最後に、ソーシャルビジネスを事例に、これらがどのような共通の発想で成り立っているかを理解したうえで、自らビジネスモデルの立案を試みます。

到達目標
以下の3つを掲げています。 ① アントレプレナーシップが事業者にどのように活用されているかを理解する。 ② 創造的思考の技法を身につける。 ③ 自ら事業企画を立案する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
課題への取り組み(50%)学期末のレポート試験(50%) 提出された課題は、コメントをつけて返却します。

事前・事後学習
参考文献は講義中に示します。事前に学習してください(90分)。 報告や小レポートの提出を求めますので自宅で行ってください(90分)。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画
第1講 ガイダンス 第2講 日本の農業の現状①:農地、農家、農業産出額 第3講 日本の農業の現状②:農業生産の縮小と食糧自給率の低下 第4講 日本の農政①:戦後改革と農業、食管理制度 第5講 日本の農政②:高度成長と農業、農業基本法、総合農政 第6講 日本の農政③:グローバル化と農業、食料・農業・農村基本法 第7講 農業のビジネス化、地域の農業：農業生産法人、企業の農業参入 第8講 前半のまとめ 第9講 世界の食糧事情と問題点 第10講 穀物貿易の特質 第11講 農業保護政策 第12講 輸出競争とGATT農業交渉 第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ 第14講 FTA(自由貿易協定)と農業問題 第15講 後半のまとめ

テキスト・教材（参考文献含む）
プリントを配布します。

担当者から一言
質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画
第1講 4/11 ガイダンス 第2講 4/19 アントレプレナーシップと事業事例1 第3講 4/25 アントレプレナーシップと事業事例2 第4講 5/9 アントレプレナーシップと事業事例3 ※1 第5講 5/16 創造的思考実習1（ブレインストーミング） 第6講 5/23 創造的思考実習2（KJ法） 第7講 5/30 ソーシャルビジネス事例1 第8講 6/6 ソーシャルビジネス事例2 第9講 6/13 事業計画の構成1（総論） 第10講 6/20 事業計画の構成2（ファイナンス）※1 第11講 6/27 ビジネスモデル立案の実習1 第12講 7/4 ビジネスモデル立案の実習2 第13講 7/11 ビジネスモデルのフレームワーク 第14講 7/18 企業家育成経営塾 ※2 第15講 7/25 まとめ ※1は、株式会社三十三総研が提供する授業です。 ※2は、三重県信用保証協会が提供する授業です。

テキスト・教材（参考文献含む）
特に使用しません。講義中に適宜プリントを配布します。

担当者から一言
この授業を通じてビジネスプランが完成すれば、株式会社三十三総研のビジネスプランコンテストに応募していただきます。是非、応募をめぐしてください。

出版文化論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
稲葉年計	PCF2001	前学期	選 択

授業のねらい 本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。 時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。
--

到達目標 全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。 文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。 また受講生徒数にもよるが、出来る限りディスカッションや受講生の発表報告を経ながら授業を行うことで、考える力や学ぶ力を養いたい。おそらく実際は、出席カードの裏に授業の感想や意見を書いてもらうことで、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、意見する力を身に付けること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価は、授業への参加度50%、定期試験（レポート）50%による。レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
--

事前・事後学習 本や小説、映画等により時事的なニュースや社会に触れること。（180分）
--

日本文化論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
永井 博	PCF2002	前学期	選 択

授業のねらい いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自の文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。 この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたかについて一緒に考えてみたい。
--

到達目標 「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法 受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。
--

事前・事後学習 予習として、配布する日本文化論のテキストをよく読んでくること。（90分） 復習として、講義の内容を踏まえて上記のテキストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。（90分）
--

授業の位置づけ 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授 業 計 画 1. ガイダンス 2. 1960年代の文学の展開(松本清張) 3. 1960年代の文学の展開(三島由紀夫)——全体性の喪失—— 4. 映画「美しい星」(三島由紀夫) 5. 映画「美しい星」(三島由紀夫) 6. 映画「春の雪」(三島由紀夫) 7. 映画「春の雪」(三島由紀夫) 8. 東浩紀『動物化するポストモダン』 9. 東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』 10. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 11. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 12. 映画「ウォーターボーイズ」 13. 福嶋亮大「神話が考える」 14. 永江朗「小さな出版社のつくり方」 15. 全講義のまとめ 定期試験
--

テキスト・教材（参考文献含む） （テキスト）宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房(2011年)定価:902円 （参考文献）東浩紀著「ゲーム的リアリズムの誕生 動物化するポストモダン2」講談社(2007年)定価:880円
--

担当者から一言 授業内で、できる限りコミュニケーションが取れることを考えます。また留学生にもできる限り配慮したいと思います。

授業の位置づけ 幅広い人間力を身につける。
--

授 業 計 画 第1回 ガイダンス 第2回 「文化」概念について 第3回 「日本文化論」の問題点について 第4回 ブルーノ・タウトの日本文化論 ① 「日本文化私観」 第5回 ブルーノ・タウトの日本文化論 ② 「ニッポン」 第6回 日本の食文化 お雑煮 第7回 加藤周一＜雑種文化論＞ ① その背景 第8回 加藤周一＜雑種文化論＞ ② その主張 第9回 加藤周一＜雑種文化論＞ ③ その特長と問題点 第10回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ① その概要 第11回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ② その問題点 第12回 三島由紀夫「文化防衛論」 ① その特長 第13回 三島由紀夫「文化防衛論」 ② 戦後の日本文化論 第14回 坂口安吾「日本文化私観」 ① その内容 第15回 坂口安吾「日本文化私観」 ② その思想的意味 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む） プリントなどの資料を配布する。
--

担当者から一言 日本の文化論がこれまでにそのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。

東洋文化論 加納 光	科目 ナンバリング ▽ 2 年次 ▽ 2 単位 PCF2003 ▽後学期 ▽選 択
授業のねらい アジア地域・諸国の歴史・文化・社会を概観しながらアジアに対する認識を深め、アジアの特性について考えていきます。また、日本を含むアジア地域・諸国の諸事情を学びながら、アジア地域・諸国から日本社会が学ぶべき点についても考えてみたいと思います。 アジアに対する理解を深めるため、受講生自身がアジアに関する特定のテーマについて調べ、レポートにまとめて発表する機会も持ちたいと考えています。 アジアに対する理解を深めながら、アジア地域の特性を明らかにすることを、この授業のねらいとします。	授業の位置づけ 幅広い人間力を身につける。
到達目標 この授業では、社会・文化・宗教・言語など、さまざまな視点からアジア諸国に対する理解を深め、学生諸君が明確なアジア像をイメージできるようになることが、到達目的です。	授 業 計 画 第1講:ガイダンス、講義の概要 第2講:アジアとは何か 第3講:アジアの地理学的な規定 1 第4講: 同上 2 第5講:アジアの地域区分 第6講:アジアの語源 第7講:アジアの多様性 第8講:民族の多様性 第9講:言語の多様性 グループ発表① 第10講:宗教の多様性 1 グループ発表② 第11講: 同上 2 グループ発表③ 第12講:中国近代史 1 第13講: 同上 2 第14講: 同上 3 第15講: 同上 4 まとめ 定期試験 注 進捗および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。	テキスト・教材（参考文献含む） プリント教材(適宜教材を配布します)。
事前・事後学習 毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください (90分)。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください (90分)。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。	担当者から一言 日頃からアジア地域・諸国に関心をよせながら、その歴史・文化・社会に対する理解を深める取り組みをしていってください。なお、遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。
西洋文化論 山本 伸	科目 ナンバリング 2 年次 2 単位 PCF2004 後学期 選 択
授業のねらい 本講義の狙いは、カリブ海地域の視点を基軸にヨーロッパ世界の文化や哲学、宗教観などを批判的に紐解きながら、福沢諭吉の「脱亜入欧」論を基盤に構築された近代日本の歪みを浮き彫りにすることです。	授業の位置づけ 幅広い人間力を身に付ける。
到達目標 近代世界がヨーロッパ中心主義的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解することが第一、そして、そのことを日本の我々自身が半ば無意識のうちに影響を受けて日常を過ごしていることを意識すること、それが大きな目標となります。	授 業 計 画 第1講 ガイダンス、導入「本講義で学べること」 第2講 カリブ海地域における異文化コミュニケーション 第3講 歴史と教育① 第4講 社会・人種・アイデンティティー①／アフリカ系とインド系 第5講 社会・人種・アイデンティティー②／インド系内比較 第6講 社会・人種・アイデンティティー③／中国系 第7講 台湾映画『セデック・バレ』（前半） 第8講 台湾映画『セデック・バレ』（後半） 第9講 文化とコミュニティ／カーニバルと精神文化 第10講 文化と宗教 第11講 クレオリズムとグローカリズム①／ハイチのクレオリズム 第12講 クレオリズムとグローカリズム②／ジャマイカのグローカリズム 第13講 平和 第14講 カリブ文学研究の現代的意義 第15講 まとめ 定期試験
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、レポート（期末試験）50%で総合的に判断します。なお、確認テストについては毎回授業の最後に行い、添削して翌週返却（受講者多数の場合はその限りではない）します。	テキスト・教材（参考文献含む） 山本 伸著 『カリブ文学研究入門』（世界思想社）2005年 定価：1,500円(税込)
事前・事後学習 前週に出された課題（テキストの熟読／わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（前週の確認テストの誤答分析／テキストのおさらい／ノート整理等）に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。	担当者から一言 カリブ（およびアジア）の視点を通しての欧米文化について広く学ぶことになるので、これら三地域への関心を高め、さまざまなメディアツールを利用してバーチャルに異文化体験をしておくことが望まれます。

地域文化論／文化論 a 前田 憲 司	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PCF2005	前学期	選 択
授業のねらい 文化とは人類がみずからの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきました。文化の地域的特質を考えると、三重県と四日市市にもさまざまな文化的資源があります。その紹介を通じて、心豊かな社会生活を送るために、将来にわたって必ず役立つ基本的な教養と具体的な知識を身につけることを目的とします。さらには、自らの郷土が有する文化資産に対して再認識するきっかけづくりとし、地域社会に対する関心を高めることを目的とします。			
到達目標 三重県および四日市市の多岐にわたる文化的特徴を学ぶことにより 1. この地域にある文化資源の概要が把握でき、特色が理解できる。 2. 自身の出身地に対してもどのような特色があるのか探究心を持つ。 3. 地域社会に対する関心が高まる。 4. 国の内外を問わず、地域外の人々がこの地域のどこに魅力を感じるのか客観的にわかる。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 毎回講義（1 回目～15 回目）ごとに提出させるミニレポート 35％ ※ 1 講義当たり 0 ～ 2.5 ポイントで評価し通算します。 試験（語句解説等と論述） 65％ 以上を採点合計し、総合的に判断する。 なお、授業内容に関する質問は毎回提出するミニレポートに記入するものとし、質問に対する回答、レポート内容に誤りがある場合の指摘等は次の授業で行います。			
事前・事後学習 日頃から新聞の地域面、タウン誌や広報などに目を通し、地域文化情報を察知する術を身につけておくこと（毎日30分程度）。授業資料を見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（30分）。機会があれば授業で取り上げた文化資源の所在地へ赴くこと。（最低1カ所）			
メディアの150年史 木村 眞知子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		前学期	選 択
授業のねらい 古くから私たちの暮らしはメディアと深く結びついています。メディアの変化が我々人類の政治や経済、社会、文化の変容にどうかかわってきたかを学び、これからのメディアと私たちの未来を展望します。また、これまでメディアが、何を、どのように語り、描いてきたかを振り返り、メディアの役割を考察するものとします。授業内容をより理解するために、ミニレポートや課題レポートを課します。			
到達目標 メディアと人類の歴史を概観することでメディアが歴史に及ぼしてきた影響を知り、変化し続けるメディア環境を生きる私たちと今の社会を理解していきます。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 成績評価は次の通りとします。 ミニレポート・課題レポート：50％ 試験：50％ 課題レポートについては、以降の講義で取り上げ応答していきます。			
事前・事後学習 課題レポート等のためのリサーチ・分析も事前学習と認めます。その準備として「メディア」をより理解するために、毎日30分程度、ネットやテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などで、今、どのような情報が発信されているかを調べ、分析すること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次の講義で質問できるように準備をすること。			
授業の位置づけ 幅広い人間力を身に付ける。			
授 業 計 画 1. ガイダンス 2. 文化とは 3. 三重が誇れるもの（「三重」の知名度は低いが誇れるものがいっぱい） 4. 伊勢神宮 5. 熊野古道（世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」） 6. 海女の習俗 7. 街道と交通（東海道を中心に） 8. 伝統工芸（松阪木綿・伊勢型紙・日永うちわ・鈴鹿墨・伊勢根付など） 9. スポーツ文化と伝統芸能 10. 食文化 11. 三重の人々 12. 三重のまつり（世界遺産「山・鉾・屋台行事」から） 13. 四日市が誇れるもの（四日市の日本一・近代産業遺産と夜景など） 14. 地域文化資源の活用（三重国体開会式典のとりまとめを例に） 15. 振り返り ※ 試験			
テキスト・教材（参考文献含む） 参考図書 ・「新視点 三重県の歴史」（山川出版社） ・「続発見 三重の歴史」（新人物往来社） ・「伊勢神宮とはなにか」（集英社新書） ・「目で見える 鳥羽・志摩の海女」（海の博物館） 授業内容に応じて参考図書の紹介を行います。			
担当者から一言 2021年に開催される三重とこわか国体の式典専門委員長を務めるなど、地域文化をもとにした事業企画や、メディア取材など、さまざま経験から得た、三重県や四日市市の文化的特長について、画像や映像を紹介しながら講義します。いわば「雑学」を得る感覚で受講してください。			
授業の位置づけ 社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。			
授 業 計 画 第1講 講義ガイダンス——メディアの歴史を読み解く意味 第2講 メディア事始め——人類が生き抜くために 第3講 文字の登場——歴史の始まり 第4講 メディアの変化と歴史1印刷革命 宗教改革へ 第5講 メディアの変化と歴史2動く映像の登場 第6講 メディアの変化と歴史3電信・ラジオ ヒットラー&ルーズベルト 第7講 メディアの変化と歴史4ラジオ 玉音放送 第8講 メディアの変化と歴史5テレビ ケネディvsニクソン～ベトナム戦争 第9講 メディアが描いたもの①高度経済成長と「豊かさ」 第10講 メディアの変化と歴史6テレビ新時代 ベルリンの壁崩壊 第11講 メディアが描いたもの②広告と暮らし 第12講 メディアの変化と歴史6SNS アラブの春 第13講 メディアが描いたもの③災害とメディア——同時性とアーカイブ 第14講 変わりゆくメディア、変わりゆく世界 第15講 まとめ——課題試験に向けて			
テキスト・教材（参考文献含む） なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。			
担当者から一言 歴史を学ぶことは単に史実を知ることではなく、歴史から今の私たちへのメッセージを受け取ることです。メディアの歴史からのメッセージを読み取り、今の私たちを、時代を深く理解したいと思っています。			

線型代数	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		後学期	選 択
小川 東			
授業のねらい この講義では、全くの初心者を対象に、多変量解析など、統計学での利用を意識しながら連立方程式の解法を軸に、はきだし法、行列、行列式について講義をします。			
到達目標 (1) 中学校以来行き当たりばったりに解いていた連立方程式が体系的に解けるようになること (2) 解の構造を理解すること (3) 行列、行列式の計算に習熟すること			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 期末試験により評価します。講義中に小テストを行った場合はその結果もプラスします。 3 割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。 黒板で問題を解いてもらいその場で添削しフィードバックします。			
事前・事後学習 毎回授業の内容に関するキーワードを予告するので、事前に調べてみてください (90分)。講義内容のノートを見返して、問題を解き直したり、不明な点を調べてください (90分)。			
統計学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		後学期	選 択
井岡 幹博			
授業のねらい 環境関連の実験を行うと計測結果としてのデータが得られます。フィールド調査やアンケート調査を行っても、様々なデータが得られます。得られたデータを整理・分析し、データの中に潜む対象物の本来の姿を引き出す技術が統計学と言えます。たとえば、限られた数のデータから全体の姿を推定すること、得られたデータから役に立つ情報を引き出すことができるのみならず、確率の問題まで、統計学は含みます。ここでは基本的な事柄から応用までを具体的な例、グラフ等を使って説明し、実習していきます。			
到達目標 確率変数の意味を理解する。2つの確率変数の相関係数が計算できる。正規分布の意味を理解する。			
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 課題提出50% 定期試験50%			
事前・事後学習 配布されるプリントを熟読すること (予習)。毎回課される課題を自宅で演習すること (復習)。			
授業の位置づけ 社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 簡単な例、連立方程式の表し方、はき出し法による連立方程式の解法 第3講 はき出し法による連立方程式の解法(つづき) 第4講 連立方程式の解が無数にある場合 第5講 連立方程式の解がない場合 第6講 連立方程式の行列表示、行列の演算 第7講 行列の演算(つづき) 第8講 逆行列と連立方程式 第9講 はき出し法による逆行列の求め方 第10講 行列式の定義、クラメルの公式(2次の場合) 第11講 行列式の定義、クラメルの公式(3次の場合) 第12講 行列式の展開公式 第13講 行列式の計算法 第15講 行列式の計算法(つづき)、4次以上の行列式 定期試験			
テキスト・教材 (参考文献含む) テキスト：ありません。受講生の理解の様子を見て、教材としてプリントを配ることがあります。 参考文献：線型(または線形)代数の本は多数刊行されています。必要な自分のレベルにあったものを見てください。			
担当者から一言 この講義は数の加減乗除、分数の計算くらいしか使われません。しかしその内容は豊かです。基本から丁寧に講義をし、講義中に練習問題を解く時間を作ります。学習のコツは面倒くさがらないことです。受講生の理解度に応じて進度を変更することがあります。			
統計学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		後学期	選 択
井岡 幹博			
授業の位置づけ 社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。			
授 業 計 画 第1講 ガイダンス 第2講 平均の性質 第3講 分散と標準偏差 第4講 分散と標準偏差 第5講 相関係数 第6講 相関係数 第7講 順列と組み合わせ 第8講 標本空間と事象 第9講 確率 第10講 条件付き確率 第11講 ベイズの公式 第12講 確率変数 第13講 正規分布(1) 第14講 正規分布(2) 第15講 データが世の中でどのように使われているか 定期試験			
テキスト・教材 (参考文献含む) テキスト・教材 長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 1,706円 参考文献 宮川公男著 「基礎統計学 第4版」 有斐閣 ￥2,800 + 税			
担当者から一言 授業内容確認のための課題を出します。とくに予備知識は必要としません。加減乗除が計算できれば、課題は解けます。まずは、ちゃんとノートを準備することです。			

– 136 –